

反磁性重力の螺旋運動

DIAMAGNETIC GRAVITY VORTEX

BY

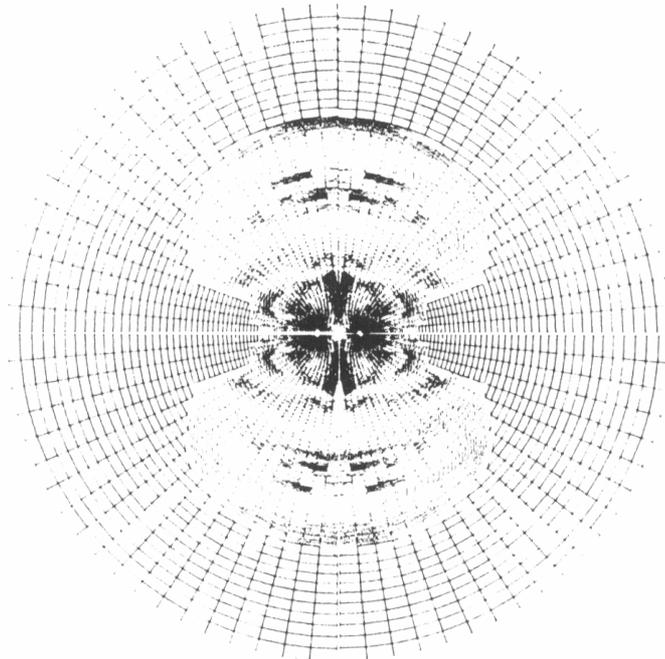
Richard Lefors Clark, PhD.

DIAMAGNETIC GRAVITY

VORTEXES

by

Richard Lefors Clark, PhD.



Waves of gravity pour from an extraordinary (and imaginary) cosmic accident—a head-on collision of two black holes approaching from left and right. Kenneth Eppley and Larry Smarr used a computer to calculate and draw contours of the variable curvature of space that constitutes the radiation. Such a collision would convert about a thousandth part of the rest-energy of the black holes into gravity waves. (*Photo: L. Smarr and K. Eppley*)

重力特異現象としての地球グリッドと人間空中浮揚

「水晶のような地球」の反重力網の特殊な知識は、非常に古くから、たくさんの文明によって利用されてきた。

ピラミッドとレイラインは、世界の上の自然な地球重力網（グリッド）の力線の上にある。地球の重力網（グリッド）は、重力エネルギーの幾何学的力線から成る地球の構造によっている。

地球重力網（グリッド）の主題は価値があるので現在、出版物がたくさんあるが、グリッドでの1地点、オンタリオ湖の東端は奇妙な歴史によって注目されるべきである。

100年の時をへだてて、特別な才能をもつ2人がこの場所に住んだということはとりわけ興味あることである。

この2人とは、19世紀の超能力者ダニエル・ホームと20世紀の科学者ウィルバート・スミスであった。

19世紀の世界的に有名な空中浮遊者であるダニエル・ホームは、このグリッド点であるオンタリオ湖地域に住んでいた。

1820年から1850年の期間、ヨーロッパの王位につくような人々と、多くの有名な科学者と世界高官はホームを訪問して彼の空中浮遊の妙技を検査したため、この場所は活況を呈した。

オンタリオ湖地域がホームの心霊による力を発揮するための、生命学的な引き金の働きをしたかもしれないと推測される。

著者について

リチャード、Lefors クラークは、サンディエゴに住み世界で最もよく知られた代替エネルギーと反重力と World Grid の研究者である。彼のニュースレターと新聞記事は長年にわたって発表されてきた。かれのフリーニュースレターは下記の住所で取り寄せ参照できる

: Richard LeFors Clark

4015 Crown Point Drive.P-3

San Diego, CA 92109

一方、20世紀においてオンタリオ湖の地球グリッド地域での多数の航空機墜落があり、「もう一つのバミューダトライアングル」——マリーズ・バーグボルテックス **Marysburgh Vortex** として知られ、これはまた、「オンタリオ湖東端の忘れられた異常な通路（ゲートウェイ）」でもあった。

カナダの国家情報委員会とアメリカ海軍は、この地域の磁気異常と磁気的環境を調査するために1950年にプロジェクトマグネットを開始した。

カナダの国家情報委員会とアメリカ海軍のこの調査は、地球の重力グリッドシステムの、唯一公表されている政府公認の調査であった。

多くの飛行機と船がこの地域から神秘的に消え失せていたし、また多くのUFOの観察が報告されていた。そして、他にも奇怪な超自然的な現象が起きていた。

ウィルバート・スミス（カナダ運輸省のコミュニケーション・エンジニア）はこのプロジェクトに関係する科学者チームの中心人物であった（詳細は、[Hugh Cochrane's](#) 著

Gateway to Oblivion 忘却されたものへの道, Avon Books, NY)。この後、調査が最高機密の UFO データに触れ始めて、アメリカとカナダの 2 つの政府があまりに敏感になって、プロジェクトマグネットは、公式に終了させられた。

その後、ウィルバート・スミスは、安い、いくつかの重力装置(例えば Anti-Gravity Proximity Detector 反重力接触検波器、Magnetic Deflection Detector 磁気異常検波器と EMF Collapse Collector 電磁気崩壊の収集機)をデザインした。

スミスの思索には、大変興味をそそられる。

彼は、オンタリオ湖地域の至る所で時々おこる、大きな重力変動に注意した。

彼は、湖より上の大気に存在する「重力の減圧された結束柱」の領域に注目した。

この領域は、1000 フィートの横幅で、数千フィート上空まで立ちのぼる「柱状の領域」と記述されている。

この領域の中の不可視な重力と磁気の異常は、特別敏感な機器によって初めて認知されるだけだった。

そして、これらの領域の物質を保持し、結びつけている核力が、おそらく削減 reduction または弱まることで問題を発生させているようであった。

原子核の結合する力は、北でより強く、南ではそれより弱いようだった。

これらの神秘的な領域は、時間によって変化移動するよう見えた。

スミスは、反重力の圧力の下、物質を構成する核の結合力が無化されたと理論づけ、(飛行中の飛行機などの物質において) 最大のストレスが材料に加わり物質を保持する力が無くなってしまったとき、飛行機の崩壊と航空機災害に終わるとした。

これより後の理論家は、これらの領域の範囲内にある飛行機がイオン化され変則的な明るさをもつのは、増加したエネルギーでゆり動かされ、これ以外の誘電体も地球の深部で引き起こされた重力ストレスによるエネルギーの増加に影響されて、奇妙な大気の領域をつくっていると示唆した。

地球は重力で構造化され、宇宙の重力の一部であるというのは、あたりまえで当然の真実である。

惑星では重力によって基本的な物事が決定される、これが地球グリッドの上で起こる多くの現象と重力・磁気異常を説明する唯一のことである。

そして、地球上で観察される多くの現象の背後に基本的に存在する、磁気の特性的には、反磁気 diamagnetism の特別な原理があるが、これが反重力の根本原因である。

まず最初に、この原理を人間の力によって誘発された空中浮遊に見てみよう。

人間反磁気重力アンテナ空中浮遊

HUMAN DIAMAGNETISM GRAVITY ANTENNA LEVITATION

人間によって誘発される空中浮揚現象は、地球の反重力の渦と、この反磁気の原理から出現しており、単純にいえば人間にある重力アンテナがこれを出現させているのである。

反磁気または反磁性 Diamagnetism (下記に説明する) は磁場の N と S の間に存在する磁気がニュートラルな中立中心点のことである。そして、それは空中浮揚のために開発し使用することができる。

下に示すように、「磁気流の反転点」の多くが地球上にマークされたグリッド点のそばにある。

5 人の人間の協力で作られた 4 重の重力アンテナを使うことで、中心にいる人を空中浮揚させることができる。

中心の人 (levitatee) の重さは重要でないし、持ち上げる 4 人の力もサイズも重要でない。重要なことは、中心の人間と 4 人の位置関係である。(図表 1 を見る)

4 人の心を集中すべき小さな点が中心の人間にある。

最大の効果をだすために、4 人は磁気コンパスが示す北と南、東と西の線からそれぞれ 45 度程度ずれてなければならない。

二番目に、持ち上げようとする中心の人の両側に男性と女性を対照的に配置することは、

重力アンテナのパワーを増す。

第 3 に、持ち上げる 4 人の手は中心の浮く人の所で積み重ねられて中性化 **L I K e -gendered** される。

(男と男、その上に女と女というふうに積み重ねて)

第 4 に、何にも考える必要がない — 10 数える間、浮く人の頭の上に手を積み重ねている。

10 数え終えたら、重ねた手を離して椅子のまわりの 4 角に、手をすばやく移動する。

担当の人は、「リフト」と言って、一気に手を移動する。

それでは、この空中浮揚のための「5 人のパーティー」によっておきる特別な現象の詳細をくわしく調査してみよう。

この空中浮揚の「パーティー」には 5 人必要であるが、中の一人が浮揚する。今後この中心のひとを浮く人と言おう。そして他の 4 人を浮かす人と言おう。浮く人は椅子に座り、彼のまわりを 4 人の浮かす人が取り囲んで立ち 4 角形をつくる

浮かす人の一人は、浮く人の左の肩の後ろ側に立たなければならない

もう一人は浮く人の左のひざの側に立つ。

他の 2 人は、浮く人の体の、右側の反対の位置に同じように立っていないなければならない。

これからすることは、4 人が、協同して各自一本の指だけを使って、中に座った人を空中に数フィート持ち上げられるほど、浮く人の体の重さを軽くすることである。

この実験が正しく実行されたならば、浮かす人のどの人もほとんど重力の抵抗を感じない。

そのことが、浮く人の体が完全にその重さを減らしたということの証明である。

浮かす人たちが中心の人を取り囲み、頭に彼らの手をおくときあたかも彼を癒やしているようにもみえる。

浮く人は、椅子にリラックスしてゆったりと座らなければならない。彼の足は床につき、手はひざの上ののっている。

他の 4 人は、座っている人の右と左の、肩側とひざのそばに立つ。

4 人はその位置に立って腕を伸ばし、人差し指を除いて、手を閉じてげんこつをつくり、人差し指でお互いに触れるようにする。

座っている人の左の肩に最も近い人は自分の手をおろし左の腋の下に 2 つの指だけを置くようにする。同様に、座っている人の右肩に最も近い人も同じように 2 つの指だけを腋の下に置き、他の 2 人は右、左のひざの下に人さし指を入れる。

今、4 人のアシスタントは指だけで男を持ち上げるため、位置についた。しかし、力だけで彼らが持ち上げようとしてもそれは不可能である。

こうした方法では不可能なことを確認した上で、男の頭に 4 人が手を交互に積み重ね、下の方に安定した圧力をかけるのだが、自分の右と左の 2 つの手を重ねてはいけない。

そこで 10 まで数えてカウント「9」で

すばやく頭から手を引っ込めて、伸ばした人さし指を前あった場所にあてがい、指だけで男を持ち上げようとする。

今度は、苦もなくで空中に舞い上がるはずだ。

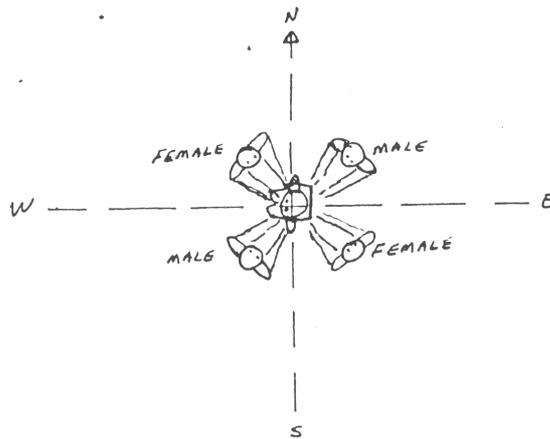
Diagram 1

Party Levitation in action



Diagram 2

Human Quadropolar Gravity Antenna



Earth Grid Points Diamagnetism And Levitation Accomplished

地球格子ポイントでの反磁性および空中浮揚の完成

多分、熱心な読者は再びよく考えてこの実験をするかもしれないが、今度は中心の人 (Levitatee) がいないときもあるだろう。そのときは、人のかわりに手近に見つけることのできる、最も重い椅子を使ってほしい。

大きな椅子の上に手を積み重ねて触れたのちに、重い椅子を(空中に浮かぶように)持ち上げて下さい。

また、次に椅子に数百ポンドの重量の(重い本)を置いて、それを空中に浮かばせてみて下さい。それを力の弱い4人の子供たちと一緒に楽々と浮かせてみてください。

それでは、ここで何が起きているのだろうか？

つまりフロリダのコーラルキャッスル、あるいはオーストラリアのアリススプリングスのような場所で発生する空中浮揚をひき起こす地球に永久的に存在する反磁性の大きな、重力ボルテックスの機能に完全に一致した、短い持続時間の反磁性の小さな、ボルテックスをここに作り出した。

今、大きな椅子を空中に浮かばせた4人の人の配置を考えて下さい。

彼らは基本的に4人で、「力強く4方位」に配置されている。

4人それぞれは、空中に浮くべき中心を取り囲むエネルギーの渦の支点である。

もし彼らの一人が北にあるならば、他の人を反時計回りに、西、南、東と配置する。(図2を参照してください) 中心から270度を3人で占めて、90度の空間を1つだけ空けて、たった3人だけで空中浮揚をやってみて下さい。

空中浮揚には正確な数とパターンの両方の浮かすための要素が不可欠である。(しかし彼らの正確な体の大きさや体力は問題ではありません。)

また、我々は、生命がない重量物が人間の反磁性 diamagnetic の渦を使うことで、容易に生気があるもののように空中に浮かぶことも知っている。椅子の代わりにピアノ、あるいはフォルクスワーゲンでさえ試すことができる。

空中浮揚パーティーに関係するその反磁性の特性は、全ての地球の Grid 機構の表面のどこでも働く。だが、反磁性の空中上昇を引き起こす渦が特別大きい、地理学的位置がある。

(たとえば 南フロリダまたは中部オーストラリア)

いずれにせよ地球上か、4人のレビテーターにある浮かすエネルギーまたは反重力のメカニズムは、同一である。

南北軸要素は通常の磁気であり、もうひとつの東西軸要素は反磁性 diamagnetic で、空中浮揚は地球の表面に存在している反磁性によって作り出される。(またはそれに最も近い) 反磁性は磁性物質から90度で働くそして、3次元でフラットでない、そして、磁気が1枚の紙の上のように二次元で地球の表面の次元に流れるならば、反磁性はまっすぐに上に流れる。

そして、我々が空中浮揚または反重力と言う方向は、上にまっすぐに流れる。

(図3を参照)地球グリッド格子の#18の位置にコーラルキャッスルがある。

西の、フロリダからは行って東の出口の重要部門はバミューダトライアングルである。

コーラキャッスルはこの章を通して言及されるので、この場所での感動的なプロジェクトへの序章として、少し説明が、必要であろう。

コーラキャッスルは、磁気学の多くの隠された原理を使ってつくられた石の素晴らしい建造物であり、1930年代から1940年代までの南フロリダで「アマチュア」科学者エド、リーズカルニン Leedskalnin がひとりで行ったものである。

Diagram 3

Coral Castle, southern Florida, Earth Grid Point #18

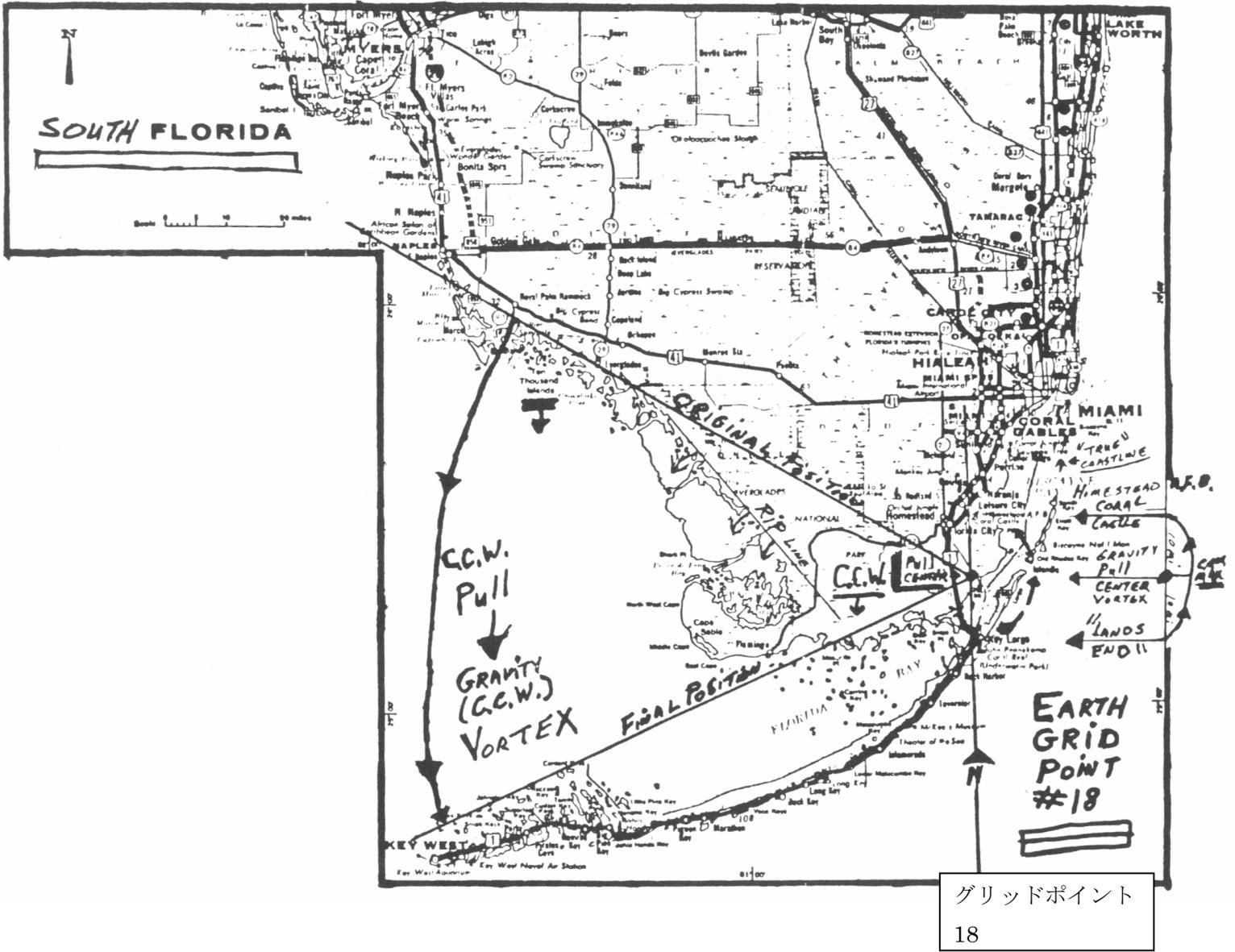


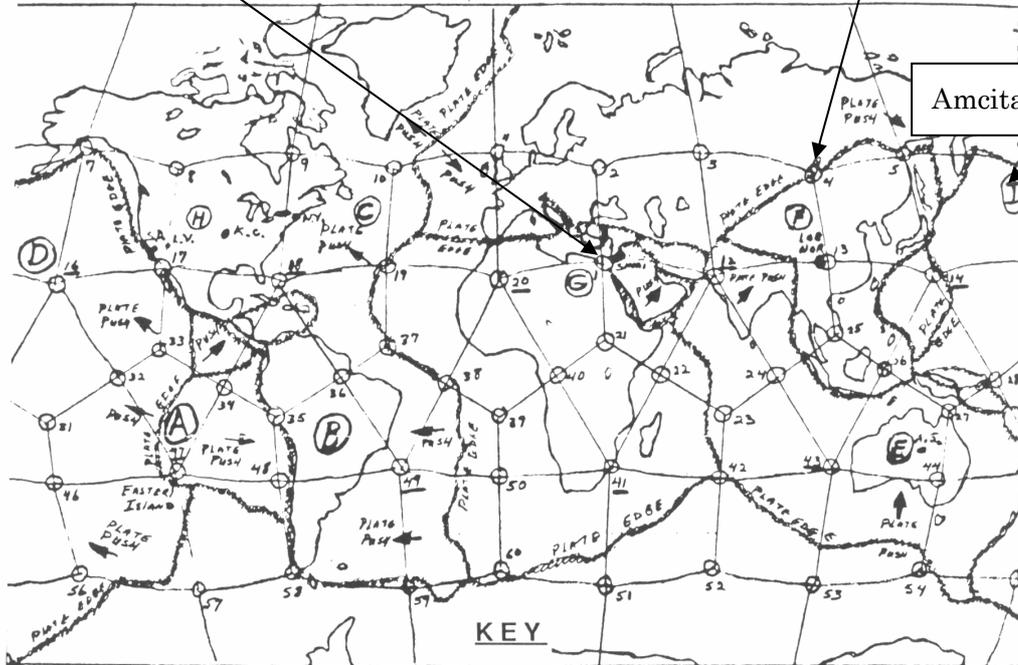
Diagram 4

プレートの移動圧力と重力の渦のポイントと関係する

Sinai

Earth Grid Model
(after Francis Hitching data, *Earth Magic*, 1978)

Amcita Island



A, B, C: The plate push pressure north along #58,48,35, and 18 hits at New York (Brookhaven) at the cross pressure from #19. This causes the New England Vortex and the Bermuda Triangle.

A,B,C,+D: The plate push pressure centers on the California fault line at San Diego and causes the Southwest Vortex.

E: The plate pressure coming north from #54 bows up the cross pressures from #43 and #45 and down pressure from #14 to cause the Alice Springs/Pine Gap, Australia area; #12 and #16 are pressure top sides.

E: The pressure center point at Lop Nor, China, is between the points #12 and #14 and #43; Grid Points #41 and #45 push from below.

G: The minor pressure center point at Sinai is between points #20 and #12, with up pressure from #41; the plate breakup and slide pressure just below it has made Sinai useless now.

H: Las Vegas, Nevada, and Phoenix, Arizona, (Superstition Mountain) as center of #16, #17, and #18; the push comes from A below.

I: Amcita Island on #6, centered between #14 and #16, plate bucking pressure #5 and #33).

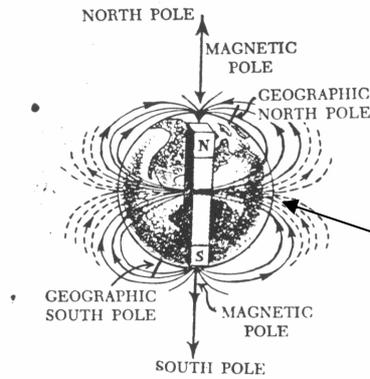


Sculpture symbolic of the moon and planets, constructed by Edward Leedskalnin at Coral Castle, Florida. With elementary tools and equipment this Latvian immigrant created artifacts whose construction defies "logical" explanation.

この珊瑚で作られた城には、石の家具、月の池、北極星、望遠鏡、正確な日時計などがあり、正確な天文学的な配置を示しているという特徴を見せている。地球グリッドの大きい地図を見てほしい(図4を参照)、そして、南フロリダの地球格子ポイント# 18地点にある地球グリッドの東西に流れている反磁性流の突き出し口を見て下さい。ユカタンの地点とメキシコ/テキサス海岸線は、明らかに地球グリッド#18の西の反磁性 diamagnetic の通路を示す。有名なバミューダトライアングルは、地球グリッド#18の格子点は東の反磁性のエネルギーの(出る方の)通路である。

Diagram 5

Bloch Wall as Neutral Zone in Earth's Dipolar Magnetic Field

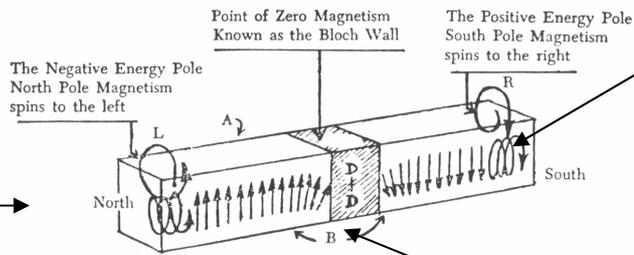


棒磁石のNS極
の中間に
Bloch Wall
ゼロ点生まれ
る

地球の Bloch
Wall

Diagram 6

Bloch Wall Illustrated in a Magnet

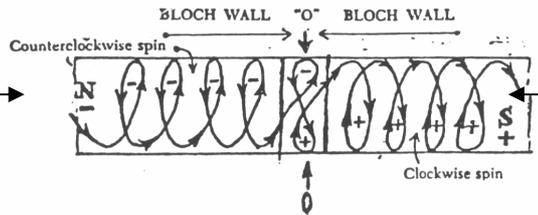


ネガティブエ
ネルギー
N極
左回りのスピ
ン

ポジティブエネ
ルギー
S極
右まわりのスピ
ン

Diagram 7

The "Broken 8" Wave Zone in the Bloch Wall



Bloch Wall の壊
れた8型の
ウェイブゾーン

反時計回
り

時計回り

Diagram 8

Bloch Wall as Independent of the Magnetic Fields

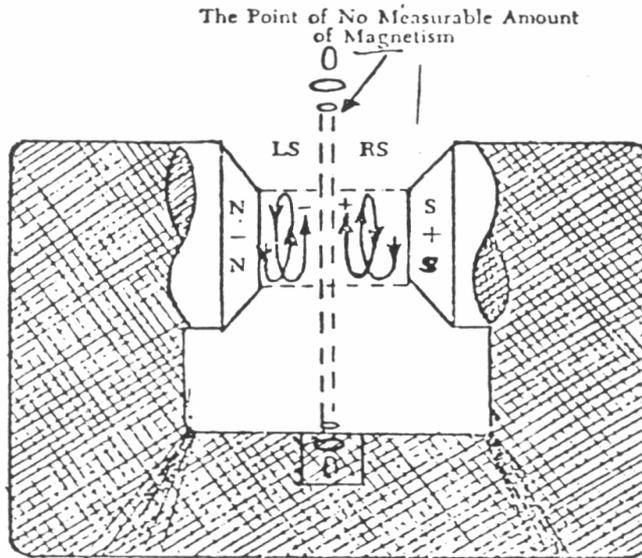
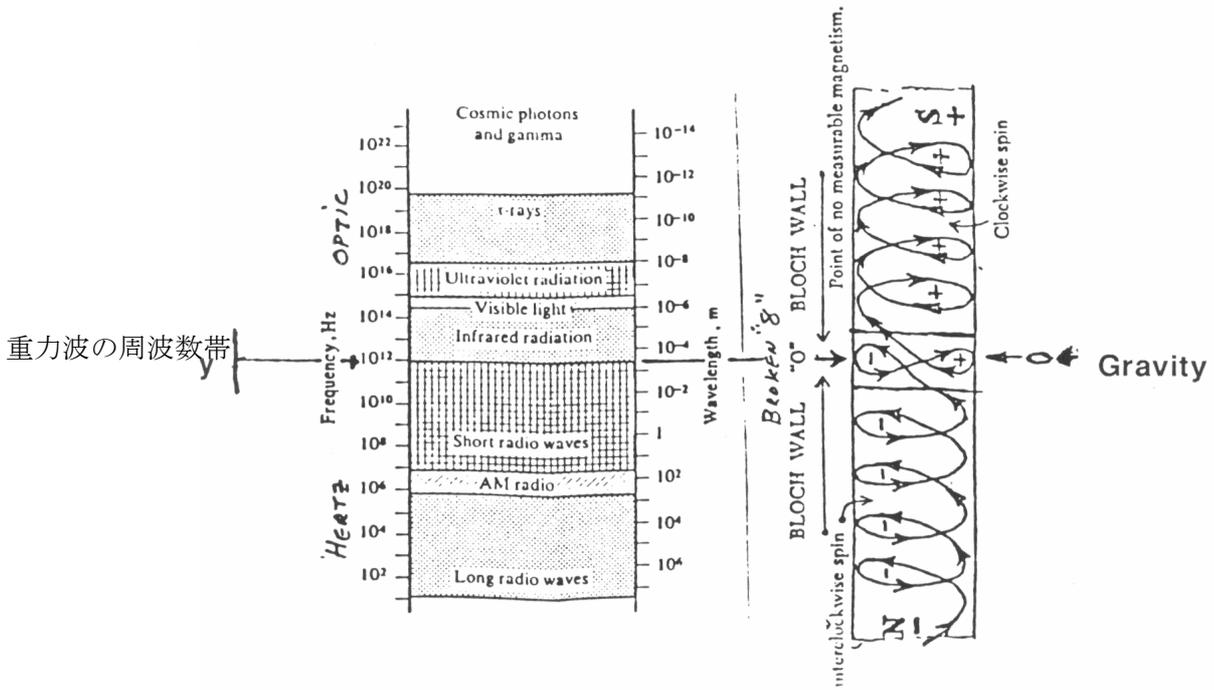


Diagram 9

Bloch Wall/Gravity Wave Field Source as a Function of the Electromagnetic Spectrum



我々が直ちに気がついて注目することは、#18 の東西の反磁性 diamagnetic の通路が水平に「蝶ネクタイ」の形をして横たわっているということである。

これは、現在磁気科学においてブロッホウォール BlochWall と呼ばれているが、これが反磁性と、重力ボルテックスの理解の鍵である。この重力ボルテックス現象の異なる表現であるブロッホウォール BlochWall は 2つの磁極(N極とS極)が接合する中心領域である。

(図 5、6、7 を見てください) そこは「磁気流の反転点」、そして、また、「反磁性の渦点」として知られている。

ブロッホウォール BlochWall は、回転している渦、すなわちスピンの、または、電子磁気エネルギーのN、およびS極の、回転の屈折点である。

マイナスのエネルギー極、N極は左にスピンする。

プラスのエネルギー極、S極磁気は右側に回る。

2つのスピン・フィールドが結合して逆転し、ゼロの磁気およびゼロスピンとなる点が、ブロッホウォール Bloch Wall である。

2つの対照的な要素(両極性)が会って第3の要素ブロッホウォール Bloch Wall を発生させるとき重力は弱まる。

S極は、フォースフィールド源の出口であり、N極は入り口だということである。個々の磁極エネルギーの回転は3方向のベクトルの構成要素をもっておりその対(Bloch Wall)はテンソルとなる。

ここに生まれる「壊れた8」の形は、2つの次元が倍化された4相のパターンを意味している。我々は、循環する形象、スピン2として、重力波のフォースフィールドを視覚化することができます。

2つの対照的なフォースフィールド、磁気と電気(2つのベクトルのフォースフィールド)は、出会ってシンプルな2つのベクトル・システム(テンソル)つまり中性的なフォースフィールドの中心点に重力を発生させる。

少し違う表現で言えば、この磁気と電気の双極のフォース・フィールド・ベクトルが2つ結合することによって4相のフォース・フィールド、または重力を生成すると、言うこともできる。

重力は4重のみなもとを持つことから、極性のパターンは1回転360度の放射の2サイクルで完了し、もとにもどる。(8の字を描く)つまり、重力は「スピン2」の特徴を持っています。電磁波の2倍のスピンを持っています。

この極性が無いという特性が、重力フィールドをなぜ無効にすることができないかを説明してくれる

中立の中心力としての要素を持つ重力は、定義によって極性を持つことができない。

しかし、それはいぜんとして極性をもつ磁場または電場と同じように発生している基本的な力である。

電界にも磁界にも同様に、重力波フィールドのみなもととして、中性化された中心点の効果が存在する。

2つの極性をもつ対称のフォースフィールド、磁気と電気は、それ自身3つ組みであり(3方向のベクトル)、同時に定義によって極性を要求され、両方とも重力フィールドのみなもとにもなる。

全ての電磁気のブロッホウォール Bloch Wall は、客観的に実際の1単位として存在する。

(図 8 を参照してください)

中立の中心としての Bloch Wall は重力波の源であり、磁気のS極N極間のギャップとして存在する。

電磁気のスペクトルに関していえば、1012ヘルツは、可視光線と赤外線の上の周波数帯にあり、レーダー・ラジオ、およびスタンダードの電磁波の周波数であると同時に、重力の特異点としてマークされる。

この放射エネルギー・スペクトルの領域は自然の3つ組みシステムが標準に置かれるよう

設計された中立センターである。

1012ヘルツは、重力が放射される周波数である。(図9を参照してください)。

重力波の場の力でブロッホウォール Bloch Wall が存在する地球グリッドの、場所では、物理的に変則的な出来事が起きる。— 例えば、自然発生的な空中浮揚現象が起きるなど、地球の反磁性の流れの領域は、南フロリダまたは中部オーストラリアのような特別な地点で、ブロッホウォール Bloch Wall の逆転現象を発生させる。

赤道 Equator Line は、馬鹿な地理学者の考えた単なる神話である。

南から北へ交互に反転して存在する、磁気流の反転領域は、南回帰線と北回帰線の近くにある

そして、これらの変則的な異次元空間への入り口地点は交互に位置を取り替えて地球全体を取り囲んでいる

地球グリッドには合計 20 の磁気反転点があり「間隔をあけて」交互の位置に、北回帰線に 10、南回帰線に 10 の合計 20 の磁気反転点を示しているという結論になる。

この南と北それぞれ対になった 10 ポイントのセットは、それぞれ、重力の流れから見て相補うように置かれている。

おおよそ北のポイントは南のポイント(図10を見る) 同士の間の中に位置している。

これらの磁気反転点の地球上での配置位置は、添付の地図で示される。

大きい地球グリッドの地図で、北の磁気反転点は、南回帰線の近くにあり左から右に#16、17、18、19、20、1、12、13、14 と 15 の地点にある。

南の磁気反転点は、北回帰線に最も近い地球格子#46、47、48、49、50、41、42、43、44 と 45 の近くにある。

より正確に言えば、地球の南側ではグリッドの地図は左に移動されなければならない。北は、正確なものに近い。

例えば、地球グリッド地図は、#13 と #14 の間に #44 を置く。

これは、上記の #44 が北の磁気流の反転点であることを示す。(ブロッホウォール Bloch Wall) これが地球の上にある本当の磁気流の反転パターンである。

反磁性エネルギー流の美しい蝶結び形はオーストラリアの東と西の海岸線で明らかに見ることができる。

蝶ネクタイの形の反磁性エネルギー流は地球のプレートに圧力を加えている、このことは非常に重要である。

なぜ、我々は今まで地球グリッドにある変則的な 20 個の磁気重力ポイントの存在を知らなかったのか？

コンパスはどこでも南北を指し示すが、この磁気重力ポイントの事実を隠して、赤道の磁気極性の神話を話すことは、狡猾な、この地球を支配する主人である「パワーエリート」にとって都合だった。

それを隠す理由は、明らかである

あなたがこの真実を知るならば、あなたはコーラル・キャッスル、ギザ、アリススプリングス、その他の地点がブロッホウォール Bloch Wall (蝶ネクタイの形の) または反磁性渦動ポイントであったことを知るだろう。

蝶ネクタイの形の反磁性の反転地点で並外れたことができる。例えばとても重い物体を浮揚する (コーラル・キャッスルとギザの大ピラミッドでやったように)。

そしてひそかに巨大な宇宙船を浮かばせてそれを徹底的に調査する。

(例えばアリススプリングス、オーストラリアと中国のロプノール Lop Nor ーなどでのように)

政府組織が密かに持つグリッド上の磁気重力変則地点の膨大な情報を隠蔽しつづけることは、明らかに人々の命の安全性よりも優先された。

当局者が大々的に特定の時間に、バミューダトライアングルから飛行機とボートが離れるよう警告するならば、たくさんの秘密の知識が一般市民に知られるであろう。

あなたが危険な日にバミューダトライアングルの特別な場所に、いたならば、約 20,000 から 75,000 マイル宇宙のかなたへ、永久的な廃品として投げ出される。

フロリダ海岸沖のバミューダトライアングルは反磁性が強力に活発なとき空中浮揚をおこす。

通常、地球はエネルギー流のなかに包まれているが、太陽と月からの特別なストレスがあるとき、温度は上がり、そして、吹き出し口での反重力の破裂は何でも浮き上がらせる。より小さな反重力の破裂は、彼らが乗っている船を浮かし、飛ばすほどのことはないが例えば人々の下から一およそ 500 ポンド以下のものを何でも浮揚させる ー。

これら地球のグリッド地点で磁気エネルギー流はブロッホウォール Bloch Wall、あるいは、蝶ネクタイ形屈折点として反転するが、どこにでも存在する小さな永久棒磁石におこる磁気極性反転現象と正確に同じシステムである。

ブロッホ Wall は地球に作用するとき、より大きくてずっと強力である。しかし、これまで誰もこれを不思議に思わなかったのだろうか、不思議な赤道のブロッホウォール Bloch Wall 効果 (棒磁石にもある磁気の SN 極の中間に起こっている) はそこになかったのか？ブロッホウォールが南北磁気極性の反転点であり、そこが赤道ならば、誰もこれまで、それを交差させなかった。

自然が極性反転のために十字形の網の目状の反転システムをデザインしたと同時に地球グリッド点には、普通ではない反磁性のシステムを存在させている。

大きな石の建物の建築さえ容易にするこれらの点ーすなわちコーラル・キャッスルまたは

大ピラミッドのような場所は——自然の地球反磁性を働かせて秘密の宇宙計画の遂行を助けている。

それは、ただ単に、我々が5人でやった空中浮揚パーティの大規模なバージョンにすぎない。

これら、反磁性の原理の重要性は、グリッドの正確な位置、またはグリッドが「結ばれて」いる地球上の磁気重力異常地点の公的な利用が、明らかにしている。

主要な地点の舞台でおきている大きな反重力の妙技の原因は単純な棒磁石のなかにもある（NとS極の）「蝶ネクタイ形」の磁気反転の結び目の力である。（例えばコーラル・キャッスル、グレイトピラミッドまたはアリススプリングス ロプノール Lop Nor 宇宙計画といった）

（Lop Nor ロプノール砂漠は、中国人がスペースプログラムと核実験を中心的に行う所である）

（N極の）最も強い磁気点は（蝶ネクタイ形の結び目）の中心地点ブロッホウォール BlochWall で反転し、そこはリーズカルニン Leedskalnin がコーラル・キャッスルを置いたところで驚嘆すべき反重力の現象がおこる。そしてそこに、エジプト人はピラミッドを置いた。イースター島のモヤイ像をおいた。政府高官のエリートの誰かはアリススプリングスやロプノール Lop Nor サイト に実験機関を置いた。

洞察力があるオーストリアの科学者/ナチュラリスト、ビクトル Schauberger の発明および学術研究は、シンプルな棒磁石にもある両極性の反転が示すところの反磁性原理のデモンストレーションである。

彼の空中浮揚機は、水の流れを利用した反磁性システムである。

水の流れの両極性逆転が作り出す反磁性（あるいは反磁性効果）、は磁気流の BlochWall と同じである。

どこかにある滝、および自然に存在する水の流れの反磁性の流れ、または水の流れの反転効果は Schauberger が人工の水の流れで作りに出したパワフルな反転エネルギーと同じ要素を持っている。

これら Schauberger のものは、チューブを付けた水の流れは BlochWall システムの簡単なバージョンである。

Schauberger の水の空中浮揚機は、反重力効果が終わりなく連続してうまれるタイプの装置である。

魚のマス（その後、Schauberger は彼の水のタービンにこの名前をつけた）は、上に浮揚するために滝の中で最も冷えた領域を感じて行動している。

滝の中心でスパイラルしている冷えた流れは、自然の反重力のシステムとして反重力の効果域として瞬間的にエネルギーが方向付けられ（反転し）ている。

滝の中心は、反転した反重力の勢いのために重力探知器の上ではゼロ（または減少）として記録される。

Schauberger は、この螺旋形になっている冷えた水流の自然のデザインをコピーして、人工水路、およびタービンで出来た内破システムを空中に浮かばせた。

Schauberger の内破タービンは、特別な水の吸入の流れを中断する栓とバルブによって、内破タービンと同じ方向に、反作用のバック・プレッシャー力を作り出した。

この反作用のバック・プレッシャー力は、上昇力となり（放電サイクルにおいて）あるいはこれらの機器を空中に浮かばせる力になった。（方向性のある運動量をもつ力を生み出した）

Schauberger の水タービンはドイツの第2次世界大戦の時、V7 戦闘機のプロジェクトで空中浮揚装置として使われた。

従って、Schauberger とコーラルキャッスルに住んだ建築師エドワード・リーズカルニンの両方ともが勝利者である。

彼はフロリダで、自然の地球グリッドの反磁性のシステムを利用して空中浮揚をおこさせ、その原理について書き残した。

(編集者覚え書き:

Refer to Living Water--Viktor Schauberger and the Secrets of Natural Energy,
-- Olof Aiexandersson,

Turnstone Turnstone Press Ltd.

Weilingborough, England, 1982.

また: Magnetic Current , Edward Leedskalnin.

Homestead. FL, 1946)

リーズカルニン Leedskalnin は 2 つの秘密を持った。

第一に、コーラルキャスルを造るための地球グリッドを知ったこと。

二番目に、彼は一人で空中浮揚パーティをする方法を知ったこと。

前に書いたあのことを理解してください。！

リーズカルニンは、わずかな圧力を、質量の中心にかけることによって珊瑚の巨大な部分を浮揚することができた。

空中浮揚のパーティは、4 方向の外側の角に位置した空中浮揚者は、質量の中心を外側の角から持ち上げている。

4 人の空中浮揚パーティのうちの 3 人が手を積み重ねて (円の中を反磁性エネルギーで充電させ) 10 数え終わったら後に下がって、残った 1 人は素早くかがんで 2 本の指だけを使って質量の中心の椅子の下を上方へ押せば、中心の椅子にすわっていた男は浮揚する。

リーズカルニンは珊瑚の平板の正確な質量の中心を棒または板を使って押し、上方へ浮揚させた。

180 度に位置した 2 人の空中浮揚パーティでは反磁性の自然な力がみることができる。

自然のもっている原理でいえば、4 人は小さな、一時的な地球グリッドポイントである。

このように、ブロッホ Wall の反転効果または反磁性はつくられ、そしてまた、中心領域の物質の空中浮揚が起こる。

Schauberger は水流のチューブによってこのメカニズムをつくり、そして、リーズカルニンは大きな石と一人で遊んだ。しかし、どちらも正確に反磁性の空中浮揚プロセスを使ったところは同じである。

我々はリーズカルニンが反磁性エネルギーが湧き出す地球グリッドポイントで働いていたのを思い出さなければならない

その地域の全ての大量の物質は常に「反磁性のエネルギーに満たされ」ていて、質量中心をわずかに上に押すだけで、容易に持ち上げられたことを覚えていなくてはならない。

——追記していえば、北、および南の磁極ともに変化したために、グリッドポイント#18、は、今では空軍基地敷地内となっている——

従って、現在位置するコーラルキャスルでは、前は出来ていた事ができなくなっている。

これは反重力、あるいは空中浮揚の件に関していくつかの追加のコメントである。

重力場における質量の重さの喪失による空中浮揚は質量への対抗する 2 つの重力放射の押し合いによっている。

我々を地球にむけて押す (ストレス) よりも、我々人間の生命圧力で地球を力強く押す。

重力の 2 つの押しの合計が、いわゆる重量です。

もしわれわれが(地球に向けて押さえつけるところのストレスとしての)重力を失えば、対抗する力の放射が開放されて、空中浮揚パーティーの中心の物のように、ほとんど押さなくても浮く。

我々を押す力——プッシュ（重力）が減少するので、我々への地球にむけられた圧力の無効性が増大し、体重の減少または空中浮揚となるのだが、言い換えれば地球が我々を押しのけるのである。

それは、その物の計量できる質量の全体量との関係はなく、局所的な重力フィールドとの相対的な関係の中でおきる力の効果なのだ。

例えば、消火ホースの噴出している水には、重力(押す力)の減少がおきている。

従って、地球は、水を押しのける。別の言葉でいえば重量の喪失がおこっている。

ぶんぶん回っている消火ホース・ノズルの水噴射の回転放出の形（quadropolar 霧化）は、水の重力（ストレス）の一部を減少させながら（重力の緩和装置として）噴射させている **Schauberg** のデザインが水に基づく重力コントロールであることは重要である。

空中浮揚のための（体重の減少）コントロールは、一般に生命放射への圧力を斥断することによるが、生命あるものも非有機的物質のどちらにも同じように働くという重力の特徴を使っている。

それを考えると、2つの放射源が局所的な場所で押し合っていると考えられる。（これが「重力場を考える際の」設計のポイントである）

我々が地球からの重力を押し消すという理由から、人間は、局所的に地球以上のパワフルな重力の発生源である。

我々が重力(圧力)を無くすことができたとき、地球の押し出す力はわれわれを押し出して去っていくのである。

この事については2つの最終的な知識がここに知らされる。

1人での空中浮揚、あるいは、一人の操作者によって催眠性のトランス状態に誘われた人による、体の重力の発生装置（ストレス）の斥断による空中浮揚が存在する。

無生物の物質の空中浮揚は可能だろうか、可能である。

物質それ自身の重力(ストレス)の発生装置をシャットダウンすれば可能である。

理論上、物質での空中浮揚は可能である。（コーラルキャッスル、ピラミッド、etc によって示唆されるように。）

空中浮揚システムの一般理論は、存在することが知られているいろいろな方法のすべてを説明出来なければならない。

この一般理論は、地球グリッドを理解し探求する人にとって共通の手段となる。

空中浮揚パーティ ディーンドライブ、Hooper/オーバーユニティ発電機と **Schauberg** といった装置の多様な発明の共通因数は、ゼロスピンエネルギーの変換またはノンスピンエネルギー流である。

このノンスピンエネルギーは、ブロッホ Wall 現象に関連した中立の中心におきるエネルギー流のことであって、いろいろな種類の空中浮揚の原因である。

地球グリッドにおける磁気反転の地点でまっすぐ上に向かう、反磁性のエネルギー流は、ノンスピンエネルギー流である。

このエネルギー流は正確に反時計回りに半分（N極）..と時計回りに（S極の）のつながった流れである、したがって、それには回転がない。

このように、蝶ネクタイの結び目の空中上昇エネルギーは、ノンスピンエネルギー流である。

空中浮揚パーティの4人は、一時的に、中心の浮揚者または生命のない対象の、まわりの回転エネルギー流を引き抜く、または止める。

このように、彼らは浮揚するノンスピンエネルギーセンターを極めて一時的に簡単につくる。

ディーンドライブは **Critical Action Time** 測定観察の間、ノンスピンエネルギーつまり交差エネルギーまたはダンプ・エネルギー、を湧き出させる。

ディーンドライブの機械は方向付けられた勢いをつくることができ、（ノンスピンエネル

ギー流)それはまた、浮揚システムとして使われることができる。

フーパーHoopeまたはOver-Unity Generatorsが作り出す電磁気の崩壊したフィールド反転は、各サイクルの短い時間ノンスピンエネルギー流を生成し、それを操作する。どんなフリーエネルギーの生成機器でも、ノンスピンエネルギー流を生成している。したがって、電気的なコイル反転装置が、ノンスピンエネルギー流を生成して、浮揚装置として使うことができる。

電気的なコイル・システムと同等のSchaubergerの水流システムは、弁で調節することによって反転させている。

基本的な宇宙のスピンエネルギーで構成されたこの世界では、このノンスピンエネルギーは、非常に強力な効果を持つ。

ノンスピンエネルギーは中心の中立のフォース・フィールドである。

そして、これは一般に極性を与えられた世界のどちらの側にも属していない。

このように、ノンスピンエネルギーが流れるとき、全てのエネルギーと分子システムに化学反応がおき、非常に強く反発され、そして、これらが一定方向に向けて流れるとき、最も強力な浮揚装置が設計される。

自然のエネルギー流に規則があり、それに従って全てが運行しているのならば、自然界の方法を我々がよく理解し、それを適用することを考えなければならない。

反磁性エネルギー流は、システムの反転点でのベクトル中性化反応であるので、自然界においては最終的に全ての空中浮揚の方法は類似したものでなければならない。

地球グリッドの重力渦の戦略重要地点の調査

重力渦のパターンで最も興味深い地球グリッド地点はアメリカとカナダの中に存在する。重力渦パターンは、反時計回りの渦である。主要な4つの反転点と中心点との角度を持つ。

調査された、渦の4つの中心は、南カリフォルニア地域突端(サンディエゴに近接している)、北アイダホ(Coeur D'Alene地域)、北のニューヨーク州(ハドソン川とIMontreal地域)と北ジョージアである。(図11参照)

この箱形のパターンは内側と外側へと蝶結びにされている。

それが南北軸に広がるので、2つの蝶結びが大陸の海岸線と反対側の海岸にそってそびえている山脈との間にでき、カンザスシティ(エリズワース)にその中心がうまれる。

西の渦流に関していえば、ロッキー山脈と太平洋に面した海岸線にまで蝶結びはひろがり、あと南下する。

東の渦流に関していえば、大西洋に面した海岸線とキャッツキル/アパラチアン山脈にまで蝶結びはひろがりあと北上する。

東西の海岸線との間の渦流は比較的まっすぐで、また狭いものである。このように箱型の渦流パターンを概略のべると理解いただけるであろう。

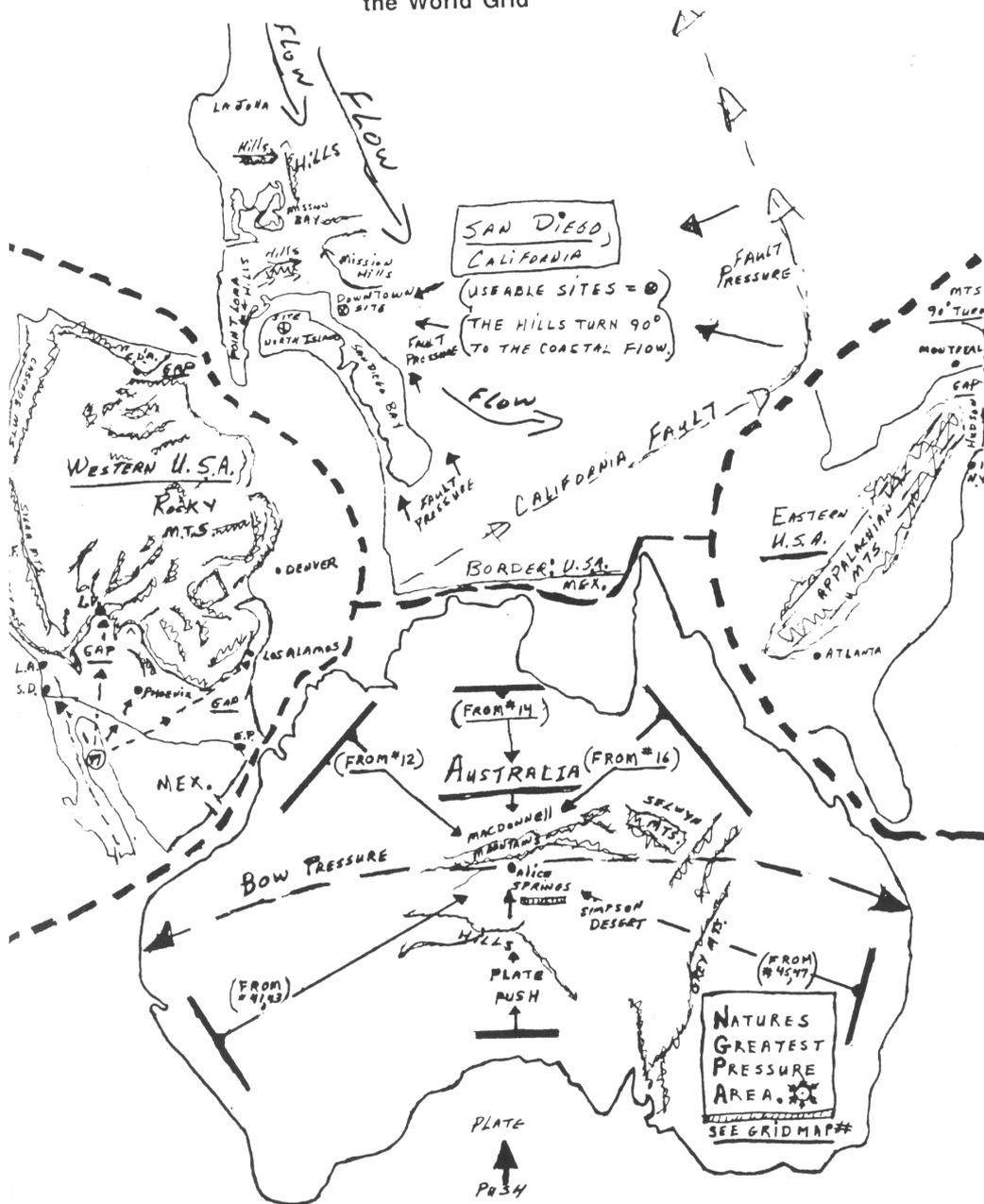
(明瞭にこれらのパターンを見るために以下の地球グリッド地図を調べて下さい)

東の渦流のもう一つの面白い様相は、流れに対して南カリブ海から「プレッシャー」がかかり、北にねじ曲げられ、異常なバミューダトライアングルとオンタリオ湖の現象を作り出すということである。

この地球グリッドエネルギー渦流は一旦大地にもどり、水をくぐり、あるいは、水に入り込んで、そのあと大きい自然発生的な空中上昇現象が起こる。

Diagram 12

Worldwide Gravity Vortex Research Areas Plotted on the World Grid

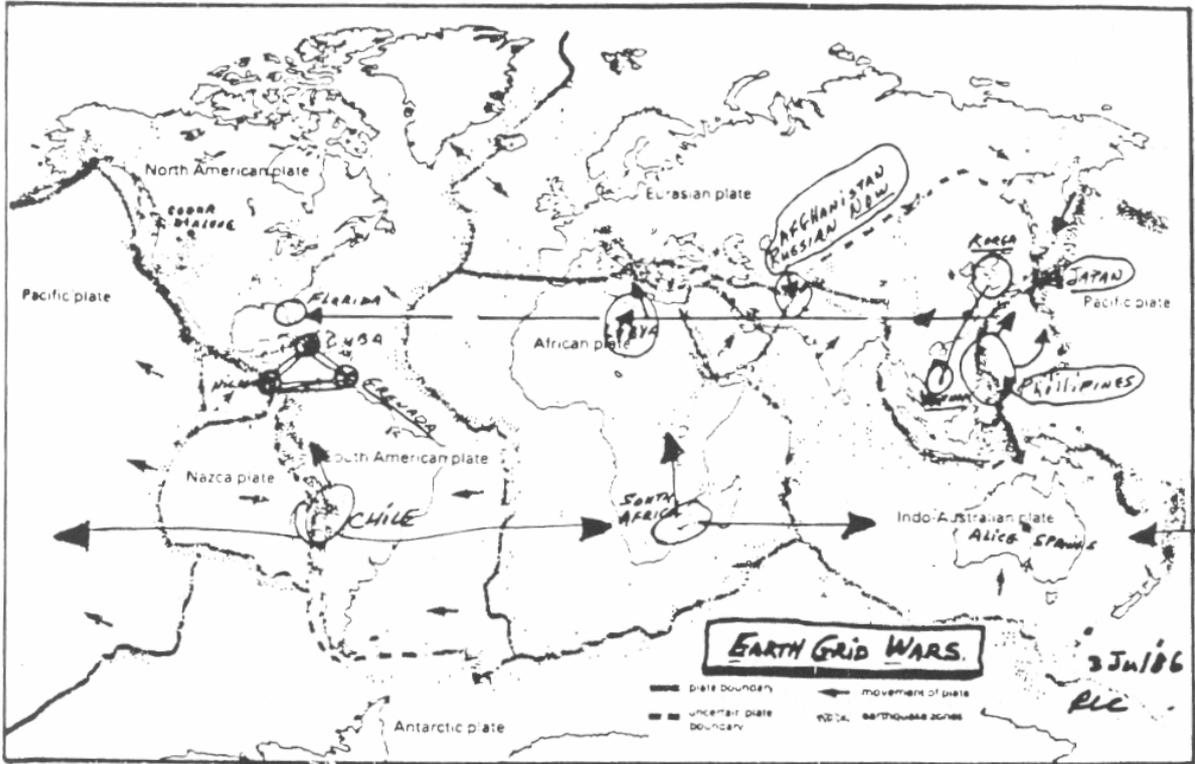


消えた飛行機や、船と人々のことは、たびたび報告されており、実際に重力渦-から投げ出されて宇宙の外へ何千マイルも飛んでしまうのである。

NASAは、事実 Schaubeger の水の重力渦-浮揚装置がバミューダ-トライアングル/オンタリオ湖現象と同じ効果（小規模の上で）に基づくということを知っている。

Diagram 13

Earth Grid Wars



昔のエルドリッジ号の(フィラデルフィア実験の)データは、重力渦・現象の副作用を詳しく説明してくれる。

バミューダトライアングルは N極とS極の潜在的重力流を放出させる流れをつくり、およびオンタリオ湖地域はN極とS極の潜在的重力流を中へ吸引させる流れをつくる。

大西洋沿岸の土地の形が重力流の光学的レンズ・システムのようなものにする。

この特別な重力渦・地域は、彼らの特別な調査(図12を見る)に最も適切な場所にする。

原子力調査の偽装のもと、および強固なセキュリティーの監視下、政府の重力ボルトテックスの調査機関は、ブルックヘブン、ロングアイランドとロスアラモス・ニューメキシコになければならない。

ハドソン川が流れ注ぐブルックヘブンは最もよい場所である。

国際的政府の重力渦調査は、地球グリッドの原則から、原子力調査の偽装を装って、オーストラリア中央のアリススプリングスでも遂行しているはずである。

上記のデータから、アメリカ合衆国(海岸線と山)の地理的な形が偶然でないことは、簡単に理解することができる

カンザスシティ(エリズワース)は中間地点である、そして、ラスベガスは#16、17と18の直接的中心である。

南アメリカから北への圧力源が北アメリカの渦動に向かう流れに影響してバミューダトライアングルとオンタリオ湖現象をうむのを助ける。

添付の地図をみてください。

オーストラリアの地図は、アリススプリングスが重力調査のために使われる理由を示している。

MacDonnell 山脈がアリススプリングスの上にかかっている東西の圧力の流れを90度転回させている。

オーストラリアの、形はこの圧力によって出来たことをしめしている。

北極地域からの蝶結びの圧力は、アリューシャン列島の島の形で明らかに示されている、Amchita 島はまさにグリッド地図の点#6の右に位置し、重力調査のための最高地点である。そのプレートはその両側からの圧力で押されている。

リーズカルニンは、正確な位置関係がコーラルキャッスルの城のような建造物を構築することにとって大切であることを完全に理解していた。しかし、どのようにして、彼は母なる自然が与える空中浮揚工学のこの素晴らしい例を正確に知ったのだろうか

全く簡単に、彼は自然を観察し、そこから地球の自然力の本当の知識をすべて得たのだ。

自然の重力渦のセンターはフロリダで約90度反時計回りにひっぱられて、その重力渦はテーブルの門のような脚のかたちをつくる。

重力一吹出しセンターの渦エネルギーは、南フロリダの終わりで反時計回りに引かれ動く。

南フロリダの地図で、私は、フィジカル・センターに開いた弧をかき、重力吸入センターを正確に描いた

(フィジカル・センターの両側のどちらかに最大限約10マイルはなれてある)、

しかし、最も強い、最大の反時計回りの位置は北にある。

フロリダをキィとして重力渦の吸入口に三角形をかいて、立ち止まる場所を調べていった。

リーズカルニンにとって特別の場所であったコーラル・キャッスルの南フロリダの家A.F.B.は最大の重力一吹出し口の中心に位置している。(反時計回りの北側)

渦センターから最大限の距離直進して、北の場所に匹敵する場所までいくが、(最大の反時計回りで)この場所を表現するのに、アメリカ南部でよく使う言葉「終わりの土地」と言う以外に適切なものはない。

リーズカルニンは地図が告げることのすべてを見て、自然は生き生きとそれを描いているその力を彼が読み取った。

それから、リーズカルニンは、単純に、サンゴの巨大なブロックを空中に浮かばせるために、この重力吸入口を使い、彼の城を作った。

5歳のAは、この場所で自動車の上へ石を積み重ねることができた。

一旦この聖なる地球の重力システムの操作を知ったならば、人工のシステムを設計することは容易である。

これらの場所で重力を研究する多くの専門馬鹿の科学者は女性性としての母なる自然と、その現実を憎むので、失敗する。

単純に自然とその彼女の姿を見つづけた男が勝利をえる。

その2人は **Schauberger** とリーズカルニンである。

家長的な宗教や世俗的な人文主義の管理的態度は自然のこの力を表現できない。数式化するとか、ブルドーザーで自然を破壊することしかできない。

自然のこのシステム、および力を本当に欲しければ、あなたは、女性としての自然への崇拜が必要である。現在の専門馬鹿の科学システムの逆にある現実、そしてその本質を崇拜しなくてはいけない。

反磁性の地球グリッドの地政学的な重要性の新発見は地球グリッド戦争という新しいテーマを呼び起こす。

「3つのフロリダ」(フロリダ、韓国、およびベトナム)は、2つの血まみれの戦争の後で、依然として地球グリッドの重要地点である(図13を参照してください)。

「ショック増大地点」であるのはリビヤ カリブ海沿岸だが、最近この三角地点を支配するために軍が侵入した。

カリブ海沿岸の三角形のショックウェーブシステムは、グレナダ・キューバ・ニカラグアにあった。

この地域での次の目標は、チリにある地球グリッドポイントの絶対的支配である。

南アフリカのグリッドポイントの統合は、分析してみるとヨーロッパとオーストラリアにとって必要である。

フィリピンの位置とプレート断層システムは環太平洋地域でのオーストラリアと日本の支配の軸となる。

ソビエトは、アフガニスタンでサイトを活性化して、すでに安全を確保した。

すぐに、日刊の新聞紙上で、もう一度これらの目標とされた国々について見てほしい。そして、誰が現在地球グリッド戦争に勝っているか理解してほしい。

しかし、母なる自然の道の本当の理解に基づく地球 **Grid** システムの知恵は、地政学的な地球グリッドの場所の奪い合いという厳しい現実を1枚めくることによってのみ得る事ができる。

地球グリッドシステムの若干の解説なしではグリッドの移動の議論は不完全である。

地球の磁極は完全にそのシステムを何か別のものと交換するほどに大きく移動はしない(磁極を逆にするか、はじかれたような動きのみがある)

ただ地球のブロッホウォール **Bloch Wall** 磁気反転点が、北と南の半球において、地球のバランスをとるために異常に位置が動くだけである。

ブロッホウォール **Bloch Wall** の異常な変動は、今よりもっと北でおこり、最後の大きな動きは1万・1万5千年前であった。

このブロッホウォール **Bloch Wall** **Magnetic Reversal** の運動パターンは、地球の拡大と縮小(大地の質量と重さの移動)に起因して、太陽とともに変わる。

いわゆる大洪水と氷河現象は、海流と大海全部の運動と地球 **Bloch Wall** の異常な位置運動に起因する空中浮揚力の効果とのバランスに起因する。

いかなる神の引き起こした洪水、あるいは氷河期もなかった。

単に地球グリッドの磁気反転変則運動があった。

これらの運動は地球の首振り運動として印象的に観察されてきた。

地軸反転を説明するのに世界の神話と宗教的な民間伝承の現代的見直しが叫ばれてきた。

こうしたことから、主要な地政学的な地球グリッド、気象と地質の変動、可能な磁気
重力座標（図 14 を見る）が一般に知られることを妨害しようと考えている。

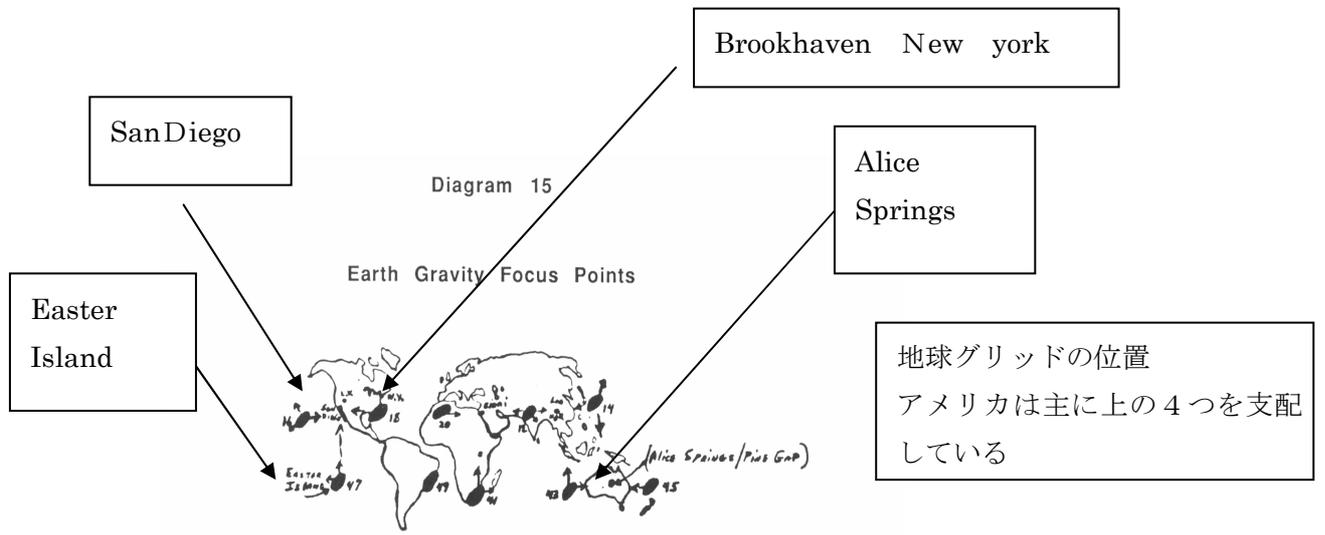
我々は、本当に、約時速 1000 マイルで回転しつつ飛行するダイナミックな地球という
球体を維持し、時に変動するバランスシステムなどは存在しないと思うだろうか？

カギとなる地球グリッド磁気反転点と言う移動可能な 20 の地点なしでは、この地球は、
それ自体がバラバラになる。（図 15 を見る）。

一方で、我々人間は征服と支配のため、自然という母の、この完全にエレガントなデザイ
ンを使ってもう一度馬鹿な戦争ができると考えている。

もし人類が悲惨な地球グリッド戦争を起こすならば、アステロイドベルトにいる我々自身
に似た他の惑星グループが、いとも簡単にそれを止めるだろう。

我々が地球を略奪しブラウスの「ボタン」をこの女性からはぎとるならば、これは取り返
しのつかない悪であることを直ちに発見するだろう。



Note: The numbers on the map are Earth Grid Point reference coordinates; see Diagram 4). U.S. has access or control of the four prime sites (Alice Springs, Easter Island, San Diego, Brookhaven, New York).



VIKTOR SCHAUBERGER

VIKTOA SCHAUBERGEA による内破理論 :

命の秘密は、極性にある。

反対の極性の無い自然には吸引も反発もない。

吸引と反発がなければ動きが生まれない
動きがなければ命は無い

THE IMPLOSION THEORY BY VIKTOR SCHAUBERGER:

The secret of life is dipolarity

Without opposite poles in nature
there is no attraction and repulsion.

Without attraction and repulsion
there is no movement,
without movement there is no life.

自然の2つのモードとしての
対立的な双曲線の螺旋運動

拡散の螺旋運動

集中の螺旋運動

THERE ARE TWO NATURAL MODES OF
OPPOSITE HYPERBOLIC SPIRAL MOTIONS:

Excentric spiralling:
(centrifugence)

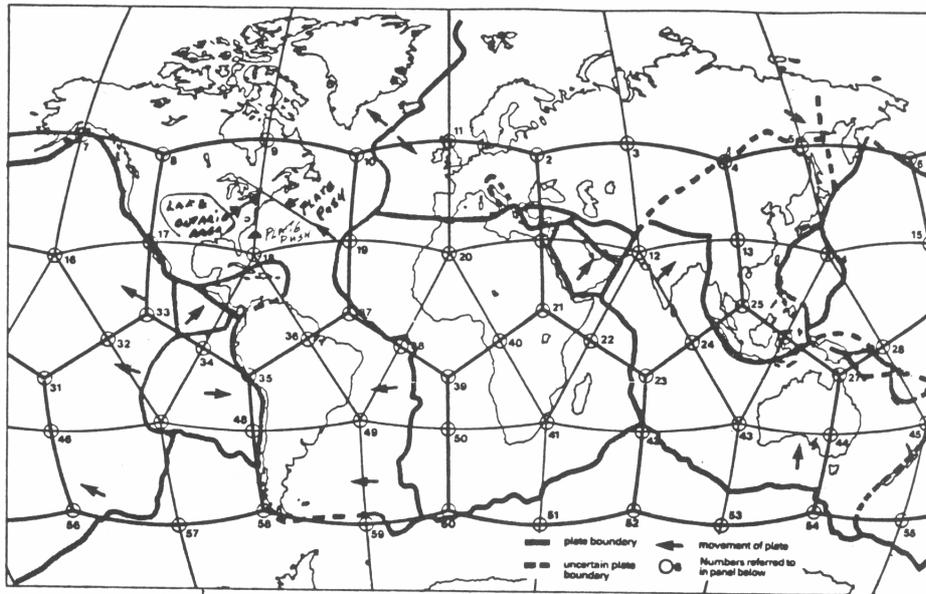


Concentric spiralling:
(centripetence)



Diagram 14

Geopolitical, Meteorological, and Geologic Anomalies
Plotted on the Earth Grid



'Vile Vortices' - ten areas of violent magnetic and climatic disturbance spread symmetrically round the globe, according to the investigator Ivan T. Sanderson. They include the Bermuda Triangle (page 219), and are said to be places where phenomena are concentrated: 16, 18, 20, 12, 14, 47, 49, 41, 43, 45.

Volcanoes - the geometrical lines are said to follow the edges of the lithospheric plates, where volcanic activity takes place.

Magnetic anomalies - said to 'overlap with the vertices of the polygons'.

Meteorology - centres of cyclones and anti-cyclones lie at the nodes of the grid, giving birth to hurricanes, whose path then follows the ribs of the grid; so do many prevailing winds and water currents.

Earth faults - the mid-Atlantic underwater ridge lies between 10 and 37.

Solar radiation - maximum amounts of solar radiation (map page 45) are received at 1, 17, 41.

Atomic explosion - 1700 million years ago, a spontaneous atomic reaction based on U-235 occurred at 40.

Mineral ores - mineral deposits are concentrated along lines of grid that coincide with edges of continental plates; oil deposits are found at intersections (e.g. huge Tyumen oil find at 3).

Space photographs - photographic data collected by US and Russian satellites have recently made the map of the world more accurate, and confirm some of the oddities suggested by the grid: a 'fault-line' from Morocco to Pakistan is marked by the line from 20 to 12; Gemini spacecraft have shown circular geological structures 200-350 kilometres in diameter located at 17, 18 and 20.

Soil content - lack of certain elements in soil at 2 and 4 has led to freak evolution of plant life; at 4 (Lake Baikal) three-quarters of plants and animals are unique.

Bird migration - birds overwinter (page 86) at 12, 20, 41.

Ancient civilizations - people unconsciously sited their early centres at key intersections: Egyptians (1), Indus Valley (12), megalith builders (11), Peru (45), Easter Island (47), northern Mongolia (4).

観察者 Ivan T Sanderson によれば

台風がグリッドの中心点で発生 グリッドと地下水の流れ 鉱脈 石油 などをアメリカとロシアはこの情報衛星探査機で写真を撮って調べている。また超古代に考えられないような何者かの援助のもと、グリッド中心に相互にカギをおいた。エジプト1 インダスバレー12 メガリスビルダー11 ペルー

伊勢神宮の御船代とはU F Oである。



West German gravity-field
unit in operation

フリーエネルギーではしる、西ドイツのバイク

1982. 6/17 public demonstratin to the press

このグラビティボルテックスの本を翻訳する強い動機というのは、右回転と左回転の螺旋がつながったデザインというのが、古代の遺物に多くみられていて、これが物理的実体のなにかをしめしている、という強い思いである。ケルトの文様にはこの無限につづく渦巻きがいたるところでみられる。この右が左に反転するという事は、メビウスの帯とおなじことであり、数学の分野で言えば、トポロジーの領域にはいるらしい。このことが、反重力の原理やテスラコイルに関係し、フリーエネルギーの発現に大きな役割を示すことは日本の物理学者、清家新一以来言われてきたことであるが、このことを、古代史まで届く広い視野でわかりやすい言葉遣いで言ってくれたこの、著者には感動をおぼえる。

そこでこの主題の変奏曲をすこし蛇足で続けてみよう。

日本の古神道には、この右旋 左旋の原理が強く流れている。

だいたい、古事記の一番ドラマチックなところはイザナギ イザナミの天の御柱を右旋 左旋するところだ。

このことの意味はいろいろ解釈があつて一定しないが、私は物質生成の原理、宇宙生成の原理を表現していると思つている。なにしろこれが根本である。

右旋左旋はふとまにとつて言われている原理にも存在する。

しかし、ふとまにとつても、意味することは言霊学の諸派の各氏の以下の表のようにいろいろな流派が存在する。

しかしことは神事であつて、人々の常識を超えた、特異な領域まで、目が届いていたことは十分考えられる。

人が空中浮揚し巨石の重力がなくなる神秘の領域まで、神々の目が届いていなかったと誰が言えよう。

むしろこうした、根源領域の原理から、精神も肉体も現世の構造までも見通した哲学が展開されたという方が納得する。

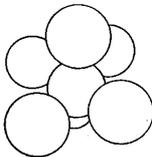
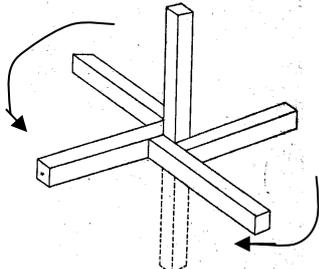
伊勢神宮には真の御柱、別名忌み柱といつて、御船代の中にいれられた八咫の鏡とともに、内宮正殿の床下に五色の絹布におおわれた木組がご神体として存在するという。この柱と鏡がご神体ともいえる。

この天津金木は水谷清によれば言霊、易学、原子論、人間の身体論、の根本原理のエッセンスとしてつくられた木組であり、プラトン立体の正八面体の骨組みでもある。そしてこの天津金木は右旋 左旋して、エネルギーの放出と吸入を表現し、物理学で言えば電子の回転すなわちスピン運動も表現している。

そして古事記にある天の岩船 いわくす船、浮き船の神事（瞑想の極地で体が浮く）、こうした言葉や、竹内文献にある、天の浮き船の言葉 ほつま18紋にある「ヲ手にクニタ

マ（地球）乗り巡り」の言葉、カタカムナにある宇宙的思考方、そして伊勢神宮と出雲大社 諏訪大社 鹿島神宮 などを結ぶ正確な二等辺三角形、これらを見てくると伊勢神宮の御船代というものがたんなる海に浮かぶ船といったものでなく聖なる反重力を暗示した天の浮船であり、先の著者がくりかえし言っていた、ノンस्पインエネルギーによる聖なる気の力、神の力をあらわしているといった方が私には納得する。

ふとまに各説

古事記	いざなぎ といざなみのみとのまぐあい 右旋 左旋
伊勢神宮御鎮座記	心御柱一名天御柱（あめのみはしら）。またの名を忌み柱またの名を天の御量柱（あめのみはかりばしら）経四寸長五寸の御柱に座（ま）す。五色の絹をもってこれを纏い奉り、八重櫛（やえさかき）をもってこれを飾り奉る。 これ則ちイザナギ イザナミノ尊の鎮府に則る。 陰陽変通の本基、諸神化生の心台なり
	 
大祓の祝詞	天津金木を本打ち切り末打ち断ちて
ほつまつたえ 神勅太占図 神璽基兆太占 図 カンオシテモウラツク エ 大直根子直伝	三笠紀 ふたつひつつく ふとまに言霊図の右旋 左旋 ほつま文字 小笠原通當 小笠原長武の フトマニノリト ア右旋 ウ中心 ワ左旋の天祖尊を中心に50音 とおのおしで 松本善之助へ <u>大己貴命から大直根子へ</u>
物部文書 韓服神社祈祷	天順右旋 地順左旋という「ほつま」の天地のめぐりを示すあわの文字を想起される図あり 天津祝詞を念じつつ天の巡り地の巡り

禁厭之伝	を念書すること10辺 10種神宝をもちひふみ誦文を念ずる
岡本天命	数とことば 言葉の裏には数があり数の裏には必ず言葉が隠されている
武智時三郎	天理教神楽歌 山の中へと往くならば <u>荒木棟梁</u> 連れて行け これは小細工棟梁や。 <u>建前棟梁</u> これカンナ カンナとはアイヌ語で数を意味する。 日本国家の建設にとっては言霊学ではまだ小細工棟梁である。建前棟梁としては数霊学でなければならない。
田上晃彩	数霊学 4次元の右旋 左旋による立体的亀甲紋の解釈
荒深道斎	神理 神言
小笠原孝次	20フト まには宇宙のロゴス 真実すなわちマを近似的に言葉をもって把握表現 天の真名井より 言語の法則として表された生命の知恵の原理
山腰明将	言霊 明治天皇の言霊の先生 戦後米軍のジープとの事故死
鹿トのフトマニ	対馬から越後 弥彦神社と2種の伝えあり 対馬伝と越後伝 天津息吹 弥彦の息吹 弥栄の息吹
対馬亀ト伝 食ト正手	
春日言霊学	九鬼文書に <u>守矢の一族(物部)</u> <u>春日の一族</u> <u>越前武内の一族</u> <u>大</u> <u>中臣の一族</u> それぞれが記録をもって逃亡と記載 春日の一族の春日古文書 出雲に春日家は隠棲 出雲市神戸町 出雲大社に春日興恩氏於兔丸がおり 言霊学の大家125代続く 始祖 阿曾古丸 音性(ことたま)とは神性カマツヒの伊吹が音化するときその神性の本質を明らかにするものをいう 交叉無凝 交流無凝なる大宇宙の姿なるものを考えてみますとそれは太古我々日本人の祖先が考えて居りました葦芽気あしかびの形に納まります。 之には左旋右旋の二様の形式がありこれがクツフムヌルの定律によって交流無凝に活動してその結果茲にウミムスビ産霊の作用をおこないます。 高島延枝による
水穂伝	言霊学中心の本 中村孝道から王仁三郎 大石擬真須美 へ

杉菴志道	神祇伯白川家 の太瓊伝 (ふとまに) と共通のところあり
神祇伯白川家 太瓊伝 (ふと まにつたえ) 白川家秘伝太 瓊伝	天武天皇の口述にはじまる秘伝 稗田阿礼に伝う 神祇伯とは祭祀を司る長官 古事記を解くカギとしての布斗麻邇御霊 火凝霊かごたまは天津 息吹の原理にして火にも焼かれず水にもおぼれず切っても切れな い絶対の秘事 稲荷古伝のと同じ幾何学模様あり 水火の伝え 岡本天命の丸ちょんの図と同じ トホカミエミタメの8音 禊払いと鎮魂に中心を置く
本田親徳	幽頭大兆伝書 ヒトマネとは霊気が左右に旋るすなわち感合妙交するかたちをま ねぶこと 霊交斜形と霊交直形がある。ともに 25音の右旋系言霊 と左旋 系言霊が書かれている
大石擬真須美	
水谷清 の天津金木の 左旋 右旋 肉体と精神の 調和的統一が 皇道	天津金木学 は 布斗麻邇そのものでありまして皇典の密教的研 究法に属するもの 神の公式 神界の公式に基づいて其の理法を究めるのが布斗麻邇 ただちにこれ天津金木学 フトマニは占術ではなく最も公明なる学術 現今の科学の自然法の範囲のみでなく幽の世界に貫通している公 式学 大石擬真須美の弟子
玉置古文書 熊野の奥 熊野修験道の 聖地玉置山	タマキマチガタ アヒルモジ アヒルクサモジ
浜本末造  フトマニ の図	著者は玉置神社に関係する 般若心経はムー大陸直伝 波羅蜜多の波羅とは5つの波動を統御した右旋左旋の 統一され、融和統合された波動 5つの波動を一つに集めて発するものがこのフトマニという この波動が地球の中核生命となり世界の王の高御座で発光する フトマニが正常に働くとき生命が十全化する 物質と自然の基本 は6面体だが、これを崩して5の倍数に持っていくと空にいたる。 フトマニは6面体を崩して無にいたらしめる。

	<p>言霊とは生命の躍動から起こる言葉や行動 フトノリゴト 言葉を文字に代えたから、ことだまを失った。 言霊が現象に現れることを言代といった。 天照大御神の岩戸隠は異質な波動に犯されて残り少なくなったフトマニの波動を守るため 言霊を出す波動がフトマニ フトマニが裏で表が言霊 天津祝詞のフトノリゴトを宣れとは48音を用いて（統一された心身の状態で）フト言いなさいということ</p>
金井南竜 フトマニクシロ	<p>久代 奇代 串呂 奇路 フトマニを磁場とすればクシロは磁気線 プラスクシロとマイナスクシロ <u>奇城（クシロ）</u> 伊勢五十鈴フトマニクシロ29箇所50の三角形で結界をつくる 崇神天皇のときの祭政一致の廃止後もこれで神威を保っていた</p>
松浦彦操	<p>みふみのかたどり つつみ たたみ むすぶによる天津端 一種のフトマニクシロ</p>
三浦芳聖 <u>長慶天皇の直系</u>	<p>神風串呂</p>
中臣家伝 九鬼宝鏡秘伝	<p>金木占事</p>
竹内古文書 易の源流としての九星 九宮	<p>伏儀が36年日本に留学してフトマニ法の天津金木を勉強したのか <u>別巻神秘伝秘術の巻</u> 連山 帰蔵 周易のもとになったのが天津金木の八角の理から八卦へ</p>
カタカムナのウタヒ	<p>カミツモジ使用</p>

ホツマツタエのふとまにの図

あ
左旋



う
中心

わ
右旋

元元明天精奇城
 四拾九因本席圖
 天神玉杵尊鏡之
 為五拾壹相瓊璽
 以授之天兩神兮
 天照太神基是璽
 欽兆吉凶為照長
 候諸神詠万葉情
 漆剛撥百廿八詠
 為基兆太白紀兮

フィールド推進システム NASAの最新研究動向より

.南善成 日本電気(株)

現代物理学は真空の Zero Pointt energy(Media of Electro magnetic Fluctuatin of the Vacunm=ZeroPoint Fluctuatin)を認めており、この ZPE や ZPF は慣性と重力とに理論的な関連があり、そして真空である空間は絶えず粒子と反粒子の生成消滅を繰り返している物理的に実体のある場である。

こうした実体のある真空場に対して加速度場を生成する機構を探索する必要がある、ここで加速度場とは重力場を意味しており、対象とする機構は或る媒介的な現象を通して重力を操作する手段を発見することである、フィールド推進の主要な媒介的現象として、電磁場と一般相対性理論との関係(General Relativity connection Electromagnetism)、零点エネルギー効果としての重力(Gravity as Zero Point Energy effect)、他の未発見の方法(Other unknown and unexplorerd methods that may one day lead to a BRAKTHROUGH discovery on this Frontier)が候補である:

2.Fild Propulption System(フィールド推進システム)とは?

現有推進システムが作動物質の噴射による運動量推力(反動推力)を推進原理としているのに対して、フィールド推進システムは或る種の圧力推力を推進原理とするものである。フィールド推進で云う圧力推力とは真空である空間から受ける圧力差推力または圧力推力を示している。

フィールド推進システムの推進原理は、周辺の空間との相互作用による場の近接力(圧力推力)を利用するもので、最新現代物理学(相対論、場の量子論、宇宙論等)を駆使して時空間の構造研究による推力生成を目指すものである、推進力生成のため時空間の構造との相互作用を利用し、宇宙船を時空間の構造に対して推進させる推進システム概念である。フィールド推進システムの media すなわち媒体は真空である時空間の構造自身(Substructers of Space)である。

4.STAF99におけるフィールド推進システムの紹介

4. 1 空間駆動推進システム(SpaceDrivePropulsionSystem)

空間駆動推進システム(SpaceDrivePropulsionSystem)の駆動原理は真空である空間を連続体と仮定し、一般相対性理論と連続体力学との適用により完成したもので、初期にはシュワルツの外部解、内部解に基づく強磁場による空間の曲率生成(空間の曲げ)により発生する加速度場を検討してきたが、現在は強磁場を必要としない加速性能に優れたド・ジッター解による加速産が求められており、真空である空間の励起技術が重要な課題となっている。

このド・ジッター解による空間駆動の推進原理は欧米の2~3のフィールド推進システムと推進原理は異なるが、真空である空間を励起することが重要である観点で一致している。

(2,3,4)

真空である空間を励起させる推進エンジンとして、トポロジー(位相幾何学)的重力理論をさらに拡張した磁性流体による右回転効果により、空間の励起効果を増大させたエンジンを検討している。

このエンジンは空間駆動推進システムのド・ジッター解による加速性能をもたらすド・ラム・コホモロジー理論に基づく磁性流体の右回転により生成されるマグノンのスピン励起を利用した推進エンジンでは、必要な磁場の値は0.1テスラ(1000ガウス)~数テスラ(数万ガウス)程度の低い磁場でよく、現有の超電導技術で充分実現可能である。

真空である空間を励起させるためにはエネルギーを空間に局所的に集中させることが必要である。

フェルミオンである物質場とボソンである真空場(スピンゼロのスカラー場)との相互作用をエネルギーの集中により引き出すために、或る種の触媒が必要であると考え。我々は物質場と真空場の相互作用を引き出す触媒として、スピン波としてのマグノンが有効であることを発見した=マグノンとは量子化されたスピン波である、強磁性体 (Ferromagnet)の基、底状態で全スピンは一定方向に並行に揃っている、この状態で強磁性体のエネルギー状態は最低のエネルギー準位である。もし、1個のスピンの方向が逆転すると、強磁性体のエネルギー準位は励起される。この励起状態はスピン波として観測される、1個のスピンの逆転は1個のスピン波すなわち1個のマグノンを生成する。スピン波のエネルギーは量子化され、量子化されたエネルギー単位はマグノンと呼称される準粒子であり、ボーズアインシュタイン統計に従うボソンである。磁性流体の粒子のスピンを外部磁場により一定方向に揃えるだけでは駄目で、これを磁性流体として右回転させることが空間の励起に必要なことである。さらに空間の励起効果を増大させるためにねじれた場を生成する必要がある、このため隣接した外部磁場の極性を交互に変えることで捩れたスピン集団を形成している

5) 二 4.2

ZPF 推進システム

ZPF(ZeroPointField 推進システムとは、真空としての空間に内在するゼロ点エネルギーとそれに伴うゼロ点振動のバランスをくずし、その結果生じる宇宙船前後部付近の真空のゼロ点輻射圧の圧力差により真空の場から走力を得る推進システムである〔11〕=真空と相互作用する場の推進は重力場または真空の量子電磁気的な基底状態と関係している=理想的な相互作用は単に推進力の増加だけでなく宇宙船の慣性力をも減少させることが必要である=宇宙船の慣性力を殆んどゼロにすることは低い励起レベルで必要な加速が行なえることを意味する。すなわち、慣性力の減少は宇宙船内の潮汐力や構造的歪みを緩和させるとともに巨大な加速と減速とを可能にさせる。

真空である空間は不活性でかつ何もないからっぽの状態のように見えるが、場の量子論や量子電磁力学(QED)の観点からは、時空間全域にわたる領域で極めて活性的で脈動が激しい媒体とされている=この原動力はゼロ点エネルギーのゆらぎ(zero point energy fluctuation)であり、ZPFのエネルギーを示す波長、周波数が時々刻々変化する無数の電磁エネルギーの脈動を示していることになる。個々のゼロ点エネルギーのゆらぎは等方的であり、一定速度で移動する物体全域に渡り一様に作用するので正味の力は生じない。

カシミール効果はこうした真空との相互作用により生じる力の実証とされているが、この力が微弱なため推力としては直接利用できない。ただし、この効果は他の有用な可能性を示唆している。

例えば、もし移動する宇宙船によって前方に放射されたエネルギーが真空電磁場と強い相互作用をもち真空電磁場を擾乱させることにより、宇宙船前方領域での多数のゼロ点エネルギーのゆらぎをもつ量子的振動子を減少させるならば、宇宙船後方領域でのゼロ点エネルギーのゆらぎがその輻射圧として宇宙船の推進方向に作用することになる。

真空のゼロ点エネルギーは一種の輻射圧であるので宇宙船は推進できることになり、典型的な圧力推力による推進原理を有する。

ここで一般相対性理論の等価原理が正しいとするなら、与えられた空間領域での時空間の計量(メトリック)の擾乱は、重力的に影響するのみならず物体の慣性にも影響する、加速している宇宙船が宇宙船前後の(重力)ポテンシャルを正負に相反できるならば途方もない速度での推進が可能となる。つまり宇宙船後方の時空間の計量が膨張して宇宙船を押し push し、一方宇宙船前方の時空間の計量が収縮し宇宙船を引く (pull) ことで推進させることができる。

さてゲージ理論によると、ゲージ場による力は逆二乗の法則に従い、力はその源のもつ量子数に比例し、その量子数につき保存則が成立する。電磁場の場合、電荷がそうであり、電荷保存の要求からマクスウェル方程式が導出される。ゲージ場の中には電磁場のような可

換場(アーベル場)と重力場のような非可換場(非アーベル場)が存在する、マクスウェル方程式が線型であったのに対して、重力場方程式は非線型である。ここで重要なことは重力場が非アーベル場であり電磁場がアーベル場であるので、通常の電磁場と重力場とに直接の相互作用は生じない。しかし、電磁場を非アーベル場に転化させた特殊な電磁場にすることができれば、重力場に干渉させ制御できる可能性が生じる、

ブローニング及びバレットは通常のアーベル的電磁場を非アーベル的電磁場に変換する方法により重力との直接的な相互作用を試みている。この変換媒体としてベクトルポテンシャルが重要な役割を果たす。

量子電磁力学($Q \epsilon D$)の観点からは、ランダムな電磁場としての ZPF は宇宙船が加速していない等方性の状態で本質的に他の形態の電磁場と同じであり、ZPF は可換=である 1 次ユニタリ群 $U(1)$ 対称性のアーベル場として考えられている。そして慣性力とは 2 つのアーベルゲージ場〔電磁的 ZPF と加速する物体を構成する基本粒子クォークや電子のような個々の荷電粒子〕との相互作用の結果と考えることができ、この加速物体による ZPF の擾乱は結果として慣性力を生成することになる。

つまり物質の慣性や重力は zero-point field(ZPF)と原子を構成するクォーク、電子との間の電磁相互作用に起因するとの考えである。加速物体による電磁的 ZPF の擾乱は結果として反力を生成し、この反力が加速物体の慣性を示す。

これは加速物体から真空が受ける ZPF における非対称性により生じる。

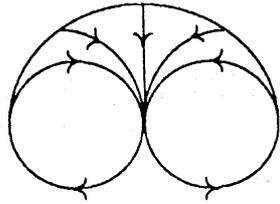
このような加速系では ZPF の運動量流束(momentum flux)はゼロとならず、若し ZPF の擾乱が物質を構成するクォークや電子レベルで生じるならば、ゼロでない ZPF の運動量流束により電磁気的作用からこの反力が導出される 12,13

重力場が非アーベル場であり、かつ重力が ZPF と関連すると仮定すると、この場合の ZPF それ自身は明らかに $U(1)$ より高い対称性を有する非アーベル場の要素を含むことになるので、特殊 2 次ユニタリ群 $SU(2)$ 対称性の非アーベル場が候補となり、この非アーベル場を生成する電磁放射ビームが推進に重要な役割を果たすことになる。つまり、通常の電磁放射ビームは時空間のメトリック(計量)や ZPF とは対称性の違いにより直接の相互作用は無いが、特殊な状態の電磁放射ビーム(非アーベル場を生成する電磁放射ビーム)は時空間のメトリックや ZPF と何らかの媒体を介して相互作用を生じる可能性がある。

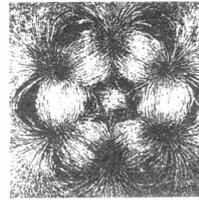
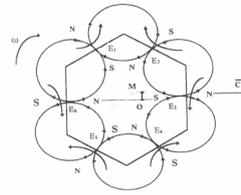
アーベル場の電磁放射ビームを非アーベル場の電磁放射ビームに変換する方法については、一般の周波数変調や振幅変調技術では電磁皮をより対称性の高い非アーベル場の電磁波に変換できないが、通常の電磁場の対称性を $U(1)$ から $SU(2)$ に変換させる偏光変調(Polarization Modulation)技術により、ベクトルポテンシャルの作用を通して非アーベル場を生じさせることが可能である: $SU(2)$ 成分を有する非アーベル場が重力場や電磁的 ZPF と関連するならば、偏光変調した電磁放射ビームにより、重力や慣性力の影響を制御できる可能性がある[14,15]

この ZPF 推進システムと空間を弾性質的な場とみなす空間駆動推進システムとは、真空である空間の見方と表現が異なるのみで、実質的に同じ原理であると考えられる、QED をベースとした真空のゆらぎの場と微細化した網状の真空の弾性質的な格子場とは、格子ゲージ理論とヘテロティック スーパーstring理論との結合により、相互に導出可能と考えられる。

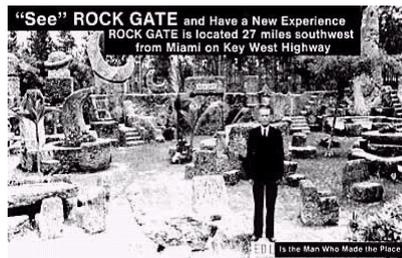
現状、真空である空間励起技術のアプローチとして上述の 2 種類の方式が考えられるが、これらに限定されるものではなく今後種々の新たな方式が研究されることになる。



PLASMOID CURRENT FLOW



☒—



以下の章は、ゲリーVassilatos の、「冷戦技術の秘密 プロジェクト

HAARP」の第1章からの抜粋です。出版者（Adventures Unlimited Press）の許可によって、ここに掲載されます。

Rosetta Stone ロゼッタストーン

ジェームズ クラーク・マクスウェルは、電磁波が存在することを予測しました。

彼の数学的な記述をより完全に説明する理論的な議論で、マクスウェルは彼の読者に2つの「自然の中におそらく存在している異なる種類の電氣的妨害の可能性を考慮するよう付け加えた。

最初に縦の電波（現象）を扱った。そして、それは静電界線の集中を交換 alternating することを必要としました。

この密度を高められた静電界の高度な波動は、ベクトルが唯一の方向にむけられた一方向性フィールドを必然的に要求した、

疎密波が生成する際、許された唯一の変数は、フィールドの集中度です。

静電界線に沿った流れは充電されたパルス型圧力を発生し、パルス波動が単一方向に動きます。

これらの「電氣的な音波」はマクスウェルによって存在が拒否され、そのような状態が成立することは不可能であると結論した。

His second consideration dealt with the existence of transverse electromagnetic waves.

彼の第二の考慮は、横の電磁波の存在にある **deal** である。

これらは、一定の軸に沿って、電氣的なフィールドの迅速な交替を必要とした。

スペースに電気線を広げて、光速で離れて交互の源から放射している間、

おそらく彼ら自身瞬間的に「あちこちで曲がる」、

源で生じる変更の正確な複製に対応する力は、大きな距離を離れても見つけられます。

彼は実験者がこの波形を捜すことを励ましました。そして、目的を達成するため可能な手段を提案しました。

そして、電磁波を見つける探索は、1887年に始まりました、

ハインリッヒ・ヘルツは、その時かなり重要な達成として、電磁波を発見したことを発表しました。

1889年に、N・テスラはこの Hertzian 実験の再生を試みました。

彼の南第5通りのエレガントなテスラ研究所において、絶対の正確さで実行され、報告された効果は生じないと彼自身はわかった。

使用した方法では、ヘルツが主張した効果が発生しない。

テスラは強力な突然の放電を実験し始めた。そして、非常に高いポテンシャルを持つコン

デンサを使った。

これらの突然の放出で細いワイヤーを爆発させることが可能であると彼は、わかりました。テスラは、この実験のなかで重要な何かをぼんやりと認め、これらの実験を断念した、そして、ずっとそのミステリーを疑い考えて、ヘルツは、どうも誤って静電誘導に関係させたか、または本来の電磁波を観測するために、空气中でショックを与えるショックウェーブをつくったと考えた。

テスラは実際、正しかったことを確信して、テスラはヘルツを訪ねて、個人的にこれらの洗練された観察を、ヘルツに証明し彼の命題を引っ込めさせようとしてしました。

ヘルツは、本当に失望し、そして、テスラは、尊敬されたアカデミー会員に主張を証明するために長い時間をかけなければならないことを大変残念に思いました

. 15

しかし、テスラは電磁波の確認に努力する間、偶然の観察に恵まれました。それは彼の実験的な調査のコースを永遠に変えました。

彼はヘルツが失敗したところを成し遂げる試みにおいて、テスラは本当の電磁波を生成して、それを見つける強力な方法を開発しました。

この装置には、非常に強力なコンデンサーが必要です。

このコンデンサ「バッテリー」は、非常に高い電圧を負って、短い銅線を通して放出しました。

このように得られる爆発的な爆発はいくつかの現象を起こしました。（それは深くテスラに感銘を与えました）そして、彼がこれまでに電気ディスプレイで見たどんな力よりも遠くはるかに上回りました。

これは重要な秘密を持つことがわかりました。そして、彼はそれを発見することを決心した。

突然の火花で、爆発線に蒸気ができるとわかりました。（彼はそれを「破裂放電」と呼びました）

これらは非常に鋭いショックウェーブを放射した。それは彼の体全部を正面から通過して、大きい力で彼をたたきつけました。

この驚くべきフィジカルな効果に、テスラは非常に興味をもちました。

電氣的な火花というより、むしろ並外れた力の弾丸のような、この完全に新しい研究に、テスラは夢中になりました。

これらの電気インパルスは、稲妻だけが作るような効果を発生させました。

爆発的効果は、彼に直流発電機で観察される類似した高電圧の発生を思い出させました。

高圧発電機のスイッチを単純に切るとき、刺すようなショックをもたらすことは、労働者とエンジニアの中によく知られている経験で、偽の静電気充電を残すことが、起こります。

この危険な状態は、突然高電圧 DC のアプリケーションで起こるだけでした。

この致命的な静電気の充電は、非常に高い伝導体のそばであった、

しばしばアースの経路を探して、労働者とスイッチボード操作員の体を通り抜けた長いケーブルを、つなぐと、すぐに、線周囲のスペースに瞬間的に青っぽい荷電効果を生産し垣根を示しました。

16

危険な状態は、スイッチ閉鎖で非常に即座に一時的に現れました。

青っぽい火花発生冠は、偶然それに「たたかれた」不運な人の命と一緒に、2、3 ミリ秒後に、消えた。

簡潔な影響が通過したあと、システムは設計されたようにふるまいました。

充電するがゆっくり線とシステムを飽和させて、そのような現象は消えました。

この簡潔な波の後、設計されたように、気流は滑らかに、そして、均一に流れました。

影響は、小さいシステムの中の迷惑でした。

しかし、電圧が過度に大きい地域の電力システムでは、それは致命的であるとわかりました。

人が影響によって死にました。そして、それはシステムの部品を通して致命的な静電的な火花の頂部を広げます。

発電機が 2、3 千ボルトと評価されたけれども、そのような不思議な波は何十万何百万ボルトさえをも意味しました。

非常によく絶縁し、地上にアースされた中継スイッチの使用を通してこの問題は除去されました。

前のエンジニアリング研究は、定常状態の供給と電力の消費を収める電力のシステムの特徴だけを考慮した

まるで大きな電力システムが要求する、異常に急増するサージ波へ対応するための通常働いているデザインの問題のようにそれは思われた

最初の危険な「スーパーチャージ」に対応するための、新しい機能でした。

この後の電力会社の、長い間のこれについての工学研究は、かなり多くが特許の対象となる安全装置であり、サージ・プロテクタがテキストの焦点になりました。

テスラは、ちょうど彼の爆発的なコンデンサ放電の場合のように、発電機がワイヤー線に接続されたまさしくその瞬間に、変なスーパーチャージ効果が観察されることを知っていました。

2つの例は完全に異なったけれども、これらの両方は全く同じ効果を生じました。

.発電機で一時的に供給される瞬間的なサージ波は、長い線に特別に集中するように見えました

テスラは、この静電集中が発電機が供給することができたどんな電圧よりも大きな命令だと思いました。

実際の供給は、どうも拡大されているか、変化していました。

しかし、どのようにして？

エンジニアの中の一般的なコンセンサスは、これは静電的な「チョッキング」効果という

ことになります。

多数はそれが「バンチング」アクションであると結論し強力な実用的な力としてシステムを充電のため速く動かすことはできなかった。

不思議なことに、そのようなシステムの合成抵抗は、これらが発電機ターミナルを去る前だけ、充電要素 **carriers** に影響するようでした！

手で水を急速にたたく時の、水の表面の固さのようでした。

また、それは電気の間でもありました。それは、一見抵抗のある固体の壁に対して充電しているようでした。

しかし、効果はインパクトがある時だけ続きました。

現在の実用電氣的なフィールドで電線の四方八方から電流に実際に「追いつく」まで、充電に向かいました。

流れる充電の、簡潔なスーパーチャージ効果は予想されることができました。そして、全直線とシステムの中を滑らかに流れました。

発電機は、このようにマイナーな **shockwave** の短く流れる場面になりました。

テスラは単により大きな実在の充電フィールドで、なぜ静電界が実際の充電をより速くするのが可能だったか面倒なミステリーとして疑問に思い始めました。

これが真実ならば、静電界とは何で、「組み立てられているのか」？

それは、より小さい粒子のフィールドなのか？

この疑問は、終りが無い素晴らしい問いかけでした。

この答えのなかなか見つからない素晴らしい疑問にもかかわらず、テスラはこれまで考え付かなかった実用的なアプリケーションを造りました。(この研究は、それを刺激しました) スーパーチャージ効果をもつ発電機についての思考は、新しい実験的な装置を提案させた。電磁波を見つける、探求の中で彼のコンデンサバッテリーの性能は大いに上回るようになった。

彼は単純な電磁フィールドを源とする高電圧直流発電機を造りだした。

テスラは、発電機の端に見られる線または構成部品の抵抗が、充電の浸透に対する「バリア」としては力がないことを理解しました

このバリアは、「バンチング」効果を引き起こしました。

電源スイッチがミリ秒間隔閉じられた一瞬、静電荷は、文字通り止められ、伝導ワイヤーの抵抗にあう間、それはバリアとして、存在するだけだった・。

このアプリケーションの仮想バリアに対する突然の力は、普通のコンデンサでは得るのが不可能な充電密度にした。

それは、抵抗バリアの充電への影響を、簡潔に電力へ適用することで、この電子密度を異常に高めた状態にした。

これは、彼の実験で伝導ワイヤーがしばしば爆発した理由です。

蒸気動力と蒸気機関とのアナロジーは、間違いではなかった

大きな蒸気機関は、非常に慎重に弁で調節されなければならなかった。

これは、かなり昔からの経験による専門知識を必要とした

オペレーターはエンジン容器をひき裂く、致命的な爆発を引き起こすことなく「上で開く」ように、することを知っていた。

あまりに高い容量の、弁で調節されてない大きい蒸気機関は、突然爆発することがあった。徐々にあらゆる開口部、パイプと部品内に蒸気が流入し始めるまで、滑らかに穏やかにシステムに入るようにしなければならなかった。

不思議な「チョッキング(停止)効果」は、ここでもありました。どんな大きな容量システムの装置の力に対しても非常に高い抵抗のようにふるまうことが突然に立証されたアカデミックな実験者の世界では、まだ前の高周波交流の発見にこだわっていた。その時テスラだけが単独でこれらの衝動的なインパルスの放出を研究しているようでした。彼は爆発的なインパルスを発生させました。そして、それは研究所で観察されたことはありませんでした。

あらゆる構成部品は、慎重に絶縁され、そして、完全に安全のように

彼自身ゴムに裏打ちされた服を着て、絶縁体と避雷針を実装し保険をかけた。

テスラは、静電機械の絶縁金属をチャージする能力は強力であることを観察した、しかも、このデモンストレーションは、瞬間的なスイッチ閉鎖によってワイヤーを充電することを上回っていました。

17

他にはない「跳梁的」充電効果を生じさせる、このような現象の、絶対的な力は、テスラより前に誰によっても証明されたことはありませんでした。

前のシステムでたとえ何を観察されていたとしても、彼は今最大の効果を得る電圧と抵抗を容量に釣り合わせる方法を学びました

テスラは、通常にスーパーチャージ状態を生産することを学んだ

既存の装置は、経験的な観察が長く教えたことと等しくなることができなかった

その普通のコンデンサ解放は、振動している流れ（スパーク流）で

各々のコンデンサの間の金属版は文字通り「はねて」、彼らの保存されたエネルギーは、無駄になった。

発電機の高電圧は、密度の高い充電へ激しい一方向性の圧力を振るった

その方向の交替は不可能だった。

唯一の可能なバックラッシュは、振動でした。

この場合、スーパーチャージが終わって衰弱するまで、充電は急騰し、長く続いて止まりました。

実際にテスラがそのような振動を強制した全てのパラメータを除去しようと努力したが、それはスーパーチャージのエネルギー的な供給を完全に明らかにすることを制限しました。本当に、彼はあらゆる「バックラッシュ」と他の複雑な反響を遮断するいろいろな手段を

開発することに多大な時間を費やしました

それは、スーパーチャージに濃密なエネルギーを早く浪費させたかもしれません。

一方向性スーパーパルスが要求する一つの効果は、ここにありました。

振動と電流の向きの交替が除去されると、新しい変な効果は、出現し始めました。

高周波が交替で働くとき、これらの強力で鋭い現象は決して観察されませんでした。

その時のスイッチの突然の速い終了は、研究所中至る所に、鋭い **shockwave** を出現させた。

(鋭い圧力と鋭い電氣的な苛立ちとして両方が感じられた)

「ピリッとする」。

顔と手は、爆発的なショックウェーブに特に敏感で、また近距離なので奇妙な「刺すような」影響を生じました。

18

テスラは蒸気のような物質がワイヤーから四方八方に接近しているところに出されていると文字通り信じました。

もっとこれらの効果を研究するために、ガラスのシールドの後で彼自身の平衡を保って、研究を再開しました。

シールドにもかかわらず、ショックウェーブの刺すような影響を、テスラは受けて理解をこえているこのことに驚きました。

この異常な出来事は非常に深い好奇心を起こさせた、なぜならば、そのようなものは、前に決して観察されませんでした。

金属の単なる静電帯電より強力で鋭く、周囲のスペースに、刺すような感覚として感じられるこの現象は、文字通り外に高電圧充電を放射した。

スイッチ閉鎖の瞬間はごくわずかな、細分化された秒の間続いて、切られます。

しかし、テスラはこれらの変な影響が空中のイオン化であるショックウェーブの単純な影響であると思ひ、むしろ、青天の雷鳴による強いイオン化現象のように考えました。

テスラは、より大きな距離から **shockwave** の圧力を測る実験の新しい方法を考案しました。

彼は、アウトマチックな「トリップスイッチ」を必要としました。

これをきちんと準備すると、よりコントロールされた引き金効果は、可能でした。

それに加えて、この準備は、シールドに浸透する現象をよく理解するために多くの光を投げかける、遠く離れたところからの観察を許しました。

高いボルテージテージの発電機を速度をコントロールすることで、電圧をコントロールしました。

きちんと調節されたこれらの構成要素を操作しながら、テスラは大きなギャラリー・スペースを歩き回って、観察をすることができました。

またテスラは、連続的な集中砲火とその刺すような火花に圧力をかけると同時に、いくつかの材料で彼自身を保護しました。

急速に中断された高電圧の直流の装置は光線を刺激する放射で終わりました。そして、彼

らの最高の火花発生源から大きく離れた距離でもそれは感じられました。

実際、テスラはシールドを通してその爆発を正に感じました！

スイッチ閉鎖の瞬間、ワイヤーから自由にされたものはガラスの、そして、銅のシールドを何でもうまく透過し材質によって、違いは生まれませんでした；

まるでシールドがまったくそこ不存在のように、効果は各々の物質を透りぬけました。

ワイヤーなどの接続物質なしで空間を通過して直接通信する電気効果が、ここにありました。

輝くラディエント電気！

これらの新しいいくつかの観察、現象はファラデーの実験的に確立された静電荷の原則に違反していました。

静電荷の充電は、通常金属しゃへい板の表面の上に広がる；

これらはこれと違い、金属を透過する。

この効果は、特定の非電気的特性を特に持っていました。

テスラは、この変な新しい現象に本当に当惑して、この特徴の解説を求めて論文を捜しました。

秘密にされた2人の実験者の観察以外、そのような解説は、見つかりませんでした。

1つのケースでは、J・ヘンリーの大量のスパーク放電による鋼の針の磁化の観察でした。

(1842年)にヘンリーは、れんが塀、厚いオーク・ドア、重い石と鉄のフローリング、スズの天井といった

電氣的に不浸透性の建物の階に立っての観察で、ライデンジャーのなかのスパークだけで磁化が明らかに生じた驚異的な特徴の事実を得ていた。

さらに言うと、鋼の針は、地下室の金庫室にしまわれていた。

そのような自然の火花効果はどのようにして、電磁気バリア内のものに変化を及ぼしたか？

ヘンリー博士は火花が特別な「光のような光線」を放出したと思いました、そして、これらは磁化に影響した装置であることは確かでした。

2番目の、そのような出来事(1872)は、フィラデルフィアの高校で起こりました。

E・トムソン(物理学教師)は、彼の次の講義のために大きな **ruhm korrf** 火花コイルの火の粉をより見えるようにしようとした。

冷えた水道管へコイルの1本の極を付け、コイルを再度活性化させると、火花の性質が青から白まで変わったのを理解してトムソンはぞくぞくしました。

これを拡大することを望んで、トムソンは金属板の上に大きい極性の棒をとり付けました。

再び、コイルを電気で復活させると、悲鳴をあげて銀白色の火花を放出しました、トムソンは最後列に座り完全によく見ていました。

同僚(エドウィン・ヒューストン)にこれを見せることを望んで、トムソンはドアに向かって行ったが、急に止められました。

トムソン絶縁されたオーク・ドアの真鍮のノブに触れただけだったのに、

離れている *ruhmkorrf* コイルから予想外の焼けるようなショックを受けたが、トムソンは、その効果を停止する方法はわかっていた。

エドウィンを呼び出して、彼は起こったことをまとめて伝えた。

そして再び戻って装置をオンにすると、刺すような充電効果は戻ってきた。

その時 2 人の紳士は絶縁された金属物と、巨大な石、オークと鉄で出来た建物の中至る所を走ってまわって確認した

コイルあるいは、設置された床から長く連続的に生産された白い火花から遠く離れて置かれた折り畳み式小形ナイフ、または金属的なネジ回しといったものにそれぞれ触れていきました。

同年の後半にサイエンティフィックアメリカンに短い報告的な記事を書いた。

30 数年前のこれらの各々の事件の観察を研究する際に、報告は各々 2 つに分かれていました。そしてそこには、テスラ自身の発見と重要な一致が認められた。

各々の観察は、おそらく全く同じ現象のわずかな変形でした。

各々の実験者は、偶然に、一触即発のスーパーチャージ効果を生じさせることができました。

ヘンリー博士の場合、爆発的な爆発は一つのフラッシュで起こりました。そして、静電機械が最初の充電をするのに用いられました。

.第二のケースは、スーパーチャージ効果を立証して連続的生産を立証したので、独特でした。

それは明らかに、非常に厳しい電氣的パラメータを必要としたので、この効果の発生は珍しかったのです。

テスラは、この効果が世界中の実験者によってまれに観察されたという単純な事実から推論しました。

それに加えて、彼は現象に付随する変則的な特質に関して論評するのが速かった。

テスラは、各々のケースはとても鋭い影響をもつにもかかわらず、「完全な」ものを成し遂げるための唯一の手段はスーパーチャージ効果の最大の発現を確保することであることを知っていました。

19

静電界の側面を放出できる他の装置とは彼のものは、明らかに等しいものではなかった。

テスラによって 1889 年に発見されたが、この効果の事前の観察は強いバッテリーの調査の後の発表でした。

「電気の消散」は、重要なテスラ講義で 1892 年のクリスマスより前の発表です。

これは、テスラが高周波交流の研究開発を断念する出発点です。

完全に彼自身をこの交流分野から分離させて、テスラはインパルスのショックウェーブと他の効果を解説しています。

それらの物理学的感覚に加えて、テスラは独特の控え目な表現でこの現象と関連する「ガ

スの」面を、大きく解説しています。

彼の計画した急に充電される油浴に浸されたワイヤーの実験で奇妙なガスで急に満たされるのを観察した。

現象について彼は普通の吸着されたガスの量の影響が電流が供給することができないほど、連続的に一つのワイヤーから作り出されたとわかりました。(テスラは、かつてそれは完全にワイヤーに吸着したガスによるものと考えた)

本当に、彼は油によってこの種類の流れが引き起こすことができたと考えた。そして、それはそれほど油に満たされた穴(深さ約 2 インチ)に、落したワイヤーの端からガスの流れは力強く目にみえて吹き出しました!

テスラは、「油に没しているワイヤー端からすばらしく出ている吹き出るガスの本当の性質を実感し始めました。

これらのインパルス的な空気パルスの本当の原因と性質を決定するために、彼はテストの広範囲な連続をその時準備した。

彼の記事では、テスラは

「電気の流れる空気の音波」としてショックの浸透するシールドを解説する。

それでも、彼は音、熱、光、圧力を彼が直接銅板を通過して感じたショックに関して注目に値する声明をする。

全体的に、ガスの構造の媒体が存在することを、意味し

すなわち人はそれを自由運動ができる独立した媒体物からなるものとする。

20

空気が明らかに、この「媒体」でなかったもので、そのあと彼は何に、言及したか?

彼がはっきり「もう一つの媒体は空気の他に、連続した実験的な定めを通して存在します」と述べ、テスラは彼の効果の生産に関していくつかの事実を発見して進めた。

最初に、唐突な充電の原因は疑う余地なく見つけられた。

その原因はスイッチの閉鎖にあった。「閉鎖とブレーク」は非常に即座である)そして、それは空間に影響します。

第一に効果は、時間(インパルス時間)と明らかに関連があった。

第二に、テスラは一つのインパルスで充電過程が起こることは避けられないとわかりました。

流れの反転は許されませんでした、これ以外の方法では、影響は現れません。

これで、テスラは火花-放射性回路においての、コンデンサーの役割について、簡潔に解説した

彼は、崩壊するものと発電機の間コンデンサを置くことによって効果は強力に強化されるとわかりました。

この相当な力の効果を提供する間、コンデンサの誘電体も発電機コイルを保護するのに役立った。

効果はまた、電圧を上げることによって新たに、より強力なレベルに、大いに強めることができた。そして、スイッチ「ブレイク」率を速めて、スイッチ閉鎖の実時間を短くした。テスラはここまでは、彼の一方方向性インパルスを発生するために回転円環接触スイッチを使用した。

これらの機械のインパルス式が最も大きい効果を成し遂げることができなかつたとき、テスラは強力な「オートマチック」な手段をより多く捜した

彼は、特別な電気アーク射出装置においてこの「自動スイッチ」を見つけた。

直流発電機の高圧出力は彼の新しいアークメカニズムによって双子のコンダクターに適用された。そして、非常に強力な永久磁石が放出経路の横に座りました。

放出アークは、この磁場のそばで自動的に、そして、絶えず「吹かれました」。

望ましいまれな結果を得るために避けられない命令として、スタックカートで一方方向性で獲得した静電荷 m を受けて、放出する方法としてコンデンサとそれに関するワイヤーは、よく選ばれなければならなかつた

本当のテスラ回路はとてもパルスジェットに似ており、そこでの、背圧は決して突進する流れを止めません。

静電荷は、最大まで上がって、ずっと速く放出されます。

回路への発電機圧が恒常的に高電圧であることは、「急速充電放出」の継続的な継続がされることを保証します。

そこから、そして、そこからだけ、テスラ効果が観察される。

パルスは、発電機から文字通り装置の中を流れます。

コンデンサと、崩壊させるものと、その取付けられたワイヤー線は、振動弁として機能します。

高圧発電機は、装置の中で本物の静電的なエネルギー源としての関係のままです。

これはテスラによく認められた事実でした。そして、テスラはスペースでの痛い放射効果を嫌いました。

発電機が、これらの「弁をすぼめる」回路の追加によって修正されたことは、明白でした。

使われている発電機は、人を殺害することができる致死的な電圧を提供しました。

弁回路は、それらに致死的なフィールド・エネルギーの変な発光を強制しました。

発電機エネルギーは、危険で痛い力でスペースに発展増大していきました。

しかし、どのように？

どのような不思議で刺激的な手段で、この状態は、確立されたのか？

この実験的なシリーズの結果は、新しい概念をテスラの心に据え付けました。

テスラは、もちろん彼の不思議なショッキングフィールド効果との密接な関係を実感しました。

これは、輝く電気でした。

精巧で広範囲な見識を持つテスラは、この新しい電気効果の正確な性質を理解し調査する

ために最初にこの分野で指揮しました

テスラは、この変な「インパルスのなフィールド」がインパルス装置からスペースを通過して実際に放射されていると理解しました。

これが静電エネルギーであるならば;それは、彼がこれまでに観察した静電界より激しくて何よりも鋭いものでした

これが単に「どもりながら出される」静電界であるだけならば、なぜその強さはそれほど非常に強められたか?

テスラは、彼が新しい電気力（単に既存の力の処理ではなく）を発見したと思い始めました。

このことはテスラが効果を「電気力学的である」か、より静電的であるとしばし言ったという理由に、それは矛盾しない。

テスラは、要求に応じて固有の回路パラメータをきちんと調節することによって、一連の一方向性インパルスをととても急速に発生させる方法を学んだ。

インパルスが短くて、突然で、連続的で正確だったとき、

テスラは、インパルスの結果は、明らかに強さの低下はなく非常にかなりのスペース量に浸透することができることを見つけた。

インパルスの影響は容易にかなり大きい金属シールドと大部分の絶縁体を透過するとわかりました。

各々の間で 1 秒の間のインパルスの数をコントロールするために断続的な時間分割と同様の手段を開発することで連続したインパルスによって、彼は新しい領域の発見が生じると言い出しました。

各インパルス期間の違いは、それ自身で独特な影響を与えました。

彼の装置からほぼ 50 フィート離れたところにシールドされたが、刺すようなショックを感じることができるのでテスラは、電気送電の新しい可能性を知ったとすぐに認めました。

テスラは、ちょうど彼の交流システムでしたときのように電気ショックウェーブは、世界を変えるための、新しい手段を意味したことを理解した最初の人だった

テスラは、完全に彼の発見を一般の世界に明らかにするつもりでした。

ラディアン電気は特別な特徴を持ったものであるという知識は、科学的な世界にはありませんでした

テスラの単純であるが、強力な原型の装置の実施例で働いて、テスラは、放射電気が少し離れても強力な電気効果を誘導することができるとうわかった。

これらの影響は交流ではありませんでした。そして、波を交替させませんでした。

これらは疎密波でした。そして、連続したインパルスのな波から成りました。

それは前進する各々のパルス波と短い中立の地帯が続き、これら一緒の、輝いているフィールドから成立した。

これらのショックウェーブの連続した方向の構成要素は、常に一方向性でした。どもりのショックウェーブは、彼らの流れる方向に充電をすることができました。この装置の近くに置かれる物は強力にショックを与えられた。そして、磁気放出が起動したあと、多くの分数の間他に類のない充電徴候を保持した。テスラは、磁気放出の単純な非対称な配置によって、これらの一つの荷電効果を拡大することは可能であるとわかりました。充電している発電機のどちらか一方の側の近くに磁気放出機を置くことによって、ポジティブベクトルフォースかネガティブベクトルフォースかは、選ぶことができ、計画することができた。このように、充電はフィールド・スペースのどんな対象にでも放出することができ、そこから充電することができた。これは、新しい電気力でした。テスラは、自分が未知の領域にいるとますます理解しました。これらの輝く力が光のような光線として移動した事実は、これとマクスウェルの電磁波を区別しました。テスラは、インパルス期間を徐々に短くさせていって影響を決定したかった。(最もすばらしい技術と予防措置を必要とした仕事) テスラは実験しながら、死を免れない危険に直面しているということを知っていた。磁気直流アークで電流破裂の迅速さを支配して、テスラは彼の大きなギャラリー・スペース中の至る所に光の新しいスペクトルのようなエネルギーをリリースした。これらのエネルギー的な種は、世界がその後見た他のようなものではありませんでした。テスラは、影響をそのインパルスの期間で定められた単独の各々の簡潔なスペクトルで見つけた。これらの影響は完全に特徴的でした。そして、全く自然には決して感じられない変な付加的な性質が与えられました。各 0.1 ミリ秒の期間を上回るインパルスの連続性は、苦痛と機械的圧力を生じました。この輝くフィールドで、フォース・フィールドがこれらの物体を移動し進むようにしたので物は、目にみえて振動して、動きさえした。輝くフィールドの爆発という突然の出来事にさらされた細いワイヤーは、蒸気に爆発しました。

22

100 マイクロ秒以下のインパルスが発生したときには、苦痛と物理学的動きは終わりました。1.0 マイクロ秒の期間のインパルスでは、強い生理的熱が、感じられた。インパルス期間の更なる減少は、部屋と真空球体を白色光で満たすことができる自然発生的な照明をうんだ。これらのインパルス頻度を操作して、テスラは影響の様子を刺激することができました。

そして、それは日光の点と固有の電磁エネルギーの中に通常混ぜられます。
より短いインパルスは、微風が通り抜ける付随的なムードの向上した。
心地よい部屋を生産した、
このインパルスの期間を短く減らしていく進行に限度はありませんでした。
誰も、高周波交流のハーモニックを使う自由を通してによってはこれらのインパルスエネルギーを複製できませんでした。
そう、少数の人しかをテスラがとっていたそれらのパラメータの絶対の必要性を理解しなかったので、少数の人しかこの影響を複製することができませんでした。
これらの事実はエリック・ダラードによって説明された。そして、その人はまた、テスラの主張した変な異常な効果をうまく得ることができました。
激しい実験とデザイン発展の段階の後、1890年までにテスラは、輝く電力の流通システムの実際的配置のために必要な構成要素をまとめた。
テスラは、すでに100マイクロ秒以下のインパルス期間では生理的害をおこさないし感じるができなかったという素晴らしい事実を発見した。
彼は、彼の放送する力においてこれらを使う予定でした。
さらに、100マイクロ秒の期間のインパルスの波は、全ての物質を通過しました。(大国の貧窮者都市を通過する放送の電気エネルギーにぴったりの種類)
テスラは同じ年にとっても驚くべき発見をしました。そのとき、彼は彼の磁気崩壊するものの近くにただ1つの長い銅螺旋コイルを置きました。
確実に長さ約2フィートのコイルは、
銅のパイプと他の物のようにはふるまわなかった。
細い壁のようなコイルは、白い火の粉の外被で包まれた。
このコイルの頂部から波打つものは、非常に長くて流体の銀の白いテープでした。(柔らかい放出は電圧においてかなり上がっているように見えた)
崩壊するワイヤー円の範囲内にヘリカルコイルが置かれたとき、これらの影響は大いに強められた。
この「shockzone」の中の、螺旋形のコイルは爆風の中に囲まれてその爆風はそのコイル表面に抱きついて、コイルの終わりまでずり上がっていった
まるで shockwave がコイル面にしがみついていくために周囲のスペースから実際に退却したように、それは思われた (これは変な興味をそそる風景であった)
shockwave は、コイルに、直角の角度で長くたれました。(信じられない効果)
螺旋コイルの中央のクラウンから飛び出している圧倒的な長さの放出はテスラには、理解できなかった。
崩壊したときの放出はその磁気の囲いに1インチ飛び乗って、
薄い flimmering 白の放出は、螺旋から2フィート以上の測定された長さまで上がった。
この放出は、まさしくコイルの長さに等しかったです！

それは、予想外で聞いたことがない変換でした。

ほとんど「静電的な性質の」行動は、ここにあったがこの状況でその言葉が使われるとき、アカデミックな学者はこのことばを理解しないことはテスラは知っていた

静電エネルギーは彼のショックウェーブのように変化しない。

爆発的な shockwave の特徴は存在する他のどの電気機械のものとも違っていました。

それがほとんど爆発的な現れとなった短い瞬間の間、shockwave は他のどの既知の電氣的な発現よりも静電界に似ていたとまだ、テスラは述べていた。

ちょうど静電摩擦機械の電流と磁気のように取るに足りない量のものだが、

フィールドの非常にエネルギー的な一部は、線から放散する際に、スペースを充填する。

通常この「誘電」フィールドに、充電が集められてスペースで遅い成長が始まる。

この電圧は絶縁された銅の輪を充電した。そして、その最大値に増大した。

テスラによって定められた方法で回路の全ての数値がきちんと釣り合うならば、突然の充電の崩壊はそこから起こるでしょう。

この崩壊は、必然的に、輪を充電するのに要求されるパルス間隔よりとても短い。

磁気崩壊がアークを消去するとき、崩壊は来る。

回路がきちんと組み立てられるならば、バックラッシュの交替は決して起こりません。

チャージ ディスチャージのインパルスのこの一方向性の持続は、非常に見知らぬフィールドが外へ拡大する原因になる、

(それは人の「吃音」に漠然と似ている)

または「スタッカート」の静電界。

しかし、これらの条件は、実は装置のまわりで実際に測られるすべての期待できる静電的な値を超えて上回る強力な輝く放射効果の状況を満足に記述していなかった。

これらの放電比率の実際の計算は、不可能であるとわかった。

標準的な磁気誘導的なトランスの法則を実行することでおきる、巨大な電圧掛け算効果をテスラは、説明することができなかった。

従来との関係では失敗したことから、テスラは、明らかに、経験的な決定を必要とし、効果が完全にラディアン変換規則によるものと仮定した。

解放以降の長さの螺旋特質の測定値は、必要な新しい数学的な関係を提供した

彼は、新しい誘導法を発見し、パルス分割は実際にショックウェーブの輝きを自動的に強めることを理解した。

パルス分割は、行動をリリースするための鍵でした。

輝くショックウェーブは、螺旋に遭遇すると、端から端まで、外側の皮膚を「閃絡させた」。

この shockwave はまったくコイルを通り抜けませんでした。そして、コイル表面を空気力学的な飛行機の通路のようにみなした。

電気圧力の一貫した増加は、コイル表面に沿って測られた。

本当に、テスラは軸の 1 処方インチの、コイル表面で電圧がしばしば 10,000 ボルトという

驚くべき高さに増やすことができると述べました。

これは、24 インチのコイルが光点ショックウェーブを吸収することができることを意味し、初めに最大で 10,000 ボルトを計ったそれは以降、240,000 ボルトまで上がります！

23

電圧のそのような変換は、このボリュームと単純な機構では聞いたこともなかった。

テスラは、さらに出力電圧は、螺旋のターン m の抵抗に数学的に関連があったことを発見した

高い抵抗は、より高い最大電圧を意味しました。

彼は、磁場崩壊する線を特別な「プライマリーコイル」と称し始めた、

そして、**shockzone** の中で置かれる螺旋形のコイルを、

彼のスペシャルな「セカンダリーコイル」とした。

しかし、これらの条件を電磁気トランスと同じに考えて言及している誰かのように彼は決して意図しなかった。

この発見は、本当に完全に磁気誘導と異なりました。

彼がこのエキゾチックな声明をすることができたかなり本当の理由が、ありました。

しばらく完全にテスラを困惑させた特質が、ありました。

テスラは、これらの長い銅二次コイルに現在の 0 状態を判断しました。

彼は、それは現れなければならなかったのに、電流は完全に不在であると決めました。

純粋な電圧は、各々のコイル表面のインチ数とともに上がっていました。

テスラは、絶えず彼の「静電誘導法」に言及しました。(少数の人しか理解しなかった原則)

テスラが結合による崩壊と呼ぶ現象とそして、セカンダリーの螺旋コイルトランスつまりテスラトランスフォーマーは、電磁装置と言えない；

これらは、輝くショックウェーブを使って、電流なしで純粋な電圧を発生している。

各々のトランスは、特別な力で特別なインパルス期間を実行した。

したがって、そのインパルス期間に合わせる崩壊によって各々「調整されなければならなかった」。

アーク距離の調整は、この調定率によった。

一旦各々のトランスがそれ自身の特別な反応比率に合わせられたならば、インパルスは滑らかにパイプの中に流れるガスのようにシステムの中を流れることができた。

ガス-ダイナミックの例えと表現が彼に一貫した記録の関係で、成功した評価を本当に提供したとわかる

彼がえたあらゆる見られた現象からでも、テスラは白い炎の放出を、

静電力のガスの現れではないかもしれないし、とても異なるものと考え始めた

24

全くガスの性質が明らかにされた多量の実験的な例が、確かにありました。(それは電氣的性質とは違っていた)

(輝いている shockwave は天井上のワイヤーを移動した) 方法で白い薄層状の流れを flimmering して、考え方に新しい革命をもたらした。電圧のパルスは、締めつけを増やすことで、セカンダリーコイルの表面をガスパルスのように横切りました。コイルの端にフリーに着くまで、これらのガスのパルスはそれを通るよりむしろ銅表面の上を長くたれました。テスラは、「表皮効果」としてこの特定の発現に言及しました。それは表面の上を動いて大いに放出するガスの方法に似ていました。

さらに、金属ポイントが彼の変圧器のうちの 1 台の上部ターミナルに接続していたときはいつでも、流れはより方向的になりました。それは、パイプの水の流れのようにふるまいました。

When the white flirumering stream was directed at distant metal plates, it produced electronic charges.

白い flirumering している流れが遠くの金属プレートに向けられたとき、それは電子充電を生じました。

この電荷発生は、受信サイトのアンペア数（「流れ」）として測ることができました。

しかし移動中には、アンペア数は、存在しませんでした。

妨害される時だけ、アンペア数は現れました。

エリック・ダラードは、テスラインパルストランスを囲んでいるスペースの「妨害電流」が数百または数千アンペアにさえも達すると、これらの電流は急増すると述べました。

しかし、どうしたら、この不思議な電流は、組み立てられたのか？

テスラは、これらの放出現象が並外れた方向でふるまっている普通の電気かもしれないという疑いと苦闘しました。

しかし、本当の電気は、スムーズで、優しくて flirmering する性質を持っただろうか？彼によく知られていた電気はインパルス的で、熱かったです。そして、全く、突き通して、刺激し燃やし、全て刺激的な特質でした。

しかし、この放出現象は涼しいかタッチが暖かいくとも、柔らかく穏やかでした。

それは、殺しません。

パルスで大いに変化する電圧でそれを明るい白い放出として爆発させるその方法は、監禁の圧力の下から自由にされるとき、ガスのふるまう方法として提案した。

これらの思慮深い瞑想は確信させ、この効果が全く事実上電気でないとテスラに信じさせました。

テスラは密接に白い炎を調べて、その理由がこれらの活性コイルの頂部のものが「電流」ではないと理解しました。

通常強くチャージされたキャリアー（電子）は、輝くパルスほど速く動くことができま

せんでした。

コイルの金属的な格子でチョークされて、電子は静止したようになりました。

電子でない流れは、コイル中全てで動きました。

輝くパルスは、したがって、性質として電子ではありませんでした（それはコイル表面の上を進みました）

その上、テスラは驚くべき現象を発見しました。そして、それは彼の装置において作業中のエネルギー的なキャリアの本当の性質に関しての、全ての疑いを晴らしました。

テスラは非常に重いU型の銅のバスバー(銅線)を準備した。そして、直接その両足を彼の崩壊させる1次コイルに接続した。

いくつかの白熱するランプは、このU形のバスバーの脚部を横切って置かれました。

装置は、非常に明白なショートをうみだした。

ランプは輝く冷えた白色光に照らされ、その一方で、重い銅線の分流器に短絡した。

電気粒子の流れの特徴はない

明るい、冷えたランプは、エネルギー的なもう一つの電気と別の気流が徹底的に「ショートして」本当に流れていることを明らかにした。

この実験が少しの機能も実行されることを期待してはいないと述べた人々は、おそらく回路の崩壊と、発電機それ自体の焼却を予定していた。

この代わりに、証人は驚嘆すべきことを見ました。

ランプは、珍しい明るさにとまりました。

この単純なデモンストレーションにおいて、テスラは彼の多くの証拠のうちのわずか1つを示した。

電子充電は最も少ない抵抗の回路を好む。それゆえ、銅線の経路を通る白熱電球を拒絶する。

この状況で電流は、矛盾した原則に従うほうを選んだ。

おそらく、この流れが電気でないのは真実であった。

テスラは、中立の流れから、電子の流れの存在を「分別」して証拠を立証するために繰り返しこのデモンストレーションをした。

一つの質問は、残った、これは彼に新技術を作成するのに必要な重要な情報を提供するはずの答えであった。

彼のトランスの中の多様な移動キャリアは何であるのか、切り離されて、「理解できる」のか？

It was the geometric configuration of the coil, which inadvertently separated each component.

その違いはコイルの幾何学的な構成にありそのコイルは不注意に各々の構成部品と切り離されていました。

輝くパルスがガスのパルスとしてコイル表面の上にリリースされる間、電子は、ワイヤー

の長さの中を流れることからブロックされていました。

電子はワイヤーを漂わなければならなかったが、各インパルス期間の間、線抵抗によってブロックされた。

このように、パルスは端から端までコイル外側の面に沿って進み、ガスの移動物体は、ワイヤーの外側を流れて解き放たれた。

ここでの放電は、いくつかの同時に移動する電気以外のいくつかの種で本当に出来ていたという証拠はそれであった。

テスラは、その時彼の最初の高周波交流によっては、これらの強力な行動を決して立証できなかった理由を理解した。

それは突然の放出（衝動的な放出の暴力）でした。そして、それはこのありそうでない「ガスの」構成要素に可動性を与えました。

インパルス（一方向性インパルス）は、これらが可能となる錠を開ける唯一の手段でした。交流は、この事については全く役に立たなかったです。

さらに、交流が第二のガスダイナミック構成要素を誘発することができなかったのも、それは使えず哀れなほど弱い手段のままでした。

テスラは、永遠に失敗したプロジェクトとして彼の高周波交流装置を見ました。

これには、彼のマルコーニそして、彼のようなラジオの高周波交流の波を追求したすべての他の人への非常に批評的な見方と大きな関係がある

25

テスラは、この時エーテルの話題を研究することを開始し、今世紀よりも多くの敵と批評家を見つけました。

今やテスラは最も大きい関心で、「エーテル」を調査し始めました。

テスラは、dielectnc 反電気フィールドが実際にエーテル流から成ると思っていました。

理論的には、自然に生じる誘電フィールド線に罫をかけて、実行することによって人は無限のエネルギーを引き出すことができた。

問題は、そのエーテルに抵抗することができ十分どんな勢いでも得られのに、通常ではアクセスできない材料にあった

エーテルは、すべての既知の材料を通る流路では、とてもまれな流れである、

誘電フィールドラインの点で固有の運動エネルギーは、捉えどころのないエネルギー源のままである。

彼がこのエネルギーを取り出す秘訣を見つけたかもしれないと、テスラは思った、しかし、それはありきたりの種類の物質を必要とはしない。テスラは、vanous 特別な圧力の下での電圧をエーテルの流れとして見た。

これらのストレスを上げることで莫大なエーテル流を引き起こすことができた、そこで、観察された電圧はとても高く明るいです。

これは、テスラが彼のトランスで確立されたと思った状態でした。

実際、テスラはトランスがエーテルの強力な動きを生じると繰り返して述べた。

これらの理解を示す本当に不可解な 1 つの実験で、テスラは非常に高速なインパルストレインによる「スペースに 1 ヤード広げているクールな霧の深い白いテープ」の生産と製造を解説する。

これらは、触れても涼しくて無害でした。

事実上電気ならば、彼らは必然的にポテンシャルは 100 万ボルト以上あったでしょう。

これらの無害性は、彼らの湾曲した性格（完全に電流と違ったもの）に結合しています。

本当に、テスラ技術の 1 つを理解するためには、彼の輝くエネルギー設計で電子が「作動流体」であるという概念を除去しなければなりません。

直接発電機に接続しているコイルの下端で、

高電圧のエーテル流は、上部端子にむけて放出された。

26

この新技術で彼の関連した特許の各々を記述するとき、テスラは「光線のような光」と「天然導体」について絶えず話した。

最初の言葉は、彼のトランスから微小の光線に沿って推進される、きつく押えられたエーテルの流れを指す、そして、後者は、彼のテクノロジーが動いていた大気に広く存在するエーテル空気に言及している。

エーテルに関して論争の的となる話題を別にしてテスラの技術を理解することは、不可能です。

多くのアナリストは、概念を拒絶し発見することをしません。その証明を最初に捜したのはエリック・ダラードのような実験者によって確立されました。

エーテル流を彼のトランスが引き寄せて、より高い性質の圧力で引き込んで、急激な放電で速められたという概念について、テスラは述べた

電気系統としては、テスラ装置は、完全に理解されることができないか、説明されることができません。

人は、**Teslian** 技術をエーテルガス技術として見なければなりません。（ガスダイナミックなもののアナロジーだけを通して説明されることができるもの）

そのような投影された光線（高圧の下のエーテルガス流）がどのように同様に金属と絶縁体を透過することができたか理解することは、そうして見る時簡単だった

しばしばこれらの強力な光線は不可解な効率で特定の材料を抵抗なく透過することができた。

電気は、こうした驚くべきことを実行しませんでした。

テスラはまた、これらの放出流がその時彼らの滑らかに歯擦音の音を出した理由を理解しました。そして、高圧の下で目にみえてガスの炎のように見えました。

圧力の下のエーテルガス。

テスラは完全に煙に巻かれました。

彼は、謎の流れ（通常電子充電 **carriers** で抑えられて、束縛されていた）をうまくリリースした。

高電圧と短い一方向性のパルス的な突然の放出は、これらを解放しました。

エーテルガス技術は、他のどんな可能性をリリースするか？

最初に使われた円筒コイルは、すぐに円錐に形づくられたコイルと取り替えられました。

『これらの奇怪な形状で、テスラはガスダイナミックな構成要素を集中させることができました。それはコイル先端から白色光を放出するジェットのように、その時シッと上がりました。

素晴らしいホワイトの光に胸が踊る畏怖を感じたテスラは、これらの放出が実際に今まで見失われていた力を意味すると認めました。

発電放送局は、四方八方に均一にエネルギー的な発光を分散させなければなりませんでした。

放電するときの炎は、利用できるスペースで波打つ力を引き起こした。

これは、大きい距離で予測できない力の低下を起こします。

消費者は、エネルギーの信頼できる一貫した流れを受けとれない

彼の **Power Transformer** が放送の最高効率で動くことになっているならば、これらの炎のような放出は必然的に抑えられなければならなかった。

しかし、これらの過度のエーテルジェットを抑制することは、問題を含むとわかりました。

Tesla found that the white flimmering streams were absorbed in large capacity volumes, masses in which the streams were absorbed, filtered, and expelled.

テスラは白い **flimmering** 微細な流れが大きい容量ボリュームに吸収されるとわかりました。そして、その流れの質量が吸収されて、濾過されて、放出されました。

彼のトランスの一番上に銅球を使うことは、十分に離れた流れに抑制された白い炎を強いました。

現在スペース中至る所に必要に応じて力は、均一に分散されました。

しかし、新しい問題が、現れました。

現在強制された高電圧の流れに、影響を与えた、銅球は、電子粒子を放出しました。

これらは発光とともに現れました。そして、本当に危険な状態が生じました。

問題は球面銅のボールが、そのボリュームを通してインパルスを与えられ伝導を刺激することだった

白い **flimmering** している流れは、銅に浸透して、電子を放出した。

これらの汚染物質は、有害な、青い刺すような **dartlets** 汚染粒子として、システムからの

放出のために集中した。

これに比べると、白い炎のような放出は、なめらかで無害な白熱でした。

2つの種を比較して、テスラは電荷担体の違いを認めました。

そのような dartlet 汚染粒子が空気を通しての3フィートを飛んで、彼の心臓の上を直接たたいたとき、テスラはほとんど一度死にかかりました。

銅球は、取り除かれなければならない、もう一つの分散用部品と取り替えられなければならないませんでした。

金属は明らかにこの場合有用ではありませんでした。そして、電子の自然な蓄積であるべきでした。

テスラは結局、これらの特別な炎白い流れで影響を受けるとき、金属的な格子の中で白い炎のキャリアーmが集中し金属が電子を製造したことを示唆した、

彼は、すでにこれらのトランスの近くの空気が奇妙に自己発光性になる方法を観察しました。

これはコイルからは決して生じない高周波ではない白い輝きのコロナの光でした。そして、その直径をこれまでより大きく拡大しました。

テスラ・トランスからの光は、絶えず広がります。

テスラは、彼のトランスに接続していた流れがどんなに高く増加しても線できり囲む光の発達する列を解説しました。

一般の高周波交流と違って、テスラ放射エネルギー効果は、時間とともに成長します。

テスラは、この現にある成長プロセスの理由を認めました。

逆転が、ソースの解放にはなかった、

したがって、少しの材質でも実行される仕事を決して取り除かないし、放射エネルギーは少しのスペースでも現れる。

一方向性インパルス的な放出と同様に、その物への輝く電気効果の、添加は累積的でした。

この点で、テスラはエネルギー倍率を観察した。そして、それは普通の技術者の慣例では全く異常だった。

彼のトランスにおいて電圧をコントロールすることによって部屋の明るさを制御することは、簡単でした。

この種類の照明の光は、人間の知覚には奇妙に明るく感じられるが、ほとんど映画で写真を撮るのが不可能でした。

テープで最もかすかな種類が見えるようにすることができる前に、テスラは放出の長い露出時間を得ることが必要であるとわかりました。

難しいコントロールを必要としないと写真によって記録することができないという、この変なことは、目で認められる輝きと対比された。

テスラはまた大きな球体灯を設計して、造って、利用した、

そしてそれは放射エネルギーを受けるために、一つの外部プレートだけを必要とした。

27

しかし輝く源から離れて置かれても、これらのランプは、輝いて照らされました。

彼らの輝きは、アーク灯のそれに接近していて、いくつかの要因によって従来のエジソン・フィラメントランプのどれからも上回った輝きでした。

また、テスラがどんなスペースでも熱をコントロールすることは、簡単でした。

彼のトランスにおいて電圧とインパルスエネルギー期間の両方をコントロールすることで、テスラは部屋を加熱することができました。

涼風は、また、インパルス期間を適切にセットすることによって準備することができました。

全てのエーテルアクションを生じることの鍵はエーテルの普段の動きからの偏向を実際に生じるために手段を確保してやることでした。そして、まさしくそれは現在テスラだけによって所有されました。

サー・オリバー・ロッジは「エーテルに達する」のための唯一の手段が「電気手段」であると述べました、しかしW・クルックスは珍しい例外であったが、王立協会の1人のメンバーもこの妙技を成し遂げることができませんでした。

テスラ方法はエーテルを修正するためにエーテルを使いました！

秘密は生成のまさしくそのもとの汚染物質をエーテル流から切り離すことでした。

そして彼のトランスと磁気アーク崩壊と彼が持った妙技で成し遂げられました。

金属コンダクターの電子およびエーテルキャリアを無秩序なものにするために、テスラは磁気によって崩壊するアーク放電の暴力を使った。

彼らを結びつけているかたまりを壊して、各々の構成要素を、切り離すのは簡単でした。

アーク放電で、許されたこの状態は、流れが交替する交流では成し遂げることができませんでした。

この交流の装置において、電子 **carriers** は、エーテルの発散を圧倒した

そしてエーテルが解放に向かう間も、合成流から決して切り離されることができなかった。

磁気アークが崩壊するときのエーテル流が発展する際の驚異的な効率はいくつかの原理に由来している。

テスラは、電流が本当にエーテルと電子の複雑な組合せであるということを知っていた。

崩壊したものに電気が印加されたとき、主要な細分化されたプロセスは起こった。

28

電子は、強い磁気影響によって隙間から強制的に放出された。

しかし充電荷電のなかでニュートラルなエーテル流は、回路の中を流れるままだった。

磁気崩壊はエーテル粒子から電子をふり分けるための彼の検出機でした。

エーテル粒子は、とても移動性が強く、実質的に、電子と比較して集まらず、したがって、ごくわずかなな努力で物質を通過することができた。

電子は、エーテル粒子の速さと透過性に「ついていく」ことができなかった」。

この見解によれば、エーテル粒子は、電子よりとても小さく無限小でした。

エーテルキャリアーは、勢いを含んでいました。

これらの極端な速さは彼らのほとんど質量のない性格にマッチしていました。そして、両方があわさった物体はかなり大きい量になりました。

質量の少ない性質の彼らは、結果的に超光速に見える速さで動きました。

いつでも、誘導されたラディエーション物質のインパルスがスペースの若干の点で始まる
とき圧縮できない運動は明らかに見られ、その動きが終了した時、そのスペース経路に沿
ったすべての点ですぐに起こる。

そのような動きは固体の光線として起こる。そして、その動きは現代のスペースでの信号
遅滞の考えに逆らう。

圧縮できない raylines は、どんな距離中でもすぐに動くことができます。

経路は、長く 300,000 キロメートルはなければなりません

ソースから終わりまでのインパルスは、他の全ての点と同じくらいの速さでその点に着き
ます。

これは、超光速に見える速さ（瞬間的な波及）です。

ラディエーション物質は、非圧縮性のものでふるまいました。

活動中に、ラディエーション物質（実質的に、そして、流体力学的に圧縮できない質量）のこ
の流れは、純粋なエネルギーの放射エネルギーでした。

実際インパルスアプリケーション以外に現れなかったこの異なった現象は、ここにありま
した。

テスラは、かわりにこれらの純粋なエーテルを「放射物質」と「放射エネルギー」と言い
ました。

ニュートラルな充電そして、質量と横断面の極微量、といったところがラディエーションエ
ネルギーは違っていた

放射エネルギーが『今日の既存の物理学的アイテムと比較できるかどうか尋ねられたとし
ても、人は断らなければならないです。

我々は、放射エネルギーと科学が長く先取してきた光エネルギーの間の類似を描くことが
できません。

しかし、全てが光のようなならば、放射エネルギーはどんな光とも違った性質が備えられて
います。そして、我々はそれを生成することを学びました。

そして、これは正確にある問題です。

テスラ技術は、インパルス技術です。

破壊的な、一方向性インパルスなしでは、輝くエネルギー効果は、ありません。

この放射エネルギーを生成するには、特別なエネルギー的な装置を必要とします。（簡潔な

インパルスアプリケーション)

まさに特斯拉が規定した通り爆発的な破裂放電の作用で、これらのインパルスは発生しなければならない、

29

3 章 Verifying Tesla's Secret

特斯拉の秘密を確かめる

私がエド・グレイの冷えた電気回路の議論に戻る前に、Vassilatov の命題を支持する証拠を提示するために少し時間をとりたい。

私は特斯拉の講義（「電気の消散」）のコピーを得る試みに失敗したので、Vassilatov の分析を確かめるために文書を参照することができなかった。

しかし、私は彼の見解が単に（読者）にこれらが事実であると信仰で思えというような特斯拉の仕事ではないのを感じた。

したがって、私はこの頃特斯拉のドキュメンテーションで Vassilatov の命題を確かめるようにする努力をしながら利用可能な大部の資料を調査しました。

ニコラ特斯拉 (a,rJArtid~) と称される大容積の特許で、私は特斯拉の自身の書いたものより十二分の証拠を探しだし、Vassilatov の特斯拉の仕事の分析が正しいことがわかることができましたと思います。

最初の、この引用は、1900年6月の最初に 7x Century Illustratexi MonthlyMagazfin マンスリーマガジンに現れた特斯拉の記事（「人間のエネルギーを増やす問題」）からとられています：

信号が Hertzian 放射線によってかなり離れた距離に送るため同一の特徴と要素が、明白な信念をもって使われおり、これらのワイヤーなしでの電信の単純な原則を解説しているの、私には、それに注意する理由があった

特斯拉が使用した同一の装置による振動は、概して、非常に遅い。これは高圧で速く振動している電気回路に対して振動する音叉のように流体に減衰化の影響を生じさせる空気存在による、

私はしかしその時のエラーの他の原因を発見した、そして、私はずいぶん昔にマクスウェルにもとづく実験的な確認結果は彼の詩の概念だとして見るのをやめた。

偉大なドイツの物理学者の仕事は現代の電気調査への巨大な刺激となった、しかし、それは同様に、多少、その魅力によって科学的な心を麻痺させて、独立した問いを邪魔しました。

あらゆる新しい現象（それは発見されました）は理論に適合させられ、そして、真実は無意識に頻繁に、曲げられました。

明らかに、テスラはヘルムホルツ、ヘルツとマクスウェルの仕事に、同意しませんでした！これらの紳士が誰か、知らない読者のために言うと、ヘルマン フォン ヘルムホルツは、現在「熱力学の第一法則」として知られている公式の基礎を築きました。そして、それは「エネルギーは 1 つの形から他のものに変えることができる、しかし、それはつくられもしないし、破壊されもしません」と述べます。ジェームズ Clerk-マクスウェルの方程式が、現代の電磁理論とハインリッヒ・ヘルツの背骨です』、彼のマクスウェルの仕事の確認は、彼の後、周波数の測定にヘルツの名がついたほど、重要なものと考えられました。これらの尊敬された紳士は、電気科学が今日教えられる方法の中の重要な基礎を形作ったパーソナリティです。

しかし、我々がこれから見るように、テスラは彼の実験的な調査結果に関連させながら彼ら全てを解雇しました。

言い換えると、我々がエーテルへとこの経路をたどるならば、我々は「熱力学の第一法則」とマクスウェルの方程式によって定義された考えと制限を残す気になるにちがひありません。

我々は、現在これらの公式の境界を越えて凝視して、完全に異なる研究領域へ引っ越します。

「Transiissia Electric Energy With at't Wt~」と呼ばれている、注目すべき 1904 年 3 月に「電氣的な世界とエンジニア」で発表された記事の終わりのことばで、テスラは以下を述べる：

偶然に明らかにされて、実験的に確認された大きな真実が完全に認められるとき、すべてのそのぞつとするような広大さの中でこの惑星が電流ともにあり、この事実と多くの可能性が示され、実質的にほんの安い金属をえることが必要なだけでしかない最初の計画が開始される時、各々の持つ不可解なことの想像力は、計り知れない結果の完成図に全く自信をもつ

電信メッセージは（考えとほとんど同じくらい他人と非干渉に秘密で）どんな地球の距離にでも送ることができる。そして、そのイントネーションと抑揚の全ては、人間の声の音と他の特徴のある点とともに忠実にすぐに複製される、滝のエネルギーは地球の、海または土地の上のどこにでもまたは高く空中で動力と光と熱を供給することに利用できるようにされる、人類は、棒でかき混ぜられる蟻塚のようです：来るべき興奮を見てください！

ここで、彼がそれを理解していて、そして、彼がそれが無制限であることを期待していることは、テスラが本当に驚くべき何かを持っているように聞こえます。

それは何かこれまでにされたことを越えるような、もののように聞こえます。

100 年後の今でも、特に人間の声の伝送に関する限り、我々はこれらの可能性のドアの一部を開けているだけである

しかし、まだわれわれに確かに地球の土地または海または大気の上の至る所でエネルギー

の使用が可能だという認識はない

明らかに、テスラはそこらでいっぱい、使われることのなかった何かに言及しています。

それでは、テスラは何をしたか？

Vassilatos 氏が彼の本において話しているシステムの種類にテスラが取り組んでいたというどんな証拠を、我々は持つか？

最初に、より高くより高い火花ギャップの放出速度を成し遂げようとして、テスラが火花ギャップの回路に取り組んでいたという証拠がある。

図 15 は、テスラの多くの特許の 1 つで「電気回路コントローラー」と呼ばれているものを表している。

それは 2 つの前へ進む装置の間で火花ギャップは反対方向に各々が回転する

2 台の電気モーターから成るので、この特許は非常に面白い、

テスラは明らかに 1 つの装置の回転円環によってより、速い速度で成し遂げようとしたことは、明白です。

これは、Vassilatos の本において提案されたテスラの試み、機械的な火花ギャップ・コントローラーの速度 m を上げる研究の明白な例です。

図 16 は、講義、特許、本の記事で使われた、磁気によって消された火花ギャップの唯一のイラストを表す。

しかし、Vassilatos が言及したように、それは永久磁石よりむしろ帯電した磁石を使いそれは明らかにテスラのものです。

33

図 18 テスラの変圧器

それは磁気によって消される火花ギャップで働いていた。

これは彼の多くの「破裂」に実験のうちの 1 つあるいは、スパーク放電を消す実験を図示しています、。

それが明らかに、DC 火花のために設計されたので、このメカニズムは特に面白い。

DC スパーク放電は、簡単に始まりません。

2 つの側にあるスプリング式ハンドルが存在で、

最初のスパークを起こすために一端または他端を軽くたたくことによってスパークメカニズムの可動が許される

これらは予めセットされた距離に跳ね返ります。そして、DC スパーク放電がこれらの非常に難しい状況の下で開始するのを可能にします。

図 17 は、もう一つの火花ギャップ装置機構を示しているイラストです。

これで、テスラはスパーク放電経路を横切って熱気を吹きつける、そしてまた、添付のテキストにおいて示されるように、そこには磁場が存在しています。

テスラがこの装置において火花ギャップにおいて熱気と磁場を使ったのは、彼がよりコントロール可能なスパーク放電を得るといふ多種多様な可能性を見ていたからであることは明らかで、そして、明らかに、DC 火花は、高い電圧で放出します。

変圧器と呼ばれている特許のための図版は、図 18 で示されます。

テスラは、長距離へのエネルギーの伝達のためにこれらの方法を利用する発明であったと述べ改善されたコイルを造る際にこれを使用する予定であった。

その特許 (図 19) のイラストのうちの 1 つは、Vassilatos が話した構成概念を持つことを明らかに示しています：

2、3 回しか巻かれていないプライマリーコイルそして、第二の円錐コイル、Vassilatos が書いたすべての構造は、ここに存在する。

図 20 は、A ~t f Tranrniztin~g El~kal E~rgy Th~t~ig~と呼ばれているテスラ特許からのイラストです Nab~ral Maliwi~.

図 21 の中の図は、ソース「B」と同じ基本的な構造を示した例の拡大部分で 2 回転のプライマリーコイルは中央の螺旋コイル m の原動力となる。

この装置はエネルギーを地面と空とを含む大きい距離に放送するために設計された。

(F)は、地球と関係あるものであって、(F')はテスラが「静電容量を上げてゆくもの」と呼んだものです

これは、テスラが、惑星のすべての点にエネルギーを放送するために、Wardenclyffe (ニューヨーク) で造ろうとした拡大送信機システムの核心であった。

これで面白いものとは、システム「B」にエネルギーを与えるソース源です。

この図を見ると、左の、「B」は単純な発電機のシンボルのように見えます。

しかし、特許テキストからの以下の抜粋は、「B」の正確な考えを以下の通り詳述している

図 1 の中の、A が示すものはトランスの一部をなしているプライマリーコイルで、一次コイルのケーブルは頑丈で抵抗に気がつかないほどであり端は『B』のターミナルに電気振動のため電源につながれているのが図で表されている

35

私によって発明された一種のトランスのように、プライマリーコイルを通して急速に高ポテンシャルで放出された。

図 21 の中で、「特許テキストで記述しているように、テスラは送信機を拡大して描いた右側のイラストに言及する。

これは、テスラが必要としたインパルスの特徴をコントロールする方法で、コンデンサと破壊的な火花ギャップを示している (この場合磁気によって火花ギャップを消した)

再びこの特許のテキストを引用して、テスラの要求したことを言うと：

私は、このように最初より数千倍も大きい電氣的な動きを生じることが可能であるとわか

りました。

もう一度、彼は電気の相当な増加について話しました。

これは、普通のトランスの中の電圧のような増加でなく電力をもった増加です。

同じページのその引用の前に：テスラは言った

これらの調整と関係は慎重に完成されている

そして、他の建設的特徴は、厳しく示され観察されている

プライマリーコイル (『A』) の帰納的な働きによってセカンダリーシステムにもたらされる電気動向は、非常に拡大される...

テスラは明らかに、信じて、このシステムが使っていたより、多くのエネルギーを外に発生することができると繰り返し述べた。今日、その概念は「フリーエネルギーと呼ばれる。」

Vassilatos の分析が正しいという多くの証拠のために、私は講義、特許、記事と本へ言及する。

ページ 112 で、あなたは「装置およびその転換方法を知ることができます (図 22)。」、ここにある図の発電機では、左の回路に交流が生じ、右の回路には直流が流れ込んでいます。

図 23 は、直流側のクローズアップの眺めです。

中央のイメージにおいて、テスラはメイン発電器部分から直流を取り出す、そしてそれは、もう一つの装置によって動く、テキストが我々に言うように、それは直流電圧をより上げている

38

回路は、それからコンデンサを充電して、磁気によって消された火花ギャップを通過して電球と他の装置に放出します。

これは、Vassilatos によって記述された構成要素の全てをテスラが研究していたという発表された、直接証拠です。

正確に言うと、彼は他の確認可能な資料において、これらのことを不明瞭にしています、しかし、この要素はすっかり存在しており、はっきりと定められています。

1900 年 6 月のセンチュリイマガジンの記事において、「人間のエネルギーを増やす問題」からとられたテスラによる以下の驚くべき声明は、これに加えることができます：

電気がたとえ何であっても、それが非圧縮性流体のようにふるまうという事実です、そして、地球は電気の巨大な貯蔵庫として見られるかもしれません...

交流電気の流通システムが今日世界中で使われていて N・テスラがその発明者であることを考えれば、彼が電気が何であるか、わからない、しかし、それが圧力の下で流体のようなふりを確かになると、述べたことは、驚くべきことである！

もちろん、電気のこの理解は、完全に今日認められた意見の外にあります

電気が非圧縮性流体のようにふるまうというテスラの声明は、証明すべきことが真実だと仮定して言われているだけです：

彼は、どんな流体に言及しているのか？

Vassilatós の示したことは、テスラの謎めいたエーテルガスへの言及したうちの 1 つでありえるのか？

同じ記事の 148 ページのテキストは関連する他の声明です

ついに、しかし、私は電気コンデンサーの素晴らしい特性に基づく長所と新しい原則を使う自由によって作業を達成した満足感を得ました。

有益な、面白くもある特集記事に引用されるような単純な実験の他に、講師の狙いの達成にむけて行われていることは単に実行することではなく、大事なことは確実に放出することができ、あるいは、所有することである

したがって、私はより多くの spectoler スペクトルを確かに例示する、別の方法を選ばなければならない、たぶんより有益なものになるだろう

摩擦の機械とライデン・ジャーの代わりに、peculin 特性の誘導コイル、は 1892、2 月に、ロンドン電気技術者協会の前に講義で私によって詳述した..これらの実験は私自身に役に立った。

この誘導コイルは莫大な電位差の流れを生むことができます。そして、極端な迅速さで交替します。

この装置で、あなたにまたは 3 つの異なった種類の現象と 1 つの効果を示そうと努力する、そして、各々を実験することは、私の欲求である。

説明のために、我々にこの魅力的な科学の新しい面を若干見せてくれなければならないと同時に我々に新しい真実を若干教えなければならない。

しかし、こうする前に、使用される装置とこれらの実験で利用される高ポテンシャルと高周波流を得る方法のことを考えることは、妥当で役に立つようです。

ON THE APPARATUS AND METHOD OF CONVERSION.

装置と変換の方法

これらの高周波流は、転換の装置および方法によって独特な方法で得られている。

使用される方法は、2 年前頃にアメリカの電気技師学会の前の実験的な講義で私によって進められた。

多くの方法の中で行います

16

私の研究所で、これらの流れを得るのは、どちらでも図 1 で示される連続的低周波交流からです。そして、それは後で詳述します。

要は流れの振動を維持するのに必要な状態にしたのを観察している中で

直流か交流の電流源を高いテンションで破壊的に彼らを解放しコンデンサーに充電することである。

1893年2月のテスラ講義からのイラスト 図22を見ると

40

図24 放射エネルギー放出

おそらく短い時間に蓄積したエネルギーを爆発させる。

同じ種類で他の特性のものは、その放出が1秒につき数100万まで高い振動率になるかもしれないということです。

私は、交替に充電および放電が迅速な連続に行われるように頑丈なワイヤーを2、3回転したコイルでトランスのプライマリ誘導コイルを作った。

思いがけない強さのどんな望ましい性格の電気効果でも、現在図6に示されているこの種類の仕上げられた機構によって、簡単に生産できる、

それについて頻繁に解説はなされている、

要点を書くと。

特定の目的のために、他のために強い誘導的な影響が必要とされる；

再び他のために可能な限り最も大きい不意；の例外的に高い率の振動または最大の圧力の強い誘導的な影響である

不意に他のものの最も大きなポテンシャルを開かせるには確かに他の物体との間に、巨大な電気運動が必要である

そう、我々がそうした今、私が信じるものはテスラの中で十分リファレンスされたものです

42

Vassilatatosの主に主張していることで支えとなっている語を認めてください。本当に、テスラは活発にコンデンサに高圧を課すことに従事しました；

彼は、sparkgapsを磁気によって休ませ、これらを解放しました；

彼は、とても高い振動率で1秒につき何百万回までも上げさえした

そして、それは最後に、テスラが「輝く Energy」と呼んだものを生産し、それを捕える装置で彼の「拡大送信機」を動かす方法となった。

問題はこの証拠書類の全てにもかかわらず、テスラの「拡大送信機」Magnifying Transmitterが電気の異なる形を生じたという直接の証明を、我々は持つかである、？

この質問に答えるために、私はエリック・ダラードの「拡大送信機」Magnifying Transmitterからの放出時の白

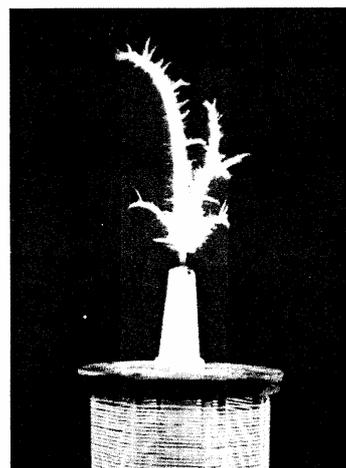


Figure 24
Radiant Energy Discharge

黒のバージョンの図 24 を参照する。そして、カラー画像はこの本の表紙に示している
この写真は、1986 年のアリソン・デーヴィッドソンによって撮られて、ニュージーランド
でトム・ブラウンによって私に提供された。

コイルの木の上部は、直径およそ 8 インチです。

この放出によって見受けられる電圧は、推測ではあるが、確かに 400,000 ボルトに近づか
なければなりません。

コイルの反対側はアースされていて、無線周波数電流計で測られ 4 アンペア以上は動いて
います、そして、全システムは壁から 2000 ワット未満を得ています。

この写真は、不完全に浄化されたエーテル的な放出を示しています（ちょうどテスラの書
いた「青い dartlets」を完全に備えていた）

この点で、テスラの放射エネルギーと冷えた電気の性質に関してもう一つの見聞者証言を
加えたい。

アリソン・デーヴィッドソンの写真が必要とされた同じ日に、トム・ブラウンと私は、驚
くべき実験を行いました。

私は、普通のフィラメント電球を拾って、私の右手に外のねじ込み口の金属を持ちました。

それから私はトムにまたいで越えて電球の一番下のコネクタに、彼の指と一緒に触れるよ
うにたのみました、

彼がこうするとすぐに、電球フィラメントは完全な明るさで我々の手で点火しました。

私は拡大送信機から離れておよそ 6 フィートでした、そして、トムはおよそ 8 フィート離
れていました。

私はまったく普通ではない感覚を感じませんでした、しかし、私は全く飛び上がりました。

その時私には本当に無事にこれができるエネルギーが、あるという考えがなかった。

まとめるとテスラが、『ヘルツ電磁気波の発見を確かめためす間、偶然に、静電気の「スー
パーチャージ」が生じるということを発見した』

何百回もの実験の後、彼はこの現象をコントロールして、最大にする方法を学びました。

これは、彼を電気が異なる構成要素から成り立つことができるといふ発見に導きました
ガス状の純粋なエーテル的なエネルギーは、回路において電子の流から互いに分離するこ
とができる

短い期間の一方向性インパルスで生じるようにできている。

全ての状態が正しかったとき、他の表面のフィールドを満たすことができる「光のような
光線」として、配電回路から放射され空間的に分配される電圧として、このガスの、エー
テル的なエネルギーが現れます。

今後、「エレクトラ-ラディアントイベント」としてこの現象に言及したいので、次のように
その特徴をまとめます：

*、エレクトラ-ラディアントイベントは、高電圧の火花ギャップを、直接流が横切ると放出

され、流れの反転が可能である前に急に中断されるととき、発生が起こります。

*、この効果は、直流の元が充電されたコンデンサであるとき大いに増やされます。

*エレクトラ-ラディアントイベントは、垂直の気流の流れをワイヤーと他の回路構成要素に残します

エレクトラ-ラディアントイベントは最初の火花放電電圧より高く分配し、空間的に数千はありえる電圧を発生する*。

* 圧力の下で圧縮できないガスと同じようにふるまう、縦の、静電気の「光のような光線」として、それは即座に伝播する*。

*エレクトラ-ラディアント効果は、単に火花ギャップにおいてインパルス期間の終わったときの電圧低下とおなじ特徴がみられるだけです。

*エレクトラ-ラディアント効果 は、全ての材料を透過し、銅と銀のような金属において「電子反応」をうみます。

こうしたケースの、「電子反応は、エレクトラ-ラディアント放射にさらされた銅表面で、電気充電が積み重なっていくことを意味します。

*100 マイクロ秒より短い*エレクトラ-ラディアントインパルスが、完全に安全に扱えるのは確実で、ショックまたは害を引き起こしません。

.

100 ナノ秒より短い*エレクトラ-光点インパルスは、冷たくて、簡単に真空球体で照明効果を引き起こす。

「エレクトラ-ラディアントイベント」は、本質的に特斯拉が送信機を拡大する基礎に発見した「増加メカニズム」です。

それは入力において必要としたより、彼の出力で、多くのエネルギーをつくることができたという彼の主張の基礎です。

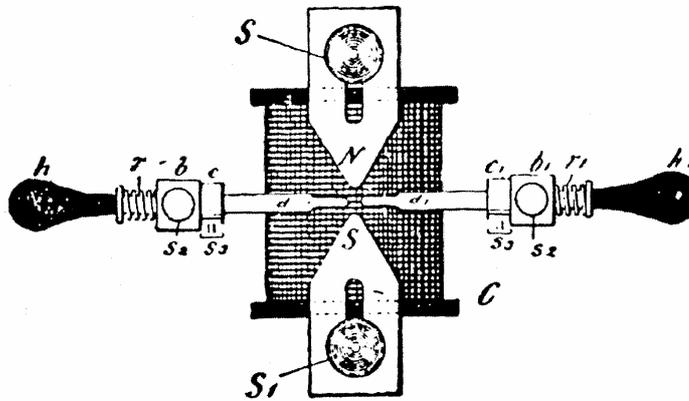


Figure 16
Magnetically Quenched Spark-Gap

sho
exp
lect
ceri
Ley
pro
of
of
I sl
my
at
fas
the
cur

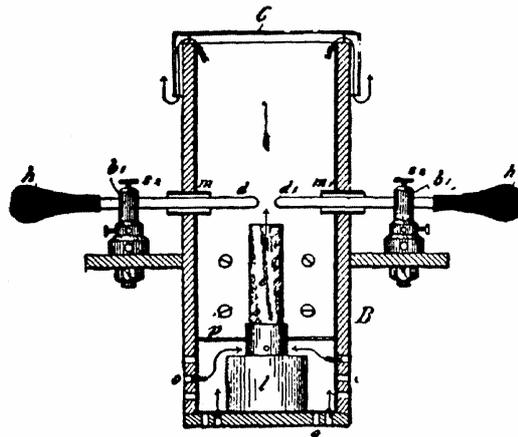


Figure 17
Hot Air Quenched Spark-Gap

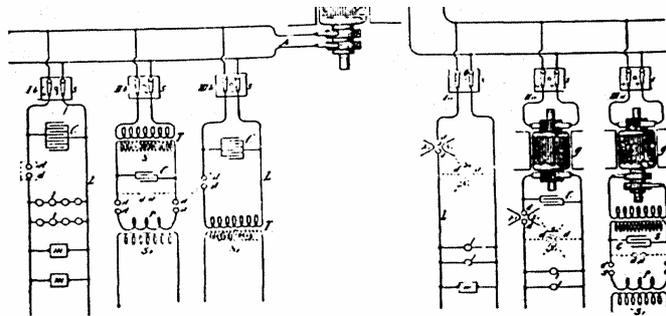


Fig. 1.

laboratory, of obtaining these currents either from continuous or low frequency alternating currents, is diagrammatically indicated in Fig. 1, which will be later described in detail. The general plan is to charge condensers, from a direct or alternate-current source, preferably of high-tension, and to discharge them disruptively while observing well-known conditions necessary to maintain the oscillations of the current. In view of the

Figure 22
Illustration from a Tesla Lecture, February 1893

P-288

No. 613,735.

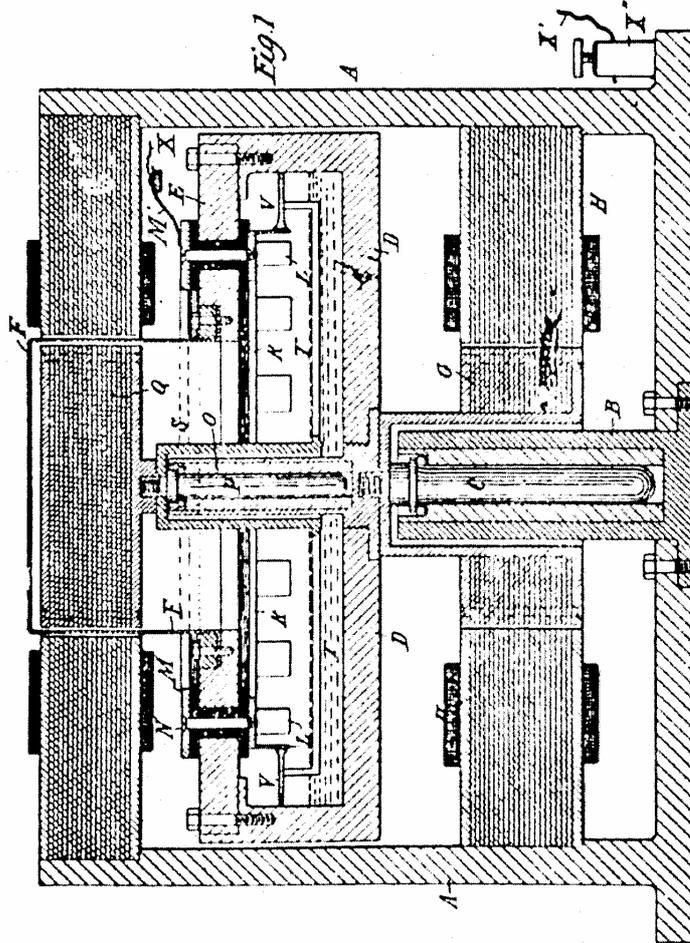
Patented Nov. 8, 1898.

N. TESLA.
ELECTRIC CIRCUIT CONTROLLER.

(No Model.)

(Application filed Apr. 10, 1896.)

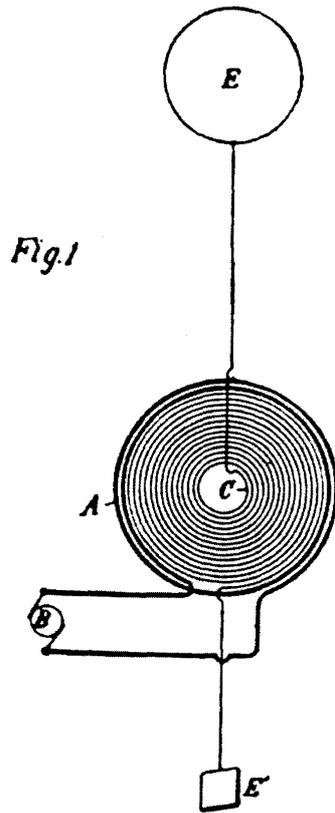
2 Sheets—Sheet L



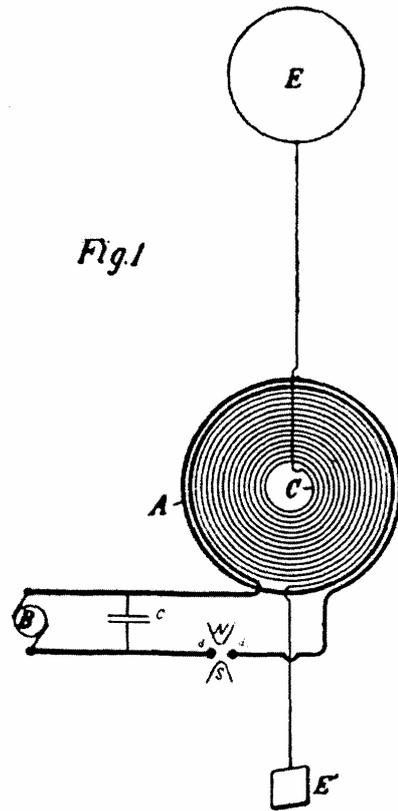
Witnesses:
Raphael Netter
Benjamin Miller

Nikola Tesla, Inventor
Geo. Curtis & Co. Agents

Figure 15
Tesla's Mechanical Circuit Controller



Tesla's Magnifying Transmitter Illustration



Tesla's Magnifying Transmitter Illustration
as Described in the Patent Text

Figure 21
Tesla's Magnifying Transmitter as Described in the Patent

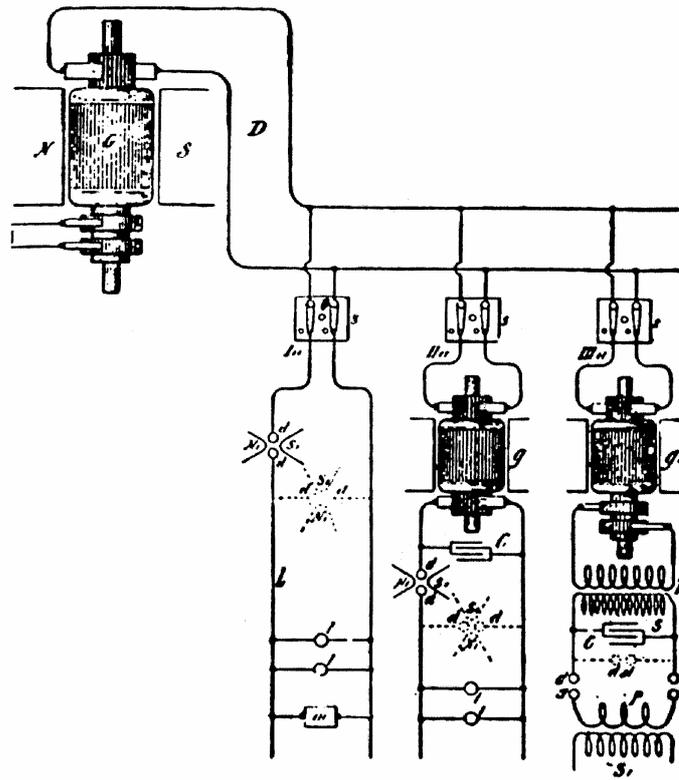


Figure 23
Close-Up of "Method of Conversion"

カール・シャプラー (Schappeller) の装置

Schappeller の装置は、ドイツのフィールド推進力円盤で使われたエンジンであったか？

これは、可能性がある。

ほとんど何も英語ではこの装置について報告されなかったので、以下は若干詳細にカール Schappeller と彼の装置を記載したレポートである。

粗末な家に生まれたことから彼の生涯の間に、文字通り城を所有するまでに、カール Schappeller (1875-1947) は、行った。

彼の経済的成功は、素人の科学者としての彼のエネルギーの実験の反映であった、

1930 年ごろにかなりの注意をひいたフリーエネルギー装置の発明をしたことにあった。

Schappeller は彼の発明を神秘的にせず、彼の研究の結果を製造・供給するために、個人的な資金調達を活発に求めた。

彼は財政的な懸念と直面して、英国海軍の船(1)を動かすために、装置の利用に関して、イギリスの海軍本部の代表とさえ話した。(1)

この時代 (1930) に、装置はどうも他にも流用され、ドイツのワイマール共和国の政府組織による研究、Reichsarbeitsgemeinschaft または帝国研究協会 (RAG) の国家的研究として、取り組まれた

RAG の少なくとも 1 つの狙いは、ドイツのエネルギー生産を自給自足できるようにすることにあった。

具体的には、彼らは、ドイツ中へのエネルギーの放送配布のシステムで多くの Schappeller 装置を利用し電気システムの全ての除去に終わるという意向を発表した。(2)

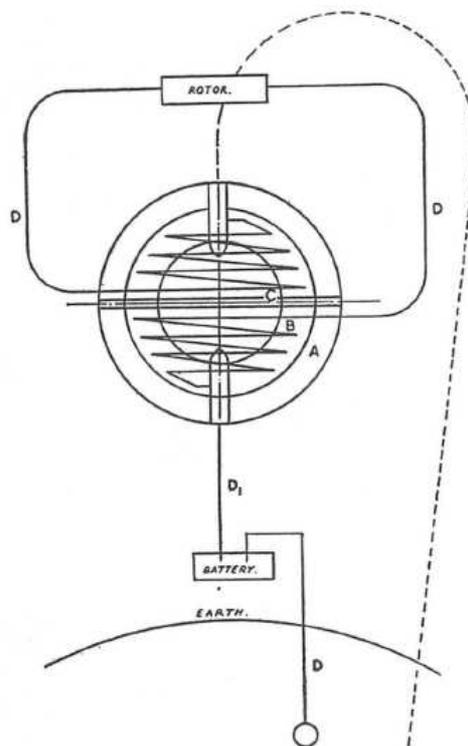
我々が知っているように、この 3 年後にアドルフ・ヒットラーは就任して、戦略的な理由のためにドイツを外国のエネルギー源から独立することに非常に興味を持ってもいた。

後で明示されるように、第 3 帝国によって石炭からガソリンと石油製品を合成することが知られているが、政治と科学的構造がエネルギー問題に取り組むために設定された。

これらのうちの 1 つが Schappeller であった

左：
発明者
カール

Schappeller



Left: Inventor Karl Schappeller Right: Karl Schappeller's Device. A. Steel outer casing. B. Special ceramic lining in which tubes are embedded. C. Hollow center, filled by glowing magnetism when in operation. D. Tubes, circuit and earthing.

Schappeller

右：

カール Schappeller の装置。

A.、鋼の外にースをかぶせる。

B. 特別なセラミック製の内張りの中に管が埋め込まれている。

C. 空洞が中心にある。そして、運転中のとき、それは輝く磁気によって満たされる。

D. Tubes、回路とアース

政治と科学的構造は SS 内に含まれていた、そして、カール Schappeller は 1933 年にウィ

ーンで SS の Reichsfueher であったハインリッヒ・ヒムラーに実際に会ったことが知られている。(3)

幸いにも、Schappeller 装置の良い説明が、ドイツとイギリスの言語で書かれている。

ブリル- vril 神話は、Schappeller と、彼の装置、歴史とそれを囲んでいる論争に関する完全な議論である。

次に、エントロピーについて例示する。

"Vril" Die Kosmische Urkraft Wiedergeburt von Atlantis and Weltdynamismus Streifzuege durch technisches Neuland an Hand von biologischen Symbol en represent an attempt by the RAG to popularize their ideas in booklet form.

小冊子形式で彼らの考えを大衆化する試みを RAG は「アトランティスの「Vril」Die Kosmische Urkraft Wiedergeburt」と「Weltdynamismus Streifzuege の Neuland の技術者は biologischen の Symbol を手にした。」でしたと述べる。

最後に、英国の電気で機械に強いエンジニア（シリル W. Davson）は、オーストリアでカール Schappeller を訪問して、第二次世界大戦の前に彼の装置と彼の理論の学習に 3 年費やした。

Davson の「Physics of the Primary state of Matter 」という説明と図形と本は、戦争が終わり Schappeller の死んだ後の 1955 年に書かれた。

装置自体について書く前に、このすべての文書が Schappeller と彼の装置のエネルギー源がエーテル・エネルギーを軽くたたくことにあると思って、書かれていることを理解すべきである。

(4)(5)(6).

時々、「Raumkraft」または「Raumenergie」（つまりスペース・エネルギーと呼ばれている。(4)(5)(6))

おそらくこの装置も、放射エネルギーとも言われる、放射するエーテルに、チューニングすることを、可能にしたと言われた。(7).

彼が、第二の、派生的な理解と考えられることができる従来の物理学と対比してエーテル・エネルギーの物理学は主要な物理学として Davson によって記述される

エーテル論

「エーテル」についてこれまで耳にしなかった読者にとって、おそらく、エーテル物理学のために最も単純な説明は、テクノロジー、医療と社会の革命というタイトルのハンス A. Nieper 博士の後になって書かれた本がある。(7)

エーテルは至る所から等しくすぐに発散するエネルギー源と、みられることができる。

宇宙は、(しばしば言われるように)「エネルギーの海」と考えられることができる。

それは至る所でエネルギーの背景を築く、そしてすべての時間、至る所にあることから、それについての独立した測定は難しい。

このエーテル・エネルギーは、恒常的な運動のなかにある。

この理論によれば、すべてのエネルギーは、放射エネルギーである。

電磁放射に関してはこれは簡単に認識されることができる、しかし、重力と呼ばれているその非常に捉えどころのないものにとっても真実である。

ニュートンは重力の影響を解説した、しかし、彼はそれが何であるかについて、必ずしも我々に決して話さなかった。

Nieper 博士は、重力が本当にプッシュし押し出すことで、引くことではないと我々に話す。重力は加速で、エーテル場に起因する。

また、すべてのエネルギーは、基本的な基礎がエーテル放射線である放射エネルギーにある。

Nieper 博士による前記の本から見て、Nieper は原理を確立した：

すべての自然な加速は、一つの統一基本原則に起因していると言うことができる、

すなわち、(重力加速、磁気で、電磁気で、静電的で、radiesthetic な加速) といった外側から浸透していくフィールド・エネルギーへの妨害 (または制動) による。

174

エーテルを説明しようとする際に、それはスペースの全てを占めている全く全面的な液体と、みなされるかもしれない。

液体を圧縮することができず、圧縮しようとしているエネルギーを移動することができるだけなので、この液体の概念は役に立つ

it fi.oro ..one J..D.ca~i()fl to another.

もう一つへのそれ fi.oro ..one J..D.ca~i () fl である。

これは、自動車のブレーキが動く方法である。

彼が立ち止まりたいとき、ドライバーはブレーク・ペダルで…を押す。

ブレーキ・ペダルのプランジャーは、マスターシリンダーで流体を圧縮しようとする。

マスターシリンダーは、流体でいっぱいになっている金属チューブで各々の車輪とつながれる。

ドライバーによって力がマスターシリンダーに与えられるとき、その力は同じ流体でいっぱいの 4 本の深い止水 weel シリンダーの各々に送られる

そしてそれは力を伝導し、ブレーク靴を動かし、車の車輪を止めるためのディスクを止める。

同様に、エーテルはこの「非圧縮性」の品質を通してエネルギーを伝導するのに役立つ。

第一電気コイルと第二の電気コイルで、たとえば、第二のコイルへの誘導は、『第一コイル』から直接行われたい飛んでいく

しかし、2つの間のエーテル場を経たこの誘導は、物理学によって確認されている。
この概念は、Davson によっても表される。(エネルギーを輸送する意味でエーテル場を刺激する)

すべてのエネルギーは、放射線であるというこの観点を以て、エーテル放射線の制動、つまり失速するか、この放射線が止まることは、他の形のエネルギーを引き起こすか、生み出すことがありえる。

「エネルギー」というこの言葉は、全ての電磁スペクトルを意味する。

これは、電気的で、磁気的で、静電的なフィールドを意味する。

この方法で熱くすることができる

これは、重力をも意味している。

また、重力はエーテル場での主要な放射線である。

それは、等しく宇宙のあらゆる点から放射している。

このことが何人かから考えられるまで、この概念は奇妙に思われる。

人は尋ねるかもしれない：

我々に別があるというなら、重力はどのように、押し出すカプッシュとしてあるのか？

結局、地球へ落下するのは、重力のせいではないのか？

答えは、我々が感じている、重力の効果は重力遮蔽によるのである。

エーテル放射線はブレーキをかけられることができる、それは減速されて、物質によって吸収される。

それから、それは発散するか、物質に変えられる。

それは、より遅くなったエーテル放射線として、または、熱として再放射される。

そのいくつかは惑星の内側の質量に変わる。

エーテル放射線の損失があるならば、遮蔽がある。

このように、惑星はこの1方向の放射線から保護されている。

最も大きな質量の方向でその中心の近くに、常にその方向は、ある、そして、我々が「落ちる」と言うものはその方向である。

これは、単に最大量の遮蔽がある地域である。

エーテル放射線は、他の全ての方向で、そのプッシュ押し出しを出し続ける。

最小限の遮蔽地域は直接最大の遮蔽地域の反対側にあるので、ものは地球に落ちる（または、より正確には速められるか、「押される」）。

しばらくこれについて考えてみよう。

深淵空間は、水中と少し似ている。

水中で、すべての方向からの圧力が示す状態は、我々が重量がないと感じるのに似ている。

エーテル場が等しくすべての方向から我々を押し出すので、我々は深淵空間で重量がない。

175

スペースでは、より近いものが大きな物体になればなるほど物体がエーテル放射線から遮

蔽するか、他のものに変えるので、反対方向からのプッシュはより強いものになる。

この考えの結果は、我々がそれを知っているような、「重力」と全く異なるメカニズムである

しかし、現れることは観察された現象としては正確に同じである。

重力のこのエーテル論の美しさは、放射線やその他の形になるようなその重力機能にある。その根本原因（エーテル放射線）は質量に変わることができ、あるいは、特定の状況では、再放射する、

または他の形のエネルギーに変わる。

統一場理論は必要でない。

エーテル場は、統一フィールドである。

さらに、「反重力」と呼ばれる別の何かを探すが、ない。

もし重力がプッシュ押し出しであるならば、それはすべて反重力である。

我々が UFO を作るためにしなければならぬすべてはこの特定の重力周波数を見つけて、それを生み出す方法を発見することである。エーテル物理学は失われた物理学であった。

マイケルソン・モーリーの実験の嫌疑のかかっている結果によって、20 世紀の初期に物理学は乗っ取られた。

マイケルソン・モーリーの実験は、「エーテル」が物質であると仮定した。

若干の混乱が、ここにある。

光速の近くで動いている粒子が物質としてよりもむしろ波（つまりエネルギー）として測られるということを、我々は現在知っている。

これらに明らかな誤りがあったとしてもこの主題をとり上げる人の評判を落す物理学者の間で、エーテル論は信用されなかった。

それは、「フリーエネルギー装置」とフリーエネルギー研究者の努力を通じたこの知識がただ我々に返されて展開しないでいるためである。

このエーテル論なしでは、これらの装置が動く理由は、まったく説明することができない。

単純な推論でエーテル論は不認可で「理論的に不可能で」とても詐欺的だとして、これらの装置は退けさせられる。

彼らは社会的に無視されて、「永久運動装置」として退けられる。

確立した物理学によると、永久運動装置は、エネルギー保存の法則の物理法則に違反する。

エーテル論は説明としてなくて、彼らはエネルギー保存の法則の法則を犯す、そして、中傷者は単にすぐにこれらをお払い箱にすることができる。

これらのフリーエネルギー装置の一部が実際に動くという純然たる事実は、少しもこれらの科学者を悩ますようでない。

観察された事実に対応するために理論を変えるよりはむしろ、事実はドグマによって無視され、無いものに代えられる。

それが好きであるかどうかにかかわらず、我々はエネルギー暗黒時代に生きている。

エーテル論の代わりに、我々全員は、アインシュタインの相対性理論に集中させられた。科学者の 2 または 3 世代は、彼ら自身を「アインシュタインの正しさを証明しようとする」ことに浪費した。

この誤って導かれた考えは、停滞に終わった。

人は認められた科学理論があるのに、公告のレベルに起こった多くの「フリーエネルギー」装置の声明が真実であるのを見るために、遠くに行く必要は少しもない

言うまでもなく、ナチ期間のドイツの科学者は、そのような思い違いを信じていなかった。

彼らは、エーテル物理学を決して捨てなかった。

これは、フィールド推進力 UFO がドイツで最初に開発された基本的な理由であった。

176

最初は、ドイツで発達した。

異なる科学は、相対性理論を教える学校で開発されプロジェクトによって、ひそかに利用されるだけであった。

第二次世界大戦の後、2つの「物理学」と呼んだ。

2つのうちの1つは、Schappeller Device の深い黒い構造のため秘教的なタイプのものでより秘密の政府のものであった、

Davson の説明によると Schappeller 装置は、別々の 2つの装置、ローターと固定子から本当に成る、

固定子は、以下の通りに造られる：

その表面は丸いか球形で、鋼鉄製の 2つの半円形のものから成る。

これらの半分のシェルは内部構造を含んでいて、気密である。

その内部構造には鉄の棒磁石が、各々の半分のシェルの「極」に付けられる。

他の反対側のシェルにも磁石が対抗して 1つある、これは、大量の磁石が鋼のボール内部にあることを意味する。

球のまさしくその中心に、2つの棒磁石の間にあるスペースがある。

絶縁体であるセラミックの材料はくぼんだ中心地域を出発して鋼のボールの内側に置かれる。このくぼんだ地域の中と、磁石の間のスペースのまわりにと、2つの内部のコイルは回される。

これらは、棒磁石の極で始まりそして、各々は球の中心で終わる

そして球からローターに伸ばして接続される。

これらのコイルは「エレクトレット」と呼ばれる特別で秘密の物質で満たされた空洞の銅のチューブから、成る。

その範囲を去ると同時に、エレクトレットで満たされた銅チューブは、従来の銅のワイヤ

一にとって代えられる。

電気接続は、外層の 1 本の極から 1 種類の特別なバッテリーの 1 本の極まで接続されるもう 1 つの他の極は地上にアースされる、代替的な、特別な装置で「Urmachine」と呼ばれているそれはここで議論される。

このエレクトレットは、球の中の永久磁石による。

この種の磁気は強磁性または電磁気と同一ではない、それは非常に強い(8)。

Schappeller の電気装置の実際の構成は秘密のままである、しかし、もう一つのエレクトレットは江口元太郎教授によって作られた。

それはカルナウバワックスと樹脂から成る。それは、また、おそらく若干の蜜蝋を含む。

それはゆっくり焼き固めるので、それは強い電界が保たれる。

Schappeller 球の生産のためには、現在の科学とは違う完全なエレクトレット製造工場が、建てられなければならない。(9)

作動がセットされる前に、中身のない球の中心からすべての空気は、ポンプでくまれてだされる。

ボールの極が垂直から水平位置まで動かされることができるように、この全部のボールは回転継ぎ手システムに取り付けられる。

固定子は、ローターから完全に独立している。

固定子はローターなしで機能することができる、そして、固定子はローターなしで電気エネルギーを発生することができる。

ローターは、さらなる電気エネルギーを発生させるのに用いることもできた。

ローターは、以下から成る：

シャフトにつけられた特別なデザインの鋼の車輪がありその外面を磁石に囲まれていてドライブされる。

そしてそれは固定子によって引きつけられて、はね返される。

177

内部の銅の管に付けられた銅のワイヤーはエレクトレットで満たされ、この車輪の中を走って、磁石に電力を供給する。

磁石は空洞で、同じエレクトレットで満たされる。

常に磁石は奇数で、ある。

このローターの変形は Taeufer から我々のところへ来る。そして、その人はこの更なる進展を「超機械・ウラマシーン」と称する。

この機械は先に述べたように 6 つの球の部品から成る。そして、5 つが他の回転する球の面より上に、あるいは、低くある 6 番目の球を中心に回る、

第 7 番目の部品は、回転する 5 つの球を回転させるために使用されて、そして、相殺されて、他に付随しない。

5 つの回転している球は、第 6 番目の静止している球をチャージする。

6 および 7 番目の球は陽極と陰極として機能して、装置を安定させている。

「超機械・ウラムシーン」は、バッテリー・アースの手順の代わりに他の球を起動させるのに用いることができた。(10)

原動力、エンジン、ローターとして、シャフトを動かした。

固定子は、ローターに関係するセンターで相殺される。

Schappeller の角度の効率。(11)

動かされたシャフトは、船のプロペラのような多くの機械アプリケーションを動かす

運転方法は、回転させて使用される、つまり、動きを導き出していろいろな使うことができた、

デバイスは、全くユニークにバッテリーと地球への接続を通して始まる。(12)

特別な刺激的インパルスは、装置に与えられなければならない。(13)

この電氣的インパルスは、鉄の磁石を通して働き、球の中央の隙間を跳び越え他の鉄の磁石に働きかける。

そしてそこから起こることは、この装置をすべての他のものと区別する

球の真空にある、2 つの棒磁石の間の中心のスペースに、「輝く磁気」のフィールドが、準備される。

この輝く磁気は、まったくユニークな何かであった。

それは磁場と認められるが、ずっと強力で、鉄棒または電気コイルのどんな磁場とも違っている。

一旦最初の入力が装置を始動させたならば、バッテリーとアースは切断することができた。

デバイスは、それ自身の上で続いて動く。(14)

ここで本当に起こっていることの知識について、我々は棒磁石で考えなければならない。

我々は、2 つの極性、1 つはプラスでマイナスまたは 1 つは北で南の磁極のある鉄の棒について考える。

しかし、棒磁石には 3 つの構成要素が、本当にある。

磁石には 2 つの極と中立の地帯がある。

我々が磁石の極の間を半分に切ると新しい 2 つの極をえる。

Schappeller のために、この中立の地域は、非常に重要である。

ボールの垂直軸を通り抜ける棒磁石を想像しなさい。

それから、中心の部分が停止していると想像しなさい。

現在まさに我々の惑星地球のようにボールの最上位には北の磁極がありボールの底には南磁極を持っている。

178

センターには、南地磁極とその失われた部分がある、

ボールの最上位は反対の北極になる、そして、同様に、ボールの底の南地磁極はセンターの北の極の反対側となる。

我々は、その中心のセクションの隙間で、現在 4つの極に対立した棒磁石を持つ。
それは、センターのこの隙間は接地することによって Schappeller の「輝く磁気」が発生する所で、
つまり、特別なバッテリーと地球への接続を通して装置に充電する。
この輝く磁気は、ミステリーである。
Davson は Schappeller の計算をあげそれが現在の磁気によって生じるより、1000 倍強力にすると、磁気のこの形を伝える(15).

彼はまた、磁気が発散される間、磁気のこの形では、電気は動かないとそれを述べる
(16).

再び繰り返すと、この輝く磁気は第二の物理学では見つからない（つまり、現代の物理学では）、そして Davson は、この輝く磁気は第一の物理学のある理由であると、彼の本を通して主張する。

第一の物理学の説明する現象として、それは、熱、電気と磁気を発生させることができ主要因に関係する。最初の刺激の後、輝く磁気の状態では、エネルギーの更なる入力が必要ではない。装置は、周囲のエーテルから直接それにエネルギーを引き出すことができる、このエネルギーはその磁気と電子要因を結びつける、それは内部のコイルの中の空銅のコイルの中の充填材である、そして、アプリケーションによってエネルギーを引き起こし、熱、電気、磁気または機械の仕事をとおして再放散する。

換言すると、これは内破装置である、そして、それは(17)(18)のようなものと言われる。内破という言葉に関係する Schauberger 装置とは異なり、Schappeller 装置は、全くエネルギー的なレベルで動く。

磁石を通して、エネルギーは輝く磁気のフィールドに、センターの方へ引き出され、外へ放射する。

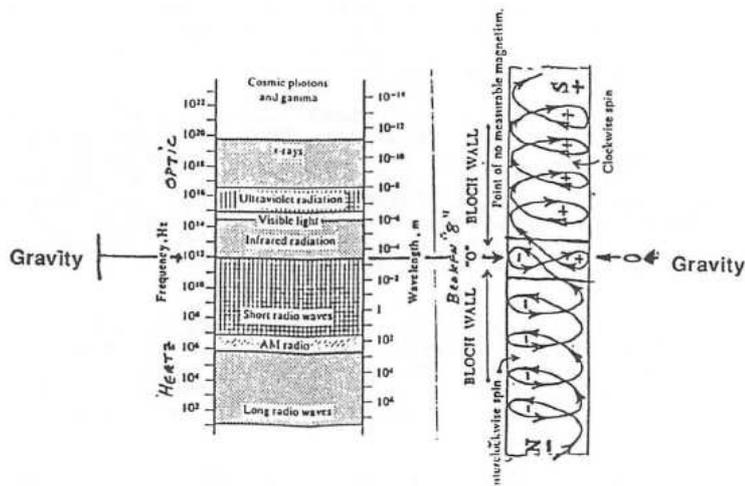
私の最初の放射エネルギーのこの出力の説明は、ブロッホウォールの概念を含む。ブロッホウォールは、ヴァン Norstrand の Scientific Encyclopedia、1958 年版、(ページ 201 と 202) に以下の通りに定義される：

これは、隣接した異なる方向で磁化された強磁性領域の間の移行層である。
回転方向が 1つの方向からもう一つの方向にゆっくり変わることがエネルギー的に好ましくて、壁は数百の格子の定数の有限の厚さを持ち
突然の不連続を持つことにより壁を通り抜ける」(18)。
電磁気学において、ブロッホウォールは、ハードウェア自体にとっては外部的である。

それは、巡回している渦または回転つまり、南北の電子磁気エネルギーの分割点である

179

Bloch Wall And Oscillating Circuit



Top: Bloch Wall, a gravity wave source as a function of the electromagnetic spectrum? (Dr. Richard LeFors Clark)
 Bottom: Oscillating circuit. Charged capacitor (electric field) discharges, current carried through insulated wire to charge coil (magnetic field) which discharges, charging capacitor. Oscillating electric and magnetic fields yield electromagnetic waves.

Bloch Wall And Oscillating Circuit

ブロッホウォールと振動している回路

Cosmic photon

宇宙 photon

Gravity r-t , '0u-1f# .;

Top:

上:

Bloch Wall, a gravity wave source as a function of the electromagnetic spectrum?

ブロッホウォール、電磁スペクトルの機能のような重力波の源?

(Dr. Richard LeFors Clark) Bottom:

(リチャード LeFors クラーク博士) 下:

振動する回路。

充電されたコンデンサ (電界) の放出、

充電コイルに絶縁ワイヤでもたらされる電流

それは放出するか (磁場)、コンデンサを充電する。

振動している電磁場は、電磁波を与える。

磁極。

ポジティブ磁極が右に回る間、ネガティブな北極磁気は左に回る。

エネルギーは、非絶縁された極を通して Schappeller 装置に導入されそして、導かれ、ユニットの中心へ行く途中で回転する。

0 磁気の点では、回転がなく、磁気の逆転もない、

2 回転のフィールドが結合している所がブロッホウォールである。(19)

ブロッホウォールは、エネルギーを放散する。

思い出しなさい。エネルギーが入っているならば、それは出ていかなければならない。

ブロッホウォールはラジオ、レーダーと他の電磁石の振動数を生み出すかもしれない、しかし、最も面白いことはリチャード Lefores クラーク博士に一致して、実は重力を放散することが、できるということである。

この解釈によると、クラーク博士によると、2つの2極性が発生するフォース・フィールド・ベクトル、quadropole フォース・フィールド(4極的フォースフィールド=2極2サイクルの循環)または重力の結合が、発生する。

quadropole 源である重力は、2サイクルの循環 (360度の) パターンで放射する。

レーダー周波数の下と赤外線の上の間の 10 から 12 ヘルツの時とクラーク博士は、放出の点を固定した

(20)。

Dr. Richard Lefors Clark believes gravity is a radiation

(20). リチャード Lefors クラーク博士は、重力は放射線で

(21) 「プッシュ」であると思っている

もう一つの意見

2001 年後半には、私は、Schappeller 装置に関する上述の大部分の材料を含んだ雑誌記事を書いた。(22)

その記事では、Schappeller 装置についての他の異なる理論からの説明の要請が、なされた。

私は、マイケル・ワトソン氏 (理学士、Chartered Physicist(英国で最高の権威を持つ物理学

者)と連合している英国の物理学会の議員) から、手紙を受け取った。

しかし、ワトソン氏の背景には彼の専門分野の権威の証明書より印象的な何かがあった。

シリル W. Davson のことを、ワトソン氏は青年時代によく知っていた、そして、Davson 氏は詳細に、しばしば Schappeller についての考えを彼と検討した家族的友人であった。

ワトソン氏の手紙には、大部分の混乱させる用語を突っ切って彼が明確にした Schappeller の理論の概要が、あった。

この概要は、二、三の理由で重要である。

ワトソン氏のは Davson によって解説されるように、Schappeller のエーテル論の概要でうまく Schauberger についての考えともぴったり適合する

それも、ビル・リンヌによって説明されているようにエーテルについてのテスラの実験の結果を考慮に入れたようである

以下は、私がワトソン氏の手紙から学んだものである：

我々のほとんどは熱力学第一法則と第二法則について耳にしたことがあるはずだ。

これは、熱の法則である。

熱力学の第一法則はエネルギーが節約されると述べる。そして、宇宙の総エネルギー量が常に同じままであることを意味する。

これは我々のほとんどの人にとって驚きでない、そして、それはここでの本当の懸念でない。

重要であることは、熱とエントロピーを議論する熱力学の第二法則である。

エントロピーという単語は、ランダムまたは混沌のありさまとみなされるかもしれない。

それから、ネガティブなエントロピーは、より少ないランダムに向かう動きまたはどんな特定のものでもよりきちんとなることを意味する。

我々がこれをシステムに適用するならば、システムが全くの混沌で壊れるまで、エントロピーは増加する傾向がある

181

システムがさらなる外側のエネルギーで再構築されない限り、これは起こる。

コンクリートの例は、理解しやすい。

組立てラインからちょっと離れた新しい自動車を想像しなさい。

この車の金属部分を 1 つ 1 つ見ても、精製し、鍛造し、溶接し、塗るには、多くのエネルギーが必要だった。

この同じ概念も、車の他の構成すべての部品にあてはまる。

このエネルギーとは、非常に組織化された状態を構成する組織化のエネルギーで、もう一

つの別の方法つまりネガティブなエントロピー状態について言っている。

次に、エントロピーを例示する。

車は購入される。

それがひどく運転されるか、駐車されるかどうかにかかわらず、車に起こることはそれが崩壊し始めるということでガレージは長い目で見れば重要でない

この変化は最初は小さい場合もあって、分子レベルで起こる場合があるだけである、しかし、それでもそれが起こる。

エンジン、伝達、ペンキ、ゴム、電子機器、その他は、時間とともに全く痛んでいく。

車がただガレージに 1000 年駐車していて、さえ結局、金属は酸化する。

最後に、車は赤褐色のさびの堆積をつくる。

これは正確に組織化の正反対である、そして、エネルギーは車をまとめてきたものである。

この混乱は、エントロピーの増大である。

みんなが知っているように、これを翻す唯一のものは所有者によるメンテナンスと修理の形のさらなるエネルギーの入力である。

すべてのものは相対的に無秩序の状態へ移動していくという法則である

熱に関していえば、熱は常により暖かい場所からより冷えた場所内に流入する。

何かが熱されるとき、そのエントロピーの増大がある。

それが爆発するとき爆弾が熱を増やすことで、その分子はランダムな混沌により速く、そして、より速く動く。

熱を増やすことは、エントロピーであるランダムと混沌を増やすことを意味する。

寒さは、ネガティブなエントロピーに関係して見られる。

どんな冷えた物でも単純に言えばより組織化されていて、熱された同じ物よりランダムでない

Schappeller は、熱力学の第 2 法則について言う何かを持っていた。

彼は、もう一つの未知の熱力学サイクルがあると言った

そしてそれは第 2 法則と反対に動く法である。

この考えを説明するために、我々はそれを「逆の熱理学」と呼ぶ。

エントロピーの増大に至るといふ熱理学の第 2 法則の反対である。

そこでは秩序の増加があるだけでなく寒さの増加がある！

ワトソン氏の手紙によると、主にこの逆の熱理学の主義を示すために、後で Schappeller は、彼の球面装置を造った。

それは、実用的な機械として設計されなかった。

熱理学の第 2 法則と逆の熱理学の 2 つの違いを示すために機械は理論的に調べられる。

実は、熱理学の第 2 法則により動いている機械は、まったく理論的に無駄が多い。

燃焼機械は、このタイプである。

単純な理由で、我々は、家の暖房のためにベンジャミン・フランクリンによって発明され

たタイプのような木が燃えるストーブを使う。

材木は、中空の鉄の容器に入れられる

調節可能な穴が一端にある。

182

調節可能な穴は、大気酸素の入ることか可能である。

火が起きるまで、最初の小さな熱の入力は木と酸素に加えられる。

多くの熱は、木が燃え始めると一度に生じる。

我々は、熱が増大することを知っている。

カーボン、二酸化炭素と水蒸気は、燃焼の副産物としても生み出される。

エントロピーは増やされる。

エントロピーが増大する、そして、おそらく汚染もそうである

これが我々が生きる世界に特有の破壊的なテクノロジーの良い例であることに、みんなは同意することができる。

理論的な **Reverse Thermodynamic** 反熱力学機械の我々の例では前の熱力学エントロピー増大例での副産物が、燃料として使われることができる。

しかし、**Schappeller** の機械は、創造的なさらなる特性を持つ、つまり、ネガティブなエントロピックな機械となる。

Schappeller は、この創造的なプロセスが個性的であると思っていた、

それで、我々はこの創造のひな型としての使い方に、特別のテンプレートが必要とされる。

熱（水）、そして二酸化炭素は、この機械に排出されずに戻る。

全く驚くことに、この反応の副産物として酸素が発生する！

Schappeller の反熱力学的機械では熱は、吸収される！

熱のこの吸収という事実は、開放的に爆発的に熱を生産している機械でなく、機械が事実上内破であると言うもう一つの方法で動いているということである

しかし、最も素晴らしいことは、エントロピーが減少して実は減らされるということである！（何かをつくり出している木のように）

実は、この機械は単に理論的なものではない。

我々が話すように、それは存在していて、働く。

実はこうした機械のすべては、我々のまわりにある。

我々は、これらの機械を「生命」と呼ぶ。

この場合、我々に身近なこうした機械は、木である。

木において、エネルギー（日光）は吸収されて、木を形成するために、水と二酸化炭素が冷たいプロセスに組み込まれる。

この一見知的な（創造的な）プロセスのひな型として使われる端的なテンプレートは、「種」である。

この種の反応において、「冷えた」力は、熱の欠如以外の何かである。

この寒さは、進行中の生きている冷えである。

それは、「強化させる」、内破の冷えである。

それは、生気を与える冷えである。

この冷えは、生命に力を与える。

ワトソンを引合いに出すと：

「このプロセスは、ライフフォースで熱力学の第2の法則と反対である；

それは、生命力である：

Vril。」ヴリルである

これは、Schappeller と Schauburger の物理学と 19 世紀の物理学との 1 つの巨大な違いである。

19 世紀の物理学は、生命のないものに関してすべてを説明する。

物理学の法則は、生命のない例を使って書かれる。

生命のないモデルから生じる化学反応が、記述される。

生命のあるモデルは、単に活気がなく装うことに従わせられる

生命は、ただの特例である

そしてそれは結局、化学だけで、生命のないものと同じ熱力学の第 2 法則の対象となることが示される。

Schappeller と Schauburger は両方とも、そうした原理で動かず彼ら自身の方法で動くと言う。

各々が彼ら自身の仕方で、新しい熱力学の異なる法則が生きた力にあてはまると、言う。

古い前の理論が許すより生命プロセスとこんなに同類なのだと、彼らは言う。

彼らは、この力が創造的であると言う。

これらの新しい思想に同意したものは、それが新しい物理というだけでなく新しい科学であると主張する

そして、そのドイツは、科学を先導する。

183

この新しい科学の背後に要求されている物理学の法則の様子をより詳細にみてみよう。

しかしこの新しい最初の概念で考慮されることは冷却である。

この感覚に生じる寒さは、熱の単なる欠如を意味しない。

これは恒星間の寒さである。そして、寒さが宇宙の真空中で見つかる。

この相対論的な真空中では、この寒さを測るために、使用に十分な量の物質は、見つからない。

我々がどのように寒さを測るか考えなさい。

我々は、冷たい物質を測る。

たとえば、我々は空気または水の中で熱を測る。

物質がない場合どのように、寒さを測るか？

我々が、たとえば、深淵空間で 1 杯の水に温度計を入れることができるならば、記録される温度が絶対零度だろうか、非常に近いだろうかということは疑いない。(ケルヴィン 0 度または摂氏-273 度または華氏-460 度)

深淵空間の物質の有無は、推測の対象である場合がある。

深淵空間のエネルギーの有無は、一般的に受け入れられている。

たとえば、みんなは、光が惑星間空間を通り抜けることを知っている。

我々は、星、惑星または月を見上げてこのことの証明を見る。

可視光の他に、他の電磁放射が、スペースを自由に通り抜ける。

これらは、X線、ガンマと宇宙線を含む。

これまでに電磁放射の他に、スペースの深い所では、エネルギーのもう一つの形があると、多くの人々は、現在思っているが、そこで見つけられると同時に我々の回りと他の至るところにもある。

このエネルギーはいつしか「零点エネルギー」という名でいわれている、しかし、我々の目的のためには、単にそれを「エーテル・エネルギー」と呼ぶことができる。

このエネルギーは本当はエーテル自体というよりもむしろエーテルの結果である、そして時々、エーテルは本当に物質であると主張される。

しばらく、絶対零度の近くの、または、巨大なエーテル・エネルギーで満たされた惑星間空間の範囲にある問題の議論と関心を延期しよう。

ワトソン氏は、83 ページにドーソンのことばを示す

「物質の **Primary** 状態についての物理学」で彼は以下のように言う

「したがって、「寒さは熱の欠如でない、主要な熱と寒さはコスモスの分子行動とは無関係になっていて、そこで利用できる分子はもうない」。

読者は絶対零度で、電気エネルギーに変な何かが起こっていることを思い出すかもしれない。

たとえば、伝導材料のディスクが絶対零度に保たれて、ディスクに電荷が与えられているならば、電流は、永遠に、ディスクのまわりにあり、そして、そのまわりで回り、決してそのエネルギーをそこから解放しない

そしてそれが、室温の、オフィスの机においてあったディスクならばこの『寒さの、エネルギーの少なくとも 1 つの特性の形の記憶に役立つ。

。冷えた恒星間の真空の膨大な伸縮性は、高められたネガティブなエントロピーの状態の広大なエネルギー保管の海として見られなければならない。

Schappeller は、この方向性のない物質エネルギーをポテンシャルの備蓄されたものとして「潜在的な磁気と呼んでいる。

この潜在的な磁気への、対応する刺激でエネルギーと物質は、生みだされることができた。非活発な電磁界は、Schappeller によって単に潜在的な磁気として見られた。

物質は、両極性のエーテルからうまれた結露である。

したがって、電磁気は物質的製品で、異なる状態の両極性のエーテル以外の何物でもない。そこから、潜在的な磁気は、それを物質に発生させることができた。

潜在的な磁気は、今まで議論されたどちらの熱力学法則によってでも、影響されることができた（熱力学の第 2 法則、または反熱力学の、第 2 法則のどちらでも）。

この広大なエーテル場（最も顕著な特徴は冷たくて、潜在的で、刺激を待っている特性である）は、我々がそれを知っているように、物質の創始者で両方のエネルギーの創始者である。

Davson は再び 83 ページに、一次的寒さ（ポテンシャルの膨大な蓄え）が物質とすべてのエネルギーの原因となるので、結局熱に変質すると、それを書く：

否定的なエントロピー・エネルギー、そして主要な熱、それは、冷えたエネルギーから成る」そのことは現在理解されるかもしれないと続く。これは、驚くべき冗談のようである（特に科学的な男性から見ると）

しかし、この声明には、Schappeller の推理が完全にあとに続く。

我々は、現在 Schappeller の「ストレス」の概念に注意の向きを変えよう。

熱ストレスと低温ストレスは、電磁界に適用されることができ。

熱ストレスは、第二の物理学で電磁界に加えられる普通のストレスのタイプである。

第二の物理学は、Schappeller によれば我々の実世間の物理学である。

第一の物理学は、冷たい力に対応する物質にエネルギーを与えているエーテルの物理学である、それらは、二番目の熱力学の反作用を構成し生み出す。

そして、Schappeller は、我々の世界を記述するの時に我々が慣れて知っている「第二の物理学」という用語を使う

電磁気場に強い勢いをつける熱の例は、コンデンサーとコイルである。

チャージされたコンデンサーは電界で終わる、そして、チャージ

されたコイルは磁場で終わる。

チャージされたコンデンサーとコイルは、電線の回路を交替につないで、交互に放出しチャージする、

電磁放射装置はワイヤーの抵抗に起因して熱を生じる

熱は全部のプロセスを低下させる。

電磁気に対する熱のストレスは、 $+/-$ である。

電磁界の上の低温ストレスは、我々の科学とテクノロジーにとって全く新しい何かである。

これは $+/-$ 範疇でも見られる、しかし、それを生じるのに用いられる機械は我々の世界で知られていない。

ワトソン氏は、これについて言わなかった

しかし、我々が熱圧力を加えられた機械、コンデンサーとコイルの例に戻るならば、冷えた圧力を加えられた機械とは Schappeller 球と Schappeller コイルの、電子であるかもしれない。

球は磁石を通して充電を集め、保って、コンデンサーの電界と一致しているその輝く中心で、それを凝縮する。

185

電子で満たされた内部のコイルは、激しくて脈うつ電界の面前で、磁気のフィールドを生産する。

私の解釈によると、Schappeller 球の全ては、結合された複合コンデンサー/コイルへの冷えたストレスの最初の入力を通して可能となる機械である。

我々のコンデンサー/コイルの相互干渉の例のように電磁波を生じる、熱力学の第 2 法則を遵法している機械と、反熱力学の法則を遵法しているものとの間に引きつける力が存在する。

この引きつける力は、相互干渉につながることができる。

たとえば、内側に破裂するか求心的な渦は、爆発するか遠心性の渦と接続することができる。

遠心性の渦は熱力学の第 2 法則に従うシステムを意味するが、求心的な渦は反熱力学の法則に従うシステムの例である。

我々全員は、これらの 2 つのシステムが日常生活で連携しているのを見た。

よく見るトイレは、そのような機械で、見えないところに遠心性の排水管パイプをつくっている。

おそらく、我々の議論とより密接な関係があるもう一つの例が、ある。

それは、Vril 発電機の図である。

(議論のために例証としてこのエンジン図が、ここで使われる

そして、図の存在または正確さは盲目的な支持にはならない。)

この図のこの解釈において、我々は 2 台別々の装置を実際見ている。

第 1 は、Schappeller 球の洗練されたバージョンである可能性がある中心球面装置である。

装置が周囲のエネルギーを集め続けて、初期充電は、球に帰される。

これは、反熱力学的機械である。

球は、Schappeller 装置の場合のように回転することで相殺されることができ磁場を生み出す。

相殺されたフィールドは、球をとり囲んでいる発電機のアームに供給されて、回転させる。

発電機は、電力量を増す、円盤の壁の 4 つの大きな放射装置に供給する。

これらの装備品は、たとえば、テスラ・パンケーキ・コイルであるかもしれない。

発電機は、熱力学第 2 法則に従う機械の例である。

発電所の二つの構成要素は、一緒に結合されシングルシステムとなる

円盤の壁の上の放射装置の出力エネルギーは球のためにさらなる入力エネルギーをつくる。

2つの構成要素は、お互いを引きつけそして、使うことで、お互いに依存している

これらは回って、エネルギーを再循環させる。

1つの構成要素のエネルギー準位が増加し、他のエネルギー準位も増加する。

本当に、そのようなエンジンの使用にあたって最大の問題はそれを止める時どの様にするかを考えて使用することかもしれない。

実際の空中上昇は、球から出てきている特別な電磁放射によるかもしれない。

この解釈において、放射用装置は、円盤を推進するのに用いられる。

Davson は、球に対して 10 から 16 番目のパワーの出力周波数を与える(22)

ワトソン氏は、反熱力学主義を利用している機械が認められなかった 1 つの理由が冷えた圧力を加えられた磁気のフィールドは冷えた機械となることだと、彼の手紙で指摘する。

186

求心的な渦は熱くなるよりはむしろ、涼しくなる。

我々のすべての装置の測定は、何らかの形で熱を最終的に測る。

寒さの測定は、より難しい。

すでに挙げられた例でも、物質がない惑星間空間で温度を測る問題は、この困難な例である。

最後に、ワトソン氏が電磁気がそれ自体で二極性を示していることを、読者は思い出す。

そして、全部で 4 つの構成要素を与える。

これらは熱い電磁気の、 $+/-$ 、と寒さの電磁気の $+/-$ である。

2つのホットな電磁気の装置（コンデンサーとコイル）が電磁波を生じているサイクルに加えることができ、設定することができることを、読者は思い出す。

2 台の相補型の熱い電磁と冷えた電磁機械がセットされると、例えば、重力を生むために、リチャード Lefores クラーク博士によって解説されるもののように双極線を生まない quadropolar、360 度の放射線サイクルにすることができたことは、あり得る？

Schappeller 装置の計画的な用途

上記の議論が UFO 問題に対する答えの探求で少しでも意味を持つならば、Schappeller 装置が予定していたにちがいない 1 つの使用は飛行機のための発電装置のそれであった。

これは本当だったのか？

Schappeller 装置には、多くの用途の計画があった。

1930 年に、ドイツの家と工業のために、この装置は伝送エネルギーの源として計画され、テスラを思い出させた。

装置は発電機、バッテリー、トランス、または、アンテナのように、使われることもできた。(23)

戦争の終わり頃に、SS が殺人光線の形でこの装置を使う可能性を研究したと報告される。

(24)

しかし、その上、我々の質問に答えて、Schappeller 装置は、飛行機の空中上昇装置として心に描かれた。

我々の情報源から見てその議論の一部は、ここにある：

「新しいダイナミックなテクノロジーは、将来、高くつく電動子の製造なしで電気機関車と自動車を運転することができる、そして、大気の電圧とのつながりを通して、至る所とネットワークする。

仮説的に言うとそれは十分な数の中央増幅施設の設置で、それはダイナミックな球面要素からなるウルマシンからの特別の磁気のインパルスを運搬する

静磁気動力装置と、ステアリング付きの新しい種類の航空機は、完全に事故と衝突の試験を行ったあとで、操縦する

今日の航空機のわずかなコストで造ることができ—そして長いトレーニングなしでも、これらの航空機を修理可能となる」。

ヨハネス Taeufer によるアトランティスの「Vril ヴリル」型 Kosmische Urkraft Wiedergeburt、48 ページからによると

From

"Vril" Die Kosmische Urkraft Wiedergeburt von Atlantis

by Johannes Taeufer, page 48.

。

「我々の問題は、宇宙船の実現という新しい理解にかかわる問題に移動することでなければならない！

ここで、確かな仮定を確立することができる：

球面宇宙船はそれ自身の大気を持つ—また、ダイナミックな推進力と浮力による小さな惑星世界の創造の技術的な可能性である！」

187

これは可能か？

世界の主要国は、現在いずれにせよ彼ら自身で準備している。特にドイツで」

上記の Weltdynamismus Streifzueae durch technisches Neuland から

an Hand von biologischen Symbolen, ページ 11 と 12。

単語「球状宇宙船」(Kugelraumschiff) の使用に注意してください。

Davson の「物質のプライマリ状態の物理学 The Physics Of The Primary state Of Matter,」から、

240 ページ :

Rotor は渦巻くのを妨げるために積層にしてある、そして、磁石は突出しない;

Rotor 周辺は、このようにまったく等放射状である。

Rotor は動くシャフトに固定される、そして、固定子は地球の表面より上のおよそ 1 メートルに固定される。

地球が海またはエーテル船の床さえを含むことができるので、後者は、もちろん、柔軟である

Davson (199 ページ) から :

「すでに説明したように、新しい技術は空気に関心がない

しかし支持媒体として、直接エーテルに関心に向ける。

したがって、体は円錐または他のどの適当な形になっても垂直に封印されたシリンダーとなるだろう。

そのような物体は明らかに、堅くて非弾力的である、そして、その質量を地球のストレスフィールドのエーテル・ストレスに対して支持することは十分な強さのエーテル・ストレスを含まなければならない、

そしてそれは固定子の中の中心の輝く磁気によって持ち上げられる体が提供されことを意味し、高さによってその強さを変えることができなければならない

エーテル船は、上がることになっていて

そして、移動中支えられ、

、ストレスまたはそれ自体のフィールドは、エーテルとして地球の表面からの距離の二乗によって反対に変化する。

推進力の方法の選択による実際のデザインとそのような船の製造のすべてのいろいろな問題の解決は、それぞれで独立して指向していたとしても、新しい技術の展開に属している、そこでは、重力の問題に適用されるような、原理に我々は興味があるだけである。」

最後に、**Davson** から、177 ページ :

「現在、支えられていない体が地面に落ちる理由は、主にそれが媒体に「保持されない」ものを持つからである。

それは、以前説明した

どんな不活発な質量または体にでも、潜在的なストレス・フィールドだけはある

それらは単に結合の力だけが機能して、外への機動性は持たない

このように潜在的な内部応力フィールドだけで外部へのストレス・フィールドではない。これは、エーテルまたは空気のような少し弾力のある媒体に対して影響力がないことを意味する、したがって、それは落ちなければならない、そして、それはより大きな回帰的なエネルギーの方へ落ちる。

なんらかの外部の原因を通して、冷えた帰納的なエネルギーが突然非常に増加するならば、円盤は支持され、というよりはそれが地球の表面に着く前に、停止点に来る
新しい技術は、物体に **Schappeller** 固定子を置くことによって、これを達成することができた

。

188

質問として、

このように輝く磁気のストレスフィールドを準備して、それを維持するか、単位体の重さまたは質量をつるしておく体はどこで、十分に造られたか

空中にない、stressfield は空中で反応を持たないしかし、地球の磁気の stressfield にだけ反応する。これは、「エーテル船」のための新しい原理の基礎である」

Schappeller メカニズムを使用することは、完全な説明の半分だけである。

フィールド推進力円盤において、必要な「駆動」に2つのタイプの可能性がある。

最初の1つは、「Auftrieb」または空中上昇である。

空中上昇の使用は、航空機を浮くようにする。

それは、何も重くしない。

何も重さがないならば、それは非常に簡単に動かすことができる。

「Antrieb」、インパルスまたは起動する力は、2番目の動きに関係する。

それは、航空機を方向的に動かす。

空中上昇は、**Schappeller** システムによって供給されるだけである。

私の心の中で、方向運動は、ビル・リンヌによってテスラ・パンケーキ・コイルを使ってとてもよく説明されている。

Schappeller 装置に関する考えを終えると

結局は、何か **Schappeller** 装置について言うことができるか？

確かにに、それは存在した。

それは、当時のドイツ政府内で、人々から注意と資金提供を得た。

それは3年間資格のある部外者(英国のエンジニア)によって勉強され、本物であると判断された。

しかし、若干の問題が明らかにある。

満身に説明されなかったエキゾチックなエネルギーが呼び起こされた

したがって、事実はまだ確認できない。

この装置の存在が主張され、あるいは、関係するエネルギーがまったく受け入れられることができるためには、確かにより多くの証明は必要とされる。

しばらくの間、我々はこの議論を取っておかなければならない。そして、更なる相関関係の出てくるのを待つ。

この装置とも関係する若干の解決が、ある。

Schaubergner と Schappeller 装置が内破の理論に関して動いたという考えを我々が受け入れるならば、1つの説明は彼ら両方を説明するのに役立つ。それも、エーテルを考慮に入れた物質の説明のように。

これは、Nickola テスラによって集められた証拠に適合するかもしれない。

それによって、これらの装置の共通性は捜されることができた、そして、おそらく、より効率的な装置がその結果できた。

我々は、再びこの本の討議部分にこのテーマを拾う。

この「新しい科学」の探求が Schappeller または Schaubergner に特有でないと指摘されなければならない。ワトソン氏は、1920年ごろにルードルフ・シュタイナー博士と協力した科学者だ

Ehrenfried ファイファー(Ehrenfried Pfeiffer)から、これらの言葉を手渡された

189

翻訳が満足なものではないが、ここで実際に示すものを見つけたので、彼はそれを送った：
". 科学の方法は、唯物論的な感覚で、離して分割して分析に基づく。そして、本当に崩壊（分離）させる手順で分析する、

そしてそれは、総合するために、破壊しなければならず、分離させて、成長するよりはむしろ、死体に取り組むための、過程を手にとらなければならない。

人間の心が分離して破壊するここれらの方法にとらえられたためである：

それにおいて、私は我々の現在の状況のもとを見た。

したがって、私の質問は以下の通りであった：

もう一つの力または自然のエネルギーを見つけることができる（ルードルフ・シュタイナー）

本来、分析し粉砕する管ではない 積み重ね、合成する。

我々が、その建設的力を発見し、ものを生きているように扱う、そして、成長する、方法調査を十分に確立し開発する

結局、もう一種類の技術のためにこれを行使する、機械を駆動するために適用される、この力またはエネルギーの内部の性質のため、我々はもう一つのテクノロジーと社会構造、を破壊的な考えよりもむしろ人の建設的考え方を作成することができるかもしれない、この力には、生命のインパルスがなければならない（それ自体の範囲内の **Organization** の）いわゆる身体的なエネルギーが分裂して、心の中でこの傾向を切り離す。

したがって私の、ルードルフ・シュタイナーへの10月の質問は、以下の通りであった：

そのような力または源をデモンストレーションして示せるか？愛他的に？」。

1920年と春のエネルギーは、存在するのか？

造る技術が、1921年に可能であるのか

私の質問は、以下の通りに答えられた：

「はい、そのような力は存在するが、まだ発見されない。

それは、通常、エーテルとして知られていることである（物理的なエーテルでない）

しかし、物質を成長させて、たとえば同じ **nkraft** として種で生きる力。

この力が働くことができる前に、あなたはその存在を示さなければならない。

我々が化学の試薬を持ってきて、エーテルの力のための試薬を見つけなければならない。

形、形、生物のパターン、成長と関連する力であるので、それは形成的なエーテルの力とも呼ばれている。

あなたは、これに有機基層が加えられて具体化のプロセスを試みるかもしれない。

それから、機械を開発することができる。そして、それはこの力に反作用させて、それによって運転する。

ルードルフ・シュタイナーは新しいエネルギーの源としてこの力のアプリケーションの原則を概説以上に書いた、...

第3帝国に確かに先行してこれに付随する新しい機械による新しい科学の探求はドイツで比較的長い歴史があった、

Schappeller 装置または他の人が類似した理解に沿って造ったことは、ほとんど確かであるナチ期間の間にさらに開発された。

戦争の後起こったことは、知られていない。

それは、この装置は、多数の連合諜報組織の詳細な調査を逃れられなかったとみなすことができる

ドイツでドイツの科学の例を求めて徹底搜索するよう仕事が課せられる。

もう一つのフリーエネルギー機械（そのハンス **Coler** 装置であること）の場合 1978年(25)で英国人によって機密扱いを解かれ、**watson** 氏によると冷えた磁気と同じ原則を使用してどちらも働いたので、おそらく政府報告はこういうことを説明していつか、機密扱いが解かれた

その最終的な決済が来るまで、**Schappeller** 装置の面はまだミステリーのままである。

そして、より最終的な計算が来るまで、**Schappeller** 装置がドイツの空飛ぶ円盤のフィールド推進力の源として使われたかどうかの問題は延期されなければならない。

カール Schappeller の装置

情報源と引用

1.

Bahn, Peter, Ph.D. and Heiner Gehring, 1997, バーン、ピーター博士とハイナー・ゲーリング pages 120-131, Der Vril-Mythos Eine geheimnisvolle Energieform in Esoterik, 1997、ページ 120-131、Technik und Therapie, Omega Verlag, Duesseldorf

2.

Taeufer, Johannes, 1930, page 31,

Vril]

Die Kosmische Urkraft Wiedergeburt von Atlantis,

commissioned and distributed by the Reichsarbeitsgemeinschaft

Reichsarbeitsgemeinschaft によって委任されて、配布される

"Das kommende Deutschland", Astrologischer Verlag Wilhelm Becker, BerlinSteglitz

3.

Bahn/Gehring, 1997, page 131

4.

ibid, pages 120-124, 130

5.

Weltdynamismus Streifzuege durch technisches Neuland an Hand von biologischen Symbolen,1930, pages 14-15,

commissioned and distributed

委任されて、配布される

by the Reichsarbeitsgemeinschaft "Das kommende Deutschland", Wilhelm Barth Verlag, Berlin

6.Davson, Cyril W.,

1955, pages 50-59,

The Physics Of The Primary state Of Matter

And Application Through the Primary Technique, Elverton Books, London

7. Nieper, Hans A., Ph.D., 1985, Conversion of Gravity Field 重力フィールドの変換 Energy/Revolution in Technology. テクノロジーのエネルギー/革命

Medicine and society, M.I.T. 医療と社会

Management Interessengemeinschaft fuer Tachyonen-Geld-Energy GmbH,

Friedrich-Rueder-Strasse 1, 2900 Oldenburg, Germany

(available in German and English language versions) (ドイツと英語バージョンで利用できる)

7. Davson, Cyril W., 1955, pages 212-213

8. ibid, page 231

9. ibid, pages 217, 223

10. Taeufer, 1930, pages 30-32

11. Davson, 1955, page 230

12. ibid, page 226 191

13.

Taeufer, 1930, page 30

14.

ibid, page 32

15.

Davson, 1955, page 231

16.

ibid, page 231

17.

ibid, page 57

18.

Taeufer, 1930, pages 38-40

19. Clark, Richard LeFors, Ph.D. クラーク、リチャード LeFors 博士, 1987, page 64,

"The Earth Grid, Human Levitation And Gravity Anomalies",

contained in AntiGravity And The World Grid

「AntiGravity と、World Grid」に含まれる

edited by David Hatcher Childress, デイビッド Hatcher チルドレスによって編集される、

Adventures Unlimited Press, stelle, Illinois

20.

ibid

21.

ibid

22.

stevens, Henry, 2001,

"Infinite Energy", pages 9-13, Volume 7, Issue 40

23.

Davson, 1955, page 244

24.

Bahn/Gehring, 1997, page 115

25.

British Intelligence Objectives Sub-Committee Final Report 英国の情報目的小委員会最終報告

Number 1043, item number 31, "The Invention Of Hans Coler, 、 「ハンス Coler の発明 Relating To An Alleged New Source Of Power, Bryanston Square,

(Bryanston スクエア) の嫌疑のかかっている新しい電力の源に関して

London ロンドン

.この章の概要

Schauberger UFO モデルが飛んだという十分な証拠が、ある。

彼らがアメリカ政府に価値がある何かに取り組んだという評価で、Schaubergers が仕事を続けるためにアメリカにつれてこられたという事実は、つながる。

アメリカ政府は彼の水の研究に興味を持ってなかったし、農業に関して彼の仕事にもどちらも興味を持っていなかった。

我々は、それは彼の新しい形の空中上昇（彼の円盤の仕事）の仕事であった。そして、それはビクトル Schauberger と彼の息子ウォルター Schauberger をアメリカに至らせたと結論する。

彼らがそうすることができたすべてを学んだ後に、連合政府はむしろひどく Schaubergers を退けた。そして前もって、20年後のドイツのロケット工学者の待遇を示した。

ライオネル・シャピロは、戦争と戦後の年において信用でき信じられないほどコネに恵まれたリポーターであった。

彼がチェコスロバキアで秘密の兵器に関する物語を暴くことができたという事実は、それを示す

彼はアメリカ軍隊内でいくらかの関係をつくった。戦争に勝って、1946年と1947年の年は検閲の警備員がくつろいだ期間であったようである。

192

冷戦が火蓋を切ったので、この縄の輪は締め直される。

誤りは、シャピロ氏の記事またはその内容で見つからない。

KM-2 電磁ロケットに関する記事とミスターシャピロの他の話は、尊敬されている新聞（タブロイドでない）で見かけた。

KM-2 電磁ロケットの彼の戦後の報告は合法的なもので、額面どおり手にとられなければならない。

ドイツの「Magnetscheibe」の目撃報告は、アメリカ政府の出典の確認の調査を促した。

eIOS 報告と F.B.I.報告は、確認を提供した。

eIOS 報告では、我々はフィールド推進力の実験のアメリカ政府の告白が航空機のために Erb 博士によって戦時ドイツで行われたのを発見する。

F.B.I がまじめにそれをしたので、ドイツ円盤とフィールド推進力についての F.B.I.レポートはまじめにとられなければならない。

F.B.I.は、慎重にレポートをして、彼らの主題の真実性を調査した。

それから、F.B.I.はアメリカ政府内で、他の情報部に、F.B.I.報告そのもので示されるこのレポートの写しを送った。

ビュローは、レポートでこれらの年の間ずっと節約になった。

このレポートはドイツのテクノロジーを扱うが、国内法執行機関によってえられたという事実は、注目に値する。(活動が米国の中の「スパイ」に地理的に制限される)

それは、それを示すかもしれない F.B.I の『ディレクター (J.エドガー・フーバー) は、空飛ぶ円盤の本当の性質について「知らないで」おかれて、彼が情報ループから簡単に切られなかった他の情報部を示したかったかもしれない。

あなたがこの F.B.I.報告が特別な何かを構成しないと思わないならば、あなた自身に尋ねなさい、

あなたが F.B.I.のオフィスの中に入って、UFO 目撃を解説したならば、

あなたは 10 年以前に変更させる、あなたは局の反応がどうあると思うか？

まじめに対応してもらえるのか？

あなたの背景は調査されるか、そして、あなたの話はそのような広範囲な処置の対象であるか？

あなたのレポートは、40 年の間保管されるか？

または、他方、あなたは見下したような制服を着た警備員によって退室ドアを礼儀正しく示されるだろう。

このレポートの何かは、F.B.I の神経に本当にぶつかった。

ドイツ人が空中上昇を生じる化学エンジンに取り組んだといういくつかのレポートが、ある。

ドイツ人によって原子力から電気が直接作り出されたという可能性が、ある。

ドイツで英語源から、カール Schappeller 装置が問題の期間の間にドイツの中で開発されていたというなにかの証拠が、ある。

Schauberger と Schappeller 装置が内破に関して説明することができるという、そして、内破がフィールド推進力車両の後に空中上昇力を与えたかもしれないという証拠が、ある。

ドイツ人がニコラ・テスラについての考えにアクセスしたという十分な証拠が、ある。

それがもう一つの方法によって重量がなくなったあと、推進力の代替方式として、または車両を動かす方法として、フィールド推進力として、テスラの仕事はみなされるかもしれない。

フィールド推進力車両の開発がこの時に起こったことを、指示する多くの非常に類似した戦後の写真に加えて、戦時の写真がある。

193

これらの写真と空飛ぶ円盤の関連した報告に関して人は、アメリカ政府の情報部に対して、突き進む

そしてそのたち人は彼ら自身に関係するのを適当と考える。

我々が見えるように、それは情報を抑えそして、空飛ぶ円盤現象を信用させない後者のむしろ不器用な試みである、そしてそれは実際に、その存在を大いに物語る。正確な方法は、今度はもっともらしい場合がある。

円盤の推進力

確かにそれはされた」、しかし、「方法はどのようにされたのか

これらの円盤の推進力に関連して彼らが、間に合わせのものとしてだけ手にとることができる何百もの方法がある場合がある

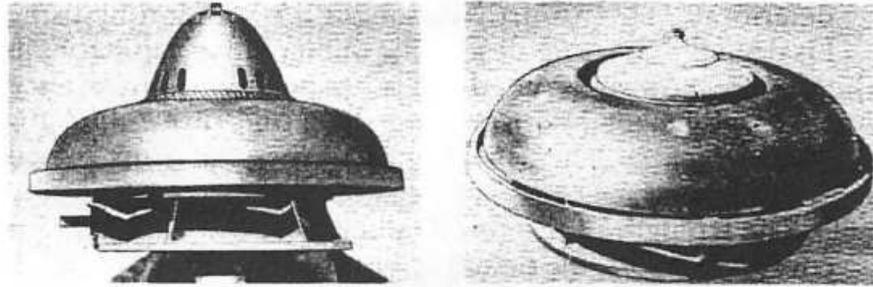
問題は「どのように、それは、されえたのか」。

194



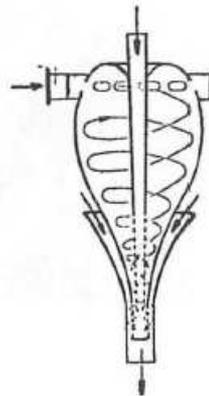
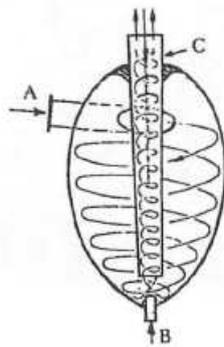
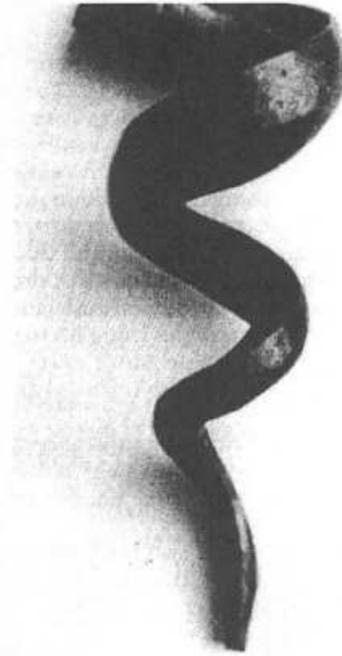
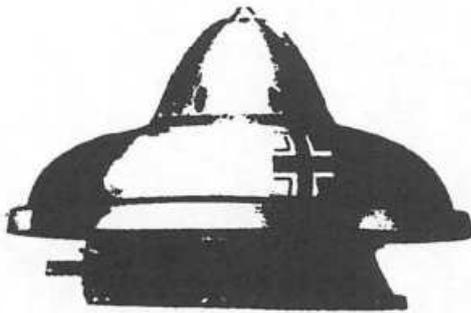
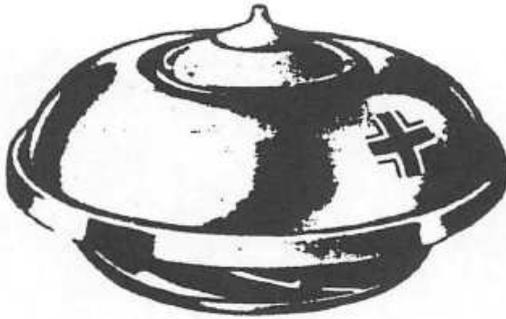
The brilliant Austrian scientist Victor Schauberger.

素晴らしいオーストリアの科学者ビクターSchaubergger。
ビクターSchaubergger の、渦円盤モデルである。



Victor Schaubergger's vortex saucer models. Left: Victor Schaubergger with a model of a home generator.

左：
ビクターSchaubergger の家庭用発電機のモデル。
上：
ビクターSchaubergger は、渦円盤モデル（南アフリカの
クーザー・ホーン(螺旋形に巻く角の笛)の影響を受けたの
である。



Above: Victor Schauberger's vortex saucer models, inspired by a kudu horn from Southern Africa. Below: Schauberger's two variations of an accelerator for nuclear fusion.

下：

Schauberger の核融合のためのアクセラレータの 2 つのバリエーション。



Above: One of a series of three photos taken by postman M. Muyldermans near Namur, Belgium, at about 7:30 PM on June 5, 1955. Project Blue Book showed little interest in these clear, daylight photos, despite the fame that they achieved.

上：

1955年6月5日の午後7時30分頃にナミュール（ベルギー）の近くで郵便配達人 M. Muyldermans によって撮られた一連の3つの写真のうちの1つ。

彼らを得た名声にもかかわらず、プロジェクトブルーブックは、これらのくっきりした、日光の写真に対してほとんど関心を示さなかった。

黒い太陽

205

量子数理神秘学とボルテックス物理学（ナチのスタイル）

伝えられるところでは、プロジェクトは戦時中のドイツのデザインに基づいた、そして、その発展は捕らえられたドイツの人員によって援助された。

16

それは驚異的に聞こえるのだが、しかし、こういう我々が遭遇したドイツの秘密の武器の前のブラックプロジェクトの方法論では非常に従来のテクノロジーと思考の型にはまらない混合以外の何物でもない。

ドイツ人が開発していたかもしれない型にはまらない物理学だけでなく、これらの従来のテクノロジーが型にはまらない方向で組み込まれたとき、何が生まれるのか？

この質問で、我々は「マーク IV」円盤タイプの入口にいる。そして、円盤はタービンと、ボルテックスボルテックス物理学とフィールド推進力の組合せに基づく。

それで、我々は同様に Kammler の「シンクタンク」のまさしくその最も深い秘密のレベルにいる。

C.ビクトル Schaubberger :

回転物理学と極端な気温傾斜

ビクトル Schaubberger（オーストリアの森林管理官と自然主義者）の物語は、空飛ぶ円盤のナチ開発の主張を調査した人には誰にでも有名である。

それでも、ニック・クックさえまたはヘンリー・ステューヴンズのような非常に注意深い研究者でさえこの物語の見逃した面がある。

これらの面は、3つの重要な領域に関係する：

(1)

「内破」による彼の関心事、気温傾度の両極端とボルテックス運動は、古代の数学的な教義の彼の詳細な研究と古代の教義と哲学のテキストの中の「隠された物理学を」結合した。要するに、SS の見解からみると物理学の領域と関係しているプロジェクトと SS イデオロギーにとって主要だった秘教的なシステムを導くのに、Schaubberger は理想的な候補であった；

(2)

彼のプロジェクトは SS に直接関係していた、そして、Schaubberger 自身の道徳的な嫌気と多くの嫌悪は強制収容所から奴隷労働を使うことを強制された。

このように、多くが見逃した、この事実は、Kammler の挑戦の軌道の中にしっかりと

Schauburger の円盤プロジェクトを置いていたということである；

16

スティーヴンズ、ヒトラーの *Flying Saucers*、106 ページ。

206

(3)

彼の「内破」物理学の含みは、信じ難いほどの力の「スーパー・スーパー爆弾」が造ることができると、Schauburger は理解した。

Schauburger の用語と考えのいくらかは従来の物理学の見地からと思われるかもしれないが、この手段は、実質的に、とても奇抜である

—彼は、結局、「ナチュラルリストで」独学の物理学者と発明者であった—

彼の考えは量子力学と、ハイゼンベルグ、クラフトまたは偉大なガーラック自身のようなエンジニアと物理学者の変った「エーテル渦」論で開発されている枠の範囲内のものと考えて、よかった

簡潔に言うと、

Schauburger の理論は、我々を一よく資金を供給されて、一零点エネルギー、回転しているフィールドと重力の関係を理解する SS の側のひどく黒い努力に戦時努力であるように見えるもののまさしくその一端に、連れてくる

1. 彼の基本的な概念

Schauburger は、彼のほとんど知られていない全く型にはまらない経歴をオーストリア政府のための森林管理官としての「正統でない物理学者」から始めた。

彼の経歴を発進させた、はっとして単純な 1 つの観察。

ある日、Schauburger は、速い感動的な流れで、マスをつりなく観察した。

マスは、適当な最小限の努力だけで、速い流れの中で動かなかった：

このひれの動きと、尾の小さな動き。

この周知であるが、ほとんどよく理解されてない事実を考えたので、彼はマスが従来の物理学が許すよりはるかに少ないエネルギーを動かさないままにいるために使っていたという実感をもった。

結局、魚は、静止するために、すごい勢いで泳いでいなければならなかった。

しかし、それがすべてというわけではなかった。

それから、Schauburger はもう一度研究し、見た目にもマスがそれほど小さな努力とエネルギーの支出で、どのように水から突然数フィート跳ぶことができるか、流れに逆らって上流にいくか疑問に思った。

Schauburger は、現象を調査することに決めた。

彼が見つけたものは、魚がなにか、彼らの静止したところで成し遂げるために温度の両極端を使用する、逆に言えば、速い流れに逆らって突然水から跳ぶようだったということであった。

分子が「縮合した」ので、これらは冷えて、熱の形でエネルギーを放った。

しかし、ハイゼンベルグ、ガーラック、Kraffi、ドイツのその他が展開していた型にはまらないボルテックス物理学の領域に、彼を連れてきた 1 つの要因を、Schauburger はつけ加えた：

それは、渦（彼が「内破」と言った運動の形）の中心の方へ、「凝縮」が自然に事実上起こるように、螺旋を描く運動によって完了していた。

故意に圧縮することによって、物質を故意にそのような運動に押し込むことだと、Schauburger はそれを推測した

螺旋ボルテックス運動を経たそれは、物質の原子と粒子をそのような状態にするかもしれない

「分離し」、エネルギーの新しい形に変える。

要するに、Schauburger が提案していたものは冷えるプラズマの形であった。そして、ボルテックス運動によってもたらされた。

Schauburger はこの種の螺旋のあらゆる種類の自然な例の研究でこの考えを補った。そして、黄金比とフィボナッチ数列を取り入れたために数学者には螺旋は有名だった。

彼自身の奇抜な方法と用語で彼の時代のどんな物理学に先立つ（従来のもとは異なる）概念で、Schauburger は「冷たいプラズマ」と低温核融合について話していた、

彼の保守的な量子力学同時代の人のようなこれらの考えは、一Schauburger を導いた人がそれを利用する方法を知るだけで、結論として、そのエネルギーは比較的無料で無限になった。

そして極端な気温傾度、回転メディアと激しいプラズマ状態への物質の圧縮について一Schauburger は、理由を知っていると思われた。

エネルギー独立に興味を持っていた仲間のオーストリア人の注意を引くという彼自身の理由のために、これらの考えを、彼は速く示した：

Adolf Hitler.

きっとアドルフ・ヒトラー「保守的な主流物理学者」、政治指導者と「異なる科学」の支持者の間でこれまでに開催された中で最もシュールな会議の 1 つでなければならぬので、Schauburger は招かれた

-より適切なことばで彼は Reichskanzler ヒトラーとの個人的な公式会見のためにベルリンに呼び出される-

かつて、Schauburger がヒトラーを受け入れたという事実から、ヒトラーがこの会議に与えた重要性の程度は、理解されるかもしれない

ビクトル Schauberger の *Natural Energy Explained* での素晴らしい研究、pp. 30-66.

208

招待のため、彼への外交文書は、1日で作られた。そして Callum コーツでの、シュールな会議を記述する：

ヒトラー…は同国人として暖かく彼を迎えた。そして、彼が完全にビクトルの研究することについてすべてのレポートをよく見て、学んだものに非常に感動したと彼に話した。

30分は議論に割り当てられた、そしてそこに、枢密顧問官の職から粗雑に追放される前の、マックス・プランク教授が科学的なアドバイザーとして出席するようお願いされていた。

結局、見解についてのこの意見交換は1112時間続いた。そして、その間、Schauberger は現代のテクノロジーとその回避不能な結果の破壊的な働きを説明した。

彼は、木、水と土の生産性、本当にすべてのものと不可欠な関係のあるこれと、

自然な運動と温度のプロセスの間をずっと対比し、完全に理解されなければならず、持続可能で生き残れる社会を構築するために練習されなければならないことを、彼は考えた。

ビクトルが彼の説明を終えたとき、マックス・プランク（その人は黙ったままだった）はビクトルの自然の理論に関する彼の意見を尋ねられた。

彼の反応は、注目に値して暴露的な声明であった。それは『科学は、自然とは無関係である』というものだった。

会議から更なる何も生じなかった、しかし、マックス・プランクの心でないならば、講義は疑う余地なくヒトラーに感銘を与えた。

SSのための円盤プロジェクトに関する Schauberger の正式な接触と研究が始まったのは、1943年であった。

Schauberger は現役勤務に適していると宣言されて、強迫されて、Waffen-SSに入隊した。

彼はハインリッヒ・ヒムラーの支配下にあった。そして、その人は新しい秘密の武器を開発するために彼に研究を強いた。

適当な宿泊設備を備えたシュロツス Schloss Schonbrunn に、近くの Mauthausen Concentration Camp の囚人エンジニアの労働者が供給された。彼が命令に従わなくて、この研究を実行しないならば、ビクトルは彼の生命の恐れがあった。

しかし、これらの脅威にもかかわらず、ビクトルは断固とした態度をとって、彼が必要としたいろいろなエンジニアを選ぶために、絶対の正当性を SS 司令部に要求した。

選んだどんな技術者でも完全にキャンプから出されて、きちんと食事をとって、通常の一般人の服を着ることにして、一般人として宿泊することになっているよう、彼はさらに要求した

これに同意しなければ、彼らは非生産的である。

18

Callum Coats, *Living Energies*, p. 8.

19 *Ibid.*, pp. 8-9.

209

量子数理神秘学とボルテックス物理学（ナチのスタイル）

彼が説明したように、彼らが命を恐れて、大きな感情的なストレスの下で生きる人々は一貫して創造的に働くことができなかった。

驚くべきことに、SSは同意した、そして、ビクトルは工場の近くの（Mauthausenの職人と小売り商の）いろいろな家に収められ20人から30人の間のエンジニアの住む場所を選んだ。

20

SchaubergのSSの許容範囲一杯の方法で彼が願った彼のプロジェクトを進めさせるうえで、SSへのSchaubergの誘導、強制収容所労働者の利用がある点は注意される、強制収容所労働者の住宅に関してさえ、Kammlerの「シンクタンク」グループの古典的なサインが、すべてにある。

要するに、これは、SchaubergのチームがKammlerの挑戦の1つの構成要素であったという非常に強い証拠である。

彼のプロジェクトのために集められた科学者とエンジニアとSchaubergの少数の人しか、彼が何を造ろうとしているか理解しなかった。

そして、正確にSchaubergが何を達成したかという基準を得ることは、難しい、彼の戦時のドイツの特許の全てが単に消えた時から、誰も知らない。

2.

彼の円盤とタービン

しかし、Schauberg自身がかかわった戦後復興の閃光として、これらの航空機が示すものはSchaubergの円盤がドイツ「吸引」円盤と本来のフィールド推進力航空機間の境界線に接近したものと見るのは確かなようである。

（全く珍しいものだが）単純なジェット・タービンに基づく家庭用電気発生器のための、戦後のデザインが存在する。

この「竜巻発電機 Generator」は、回転する羽根はなく、空洞の、アンテロープ・ホーンのような螺旋を描くチューブで、回転するタービンを使用した。

空気が、このタービンと、そのチューブに流れていくようになっており、空気のホーンの螺旋を描く運動を通して、空気は圧縮された

それが拡大されて外に放出されるまで、チューブ・タービンと装置全部で押し出される。

それから、拡大している空気は、再び圧縮される所に行きタービンを再び循環した、

20

Coats, Living Energies, ページ 11.

210

Schaubergの戦後

このような複雑なタービンの製造は、最も厳しい機械加工とエンジニアリング技術を必要

としたとあえて言うことも不必要な戦後の「竜巻」発電器、これに類似した装置またはタービンは Schauberger の戦時研究が基礎になった公算が大きい。

Coats 211

Schauberger の戦時の以下の一連の写真と概略図で「Repulsine 反撥」円盤を複製した彼の本 Living Energies で：「Repulsine」の写真

212

図 21.10

Repulsine の「圧縮」タービン

213

「Repulsine」のドイツの概略図

214

ニック・クックはオーストリアからドイツへのコーツの自然主義者の変な考えと彼の研究を通して Schauberger のコースをたどった。

彼の本で以下の通りに詳細にコメントした：

この発展の全部の要素について、存在する爆弾のテクノロジーよりも最も機密扱いの形のものにしようと思んだ。

しかし、爆弾とは異なり、これは、50 年以上の間秘密を保った。

戦争の終わって数日後に、米国のスパイは Schauberger を Leonstein で見つけて、彼を逮捕した。

それは（ナチ UFO）の正確な説明を持っていたので、これにかかわるエージェントはほぼ間違いなく情報部員であった）

一同情報部の一員であるスコダのディレクター・ウィルヘルム・フォスを拘留して、質問した—彼は全ての運用について著しく精通していた。

それは、それであったのだが：

Schauberger は後で注意したが、誰かが彼らを彼に直接案内した。

21

米情報部に Schauberger の研究の要素または、その正確な場所に、慣れ親しませるために、極めて少ない人々が適所にいた

彼らのうちの 1 人は、確かに SS の責任者 Obergruppenfuhrer のハンス Kammler であった。

クックは続ける：

その夜、私のホテルに戻って、Callum コートと呼ばれている研究者によって書きあげられた Schauberger 効果の研究に、専念した。

私は、Schauberger の研究所で彼の本の 1 冊のコピーに気付いた。

その中に、20,000rpm で回転したとき、Repulsine が起こったことの説明が、あった。

高い回転速度は、タービンをきつく一緒に通過する空気分子の分子の核結合エネルギーが、反重力効果を起こす方向で影響を受けるように見えた

『多数の電子と陽子が正反対にチャージし回転する所で、衝突して、お互いに消滅する』
点に達すると、コーツは書いた。

高い『エネルギーというよりはむしろエネルギーの低い形の原子の基本的な素材としてあり、それは物理学的存在であるというより、むしろ仮想状態としてあるので、これらは上方へ押し出される。

原子の仮想状態？それは、一体全体何を意味しているのか？

『私は、「真空」と呼び慣れている非物質化された圧縮』、見た目の「空所」と直面している

Schaubergger は、1936年8月14日に彼の日記に書き込んだ。

『私は、現在そうすることができ、これから我々自身で「何」の祈りもしない何でもつくることを、できることを確かめよう。

21

ニック・クック、*Huntfor Zero Point*、220 ページ。

215

量子数理神秘学とボルテックス物理学（ナチのスタイル）

'22

つまり、Schaubergger と彼の回転、ボルテックス概念のための真空は、「スーパー圧縮された」もう一つのものであった

そして、物質の「超冷凍化された」状態である。

いずれにせよ、伝えられるところでは、そのような Schaubergger 円盤の1件のテストは、1945年にプラハで行われた、

それは、そのテスト用固定装置から逃げ、建物の屋根を打って上へ速く飛んだ

彼の S S の支配者の並外れた許容範囲が Schaubergger に一致したと想定すれば、一おそらく Kammler 自身も「ドイツの科学的な指導者は、内破に興味を持っていた」ことは、明白である

そして、Schaubergger が彼らに教えなければならなかったことになったがしかし、彼らが必ずしもこれらの結果を成し遂げるために空気を用いることに制限されたいというわけではなかった。

その空気の代わりに、彼らは、電子的構成要素でこれらの原理を動かすことで Schaubergger アイデアを使いたかったかもしれない

我々がまもなく見えるように、これは Kammler グループの秘教的なシンクタンクの中で最も素晴らしいプロジェクトに至る。

たとえ何が言われようとも、ジェット・タービン設計での Schaubergger の正統でないアプローチは確かに誰に聞いてもひどく成功しており、一部のアメリカ人による彼の考えを発

展させる奇妙な試みの対象になったほどだった。

3.

内破と米国

見てきたように、ビクトル **Schauberger** と彼の正統でない考えは戦争終了後米情報部の注目の対象になった。

このように「アメリカの **Episode**」にあるように最も変なエピソードを出した **Schauberger** のすでに奇妙であった経歴。

24、困難

22 ニック・クック、**Zero Point** のためのハント、221 ページ。

23

スティーヴンズ、ヒトラーの **Flying Saucers**、128 ページ、加えられた強調。

24

最高で最も完全なこのエピソードの歴史は、**Callum Coats** の **Living Energies** (pp. 15- 28) にある。

その重要性についての私の解釈を除いては、ここでは私はコートツを信頼して処置する。

コートツ自身は、この期間の間のデータが不安定で細かい点に注意している：

「ビクトル **Schauberger** の一生でこの最後の嘆かわしい章に乗り出す前にそれら全てを含んだ、重要で証明できる詳細はカールのものを除いて、確かめるのがとても難しいと述べたい、

216

アメリカでの彼の滞在の間に **Schauberger** の経験は、彼がオーストリアでヒトラーとプランクとの彼の有名なおしゃべりの間の後に最初に遭遇したそれらと類似していた、

最初に、独学で、彼は、考えを表し、物理学者の専門的な言葉を備えていなかった。

このように、彼は彼自身の専門的な言葉を発明した、そして、しばしば、2つの間の翻訳は難しかった。

第2に、ナチスによる窃盗と彼の特許の消滅を **Schauberger**、はずでに目撃していた

アメリカの「友人」が彼に完全に接近することは彼にははっきり言って気が進まなかった。

最後に、**Schauberger** は、彼が造った装置の何らかの働くプロトタイプをもはや持たなかった。

25

Schauberger は、1人のカール **Gerchsheimer** によって一団の個人のアメリカの「投資家」の注意を引くよう、最初に示された、そしてその人は、1922年にドイツから移民し結局テキサスに定着して、1937年にアメリカの妻と結婚した。

コートツによると、**Gerchsheimer** は情報部で第2次世界大戦の間に米軍と関係していたように、見える。そして、結局すべての輸送担当の男として、ロジスティックスと戦後のドイ

彼は 1950 年に米国に帰国して、金属製作会社を設立した。そして、契約して NASA のためにいくつかのアイテムを製造した。

26

この能力において、Gerchsheimer は裕福なアメリカのフィラデルフィアの盗み王ロバート・ドナーの友となった。

Schauberger の仕事についての Gerchsheimer の熟知は、おそらく、ドイツで彼が情報員としてあった Counter-Intelligence 年の間に得られた、

そして、Von ブラウン博士のロケット・プログラムに対する彼の幻滅は、彼にドナーにプロポーズさせた

彼に「内破」アイデアの個人的な発達の機会を得るために、彼らは個人的にドイツの Schauburger を訪問した。

Gerchsheimer は、一激しい愛国者 ドナーにそれが来るべき数十年の間アメリカの技術的優位を確実にすると主張することによってプロジェクトを売った。

私が 2 日を過ごした Gerchsheimer とのミーティングの間に他界した。

この悲劇に関して利用できるどんな情報においても、矛盾する豊富な声明と解釈とタイムテーブルが、ある

そしてここで起こったことは、出来事の 37 年後に、むしろ問題そのものよりも、すべてを心配したのに、失敗に終わった努力のために正確に解明されることになる。」

(15 ページ) 25Ibid., 15 ページ。

26 Ibid., 16. ページ

217

バイエルンは、Gerchsheimer、ウォルターSchauberger (ビクトルの息子) とビクトルの間でようやく話をまとめた。

結局彼の考えを変えさせるため大規模な資金提供の約束でヨーロッパとの競争を勝ちとって、Gerchsheimer は、アメリカに来るようビクトルを説得することができた。

3 ヶ月のアメリカの滞在の間交渉されて、契約の一部に「ウォルターSchauberger は同意した、

物理学者と数学者は、彼の父に同行することになっていて、認められた科学的な用語がしばしば言えなかったビクトルの考えの科学的な解釈を援助するために 1 年間いることになっていた

。27

Schauberger も、彼の機械工 (アーロイス・ラナー) を信用していた。そして、その人は彼の装置のいくつかの製造において、彼と協力し、同様に米国につれていかれた。

しかし、Gerchsheimer は、ウォルターSchauberger は「彼の父の理論について多くは知らないし、理解もしていなかった」という意見だった

28

結局、2人の **Schaubergers** はダラスへ飛んで、そこからシャーマン（テキサス）に追いやられた

そこでドナーの「泊まり客」がドナーの牧場でハラルド W.トッテンと仲間になったことから見ても2人のシャウバーガーは、実質的に疑問をもっていた

Gerchsheimer は速くも **Schaubergers** の考えに幻滅するようになった。彼には、それはますますややこしい表現のように見えた。これらの懸念をロバート・ドナーに知らせ、その人は彼のプロジェクトの成功について懸念を抱くようになった。

ドナーは、専門家の科学的な意見を求めるために、**Brookhaven** ブルックヘブンの国立原子 **Research** 研究所へ飛んだ。

彼は、また、ドイツ語を話せる技術者のサービスを確保した、その（エリック A.ベールナー）は **Schaubergers** に提供するかもしれない科学的な検討のために「どんな情報でも翻訳して、送ることができる」ように、原子物理学の用語を、よく知っていた

29

8月20日から8月31日の10日間について、ビクトル **Schaubergers** は書いてベールナーに報告することに費やされた。

「適当な」科学的な用語を使用するよう試みたにもかかわらず、これらを彼自身の語で書くように命じられた。

Schaubergers とエリック・ベールナーの間の実際の物理距離と **Gerchsheimer** の調停中のため、**Brookhaven** で進行中の重要な粒子加速器プロジェクトの先頭にたったのはベールナー彼自身であったという印象を、**Schaubergers** は得た。

27

Coats, *Living Energies*, p. 18.

28 Ibid., 19 ページ。

29 Ibid., 22 ページ。

218

そして、彼らの「内破」概念に対する突然のアメリカの関心の背後にある彼らの可能性についての動機への恐れを順次拡大した。

ウォルター **Schaubergers** は、彼らのレポートを生む現場で内破を通して水素爆弾より強力な大きさの爆弾が生まれる可能性に彼らは気づき始めたことを認めた

ベールナーが彼より有力であると仮定するなら、ビクトルとウォルターが彼に供給していたすべての情報が米国政府に随時直接報告されていることを、ビクトルとウォルターは確信していた。

コーツ自身はこの可能性を軽視していたが、それに類似した「圧縮減圧」原理がノワク博士の「分子」爆弾の背後にあったことを思い出すことは価値がある、そして、それゆえにベールナーの役割の誤解と、ナチスドイツで **SS** の多くの知合いによって、このことの研究

がされていることから、彼らの懸念は、少なくなったのかもしれない、
いずれにせよ、ロバート・ドナーとカール Gerchsheimer を経た全部の「個人的な資金提供」の冒険が米軍の手にある場所と、Schaubergers の概念の原理を概説するその研究施設で設計された活動でなかったため、Schaubergers の可能性を割引いて考えることが公平であるとは、私はまったく思っていない。

いずれにせよ、会議は9月上旬にトッテン牧場 Ranch で1958年にされた。

そこに2人の Schaubergers、ロバート・ドナー、ベールナーとおそらくビクトル Schaubergers の機械工（アーロイス・ラナー）は、いた。

主に彼が受け取ったレポートに基づいて、ベールナーは、Project 内破が「存立できる計画」であるとグループに報告した。

ベールナーは「マックス・プランクの方程式 $E=h\nu$ (1900年に明確に述べられる) そして、フリードリヒハーゼンエールとアルバート・アインシュタイン方程式 $E=Mc^2$ かの適当な解釈において、エネルギーの問題の解決が、あった」と、思っていた。」

フリードリヒ・ハーゼノール



Friedrich Hasenöhl

フリードリヒ・ハーゼノール(Friedrich Hasenöhl, 1874年11月30日 - 1915年10月7日)はオーストリアの物理学者。[アインシュタイン](#)の有名なエネルギーと質量の関係式 $E=mc^2$ と同じ形の式を、1904年に発表していたとされる。

ウィーンに生まれ、ウィーン大学でヨーゼフ・シュテファンとルートヴィヒ・ボルツマンの元で学び、ライデン大学の低温研究所でヘンドリック・ローレンツのもとで研究した。1905年にアルベルト・アインシュタインが相対性理論で導いた質量とエネルギーの関係をその前年に発表していた。1907年に、ボルツマンの後をついでウィーン大学の理論物理学部長となり、エルヴィン・シュレーディンガーら、多くの物理学者を育てた。1914年、第一次世界大戦が始まると、オーストリア・ハンガリー帝国陸軍に志願し、南チロルでイタリア軍と戦って40歳で戦死した。

31

おそらく、ベールナーは考えていた

30

Coats, *Living Energies*, p. 23.

31 *Ibid.*, p. 23.

ハーゼンエールは、初めて $m=E/c^2$ の形で 1903 年に方程式を仮定した点をコーツは、正しく注意している。

(p. 29, n.

27).

ハーゼンエールの方程式は、アインシュタインのものとはわずかに異なる

それはきちんと $E=Mc^2$ である、

そこにある大文字 M は、観察された 2 つの間の質量の違いを表す

219

クアンタム Numerology とボルテックス Physics (ナチ Style)

ウォルターが彼のレポートに含めたむしろ注目に値する論文で、これらの 2 つの基本的な方程式と Planetary Motion のケプラーの第 3 の法則を関連させた論文である。

32

いずれにしても、衰えているビクトルの健康と彼の主張でできるだけ速く彼の愛されているオーストリアに返されるよう言ったが、状況は Schaubergers とドナーの間で急速に悪化した。

ビクトルが彼の考えと、発明と概念の全てをドナー- Gerchsheimer 協会に譲り渡す契約にサインするまで、ドナーは 2 人のオーストリア人の人質を基本的に拘束した。

ドナーはかなりの圧力で、ビクトルにドイツ語の翻訳を提供するよう説得されていた！

コートは彼自身言った

「私は私自身でこの文書をよく見た、そして、それは全く明確な用語で述べていて、すべてのビクトルの模型モデル、スケッチ、プロトタイプ、レポートと他のデータだけというわけではなかった

それはドナー-Gerchsheimer コンソーシアム consortium の唯一の資産になった、

、しかし、ビクトルは、その契約後は内破に関係がある何でも、完全な沈黙を約束することになっていた....

しかし、こういう嘆かわしい結果は

ビクトルのモデル、プロトタイプ、図面、詳細なデータと、

ペーペル教授の「ネガティブな摩擦」と呼ばれるかもしれないことは、現実であったことを意味するオリジナル報告を含むすべてがドナー-Gerchsheimer 協会の所有のままにしたからきている。

ビクトルの参照によると

1958年8月23/24の日付のベールナーへの彼のレポートの1つであるこのレポートが実はこのプロジェクトの要であったことは、確かめられる。

33

こういうことは、何を意味するか？

一つは、それはニック・クックが注意する反重力研究へのすべての言及が、英国と米国のプレスで消え始めた正確な期間の間にアメリカの実業家と防衛産業と米国の核研究エージェンシーが明らかに固く結びついてナチスドイツの最も深く秘密にされた研究プロジェクトの科学者の1人の論文の全てをうまく得たことを意味する

もう一つは単にそれは単に質量を表す小文字「m」よりもむしろ質量の群れに思われる。この点はひどく細かいことだが、重要なことで、公式で示されるアインシュタインの質量の意味の相違として、それはとても重要である

彼は、特殊相対論で育っている。

コーツの、*Living Energies*, pp. 24-25 はこのむしろ注目に値する考えの概要を含む。

言うまでもなく、論文は現代の26次元のストリング論の怪物でない。科学にはより多くのことがあったかもしれないことを示している

32

33 *Ibid.*, p. 27.

220

Schaubergger は、正統的な主流科学が認めるものより、多くのことを提起した、または、現代の軍事力のあり方が、議論されることを許してしまう。

いずれにせよ、Schaubergger の考えが全くボルテックスと調和することと、真空エネルギーポテンシャルの流動（または Zero Point Energy）についてのダイナミックなエーテルの考えがナチスドイツの理論的な展開の下に「正統派」、と、より少ない主流科学者によって明らかにさせたことは、明白である。

我々が見るように、これらの考え自体が試された公算が大きい。

しかし我々がその方向を向く前に、ナチ・サイエンスのさらにもう一つの素晴らしい面を調べる必要がある：

the "Death Ray."

「デスレイ」。

D. 「殺人光線」：

周知のように、ニコラ・テスラはある距離で「飛行機のモーター」を溶かすことができる高エネルギー・ビーム「殺人光線」についてのアイデアをもち、最初に米国、そして、ヨーロッパの軍の機関に接近した、

そして第1次世界大戦の間にハイデルベルク大学へ変わった導入をした

世界戦争の間、ほとんどあらゆる西側の国の、SF映画は、こうした概念を表現した、

1つの非常に人気の映画がこれまでの、典型的「マッドサイエンティスト」を演じたB・カ

一ロフによってあり、殺人光線と世界支配を調整する狂った発明者を演ずる。

類似した「バック・ロジャーズ」タイプの機械道具は、第二次世界大戦の前に英国、ドイツ、フランスとイタリアで映画に行く人を喜ばせた。

そして、ナチ UFO 神話が出てきたように、再び数人の幻滅した戦後のナチ支持者の同じサークルによって、驚くべき特別の主張は、進められ始め、仰天させるビーム兵器（モーターを停止する手段）や、電子回路を機能停止するように設計されたモデム電磁パルス武器に似ている装置（電磁的レイルガン）やそして、ドイツの不可解な武器は **Kraftstrahlkanone**（「ストロングレイ・キヤノン」）と呼ばれて働き続けていた。

装置は、ヘンリー・スティーヴンズによって最初に報告された。

34

ヘンリー・スティーヴンズ、ドイツの殺人光線の探求プロジェクト

221

The Kraftstrahlkanone Schematic Reproduced ヘンリー・スティーヴンズ著

この奇妙な様子の L 字状の武器は、ある種の結晶、そして一連の空洞のチューブから成っていて、伝えられるところではその小さな穴から出てくる各々に発生したどんな光線も、より狭い点に、限られた範囲で致命的な効果で、焦束する

どの程度、結晶があったか我々は知らない。

我々は、発生した光線の部類も知らない、

比率の減少していく空洞のチューブから見て、結晶が使われた理由が不明であるけれども、それがあつた種の音響波であつたことを指示するようである、

222

これらの理由から、スティーヴンズの再現した武器は通常非現実的なアイデアとして退けられると批評された。

しかし、物理学の非常に最近の実験と進歩で、我々は、武器がそうなつた場合があつたことを推測する立場にある、

そして、ドイツ人はその運用の背後に数十年早く-新しい原理を発見したかもしれないし、たしかに-それは、あつたかもしれない。

Waldyr A Rodrigues Jr と **Jian Yu Lu** による実験的であるものに名称を与えた非常に理論的で数学的な論文「自然における自由裁量の速度の歪められない前進性の波 (UPWs) の存在」は、1997 年 10 月に発表された。

すなわち、歪みがない波の種類---その波形の種類-----距離が離れても形または力が減少しない波形を調査することで、これらの波のいろいろな「解」は、このような波が標準的な方程式の範囲内で見つかることを、彼らは示した

35

本論文が単にもう一つの相対性の数学的な攻撃だけならば-「相対性警察」が特定の方程

式の解決を示してスピード違反の呼出状を出して—その攻撃は簡単に払いのけられるだろう。

あいにく、著者の要点は、難解な数学的なデモンストレーションと証明ではなく、むしろ、そのような波を起こす方法にある。

それに最初の注意すべき点は導波管のマクスウェルの方程式の解には光速以下と超光速に見える解を持つことにある

そして、彼らはそのような波構造の速さを計るために、生み出した単純な方法を提案し続けた

方法は、「有限の **Finite Aperture Approximation**」と呼ばれていた、

基本的に、非常に小さな穴を通して音響であるか縦の波をしぼる方法で、向こう側に出てきた、波形干渉パターンを観察して、波でなく、干渉パターンそのものの速さを計算する、。

人が開口と強さの半径とそれを通してしぼられるパルスの周波数を知るならば、人は、**Finite Aperture Approximation** 有限開口に近いものの結果として生じる波干渉パターンのおよその深さを知る。真空でさえ、均一なスカラー波動方程式、クライン-ゴードン方程式、マクスウェルの方程式とディラックとヴェイル方程式のような解を持つ。

ロドリゲス、と、lian-yu による「自然における自由裁量の速度の歪みがない前進性の波の存在：(UPWs)」で自然の自由裁量のスピードでゼロの」1 ページ

(UPWs) of arbitrary speeds O:::,。

36 Ibid., p. 4.

37 Ibid., pp. 4-6, particularly Eq. 2.7 on p. 6. 特に 6 ページの上の式 2.7

223

音響の縦のパルスの実験の結果は、著者に「これらの結果」を結論させた

....電磁気の光速以下と超光速に見える波が適切な装置で物理的に処理できるかもしれないという確信をくれた (38 Additionally に)

そのような波の干渉パターンが「かなりの距離以上で開始されることができると、この変わった論文の著者は、完全に「確信する」。

39

そして爆弾が来る：

第 2 節で記述される音響の実験の結果と共にこの事実を考慮するならば、...、更には光速以下の電磁パルスで可能だという結論に、我々は達する。そして現在のテクノロジーを使用した適切なアンテナでスーパー-Juminal X-波が発射可能である..

干渉パターンである電磁 X-波は、そのピークが速度 $c/\cos \theta > c$ とともに移動するようのものである

....問題は起こる：超光速に見える電磁波の存在は、アインシュタインの特殊相対論と対立するか??

ここは特殊相対論の長い数学的な批評をまとめる場所でないが、

彼らの実験に基づいて、ほとんど知られていない最近発見された種類の波の存在、
またはとりわけ、**wave** 波動-干渉システムこの「両方で相対性の原理の崩壊を意味すること
に注意する価値はある

41 その能動的動き...受動的状態. その変形バージョン

本論文と嫌疑のかかっている **Kraftstrahlkanone** の比較から出てくることは、明らかに、
ドイツ人が発見したかもしれず、類似物の研究を行っていたかもしれないということであ
る、

同一でないとしても、こうした現象から、現象をその他の人は、スカラー物理学の重要な
構成要素と呼ぶ：

超光速に見える致命的な力の波-システムを生じる電磁波-干渉。

どうやら、彼らは **Finite Aperture Approximation** 有限開口に近い装置を若干武器化された
形で実験していた。

しかし、なぜ、結晶なのか？、おそらく、ストレスの下の結晶は一部でよく知られている
からか、

38 Ibid., p. 7.

39 Ibid., p. 18.

40 Ibid., p. 21.

41 Ibid., p. 36.

Relativity 相対性理論のこれらの 2 つのバージョンと彼らの理論的で実験的な物理学が優
位であるとの著者の批評は、非常に数学的で、一言で言えば、考えさせる。

224

そして、音響の爆撃はストレスの 1 つの形で、圧電性の影響を通して電気エネルギーの
小さなパケットを投げ放つ。

しかし、同様に、彼らは音または「フォノン」の小パケットを放つ。

しかし、この申し立てを越えて、ドイツが「ポスト核」時代の新型の兵器の開発を試みて
いたという他の徴候が、あるのか？

ドイツ人がハイデルベルク大学で、「テスラ」技術、そして兵器と他のエキゾチックな粒子
のテクノロジーの広範囲な研究に関係していたという若干の徴候が、本当にある。

数種類の原子研究がほかならぬ **I.G.ファルベン**によって **Ludwigshafen** で実施されていた
という利用できるドキュメンテーションとしてマイヤーと **Mehner** の報告がある、

しかし、この「いわゆる『殺人光線』の研究は実際はより発展している

この研究に関する 1944 年 12 月 1 日付けのファイルでは、要員が 1943 年 7 月に
Ludwigshafen からハイデルベルクまで動かされた点に注意した。

42

43

ハイデルベルクのこの施設は完全に地下にあった。そして、高さ 8 から 10 メートル 0.75 か

ら1メートルの厚さの屋根で、約長さ50メートル 幅25メートルの広さだった。
次のページの上の図で詳述されるように、全掩蔽壕の複合施設は掩蔽壕の円周にわたる「ポリトロン」という電力回路と、クォーツでできている大きな放物線状の反射器から成っていた、クォーツ反射器、発電機とトランスの後のいろいろな電気機器のための電力貯蔵地域でスタンドの支配観察ブースの両側にいろいろな崩壊の目標が「置かれた」。
クォーツ放物線状の反射器は、厚さおよそ1センチメートルであった。

44

1998年にだけ機密扱いを解かれたアメリカの情報報告は、以下の通りにこれと類似した装置で行われた実験を記載した：

実験：

実験は、大きな、高さ6mの精巧な原子核破壊装置を各々含んでいた。(その主要な特徴は4つの「Spruehpole」(ポジ面)と1つの「Fangpol」(ネガ面)があった)

石英管をとおって自由な陽子はSpruehpoleに、運ばれ、水晶板から最高800m遠くのマイヤーとMehnerによって置かれた物に「発射された」これで対象物の完全な崩壊が起こった...

この種類の最初の2件の実験は...12月と、1月に起こった

42

Die Atombombe und das Dritte Reich, 73 ページ

p. 73, my translation. 私の翻訳。

43 Ibid.

44 Ibid., p. 75.

225

Quantum Numerology and ボルテックス Physics, Nazi Style

量子数理神秘学とボルテックス物理学 (ナチのスタイル)

43

44.

1個の、鋼の10cmの立方体(等級STOOI2)は、10分の4秒以内に崩壊した、
2回目の実験の対象は、「光線」が表面に最大にぶつかる可能性があるように、タイルを張った大きな石英管に含まれた、水であった。水は、10分の2秒で消えた。同様に約75匹のネズミか消えた最も素晴らしい実験は1944年4月上旬に実施された。

実験はクォーツ侵入禁止地区の観察塔 the quartz-enclosed observation tower から写真を撮られた、そして、PWは煙または炎の跡がなかったしどんな灰も鉄のプレートの上に残らなかったと主張した。

彼のこの物理学の法則違反の推定による説明ではネズミがどうもガスになったということである。そして、それは鉄のプレートに吸収された。

PW's evaluation:

PW の評価 :

PW doubts that the principle

PW は記述された実験に、関与したとする原理は疑われる

上記は、2 年未満で軍事利用に適したものにすることができた。

装置はとても複雑で、すぐに動かすにはあまりに大きい。

この実験は、テスラの直流インパルス実験でのずっと洗練された高圧直流の形の場合のように米海軍アーク溶接施設でのツールならびに器材の変った偶然の消失のようなものに聞こえる、

それは、第 2 次世界大戦の間にほかならぬ T.タウンゼンド・ブラウンによって導かれる調査を促した。

実験はおそらく、**Zero Point Energy** 装置と呼ばれていることもできた装置でドイツ人がいろいろなテスラの実験をしていたといういくつかの徴候が、強くある」。

45

46 E.

ゼロポイントエネルギーとスカラー物理学の実験の徴候

1978 年に、英国政府はドイツの海軍エンジニアの発明者 (ハンス Coler (またはケーラー)) によって考案された 2 つの奇妙な回路についてようやく英国の **Intelligence Objectives Sub** 委員会 (BIOS) はレポートの機密扱いを解いた

45

Harald Hth, **Geheime Kommandosache- S III Jonastal und die Siegeswaffenproduktion: Weitere Spurensuche nach Thiiringens Manhattan Project**, p. 107. .

46 q.v. my **Giza Death Star Deployed**, pp. 212-214.

226

ドイツの海軍エンジニアと発明者「ハンス Coler によって考案される、新しい電力源と推定される発明」と表題をつけられる、**B.I.O.S.**

最終レポート no1043

項 No.31 (1946 年夏)

このレポートはほかならぬシューマン博士 (地球のシューマン響きの発見者) の後援で世界戦争の間にベルリン大学で実行された 2 つの見知らぬ回路の、テストと調査結果から成っていた。

47

単なる一瞥で装置がなぜドイツ海軍の即時の注意をひいたかを説明する。それは海底での推進力のための静かで無限のエネルギーの可能性のある電源と分類されたからである。。

Rys.1

Rys.3

Coler Coil

コイルと磁石と 2 つの「回転」下位-回路のこの六角形の建設は、全く電力の源を持たないことは注意される。

それでも、それは、生産にもかかわらずまたは、よりよく、変換するが一見どこからともなく、原動力をえるが、Coler とシューマン博士には不可解とされた、

47

レポートは、Integrity 調査研究所によって再版される、

1422 K Street NW, Suite 204, Washington, D.C. 20005.

227

またドイツ人が手にとったこの装置はその問題のために、英国人は戦後 20 年半の間、それを手にとった

彼らとその機密解除までに取り組まなければならなかった問題はどうか知られていることはほとんど、ない。

珍しいことは、シューマン博士が 1943 年ぐらいの後に「バッテリー」の秘密のドイツの研究と関係していて、Paperclip 作戦の一部としてアメリカにその後連れてこられたということである。

ハンス Coler の装置が「その発明者の側の誤りでない、いたずらでないまたは詐欺でない」を示す点に、1926 年に注意したのは、この同じシューマン博士であった。

48

そのような「フリーエネルギー」装置は第三帝国のリーダーシップも気付いては—その目撃者はヒトラーと（プランク）の間の会議である、そして SS の注意も、特に Schaubergger—その他にも非常に早く来たようだった。

テスラ自身が作った「インパルス拡大トランス Magnifring Transformer」の類似物であるテスラコイルを含んだパルス装置が、疑い深く、造られた。

49

ニック・クックによって見つかри、彼の「Zero Point のためのハント」に記述されたもう一つの装置にそれは似ていることから、そのような装置は詳細な調査に耐える。（いわゆるカール Schappeller Device）

この変わった装置は、以下の通りにヘンリー・スティーヴンズによって解説されている：

Schappeller 装置は、2 つの別々の装置、実際ローターと固定子から成る。

固定子は、以下の通りに造られる：

その表面は丸いか球形である。そして、鋼の 2 つの半分にされた-シェルから成る。

これらの半分-シェルは内部構造を含んでいて、気密である。

鉄棒磁石が、各々の半分-シェルの各々の「極」に付けられる。（その構造はほとんど内部につけられている）

これは、大半の磁石が鋼のボールの内部にあることを意味する。（他の反対側にも対抗して 1 つある）

まさしくその、2つの棒磁石の間の中心にスペースが、ある。

セラミック材質の絶縁体は、空洞の中心地域を残して鋼のボールの内部に置かれる。

この空洞の領域の中と、磁石の間のスペースのまわりに、2つの内部のコイルは回されている。

これらは棒磁石柱で始まる、そして、各々は球からローターにリードして球の中心の接続端子で終わる。

「エレクトレット」と呼ばれている特別な秘密の物質で満たされた空洞の銅のチューブから、これらのコイルは成る。

その部分を去ると同時に、エレクトレットで満たされた銅のチューブは、従来の銅のワイヤーにとって代わる。

48

Henry Stevens, *Hitler's Flying Saucers*. pp. 168-169. ヘンリー・スティーヴンズ、ヒトラーの *Flying Saucers*。

49 *Ibid.*, p. 168.

228

外層からの1本の棒から特別なバッテリーの1本の棒まで電気接続は行われる。そしてそれは他の棒で地上に釘づけにされる...

このエレクトレットは、球の中の永久磁石である.....

Schapperer のエレクトレットの実際の構成は秘密のままである、しかし、もう一つのエレクトレットは江口元太郎教授によって作られた。

それは *camauba* ワックスと樹脂から成る。そして、また、おそらく若干の蜜蝋を含む。

それがゆっくり焼いて固まる間、それは強い電界に保たれた。

50 o

Schappeller コイルまたは装置 50

Stevens, *Hitler's Flying Saucers*, p. 177.

229

Schappeller 装置とその活動に戻ると、Schappeller が「中立の領域」（棒磁石のブロッホ壁と呼ばれている）両極性が「北」「南」でもない所は、Schappeller にとって大きな関心と重要性があった。

なお、Schappeller デバイスでは、2個の磁石の間の空の領域が、中立のこのブロッホ壁に一致する。

装置が作動に入る時、接地することで帯電する領域は、この「中立の領域」である。

結果は、「新しい種類」の磁気である、

輝く磁気、そしてそれは、Schappeller の通訳によると、電気は動かない、そして、磁気が発散する。

51

52

ブロッホ Wall で、「0 磁気の点は回転ではなく磁気の逆転する点であると、Schappeller は推理した、重力の形で、エネルギーは入って、放散される。1 人の解説者によれば、このように重力は **quadropole** である。(2 本の極よりもむしろ 4 本の極で) (プッシュ押し出す力として 360 度に放散される)

53

しかし、ほとんど知られていないが、Schappeller で驚かすことは、彼の言った大部分の事はとても革命的であったことだ。

そして、先見の明があって、熱力学に関する見解は、(彼の時代に彼を変わり者として退けさせた見解は) わずか約 35 年後に、物理学と化学研究の刺激的な新しい領域になった。

その領域は、非平衡熱力学とシステム動力学である。

Schappeller は、熱力学の第 2 法則について言うべき何かを持っていた。

第 2 法則を反対に動かすもう一つの未知の熱力学サイクルがあると、彼は言った。

この考えを挙げるために、我々はそれを「逆の熱力学」と呼ぶ。

エントロピーの増大に至るという点で、それは熱力学の第 2 法則と反対である。

そこでは秩序の増加だけでなく、寒さの増加もある！

…は後で、主にこの反熱力学の主義を示すために、彼の球面装置を造った。

それは、実用的な機械として設計されなかった。

Schappeller と Schauburger は、

生命のない生気のないプロセス (我々が知りに来た物理学) でなく生命のある、創造的なプロセスに物理学が基づくことを意味していた。

しかし、熱力学に関する Schappeller の見解は、本当に革命的だった、

そして、イリア・プリゴジンが彼の開拓者的な仕事のために正確にノーベル化学賞を獲得する 1977 年の若干数十年前のことである

54

51 Stevens, *Hitler's Flying Saucers*, pp. 178-179.

52 Ibid., p. 179.

53 Ibid., p. 181.

54 Ibid., p. 182.

230

明らかにシステム自身を組織する原理で高い非平衡になる。

新しいパラダイムは、はっとして単純であるが、広範囲にわたるそれは、簡単なものになる

特に肛門のシステムについての平衡は、物理学で非平衡と入れ替えられた。

55

56 ysIS.

1. RAM 4-波を混ぜる RAM Four-Wave Mixing

Radar Absorbent Materials (RAM) のプロトタイプの実験については、以前に、言った。トム・ビアーデン中佐 (USAF、Ret) によると、1945 年後半のドイツ人が発見したこれらの実験では、そのような非線形材料のレーダー波は、超光速に見える、縦の「圧力」波の現象に終わった。

その際に、主にマンハッタン計画の保護の中、連合研究所で仕上げられていた「線形」物理学の慣例を越えて、ドイツ人は物理学の範例を遠く限界を超えて持ってきていた。

ここで集められた情報を考慮すべきだ：

- (1) 彼らはエーテルの概念を拒絶せず、むしろ、19 世紀の静的エーテルの考えをダイナミックなエーテルと入れ替えた；
- (2) (2) それから、このエーテルはボルテックスのいろいろな形態的な組合せを通して力と従来の物理学の粒子を引き起こすよう、構造を回転させるように、考えるその主義方法は非線形で、一言で言えば、全く位相的だった；

55q.v.

イリア・プリゴジンと G・ニコリス (Non-Equilibrium Systems 非平衡システムの自己組織化)：

消散構造から変動を通しての秩序まで (J. Wiley & Sons, New York) 1977、(J.ワイリー社、ニューヨーク) 1977。

56

私は、Krasnoholovets と Bounias によって書かれた Great Pyramid と最近の位相的な論文の研究で、このパラダイムの重要性を調査する。

231 量子数理神秘学とボルテックス物理学 (ナチのスタイル)

231

Quantum Numerology と ボルテックス Physics, Nazi Style

(3)

(3) 「第一の物質」またはエランビタールまたは「Vril」はオカルト的な教義で、あるいは、たとえどんな人が一方で、その、構成概念を Zero Point Energy と呼んでも、これらの見解は両方が同時に関係していた

それは、量子力学 (とくに「ドイツの」、「アーリア民族の」科学) の方程式から生じた；

(4) 彼らは慣習によらない組合せでエキゾチックな考えでテクノロジーを追求していた。そして、その最も顕著な特徴は以下の集中としてまとめられることができる：

- (a) 高電圧パルスと「焦点に集まる」効果；
- (b) 高い回転数 rpm のタービンとその他のそうした回転装置；
- (c) 非平衡
- (d) apparati の有限開口； Finite aperture apparati；

(e) 放射能と核粒子研究;

(t) 非常な爆発性の破壊力を発生させる方法として;物質の密度状態に関する温度の両極端な影響

(g)。

そして、最後にクォーツと他の結晶を使用してこれらの効果の一部を生み出す

57

この事実を考慮して、ドイツ人が戦争の間に行った最もセンセーショナルな実験に、我々は現在接近する。装置は簡単に「ベル」、と呼ばれた、そして、それに衝撃をうけて啞然とする発見者はニック・クックであった。

2.

1960年代にG・フォードの映画「**Brotherhood**の「ベル」、」で若いダブニー・コールマンは、政府職員として小さな部分を演じた。

映画は、伝えられるところではアメリカの社会と政治の場面の背後で、研究補助金を操って、協会の指揮をコントロールする秘密結社についてであった。

映画の中で、フォードはこの協会のメンバーを演ずる

ソサイティが彼に与えたすべての好意で、彼の「借用証書」は出されている

そして、ファームホールで人工ルビーについての **Korsching** の変わったコメントを裏切ることを強いられて、この事については撤回しなければならない。

57

232

ハンガリーの友人が命令で友達の重要なアカデミックなポストと補助金とは関係がないと言う。

彼の友人は、**Hlavaty** 博士と呼ばれおそらく才能のあるハンガリーの物理学者に基づいていて、おそらく、映画の **Hlavaty** 博士がそれほど虚構でなかったと、私は常に思った

ヴァーツラフ **Hlavaty**、は、**Unified Field Theory** の 6次元解決を試みた

それは、アインシュタイン博士とは無縁だった。

その仮説の真実がどうであれ、「ベルのブラザーフッドの関係」が特定の種類の研究を抑えるというより別の目的のために、または、少なくとも存在しないと思われていた点に注意することはおそらく面白い。そして、それは世間の目の中に入らない。

それから第2次世界大戦の間に、「ベルのブラザーフッドの関係」があったことは思いもかけないこととしてはならない、なぜならば、ドイツ人が実験していた最も変な物の 1 つは単に「ベル」として知られていた装置であった。

この装置はとても敏感で、秘密だった、

より前に地域のロシアの占領によって、**Lower** シレジアの地下秘密の研究所が空にされたとき、**SS** は—おそらく **Kammler** の命令でおおよそ 60 人の科学者に発砲した-

それは、この変な物と関係していた。

58

ベルは明らかに 2 本の逆回転するシリンダーから成って、その一般的な形の点でベルに似ていた

それは高さおよそ 12~15 フィートで、直径およそ 9~12 フィートであった。

59

この装置に、「Xerum 525」またはただの「血清 525」として知られる物体に見える未知の紫がかった金属的液体が、注がれた、

58

59

明らかに、装置は、電氣的に高速に、なんとかして機械的に回転することで、同様に回転した。

結果は、その有機物はベルのフィールドの中に置かれて数週間ではない時間の中に、速く、腐敗なしで黒いベタベタに崩壊した

、そして、最後に、ちりに分解する（問題の範囲内で）

Bell から生じたフィールドは、とても強かった、

その初のテストの技術者と科学者を含むすべては殺された。

その後、ベルは一度に 1、2 分の間作動されるだけだった、そして、レンガを敷かれた部屋の地面の下におかれた、

58 ニック・クック、Zero Point のためのハント、187 ページ

ベルとその不可解な特性に関するより完全な議論のために、私の Giza Death Star Deployed (pp. 121-128) を見なさい。my Death Star Deployed, pp. 121-128.

59

クック、前掲書、pp. 191-193 233

量子数理神秘学とボルテックス物理学（ナチのスタイル）

セラミックタイルでタイルを張られる。（それから厚いゴム・マットでカバーされた）

各々のテストの後、マットは燃やされた、そして、部屋は塩水で強制収容所収容者によって洗った。

60

クックが供給されたベルの収納ケースを示されたとき、彼はその高い電気消費量も知らされた

.61

「Xerum 525 は不可解なもの？」であったこと

鉛の並べられたシリンダーに保存されなければならなかったこの物質について最初に読んだとき、私はそれが水銀の放射性同位元素のように聞こえると最初思った、

または何らかの解決のために多少他の放射性物質がつるされていると仮定した。

最近ではそれ自身で、強力な従来の爆薬で、おそらく、原爆を爆発させることの必要なし

で熱核弾頭を爆発させる源になり、いわゆる「レッド・マーキュリー」または酸化水銀アンチモン酸塩の特性を発している中性子だという、主張が浮上した。

不可解な物質がたとえ何であったとしても、それは非常に放射性があり、そして、ドイツ人がそれをとても高い機械で電気回転させたことは明白なようである

結果として生じるフィールド効果を調査するために、クックのアドバイザーがそうすることができた効果は、「ねじれ」フィールドとしての資格を得ただけである。

これらのフィールドは、一部の現代の物理学者によって重力と、時間の研究に直接的な関連があると考えられている、

62

63

ベルの地下テスト掩蔽壕の近くに、ドイツ人は大きなコンクリートのヘンジ環状列石のような構築物を建設した、

ハイグレードの鋼フックのある柱で、とても強力な推進力装置にちがいないことが明らか
なテスト・フレームである。

何が、ベルに起こったか？誰も知らない。

Karnmler のように、それは戦争終了後完全になくなっている、そして、すでに述べられたように、それが（そして、彼らが）見つけたどんな貴重な秘密でも守るために、その科学者は **SS** によって男性に殺された。

しかし、この事については、ニック・クックの本の出版より前の年、有名な SF-恐怖-スリラー著者に我々が注意することは、おそらく面白い

ディーン・クーンツは **Lightning** と呼ばれている小説を発表した（ジャンルとスタイルがとても有無を言わさぬほどにユニークな）、時間の戦時中のドイツの実験であったテーマは（偶然にも（？）、シリンダーを回転させて成るそれ）を機械加工する！

この本の次の最終部分で発見しなさい。ベルは非常に一般的状況の下で再び浮上したかもしれない。（奇怪でないならば）

235

60 クック、前掲書、192 ページ

61 Ibid., p.p.

182-183, 197.

62 Ibid., p.p.

192、194

63

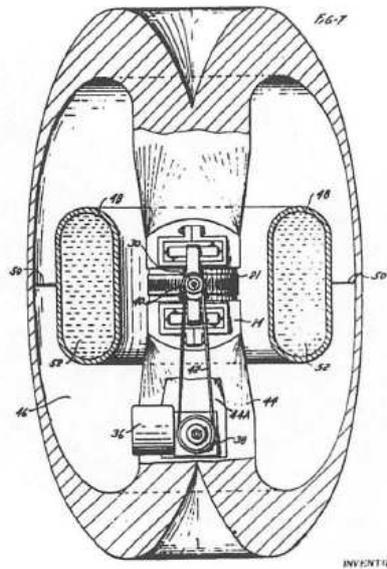
234

235



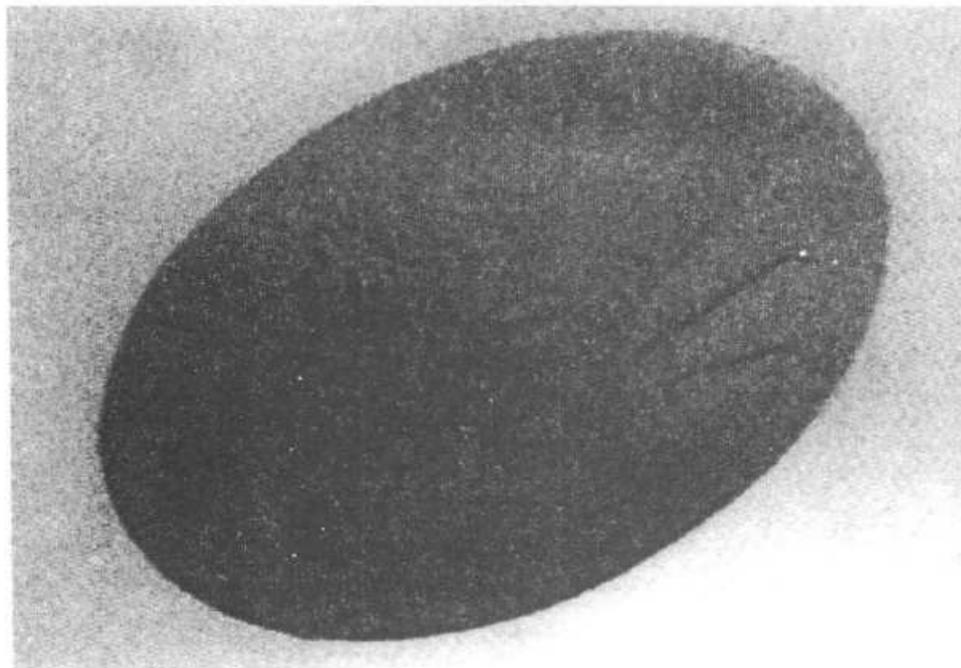
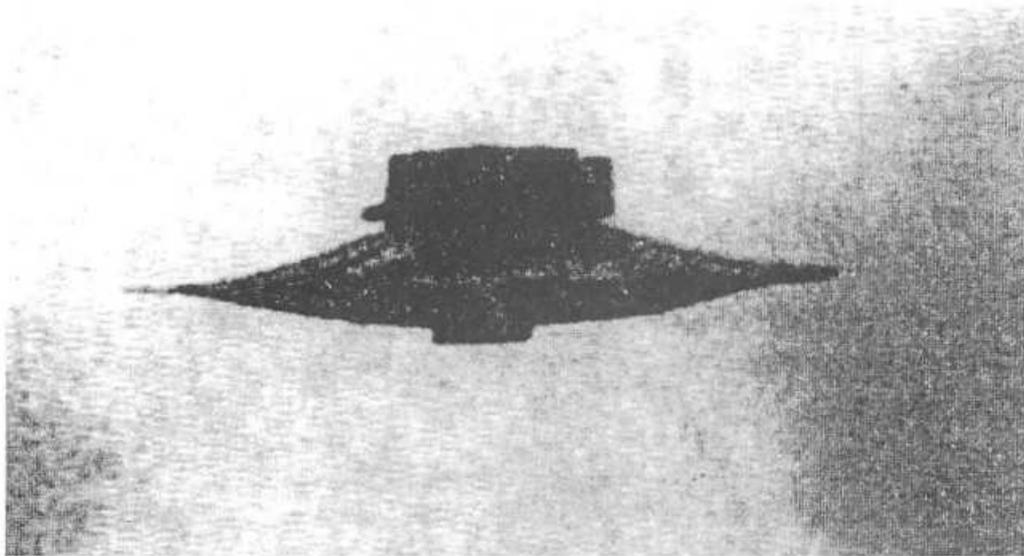
Above: A cylindrical-appearing UFO photographed over Torrance, California in 1967. Possibly part of the southern California testing of US military modifications of German designs?

Dec. 14, 1971 H. W. WALLACE 3,624,605
METHOD AND APPARATUS FOR GENERATING A SECONDARY
GRAVITATIONAL FORCE FIELD 8 Sheets-Sheet 4
Filed Nov. 4, 1968



上：
トーランス（1967年のカリフォルニア）で
写真を撮られた円筒形の UFO。
おそらくある程度ドイツのデザインの米軍
修正のための南のカリフォルニア・テス
ト？

Above: A 1968 patent granted to H. W. Wallace for a "method and apparatus for generating a secondary gravitational force field," exactly the kind of engine that the Germans were allegedly developing during WWII.



Above: Two photos of a “Vril-7” saucer in flight, according to Polish historian Igor Witkowski.

上：「第二の重力フィールドを生み出す方法と装置」のために H. W.ウォレスに与えられた 1968 年の特許、

正確に伝えられるところでは、ドイツ人がそういうエンジンを第 2 次大戦の間に開発していた。

上：飛んでいる「Vril-7」円盤の 2 つの写真（ポーランドの歴史家イゴール・ウィトコフスキーに従う）。

第 5 章 :

LORE AND LOOSE ENDS:

伝説と未解決の問題 :

A DISCUSSION OF GERMAN

ドイツに関する議論

SAUCERS

円盤

Secrets of Cold War Technology: Project HAARP and Beyond

冷戦技術の秘密：プロジェクト HAARP の向こうに

By: Gerry Vassilkatos 著

本の短い要約：

目次：

プロローグ シンボルとモデル

第1章 N・テスラと放射エネルギー

第2章 Marquese グリエルモ・マルコーニとラジオ波

第3章 優れた指令と民営化された軍事研究

第4章 核武器類と核のハイブリッド

第5章 レーダーEMP と ionosscatter 技術

第6章 軍事 VLF と ELF 技術

第7章 オーロラエネルギー研究

第8章 軌道調査放射線技術

32 ページから：

RADIANT ELECTRICITY

輝く電気

連続した実験を通して、テスラは彼の効果の達成に関するいくつかの事実を発見した。最初に、疑う余地なく急速充電効果 **abruptness** の原因を見つけた。それはスイッチ閉鎖（「閉鎖とブレーク」が非常に早いもの）にあった。そして、それはスペースに影響を出す。影響は、時間（インパルス時間）と明らかに関連があった。第二に、テスラは充電するプロセスが一つのインパルスで起こったことは避けられないとわかった。流れの反転はありえませんでした、他に、効果は現れません。これで、テスラは火花-放射性回路に、容量の役割を記述し簡潔に注意をむけた。彼は、効果が崩壊するものと発電機の間にはコンデンサを

置くことで強力に強化されるとわかりました。相当な力と効果を提供する間、コンデンサの誘電体は発電機ワインディングを保護するのに役立った。テスラはこの現象の作業中にまだプロセスに自信がなく、その拡大と利用にとって必要な経験的理解を求めた。彼は、この予想外の効果の重要性を実感した。すでにその変で不思議な新しい現象の完全な可能性は、彼の心に穴をあけアイデアをもたらし、新しい可能性を提案した。彼は、完全に新技術が展開しようとしていると公表したイベントの後、交流の研究開発を断念した。

効果はまた、電圧を上げることによって、新しい、より強力なレベルに、大いに強められた。そして、スイッチ「make-break」率を速めて、スイッチ閉鎖の実際の時間を短くした。これまで、テスラは一方向性インパルスが発生させるために回転円環接触スイッチを使用した。この機械的パルスシステムではより大きな効果を成し遂げられないので、テスラはもっと「自動的」で強力なものを求めた。彼は、特別な電気アーク射出装置にこの「自動スイッチ」を見つけた。彼の新しいアークメカニズムによって双子のコンダクターに適用され DC 発生器の高圧出力がうまれた。そして、非常に強力な永久磁石が放出経路の横におかれた。放出アークは、この磁場のそばで自動的に、そして、絶えず「放射された」。

要求どおりの極めてまれな結果を得るためには、コンデンサに接続するワイヤー線は、一方向性スタカート形式で受けて、獲得した静電荷を放出するように選択をされねばなりません。本当のテスラ回路はきわめてパルスジェットに似ており、そこで、背圧は決して突進する流れを止めません。静電荷は、最大に上がって、ずっと速く放出される。回路への発電機圧と、恒常的な高電圧のアプリケーションは、継続に保険をかけ「迅速な放出」が、得られる。テスラ効果はここでのみ観察される。パルスは、発電機から文字通り装置の中を流れる。コンデンサと、取付けられた崩壊させるワイヤー線は、振動バルブ flutter valve.として機能する。

[回路に電磁石を含むというノート。ハンス Coler. Methernitha. スパーキーシート。その他]

テスラは、インパルスの時だけ各々の簡潔なスペクトルの効果があるとわかりました。これらの効果は完全に特徴的でした。そして、全く自然では決して感じられない変な付加的性質が与えられた。さらに、各々がインパルス範囲に達するか、交差したとき、テスラは異なった色の変化を放出スペースに観察した。ミステリーは、見られた放出彩色の前に長く残りました。インパルス（各並み外れた 0.1 ミリ秒の期間）の連続性は、苦痛と機械への圧力を生じた。この輝くフィールドは、フォース・フィールドがこれらを放射し、物は目にみえて振動し、動きさえした。細いワイヤー（輝くフィールドの突然の爆発にさらされる）は、蒸気となって爆発した。100 マイクロ秒以下のインパルスが発生されたとき、苦痛と身体的な動きは終わりました。この後者の事項は、驚くべき武器の可能性を提案した。

1.0 マイクロ秒の期間のインパルスでは、強い生理的熱が、感じられた。インパルスの更なる縮小は、部屋と真空球体を白色光で満たす自然発生的な照明を持らした。これらのパルス頻度で、テスラは日光の中に通常混じる固有の電磁エネルギー効果を刺激することができた。より短いパルスは、部屋を涼しくし微風を生み、ムードをよくしました。インパルスの縮小の限度はなかった。

高周波ハーモニックな交流を自由に使うことは、オリバー閣下ロッジが大衆化しそれ以後、マルコーニラジオ波の中に具体化した。このインパルスエネルギーだけは誰も、複製することはできませんでした。

少数の人しかテスラが配置したパラメータの絶対の必要性を理解しなかった。少数の人しかこの効果を複製できませんでした。これらの事実はエリック・ダラードによって説明され、彼はまた、テスラが主張した奇妙で異なる結果をうまく得た。

TRANSFORMER

トランス

1890 年までに、激しい実験とデザイン発展の段階の後、テスラは輝く電力流通システムの実際的な配備のために、必要な構成要素をまとめた。テスラは、すでに 100 マイクロ秒以下のパルスは感じられず、生理的害がないという素晴らしい事実を発見した。彼は、送電の力にこれを使う予定でした。さらに、100 マイクロ秒のパルスの波動は、全ての物質、石を通し、電気エネルギー送信に

びったりの形で、大国から貧窮者の都市の鋼とガラスを通り抜けた。テスラは、特別に調節されたエネルギー・フィールド（相互影響なしで物質に浸透したベクトル）は、歪曲しないことを理解した。

テスラは、同じ年、とても驚くべき発見をした、磁気崩壊させたものの近くに、シングル長い銅の螺旋コイルを置くと、長さ約2フィートのコイルは、固い銅パイプや他の物のようにふるまいませんでした。

[パルス幅を定める。]

36 ページから：

コイルの壁からは、白い火花の膜が **ensheathed** されました。このコイルの頂部から非常に長い白銀の流れが波打ち、柔らかい放出だが電圧はかなり上がったように見えた。

螺旋形のコイルが崩壊したワイヤーを巻いたヘリカルコイルが範囲内に置かれたとき、これらの影響は大いに強められた。この「**shockzone**」の中で、コイルの始めから終わりまで、表面におこる爆風で、螺旋形のコイルは、囲まれました。しかし実際に起こされた **shockwave** は囲む空間から引き離されるよりも、コイル表面にしがみつ়ことが、奇妙に魅力的で優先であるように思われました。**shockwave** は、ワインディングコイルに直角に長くたれ、信じられない効果が発生しました。

螺旋コイルの頭部から飛び出す放出の長さは、全く理解できなかった。

1 インチの磁気領域の中の崩壊させる放出で、白い **fliinmering** している放出は、螺旋コイルから2フィート以上の長さまで上がった。

この放出は、コイルの長さに等しかった。それは、予想外で聞いたこともない変換でした。

この現象は事実上ほとんど「静電的でした」この状況で彼この考えを使うとき、学界がこの学説を理解しないのを知っていた。彼の **shockwaves** で、静電エネルギーは変動しなかった。

爆発的な **shockwave** には、他のどの電気機械とも違った特徴が存在する。また、テスラは短い瞬間 **shockwave** が爆発的に現れるとき、他のどの既知の電氣的な

発現よりも、ちょうど静電摩擦機械の場合のように静電界に似ていると述べた。電流と磁気を取るに足りないにもかかわらず、非常に高エネルギー化されたフィールドの構成要素は、力線を放射する際、空間を満たす。この『誘電体』フィールドは、通常空間を通過して遅い成長で充電される。DC 発生器が高電圧を提供するケースが、これでした。

この電圧は銅の絶縁された輪を満たした。そして、その最大値に増大した。回路の全ての値がきちんと釣り合うならば、テスラによって定められた方法で、突然の崩壊がそこに起こるはずだ。この崩壊は、必然的に、輪を満たすために要求される間隔よりきわめて短かった。磁気崩壊させるアークが消えるとき、崩壊が来ます。回路がきちんと組み立てられるならば、交替バックラッシュは決して起こりません

充電とインパルス放出のこの一方向性連続は、非常に見慣れぬフィールドが外に広がる原因となる。「どもっている』か『スタッカーの」静電界に漠然と似てはいる。しかし、彼はこれらの期間、装置で実際に測られた状態を満足に記述しなかった。そして、強力な輝く効果が全ての **expectable** 期待可能な静電値を上回った。これらの放出比率の実際の計算は、不可能であるとわかった。標準の磁気誘導のトランス規則では、テスラは莫大な電圧掛け算効果を説明することができなかった。従来との関係で失敗すると、テスラは、経験的な決定が、明らかに必要とされ、効果が完全に輝く変換(ラディエントトランスフォーマー)の法則によると仮定した。これ以降、放出長と螺旋コイルの特質の寸法との、新しい必要とされる数学的な関係を提供した。

彼は、1つの輝く **shockwaves** に基づく新しい誘導法を発見した

[OK、もう一度その最後の大きな 1 節を読んでください。 **Methernitha** スイスの M-L コンバータとニューマン・モーターについて考えてください!!!]

37 ページから :

分割された物に遭遇すると、実際に自動的に強める **auto-intensified**。分割は、行動をリリースする鍵でした。輝く **shockwaves** は、螺旋に遭遇して、端から端まで、外の表皮を「おおった」。この **shockwave** はまったくコイルのワインディングを通り抜けませんでした。そして、コイル表面を力の面とみなした。ガス

圧が絶えず正確に増加して、ヴェントゥーリ・チューブを通り抜けるとき、**shockwave** パルスは自動的に強まりました。(auto-intensified)電気圧力の一貫した増加は、コイル表面に沿って測られました。本当に、テスラは電圧がしばしばコイル軸の表面の1 処方インチで、驚くべき 10,000 ボルトに、増やすことができると述べました。これは、初めに 10,000 ボルトを計測された 24 インチ・コイルは、輝く **shockwaves** を吸収することができ、以降最大で、240,000 ボルトまで上げられることを意味しました！電圧のそのような変換は、このボリュームと単純機構で聞いたこともなかった。テスラは、出力電圧が螺旋コイルのターンの数が抵抗と関連があるということを示した。より高い抵抗は、より高い最大電圧を意味した。

彼は、特別な「プライマリーコイル」を崩壊する線にし、「二番目の」彼の特別の、**shockzone** の範囲内に置かれるヘリカルコイルに言及しました。しかし、彼は決してそれが電磁気トランスと同等視するつもりはありませんでした。

この発見は、完全に磁気誘導と異なりました。彼がこの異国風の声明をする本当の理由が、あった。完全にテスラを困惑させた特質が、ありました。テスラは、これらの長い銅の二次コイルに 0 の状態を見ました。彼は、現れなければならない流れは完全に不在であると確信しました。純粋な電圧は、コイル表面の各々のインチとともに上がりました。テスラは、絶えず彼独特の「静電誘導法」（少数の人しか理解しなかった原則）に言及しました。テスラは、崩壊するものと第二のコイルの結合されたものを『トランスと呼びました』。

テスラ・トランスは磁電気装置ではありません、彼らは輝く **shockwaves** を使います、そして、流れなしで純粋な電圧を発生する。デモンストレーション・ホールでサー・オリバー・ロッジのそばで通常使用された装置や、N・テスラ以外によって仕上げられた装置の直接的な結果である高周波コイルは、決して「テスラコイル」と呼ばれてはなりません。テスラ・トランスは、パルス装置です、そして、パラメータとの厳しい相似によって以外簡単に、造ることができません

テスラ・トランスは極端な長さで圧力の並外れた白いインパルスの放出を生じます。そして、それはロッジ・コイルの交互の交流のすみれ色の火花の表れを上回ります。これは、テスラ・トランスが実際に造られる方法に注意させます。見て、同じものようだが、各々のシステムは実際に非常に異なる諸機能を実

行します。ロッジ・コイルは、交流発電機です。テスラ・トランスは、unidirectionalなパルスです。

崩壊するワイヤー線が放射するヘリカルコイルの質量に等しい時だけ、最も効果的なテスラ変換は得られました。

[コイルの内部の電圧の掛け算効果!]

39 ページから :

白い炎を調べて、テスラはその理由がこれらコイル頂部でかなりの動く電流」でないと理解しました。通常のキャリア（電子）が、輝くパルスほど速く動くことができませんでした。コイルの金属的な格子でチョークされ、電子は静止したようになる。電子流は、まったくコイルの中を動きませんでした。コイル表面の上を進む輝くパルスは、したがって、事実上電子ではありませんでした。

その上、テスラは彼の装置で作業中にキャリアのエネルギー的な本当の性質に関して、全ての疑いを晴らす驚くべき現象を発見した。テスラは、準備した非常に重い、直接彼の両足を崩壊するプライマリーコイルに U 形の銅母線接続した。いくつかの白熱ランプは、この U 形の busbar の脚部を横切って置かれました。準備は、非常に明白な短絡でした。ランプは光り輝く冷えた白色光に照らされました、その一方で、重い銅の分路でショートしました。電気の、特徴ではない、微粒子の明るい、冷えたランプは、「ショートしているような」エネルギーのもう一つの気流が本当に流れていることを徹底的に明らかにしました。

この実験を祝った人々はこれを予想しませんでした。

どんな機能でも崩壊させる回路は、おそらく発電機の焼却にそれ自体がなります。

その代わりに、証人は驚嘆すべきことを見ました。

ランプは、珍しい明るさにとまりました。

この単純なデモンストレーションにおいて、テスラは彼の多くの証拠のうち、わずか 1 つを図示していました。

電子の充電の流れは、銅経路のために白熱電球を拒絶して最も少ない抵抗回路を好みます。しかしこの状況で流れは、原則に矛盾するほうを選びました。

おそらく、流れが電気でなかったため、これは真実でした。

テスラは、中立の流れから、電子流を「分ける」ことを立証するために繰り返してこのデ

モンストレーションを使いました。

LUNUNIFEROUS ETHER

LUNUNIFEROUS エーテル

一つの疑問は残りました。そして、新技術を作成するのに答えとなる重要な情報が提供された。トランスの中で、何が、分かれ、または、『細分化される』のか、多様な移動方式のキャリアーはなにか？それは、不注意に各々の構成要素を切り離してみてもわかった、コイルの幾何学的な構成でした。電子は、輝くパルスがガス状のパルスとしてコイル表面の上にリリースされる間、ワイヤーの中の流れがブロックされた。電子はワイヤーの中を漂わなければならないが、各々のインパルスの間、線の抵抗によってブロックされた。このように、ガス状の移動キャリアーは、ワイヤーの外側を流れると発表した。（外のコイル表面に沿って端から端まで移動するパルス）

証拠は、ここにありました

電気的な放出は、本当にいくつかの種類同時の移動から成りたっていた。

テスラは、その時彼の最初の高周波交流がこれらの強力な行動を決して立証しなかった理由を理解した。

それは、ただ自由に与えた突然の暴力のような、インパルスの放出でした。

[41 ページは、元々周期表に入れられた水素より非常に軽い 2 つの要素の識別と使用について話します。、エーテルがこれらの成分でできていることがありえるという考えです。トビーは、ウォルター・ラッセルの書類においてこれらがどのように予測されて、要素の 2 次元の表に示されたか思い出す。事情通のラッセルも、アイスクリームコーンの形の（または円錐）コイルを使いました。そして、テスラもそうしましたー読み続けてください。...]

ページ 42-43 から :

彼は、非常に、心-を高める効果が時間とともに成長するということを発見してしばしば最も短いエーテルインパルス発光にみずからをあてた。AETHERIC なエネルギーは、テスラが驚きで注意した成長特徴を示しました。エーテルに関する論争の的となる話題を別にすると **Teslian** 技術を理解することは、不可能です。多くのアナリストは、エリック・ダラードのような実験者によって確立された証明を最初に捜し、発見することなく概念を拒絶します。それにもかかわらず、圧倒的証拠は、テスラがメンデレーエフ博士がそれほど長く予測したガスを本当に最初に確認したということを示します。テスラは、エーテル流が彼のトランスを切り抜けて、より高い自然の圧力で引き込まれて、鋭い電氣的な放出で速められたという概念を申し出ました。電氣的なシステムとしては、テスラ装置は、完全に理解できないか、説明できません。人は、**Teslian** 技術をエーテル・ガス技術（ガスダイナミックに似たものとして説明できるもの）として見なければなりません。

（高圧下のエーテル・ガス流）と同じ様に考えられる光線がどのように金属と絶縁体を透過できたか、理解するのは簡単でした。これらの強力な光線は、不可解な効率で特定の材料を透過できた。電気では、この驚くべきことを実行できませんでした。テスラはまた、その時これらの放出流が滑らかに歯擦音を出した理由を理解しました。そして、高圧下ではガスの炎のように目で見えた。圧力下のエーテル・ガス。しかし、このガスの構成要素の他の特徴は何か？

新しい力の世界が、ここにありました

そして、金属に観察するよりエーテル的に、配列され、地上に釘づけにされた生命を与える構成要素をリリースしたいという思いで電氣的充電の無いことを持続的に、追求したL・ガルバーニのような研究者によって漠然とちらっとかいま見られた力学がここにあった。

テスラは、完全に煙に巻かれました。彼はうまくミステリーに満ちた流れを開放しました。そして、通常は、電子電荷担体に束縛され抑制されているものが、高電圧と突然の期間の一方向性衝動的な放出は、これらを解放した。エーテル・ガス技術は、どんな他の可能性をリリースするか？

電力の放送

最初の円筒形のコイルは、すばやく円錐に形づくられたコイルに取り替えられました。この奇怪な形状で、テスラはガスダイナミック構成要素を集中させることができました。そして、その時コイル先端から白色光がシッと叱るジェットのように、上がりました。テスラは、これらの放出（素晴らしい間と胸が踊る畏怖）が実際に失われた力を意味すると認めました。発電放送局は、四方八方に均一にエネルギー的な発光を分散させなければなりませんでした。炎のような放出は、発電可能電力が空間で波打つ原因になりました。これは、広範な距離で予測できないパワーの低下を起こします。消費者は、エネルギーの信頼できる一貫した流れを受けません。彼の電動トランスが放送された最高効率で動くならば、これらの炎のような放出は必然的に抑制されなければなりませんでした。しかし、これらの過度のエーテルジェットを抑制することは、問題を含むとわかりました。

**OCCULT
ETHER
PHYSICS:**

**TESLA'S HIDDEN SPACE
PROPULSION SYSTEM
AND THE CONSPIRACY
TO CONCEAL IT**

**By
William Lyne**

SECOND REVISED EDITION

偽りから真実が、流れ出ることがある、
しかし、真実から嘘は流れることができない。

アーサー ショッペンハウアー
私の息子 Angus Lyne と Matthew Olay に捧げる

1875年のニコラテスラのオリジナルプランについての序論	1
序文	4
1章 オカルトエーテル理論と電磁気	10
基本的エーテル粒子の特性	10
重力法則の逆二乗の法則の原因	16
ミクロの螺旋形チューブの力	17
ゼロ ポイントラディエーションZPRとドイツ製の内蔵方向指示システム	18
古い木の箱	19
低周波と高周波とテスラのエネルギーのワイヤレストランスミッション	24
テスラのテレフォースの発見	27
第2章	
エーテルの特性と探求	29
初期のエーテルの研究とその背景	29
J J トムソンの電磁気の動き"	30
テスラの出現.	31
宇宙の動きと局地的動き.	35
局地的動きと天上の動き	36
第3章	
観察.	42
温泉に浸かっていた7人の人	44
他のUFOとの遭遇の比較	47
エーテルと測定可能な物質.	48
軌道周回惑星と衛星	53
4章	
エーテル理論の発展の歴史	54
回転運動と螺旋効果	54
周囲の静電気の電荷の流れ	56
5章	
テスラとグッドオールドボーイズクラブ	62

テスラの重力の動態理論..	67
テスラの秘密.	73
電磁気の性質	-----	75
結語	78

6 章

フリーエネルギーの抹殺	81
原子状水素のプロセス	81
アカデミックな世界からの煙幕	88
他の驚くべき証拠と他の水素分解の方法.....		93
どのように作動するか?	96
このプロセスを使用する.	101
原子状水素燃焼装置 など.	102
フリーエネルギーサプライズ	104
結語..	105
原子状水素燃焼プロセスへの言及.	106

今日「カルト」と「オカルト」といったことばが意味するものには多くの驚きがある。多くのものは、彼ら自身の組織、グループまたは宗教がこのカテゴリーに分類されないかと心配する。

「オカルト」という言葉は単に「神秘的な」とか、「隠され」ていることを指すことばであるから、未知のバクテリアを「超自然的な」と言うために、医者によっても使われている。宗教、哲学、組織または他のグループ活動に関して、それが「カルト」の「秘密の教え」ならば、選ばれた少数の選ばれた者または「聖職者」だけの選択された人だけに教えられる

通常、全科学教育がこのことに言及しないために、公的に入手できるデータは強力なグループによって「放送され」るようにされており、物理学の全領域に、公的に、あるいは、プライベートな個人には「オカルト」と宣言された「ほとんど立入禁止の領域があった」かもしれない？

たびたび『秘教的なエリート』以外誰も真実を知らないまま、「偽の科学に」入れ替えて活性化され、広められたのかもしれない。実際「電子推進力」に関する科学については、その、可能性はある？

そして、もしそうならば、「超自然的な」科学は、極めて少ない特に選ばれた会社/政府「聖職者」の独占的な仕事になっているのかもしれない？

私は 1946 年に、西テキサスから遠く離れた南ニューメキシコ砂漠にある油田で、銀色の「空飛ぶ円盤」を見た油田の発掘ポンプの使用者と話し、これに関する科学を含めて、この論争を研究し始めたが、その時、私は 8 才の子供でしかなかった。

後に、13 才で、私は New Mexico のアルバカーキーで家族の友人と彼らの隣人であった天体物理学者 Lincoln La Paz 博士を訪ね、2、3 日一緒に過ごした。

La Paz 博士は、第 2 次世界大戦の後、New Mexico に持ってこられたナチ空飛ぶ円盤技術を完全に隠すのを最後まで手伝うために、米国政府によって使われた。

私の初期の信念は、ラパスが働いていたサンディア基地で私がドイツの 1943 年の空飛ぶ円盤のハードウェアを得た事実によって後で補強された。

「エーテル物理学 ether physics」（別名「aether エーテル」）に基づく、電子推進力についての真実は、一般大衆が、彼らの鼻の下に存在する正しい事実を知らないようにするために「国家の安全のための秘密」と宣言され、隠され、集められ不在にされ、あるいは、とても激しい不正な宣伝によって、意図的に壊滅させられている。

私は、結局、電子推進力（「超自然的な Ether Physics」）に関するエーテル物理学を仕上げた。

この書物は、これらの秘密を確かめ、再発見することを主な活動とし、そして、それを公的な知識と統合しようとしている。

この超自然的な知識の第一人者はエリートの高圧的な独占的銀行組織と産業、鉱業に関連した利益の所有者で、その人は特定の科学者の研究の開始を許している。

巨大な規模の陰謀を実行し、維持するために、軍隊と官僚の範囲だけに彼らの秘密を教えることが必要で、そのため、憲法に反する「国家の安全法」によってテクノロジーを支配することができ、民間法律当局と軍と警察で「国家の秘密」を秘密にすることができる。これらの処置は、エリートによってコントロールすることで古いテクノロジーと手段を市場社会の本当にフリーな競争から、保護することを目的とする。

最近まで 76 年以上大多数の科学者はエーテルの存在と、空飛ぶ円盤の知識と科学の操作の概念を嘲笑し、まるでそのような考えが「地球平面」論と「緑色の小男」のカテゴリの項目に入るような宇宙の無駄口だとするかのように、次第に間違った宣伝を強めているがしかし、逆こそが真実である。

中世の時代に「平らな地球」を遠くに行き過ぎると「宇宙に落下」とすると信じられていたときのように、相対性理論とビッグバン（「ビッグ Bangers」）の支持者は宇宙が有限であると思うようにあなたに望んでいる。

中世の時代とどこに、違いがあるか？

平らな地球...有限の宇宙...これらは、両方とも批判のできない理論である。

そして、「緑色の小男」のうそは、確実に確立した電気科学に基づくテクノロジーと物理学で人間の作った電気飛行装置だけに関係があるが、間違っ役に立たない「理論」があなたに与えられている間に、エーテルの存在は、それを使わないようにするため、秘密の金庫室に隠された？

そして「空間の曲率」、「タイムトラベル」、「ビッグバン」と「宇宙人の誘拐」物語から「平行した宇宙」、「インター次元旅行」と他の法外な信じがたい物語）も入るこれらの範囲は政府スパイ、国民的保安要員と秘密情報機関の「ユーホロジィ」と「偽」の「暴露」コミュニティによって作り出された。

（これは私の言いかたで言えば公式政府が、スポークスマンまたは科学的な物知り顔をする人による「偽の暴露」のための仕事である。

それは完全に空飛ぶ円盤の存在を否定することが目的で、他の政府に隠れて対立する者を、UFO ユーホロジスト、ニューエイジまたは **paranormalists** パラノイアとして嘲笑することになっている。

あなたがエーテルなどは存在しない、または空飛ぶ円盤はない、と決める前に、または、しばしば喧伝された宇宙人は「ここに」いる、あるいは、タイムトラベルは可能であるといった「最初」の偽りを信じる前に、これらの主題に関する考えが独裁者の大きな嘘によって条件づけられていないかどうか、あなた自身に尋ねなければならない。

あなたがタイムトラベルは、その肝要な部分であるとした相対性理論を信じるならば、私はそれを非常に信じがたく不可能なそれらは、あなたが頼るいわゆる「科学」を作る半可通のたわごとの役に立たない部分が、誰かによって作り出されたことを指摘する。

その人は「超自然的な **Ether Physics**」の自薦の第一人者になり代わってあなたの心を破壊しあえて目を向けさせないようにしたかった。

あなたの中にある考えを見ることは、平凡な思想統制のバロメーターを見ることでもある？

あなたが NASA (NAZIA) と CIA の、Scientific Intelligence Office 科学情報局 (「OSI」) の許可された「カン詰商品」により、あなたの考えは生まれてくるため、あなた自身の形而上学的概念と認識論は支配できることはない？

あなたは真実の情報を決して発見しないように、秘密政府によって準備された TV ディナーで教育されている？

高圧的な独占者組合国家に代わって空飛ぶ円盤電子推進力と他の先進技術、および「フリーエネルギー」のテクノロジーを隠すように企画され、膨大な宣伝量で間違ったことが広められたことに関して、その理由と他の事実をよく知らないなら、私の前の本、「ペンタゴンの宇宙人」でより完全な解説をあなたは読まなければならない。

著作権 Wm. R リンヌ、1993 年、ISBN 0-9637467-0-7;

1995 年の第 2 版、ISBN 0-9637467-1-5;

1999 年修正された第 3 版、ISBN 0-9637467-7-4

あなたがおそらく他の誰からもこの事実をこれまで聞かなかったとしても空飛ぶ円盤は、ニコラ・テスラのライフワークで（彼の最も基本的に重要な発明）の成果である] そのために彼の他のすべての発明は追跡された。

どうして、私はそれを知ったのか？

私は長年研究して、テスラの彼の生涯の発展と彼自身が述べ、発表した言葉をたどり、それを文書にした。

散らばり、まばらにされているが、十分な情報から見て、19世紀の世界で最も大きな科学的な心の人たちはテスラのひらめきによって、この上ない業績を上げてきた。

1919年5月29日に、曲がった4次元時空で我々は、生きている」ことが証明された。

アルバート・アインシュタインは宇宙を回る大きい物体…は、周囲の空間と時間をゆがめる.. と行った

それが、いわゆる「フレームが曲がること」と「空間彎曲」の起源である。

「重力は、もはや、少し離れたふりをしている不可解な力でなく、具体的な物体の存在によって湾曲している空間を通り、直線で移動しようとしている物体にうまれる結果」である。

（ガリー・トープス、相対性理論の軌跡と発見 *Relativists Orbit, Discover*, 1997年3月）。

このうそとも言えるような理論には、『空間-時間』の『構造』（「空間彎曲」）といった相対性理論の決まり文句のフレーズで織りまぜられているが、柱が引きずられ、はげ落ちやすい壁のようであるが、誤ったエーテル概念ではあるがエーテルの存在を示唆している。

1919年以降の、「科学」には新しい成果は少なく、現実には合致していない疑似科学的な数学的ないかさまになったが、ニコラ・テスラの電子推進力についての発見は、政府の隠蔽と、窃盗と嘲笑によって隠された。今は真実を見るべき時間である。

序文：

ニコラ・テスラの 1875 年の最初の計画

1870 年代のテスラの学生時代の独創的な展望は **electropulsive** 電子推進力による「理想的な飛行機」の、(実現) であった。それは彼が 1875 年当初に電気科学の分野に入った理由である。

これは、彼が主な生涯の仕事として彼自身に課した課題であった。

(フランク・パーカー・ストックブリッジ、「テスラタービン」

「世界の研究 *The World's Work*,」 1912 年、5 月 pp. 543-48.)

当初電子推進力の航空機の電力の必要性は、船に発電所を置くには、あまりに大きいことが予想され (まだ彼の船は船を空中に支える理論が欠けていた)、まず最初に、地上に置かれた電力発生器と送信基地から予想された必要とされる電力を伝導するため、彼の「電力の無線伝達」システムを開発することにとりかかった。

これらの初期の **Tesla** のアイデアのいくつかは彼の飛行機には不必要なことがわかったので、彼はそれらを営利目的のために使用した。

彼のエーテルの概念からみるとエーテルは比較的低い密度で彼の電磁力の概念では重力よりそれほど強くなかった。

彼はその後、電子推進力のある航空機の発展に導かれて、

彼の以前に必要とされた電力の予想は実際に必要とされたものより大きかったことを発見した。

そして、多くの「発展したスピノフ」技術が生まれた。

1920 年代の間、彼が電子推進力のある船を完了するために大きな金が必要であったとき、彼は米国政府に興味を持たせることに失敗した

この余ったいくつかの、「発展したスピノフ」技術は準備されたが、決して発表されなかった

未発表の彼の言葉でいうと、「我々は、すぐに遅れることなく、国家の全パワーと手段で飛行機とエネルギーの無線伝達の発展を推進しなければならない」とテスラは言った

この「フライングマシン」(「飛行機」でない) と「エネルギーの無線伝達」の間には密接な関係がある。

Morgans モルガンと **Rockefellers** ロックフェラーがそれらに立入禁止と宣言したので、**Tesla** は彼の特許のファイルを得るためにお金を生み出そうとした

これらのシステムのうちの 1 つを手に入れるために、銀行から誰も、お金を借りることができず、ゼウスからの稲妻のような彼らを非難する神の怒りを予想し自分のお金を使うに

は彼らはあまりに愚かだった

彼の発見と彼の用意した電力への差し迫ったニーズはそれほど大きくなく、そして、誰にでも彼の無線エネルギー変速装置システムの開発に対して関心を持たせることに関する怠慢があった。

テスラは、1909年に発明した注目に値するタービンで、1913年に特許を取得した。

これは、多分電磁内部作用が重力相互作用より1040倍強いことを示した認識の発展を促しただろう（ジョージ・ガモフ、Gravity, Anchor Books, N.Y. [1962]、138ページ）。

(George Gamow, Gravity, Anchor Books, N.Y. [1962], p. 138).

Hendrick Lorenzによると、電気引力は、重力誘引的な力より 2×10^{39} 倍強い。

、地上から電動ビームによって発射された無線エネルギーを使った電子推進力をもつミサイルの1915年の実験と、彼の1934年の誕生日の発表の間に、テスラの戦略の変更は、起こったようである

これらの新しい発展は、多分創造力の母によって駆り立てられたのだろう、以前からのミサイルの概念は無線エネルギー・システムなしでは、役に立たなくなる。

権力の独占者は、こうした革新を止めるために戦うことができた

長い期間テスラが見捨てられたように、彼自身の装置は他の誰も目を向けることがなかった。

彼がTesla Propulsion コーポレーションのスローガンの下で商業的に「1ポンドの大きさで20馬力」を出すまで明らかにされていない方法でタービンを扱うタービンを開発し、彼の特注の高周波交流発電機の中の1台を駆動して船を動かすようにさせるたとき、初期の誤解は、まだいくぶんTeslaの心の中にあった

少なくとも30,000rpm.で回すことができる軽くて強力なタービンを開発し20ポンドの装置がガソリンで200ブレーキ馬力以上を発生した後に、彼はまた、新しい種類のプロペラによる「VTOL」タイプの飛行機のための特許を、-1928年に提出し、授与された、それは前と後に取り付けられた2台のタービンが原動力となる、そしてそれはプロペラのトルクを打ち消し、ヘリコプターの胴体の後ろに付けられている安定させるためのプロペラの必要性を除く。

この航空機が造られたならば、重さに対する馬力の比率がだいたい1~3倍効率的だっただろう

そして、垂直に離陸し、非常に速く水平飛行に移れた。

テスラは、大きな翼をもつ航空機のもつ厄介な必要条件をみて、もっと重い航空機エンジンの効率的利用法を理解し、新しいタービンを使った飛行機の設計と特許権をとって商業化することを明らかに、望んでいた、

それは彼のタービンを高価な彼の電子推進力のプロジェクトを完了するために必要とされた資本を集めるために、特に、使った。

彼は前に特許を得た経験から、彼がプロジェクトを遂行するための必要とされた資本を得

ることができない限り、特許期間が期限切れになる前に、特許も役に立たなくなることを知っていた

わずか 17 年後に特許の発表は他の者にも許され、特許が彼に与えられるかもしれない
単一巨大財閥の財政的利益集団は、彼に断固反対したので、彼に資金提供が無いためその
時間の間、彼の発明は棚上げにされることができた。

最初の発展段階の間、テスラは「電力」の本当の力をまだ全く知らないようだった、
彼の 1915 年の初期の場の実験は、それが「ものすごい」ものであることを証明した。

テスラは 1893 年と 1894 年には、少なくとも「理論」では彼の Gravity Dynamic Theory、
は「完全に、うまくいっていた」

その彼の電子推進力システムには固有の理論があったが、それでも、装置は形成過程で理
論的な段階であった。

しかし彼の理論を発表することは、基本的なテクノロジーを明らかにすることと同じで、
彼の競争相手にテスラの人生で最も重要な仕事であり人類の最大の発明を与えることを許
し、信用とお金と資源を与えることに等しかった

Tesla には必要なお金が不足して、これを立ち上げることができない。

彼が航空機産業と政府に印象づけるために大きな十分なスケールの実用模型を完了して、
テストするまで、彼は特許で身を守ることができない。

この期間、彼は、プロジェクトを実現するために依然として身体的にもスタミナがあっ
たが、運命的に、最もたいへんで、彼が以前のシステムを時代遅れにする新しい電力シ
ステムに到達したので J.P.モーガンと彼の仲間がすべてテスラを挫折させる意図で、請求書の束
と差し押さえによってぼろぼろにされるよう強要したため、財政的にも必要なことがお
おくあった。

テスラが市場に出したどんな発明も、彼に大きな利益を許し、彼のエネルギー・シ
ステムが構築されるための資源となり、モーガンとロックフェラーのシステムを破滅
させるので、彼は打ちのめさせねばならなかった。

テスラは、決して完全にそれを理解していたようではなかった

モーガンの偽の公共福祉精神フィランソロピズム **philantropism** は、モーガンと
テスラの契約によってテスラ自身を独立させるより、むしろ、テスラを他の者に不正
に依存することを誘発し、評判を落とす計画以外の何物でもなかった。

この処置はテスラを財政的にも、技術的にも、感情的にも同様に阻害し、彼の神
経を卑屈な塊におとしめた、

モーガンに彼の約束を文字通り守るように頼むが、そのかいもなく、すべてが本
当に悲劇的な人物のように表面的には見えたが、強欲な会社の強制と強要に従わす
ため、国家安全保障という嘘の湖の下に沈んで』いる、無名の傷つくことのない不
屈の技術者の力 **arturian** によって作られたエクスカリバーのような剣の発見者
である悲劇の英雄は、死の忘却に入る前、英雄的な再主張をしたことは、素晴
らしい

または、地上から放射するパワービームによって、電気エネルギーとコントロール信号が送られる。

その推進力のための電気エネルギーが地球から伝導されることが出来る限り、宇宙船は、燃料タンクを必要としないという考えは惑星間の旅行についてのアイデアとなってテスラを魅了した。

彼の友人で財政的サポーターB.A.ペーレントへの 1930 年代の、手紙でテスラは隠れた彼の電子推進力の発見に言及した

「私がその他の発明で達成したものについて特別にあなたに相談して来たことを、私は、あえてあなたに言わない。だがこれは、全く本気で述べている。」

テスラは、明らかに、彼の電気機械で宇宙の「他の世界」を発見する計画について推察していた

テスラは、すべての固体が「電気含有量」を含むと理解した、まったく、これらは共鳴する空洞としてふるまい、そして速く電磁気に変化する静電力とエーテルとが空間で相互に作用しこれらの重力相互作用と運動を決定する。

これらの理論はテストされて、彼の 1899 年のコロラドスプリングス Colorado Springs の実験である程度確かめられた。

米国政府は、Tesla のこの時代に何もしなかった、

そして、彼のたいへんな電子推進力の発見は、Wernher フォン ブラウンが 1936 年の New Mexico ロスアラモスで「p2」プロジェクトの展開を、開始し 1937 年秋にドイツに戻って、プロジェクトが立ち上げられ、バルト海の Peenemunde パーネミュンデで展開し、ナチ・エリートの手元にすべり落ちた。

これらの秘密と、その他のことは休戦の直後に、米国政府のペーパーリップ作戦の下でアメリカの会社と交換され、引きかえに米国政府とアメリカの会社の仕事のため、多くの戦犯の大赦の合意とともに、数千の人は移住した。重要な技術情報がある者は誰でも、保護された。

The REAL Cover-up

真実の隠蔽

テスラは 1945 年の円盤の発見以来ずっと、米国政府の影響を受けた、当初、実質的にドイツ帝国 VI 対抗部門 RSHA Amt VI(Reichsicherheitshauptamt VI)によってデスインフォメーションの宣伝番組が作られたが、その組織はゲシュタポの中の組織「国家安全保障局第 6 部門」に配置転換された。

そしてそれはナチドイツを支配しドイツ帝国で最も高い極秘の性質をもっており、我々の UFOlogy ユーホロジィとニューエイジ、そして、偽懐疑論者のデスインフォメーション普及ネットワーク)と同じようなもので、米国政府は、このナチのデスインフォメーション

ン装置でもあったナチ UFO 防諜活動装置を、全てを単にまねして使用し、(ニューメキシコの) Holloman A.F.B.ホオロマン空軍基地に雇われていたこの人たちは1947年の「ロズウェルやらせ事件」をデザインし、実行した。

そしてこの表向きは軍と、「国家の安全」のための隠蔽は、強権的な独占者の組合国家によって延ばされ、1936年のナチスによる秘密の獲得以来、その時代のドイツ人の民間の手によるテクノロジーとして伝えられたものは、とても少ないものだったが、実際はナチ国家の時代には、非常に多くの先端技術があった

あなたは、この円盤のタイプの輸送手段をプライベートに手にする効果を想像したことがあるか？

それは、普通の男が世界の至る所に入ってゆくのを許し、現在航空会社が料金を請求することさえできないすべての場所をプライベートに訪問することを可能にする。

それも、小型、私有の空飛ぶ円盤は、造るのに自動車より少ないコストで、ほとんど燃料を使わないし毎時数千マイルでの旅を、長い間続けても、メンテナンスをほとんど必要としない。

あなたは、全体主義共産主義者、ファシスト、コーポレート国家政府の『恵まれた』経済利益効果を想像することができるか？

突然どこにも道のない場所でさえ生きるのが可能になったとき、キャンディがぶらついてきた不動産市場に意味はなくなり、底が抜けるのを見ることができるか？

「パスポート」をチェックすることなく端から端まで UFO が横断し、戻り、飛ぶとき、あなたは、国境に関する問題がどうなるか理解することができるか、

見ての通り、主要な問題は、多くの権力を突然失い狂った権力当局の誰かが、高圧的なエリートの利益を保護し彼らに必要な彼らの「仕事」を守り、維持するための、妄想性の犯罪の恐れである、

これらの考察は、犯人がしている「隠蔽」を指摘することである。

テレビ番組、ラジオ・トークショー、新聞、書物、雑誌とその辺にあるビデオについての多くの話は、宇宙人と 50 年取引している我々の政府のカバーアップ」である

あなたが毎週毎晩プライムタイムのテレビでそれを見るならば、唯一「隠蔽」であるとそれは推定することができ、彼らがあなたに話しているふりをするものと事実は反対である。そのようなプログラムは、隠蔽のためである。

これらのうその量は、とても大きい

それはほとんど信じがたい、

事実を考えるとこれらは我々自身の政府が舞台裏でひそかに我々に嘘をついていることの証拠である、

アメリカのあらゆる家庭にそのようなくだらぬビッグなうそを放送することに政府はいつも関係している、

それは、彼らは「他にどの程度、我々の周囲を偽っているのか？と尋ねる正当な理由である」

この本は、私の前の本に加えて、この秘密についての技術的で社会経済的独裁を終わりに至らせる目的にささげている。

I 章：

THE OCCULT ETHER THEORY AND ELECTROPULSION

超自然的なエーテル論と電子パルス化

私がこの本で述べる理論は、ニコラ・テスラのことばの確認と展開を通して補強されることができたものに基づく

そして、他の特別な情報と結合して論理的に解釈した結果は、私の先の本「ペンタゴンの宇宙人」で提示されたことに関連する。

この理論は Tesla の「重力の動的理論 Gravity Dynamic Theory」に近いものと、私は考えたい。

それは、十分に長く生きた Tesla 自身がしたか、しようとしたものを、いくらか訂正さえている。

大部分の理論がそうであるように、この理論は不完全で、エラーを含むかもしれず、更なる発展と、テスト、将来他の人か、私自身によるか、どちらかによって訂正と改訂を必要とする。

私は、その改訂する時までこの問題に関する私の基本的な考えを私自身の用語「オムニ Matter」(別名「Ether」)を使用してここで述べることにする、そしてそれは、私の前の本からいくぶん進歩している。

注意深い人は、私がこの章のタイトルで、電子推進という新語と「電子推進力」という短いことばを創ったことに気づくだろう。

この本はあまり専門的なことを知らない市民のためのものなので、研究者がいたとしても、私はそれを素人の言葉で言い表す努力をする。そして、私は私自身も素人のようなものだ。そして、かったるい方程式とともに、論理的に完全に証明されていない非論理的構築物だと、反駁も生んでいる「量子力学」的説明よりは、むしろ、理にかなった役に立つ具体例で私の概念を理解できるようにする。

— 「ねえママ私、数学がこんなにできるわ！私を見て！」と言っているようなものである。

「エーテル物理学」が対象とする概念は、もともと原子以下の「サブ陽子」「サブ電子」が構成している物理的特性の領域である

私は、サブアトミックの核粒子自体についてはそれほど考えない、むしろ、それは、陽子と電子の一時的な構成素材であると思っており、そしてそれはより単純な姿でエーテルの内側に存在すると思っている。

私は、すべてのクォーク、ミューオン、中間子、レプトンその他「相対論的な量子力学」

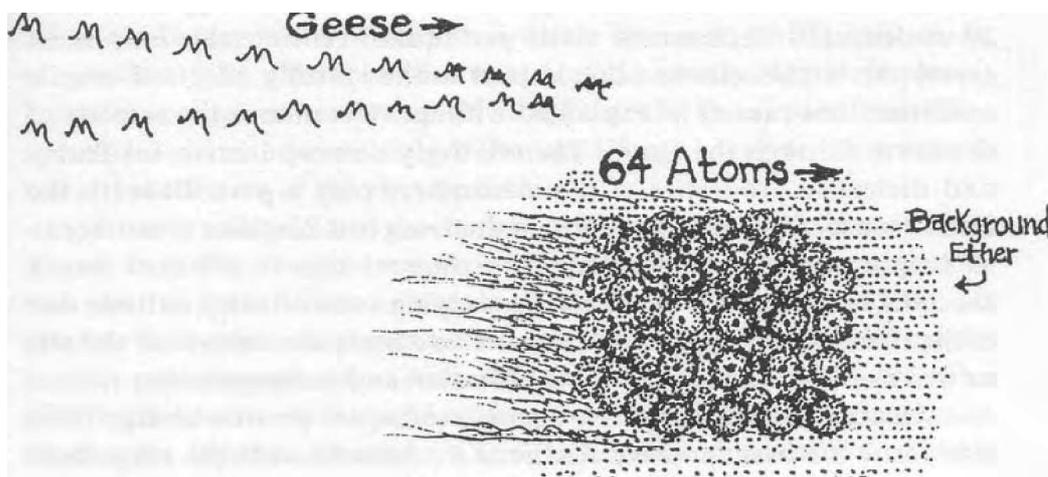
(「R.Q.M.s」) とこれらの「エレガントな方程式」その他を捨て去る。

Characteristics of Basic Ether Particles

基本的なエーテル粒子の特徴

私の基本的なエーテル粒子は、「オムニ」と呼び、それらは、「Omnion オムニオン」と呼ばれる陽核「プロテット protette」を持っていて、下位陰電子は、「エレクトレット electrette」で「オムニトロン」とよんでいる。

あなたは気がつくかもしれないが、この略図は、基本的な水素原子の陽子と電子の、縮小されたバージョンである。大部分の原子のように、Omni は、通常中立で平衡であるが、非常に小さく、超微細である。



その小さいサイズと中立の極性のために、それは簡単に「固体」を通過することができる (実は固体の中にあるオムニによって、中を通すと言うべきなのかもしれない)、それでも、可視光の赤以下の振動数の特別な範囲の高周波電磁放射線に対して、固体のようにふるまい、その平衡を妨げるので、我々がそれを感じることもできるが、肉眼には透明で、見えない。

それは磁場の圧縮性のために、水素ガスのように、若干の弾力があるので、Faraday が言ったように、「弾力性がある固体」である。

オムニのサイズは小さいため、いわゆる「なにもない空のスペース」は実はほとんどこの非常に純粋な物質が一杯に詰まっている。そして、それはX線よりはるかに、小さいサイズで通常中立のそれは「固体の質量」を透過するのを許すような高周波で振動する。

それらの、ほとんどは「スペース」である (スペースは、オムニで飽和しており、オムニのために質量にこれ以上多くの余地を与えるためには、動かされなければならない)。

恒星間の『スペース』はガス状の物質をほとんど含まず、真空に等しいので、例えばレナード管で、チャージが簡単に動くようにオムニのある惑星間空間は、非常によい伝導体となる。物体から物体へ、磁気力線に沿ってチャージは、自由に移る。

オムニで満たされた空間は超純粋な放射線によって全方向的にしみ通っていて、それは通常平衡している。そして、「ゼロポイントラディエーション」(「ZPR」)と呼ばれている。この ZPR は絶えず原子物質の電子雲を「鳴らす」そして、「電子軌道」というイリュージョンを創りだす。そして、それは実際、原子と分子を囲む定常波 **standing waves** で波動運動する電子雲の層である。

これらの電子雲が関連する物質には絶え間ない運動がある、電子の雲は流れ「まわりに電荷が運ばれ、電流」になる。

これを動かす背後の電流は、長期間動いても、「力」をもたない、

ZPR によって『生まれる』ものに運動量はない。

Omni の群れはほとんどバランスのよいチャージ比率(「1:1」)があつて、両方の正と負のインパルスに反応している。

静電発電機は、Omni の電気作用の優れた例を提供する。

十分高電圧な、正と負のダイナミックな下位チャージは、磁場と切り離されて、電子と陽子を形成し凝縮する。

これらのチャージが特別な大きさになる理由は、根底に若干の未知のものがあり、まだ説明されていないが、しかし、量子理論は、下位区分に基本的な電気チャージが、あることを、ほぼ認めている、そして、その電子は、「分割できない」状態のものではない

これは、基本的な論争の種で、電子が割り切れる時、相対性理論は陥落しなければならない。

「基本的な電荷」が認められ、電流が光と同じ速度で動く時、その電子は時間に関係するように見え、したがって、電子の電荷は、多分、時間単位に基づいて蓄えられたオムニの数で電荷量が決まり、それはその時間の間ごとに、陽子がスペースを移動した距離が反映し、実はオムニと物質の間で電荷が流通しあっている

エーテルを操作するためには高電圧の電気放電、または、放射線の力で **Omnion-Omnitron** 結合が壊れることが必要である。

同じ原則は、電子推進にもあてはまる。

ネガティブな **Omnitronic** な雲のバリアを透過しポジティブな **Omnions** に反応するために、強い、高電圧の、高周波のネガティブパルスが、必要で、ポジティブな **Omnions** はオムニの「慣性抵抗力」の存在が「うまれる」原因となっており、Omni で満たされたスペースを通過して宇宙船を推進させるために、質量が他の物体を引く慣性の抵抗状態を変化させるためにここにアクセスすることが必要である。

そのアクセスは回転のない空虚な **Omni** の芯のまわりで電磁気の細管を回転させるマイクロ螺旋形の「ねじれた」力を使う。

電磁気の細管は磁束によってつくられる電流の回転の成果である。そして、それは動きが変化することで強化される。

空間のボリュームごとの大量のオムニの数は通常の『固体の』質量が保持している数より非常に大きなポジティブな物質の密度を表す、

それゆえに、オムニは **electropulsive** な航空機が空間を通してそれ自体で推進できるように「実質的に静止した支え」となって機能し **electropulsive** な航空機はその上に、それを浮かすことができる

オムニの『支え』は、地球と比較して実際ダイナミックである、

どんな時でも毎時数千マイルの速さは、地球上でエーテルを通して動くときの速度の上限を表す。

electropulsive な力で、「アクセス」すると実質的に、光速の近くまでこの速度が変えられる

しかし、オムニと地球の間の速さの比較の違いは、ほとんど取るに足らない

いわゆる重力の影響を除いてほとんど「まるで地球がエーテルと比較して動かないと言えるようなものである。

1 秒につき 186,000 マイルで移動する効果にとって、1 秒につき 20 マイルくらいの物体の移動は、ほとんど「静止している」ようなものである

たとえば、液体水素とオムニの間の密度の違いは、

水素原子と小さなオムニとの大きさの違いに関連するのと同じように、実際 **Omnion** によって占有されたスペースでの量は、**Omnitron** と関係する。

それは、陽子の下位区分として小さな **Omnion** があるとみなすことができ、陽子は **Omnion** に比較してスペース 1 単位につき密度は 12 ほど大きい。

それは陽子を形成するために集まっているが、**Omni** 同士の間隙間は相対的に短く、詰まった状態である。(密度が高い) (レンガの間のスペースをモルタルが満たすように)

この『モルタル』は、テスラの「絶縁性の流体」といったものであるだろう

そしてそれは「完全な流体」のように、ポジティブな物体と粒子を「濡らし浸透している」。

電子のチャージの大きさは時間-と関係するように同様に陽子の大きさは時間に応じた蓄えられた **Omnions** の数に関係するだろう。

オムニは、その振動過程が可視領域の周波数を越えているので、それは、感知できず見たところ見えない。

我々が動くと **Omni** が速まるか、減速するか、我々の体の中で方向を変えるのを感じる事ができる。

走るとき、我々は運動量の変化で、体の原子と分子を通してオムニ細管が異なる方向で、経路で速めるか、減速することを強制されて、抵抗（「慣性」）が体の中に引き起こされるのを感じる。

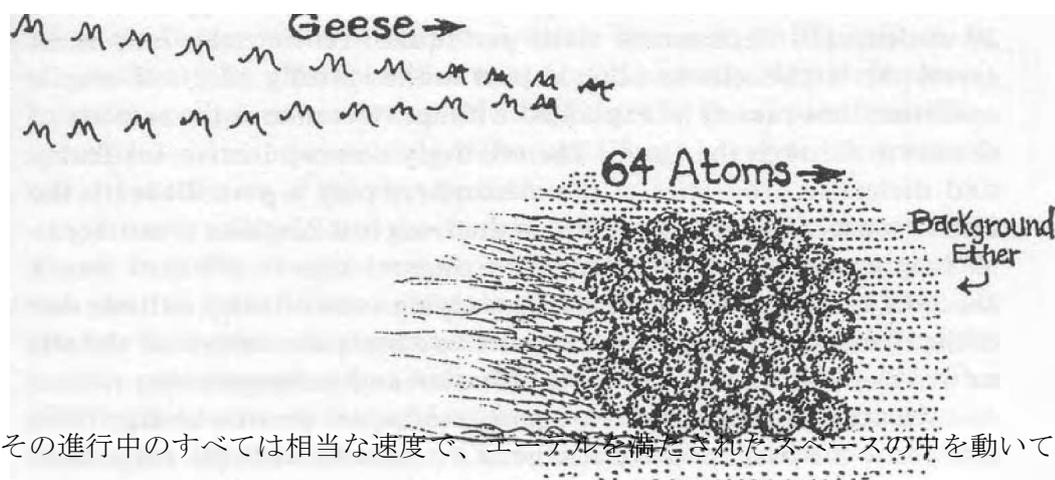
一旦我々が一定の速度に到達するならば、運動量」をつくるオムニを貫通する **Omnitrons**

の穴の、安定したピッチの回転によって、マイクロ螺旋がどんな具合に動くか感じることができ、それらは、あるレベルではわれわれに向かって直線で運ばれる傾向がある。

風によって、または機械の摩擦または不規則な運動でも失われないう、恒常的な速さを維持するために恒常的な速さでエネルギーを供給しなければならない

また、日常的な物体の作用の中にオムニの影響を見ることがもできる

これらが倒れるか、加速するか、運動量がつくか、転落するか、よろよろ歩くか、衝突するか、粉々になるか、はねるか、停止するといった運動における変化に抵抗する。固体の質量をガチョウの群れの例えによって説明すると、これらはその「形態」（「形」）を維持して「空中」（「オムニ」）通して飛ぶ



地球とその進行中のすべては相当な速度で、エーテルを満たされたスペースの中を動いている。

そのうえ、地球は回転して、旋回する。そして、それは相互に浸透している「エーテルの風」の極性と関連して徐々にマイクロ螺旋形のパターンが変わる

いわゆる「重力の大きさは、エベレスト山の一番上では海面より大きく、「物体の質量中心から正確に測定され、その物体の中心と地球の間が遠いところでは、より大きい、

しかし、ニュートンの法則に基づくこの声明は

重力が「なぜ」存在するかについて、我々に話すことに失敗している。

そこで何がそのようにさせるか、または、「質量に正比例し、2つの物体中心の間の距離の正方形に逆比例し、重力はなぜ変化するのだろうか。

ニュートンさえ、彼の法則は、原因について言及することができなかったことを、

はっきりと認めた。そして、数学的に影響を記述したと主張するだけだった。

全ての固体で「電気容量」は、固有のものである。

原子は、ポジティブ陽子と中性の中性子から成って、陽子と電子から成る核を含む。

これらの核のまわりには、ネガ「電子」が存在する。

全物質は静電荷を含んで、動いているゆえに、「まわりに電荷」が存在し、この流れは磁場を創る。

磁場が回転を電磁界に与えるので、これは、物体の中にある回転のない空虚なエーテル芯のまわりに、回転するマイクロ螺旋形の電磁気の細管をつくる。

これらの小管は、形態の中にある軸、または変化する運動の軸に沿って、相対的に、物体の運動に同調している

そして、「エーテルに穴をあけて通すことによって運動量をつくる。

どんな所定の時間ででもマイクロ螺旋のピッチと直径は不変なので、それは、単純な「渦」でない、それは、中へ、または、外へと動く対数関数的螺旋である。

速度または方向が変化するたびに、マイクロ螺旋形の振動ピッチと方向は抵抗し、新しい動きに適応する。

地球には、およそ 20esu/cnr (1 平方センチメートルあたり 20 静電単位) でマイナスにひくくチャージされた地表面がある

この大気の現象は宇宙放射のイオン化する効果の一部で **Omni** を通した地球の速さと関係せずに説明することはできない。

大気の誘電特性は比較的非伝導電性のもので、絶縁体としての、役割を果たす。

地球表面の電荷の下で、半導体の大気の外皮は、余剰電子の膨大な海を含む。

地球の表面電荷は、ほぼ不変であるが、宇宙放射線の発生率とその振動数と同様に、それは、地球の表面域の大気圧の変化と、空気の水分含量や高度によっていくぶん絶えず異なっている。

水素を含めてすべての原子は、正味において正電荷を備えている (正味では正電荷になる) これは、陽子をもつ基本的な正電荷が、電子の基本的な負電荷の大きさをしのぐからである。

水素に含まれる一つの陽子と一つの電子は質量との比率で最高までチャージされており、すべての元素のなかで最も低い重力をもつ。

元素の周期率表を 1 つでも上がっていくと、水素より上では、次第に複雑さが増加し、元素は、次第に質量のチャージ比率は低くなっていき、電子の比率を比較すると、核の陽子数と一致している。

中性子はマイナスではないので、これらは電子と比較するとプラスの群に加わるが、電氣的チャージの一因とはならない、これは、中性子の増加の比率としてあらわされる。

これは、地球に過剰なプラスの量を残す、

そのため地球表面の半導体は大きなマイナス電荷の余剰を受けとることができ、それを保持することができるが、その大部分は 1 秒につき千ボルトの雷によって、地球に一瞬のうちに流れ込む、そして、その電荷は普段は、大気のもつ誘電体の性質と絶縁体の特性のために保持されている。

地球の宇宙運動によって大気から絶え間なく電気が放出され、それは静電荷の流れに変わる。

これは、H.A.ローランドの実験によって確かめられた。

大気は絶縁体で、主にアルカリ性で、地球の、半導体的な外層は主に電子を提供する材料である。そして、それはほぼ絶縁体である大気によってマイナス電荷の大きな蓄積は保持される。

宇宙線は電離層の希薄にされた軽いガスにぶつかってそのプラス電荷が維持される。

ヘリウムと水素は両方とも軽い陽電気を帯びたガスで、重力も、影響して電離層に引きつけられる。

地球の表面と電離層（c620 マイル上）の間の勾配 c は 150 数ボルト/メートルあり、合計およそ 1 億 7600 万ボルトの、かなりの電界をつくる、しかも、電界は電離層を越えて遠く広がる。

この電界は、オムニに電気変位をつくりその範囲の中で重力の原因となる。

オムニの電気のフィールドの効果は「自由空間」から質量へのオムニの通り道を通して働き、ほとんど瞬間的で光速に近いものであり、重力は、電界の源の方である下に向かって発動される。

この電界より上には、地球の重力場の大きな効果は、ない。

地球の磁場が月を包囲しているので、そこには電界がまだある。

「下位イオン」(Omni) が電界の中にあるとき、下位負電荷 (オムニトロン) は陽極 (電離層) に引きつけられ、陰極 (earth) には、はね返される。

これらの吸引/反発の力の影響は、各々のオムニを「移動させ」るので、誘電空気とオムニに圧力をかけることになる、

地球の近くの、Omnitronic な雲が各々のオムニオンのまわりにあるが、地球から 300 マイル以上に中立の地帯があるので、オムニオンはこの上にいくよう激しく強制される。

重力の「逆平方」法則の明確な原因

いかなる地点でも、地球の回転による表面の速さと大気の色は、地球の中心からの距離に応じて、変化する。

海面にある物は、エベレスト山の一番上にある物体よりゆっくり、オムニの中を動く

高い高度の大気の色と、電離層の間の電位は低い、高高度の大気と、エベレスト山の表面との間の電位は、高い。

したがって、海面にある物と、オムニトロン的な雲の位置との間は大きく、トータルで大きな電界の強度がある。

速度の増大は、オムニのフィールドへの効果の増加をオフにする、そうしたこともあって、地球上の低いところにある物と、高い高度にあるものとの間で、重力が多いか少なくなるかすねことで、ほぼ等しくなるようにされるが、エベレスト山以上の地球の表面のチャー

ジを超えると空中の飛行物体への、重力効果は減少する

地球の「重力フィールド」の中でのオムニトロン的な雲の位置との関係と、これらの電位の違いは、そのフィールドの中で動く物体の動き方の違いが、なんで、おきるのか、理解させる。

つまり、いわゆる「重力」は電氣的圧力の違いと正比例して変位する。

この比較をみると、より高い高度と早い速度の物体には、低い重力が働くことを示す
なぜなら電界は **Omnitronic** な小雲に対しては低い影響があるからである、そしてこの逆もまたいえるわけである。

これは、電子推進に関係し、重力を減少させ、反転させるためには、すぐにこれらの配置を支配し、慣性、運動量と「重力」を総合的に、コントロールしそれを拡大しなければならない。

電気変位は動きに影響する、なぜなら振動しているマイクロ螺旋形の細管は、エーテルのスペースを「生む」方法に影響を及ぼすからである。

固体の内側に電界が入るのを遮るので、細管は、集中的な回転になる傾向となり、これらの質量部分が下に落ちる重力を変化させる。

「重力」は、この電気変位の変化に抵抗し妨害することで発生する。

その「仮想質量」の増加が課せられたとき、球が動く理由とは、つまり、仕事量の増加が、動くことを要求するからである、しかし、その内側へ重力が働か無くなるのは、増加した電荷の「ファラデー箱」効果からではなく、オムニの上に負電荷の影響が及び、質量を通すオムニの動きへの抵抗が増える傾向によって生まれたものだ

.16

このよう電場とその配置が影響して固体の中も外も電気の誘電率が変化するので、マイクロ螺旋形の細管は集中的な回転になる傾向が生まれ、これらの部分の質料が下へ向かう重力が変えられる

「重力」は、電気変位のこの変化への抵抗によって生まれる。

マイクロ螺旋形の力のチューブ

宇宙での地球の運動のため、静電気と、分子の電荷は電流になる。それは重さのある物体の中で磁場を創る。

原子または分子の「領域」の電流と電場は、磁場または動きによって統一される。

地球のエーテル/Omni 場を通しての物体の動きは「エーテルの風」の効果で、質量を通過して絶えず吹く風で、方向が絶えず変わる。

Omnitrons は「下位電子」なので、これらにも共鳴する。

物体の中の **Omni** を通して電氣的な容量の経路が形をなし、これに反響する分子流の動きは磁場の形をうみ、それは回転のない **Omni** 芯のまわりのマイクロ螺旋形の回転部分と偏光面

となる

これらのマイクロ螺旋形の「チューブ」には、線型の 1 秒ごとの運動率で確定される「ピッチ」がある、それは光速に近い速度の回転の直径（または「波」）と連結している。

これらの小さい波は球状の面がある。そして、それは形の大きな球状波と結合することが可能である。

電磁気のマイクロ螺旋形のチューブは、ピッチを持ちそのドリルのような機能は恒常的なピッチを持ち、直線速度で動く回転のない空虚なオムニ芯のまわりに、まっすぐな経路の穴をあける傾向がある（ニュートンの慣性と運動量の法則に合致している）

方向または速度の変化は、抵抗（「慣性」）に会う。

質量の全ての群れはすでに動いているので、常に勢いがある。

地球と関係して物体に安定的に示される慣性は本当にその動きが生み出す効果なので、この慣性は本当は動きである。

慣性は、したがって、動きの様相の変化への物体の抵抗である。

抵抗と慣性という 2 つのことばは異なる状況で使われ、抵抗と慣性で、速さや方向の「変化」が定まる。

回転する地球の近くのオムニから、強い負電荷を受ける

そして、地球にあるポジティブな質量によって、Omnions は下に引きつけられるが、Omnitrons は、上へ反発し、物質の中心から外れたところに『小雲』をつくる。

（「静止している」）海面レベルの物体の表面にオムニが入ると、オムニに対する地球の電界の影響は変えられる、

一定の誘電率の変化は、質量の中のマイクロ螺旋形のチューブの回転を下にジャンプしてもっと中心に向かうよう強制するが、オムニの密度と堅さは、そのような変化に抵抗する。

電磁チューブは質量の一部なので、下へ落ちる力は、Omitrons の下への圧力によってつくられる、それを我々は「重力」と呼ぶ。

この効果は、高圧の水の流れがあるホースと似ている。

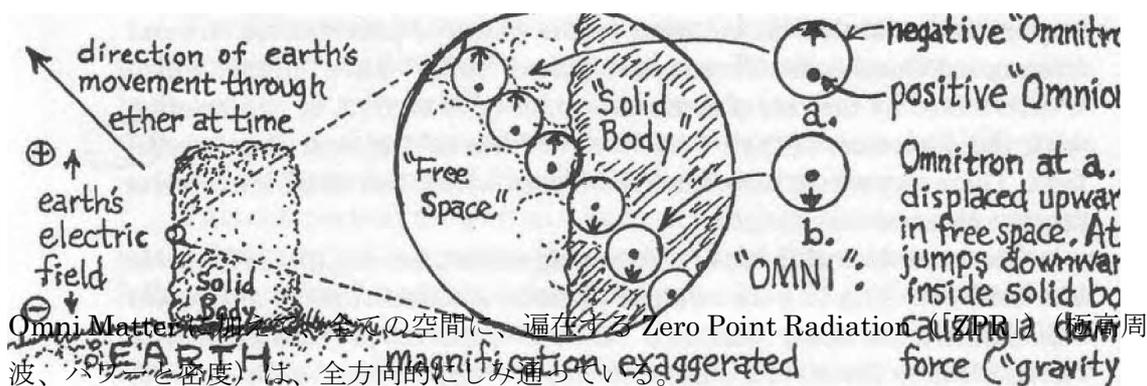
水の螺旋形の力は、ジャイロスコープに安定性をつくりそして、それを規則的に前進させることで、まっすぐな直線にさせる傾向がある。

「まっすぐにする」行動は、いわゆる「重力の力」にたとえられる。

電磁内部作用の、ほとんど光速の相対速度と地球の電界の両極性のため、固体がエーテルを通してたとえどの方向に動いたとしても、これは真実である。

重力は、したがって、物体の運動量の変化に対するオムニの抵抗反応である、

誘電率の違いが、質量へ移されて、その絶えず変化する運動の方向と速さは、普遍的にあるエーテルのスペースを通過して動く。



Omni-Matterは、全ての空間に、遍在する Zero Point Radiation (ZPR) (極高周波、パルスと密度) は、全方向的にしみ通っている。

1人の科学者は、いわゆる「黒体放射線」を ZPR によるものと考えた

(T.H. Boyer,

(T.H.ボアイエ、Blackbody Radiation Spectrum の起源--量子力学の仮定なしで

Without Quantum assumptions,

Phys. Rev. 182 [5], pp. 1374-83 [1969]).

フィジカルレビュー182 [5] (pp. 1374-83 [1969])).

Boyer も、非線形の変極子が特別な方法で ZPR スペクトルのエネルギーを吸収することができることを見つけた (ランダムな電気力学:

古典的な電気力学の理論による古典的な電磁ゼロポイント放射線、

フィジカルレビュー11 [4] (pp. 790-808 [1975])).

もう一人の科学者、はランダムな ZPR の個々の変動がプランク長 (10⁻³³cm) のスケールで 1094 グラム/cm³ で ZPR のエネルギー密度が計れると主張する

標準的な放射線検出器の、周波数の反応は、それらが関係している非常に高い周波数スペクトルに対応して特に変化した

(J.A. Wheeler, Geometrodynamics,

(J.A.ホイーラー、Geometrodynamics,

Academic Press, N.Y. [1962]).

アカデミック・プレス (N.Y. [1962])).

最後の章で、私は原子状水素プロセスで ZPR エネルギーを引き出すことを詳述する。

1962~1975 年のこれらの特別の研究は後の事である。そして、Tesla のたいへんな発見のずいぶん後に来る。

これらの研究は、単にそれを再確認しただけである、

そのような激しい、特に高い高周波放射線がスペースを通り抜けさせるには文字通りにさらにより純粋なエーテルがつまっている下位電子負電荷によって囲まれたプラスの質量の超高性能の束で出来た、高密度の、スーパー高周波が通るスペースを必要とする。

この機能は固体水晶結晶板を安定的に作る四面体の二酸化ケイ素原子に関係している、そしてそれは、電磁放射に反応して、無限に高い周波数から、最も粗い周波数まで、同時に

あらゆる方向に（「全方向的に」）伝導することができる

この高密度物質は、放射線の周波数をX線周波数域から弱い赤外線までの間に下げて固体としてふるまうが、それでも、広くいきわたって、相互に浸透し、すべてを濡らす「完全な流体」としてふるまう、

（原子で作られた）動く固体の大部分には原子構造に「隙間」のような多くの部屋が含まれている。

電子推進は、その「慣性抵抗力」を主張するオムニへ影響する原因となるために、外部に発射された IR-から出される非常に高い電圧の可視領域の放射線を利用する、回転する電磁気の細管をつくるために、内部の（分極化した）低周波の波と結合し即座に、運動量を合成する

そしてエーテルで満たされたスペースに穴をあけてそれを通して宇宙船を推進する。

An Old Wooden Box and a German Inertial Guidance System

古い木の箱とドイツの慣性誘導装置

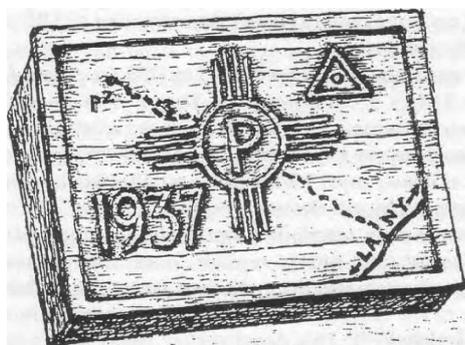
1979年に、サンタフェのフリーマーケットで、私は1937年の「p2」と呼んだ秘密のプロジェクトの雇用されていた初老の Pojoaque 人が所有していた古い木の箱を調べた。それはウェルナー・フォン・ブラウンに使用されていた。

男は、この仕事で使用する道具をいれるために、箱を造った

彼は、「New Mexico の民衆のやり方」で、プロジェクトの日付が書いてある「地図」を開いて、ハイウェイとプロジェクトの行われた位置と名称、プロジェクトのシンボル（フォン・ブラウンがメンバーであったプロシアの三角形の真ん中に点がある Illuminati のシンボル）を示した。

男が生活していた Pojoaque には、地図によくわかるように大きな「P」が、サインとして描かれていた。

下の図は、私が古い箱を描いたものである：



1979年の春の次の週末、に、私はアルバカーキ・サルベージ会社へ行った。

アメリカ東中央部の「King's Surplus 市」で非常に変わった大量の材料が別々の小さい堆

積で全く積み重なっているのを発見してうれしかった、そこで私は、しばしば私の研究と発明に関連する軍の余剰品を買った。

堆積物の上に私がすぐに認めた装置は空飛ぶ円盤で求められる一種飛行用「コンパス」であり、(それは 30 度の倍数で増大する) 1949-53 年の間、Texas Kermit の私の裏庭に使わずに寝かされていたが、それは証人となった

装置は 30 度増大を示しており、各々 12 の方向のために 14 の接点があり 2 つの 6 ボルトのモーターがあった

モーターはコンパスのリングを回転させるもので、ラベルは 1943 年 10 月 1 日に Nazi Germany Litz によって製造され (52 台ある装置のうちの 1 つを意味する) 127-178 という製造番号を示していた。

装置は「Peiltochter kompass」(「極地を示すコンパス」) と呼ばれ(それは「マイスター-kreisel kompass」(「マスター・ジャイロコンパス」) からの信号によってコントロールされた) それは装置が内部誘導装置の片割れであったことを意味する。

そして、「KT-p2」(「旋回するソーサーSaucer」 — p2 — を意味する「Kreisel Teller — p2」) という名前をつけられたプロジェクトのためで

(その文字「p2」はフォン・ブラウンの指揮によって動いていた 1937 のロスアラモス・プロジェクトを示していた。そして、1943 年ドイツにナチ空飛ぶ円盤プロジェクトのための公式の秘密の名前に指定にされていた。)

Space Aliens で明確に詳しく書いたように、私は 1957 年後半、第 2 次大戦の間に北ドイツで製造されたガンカメラ映画のオリジナルのリールを見た、

同じ日の午後、そのドナルド・キーホオ少佐は、全国テレビで彼のいたずらを行った。

いくつかの映画が、同じ男によって作られ、私の空軍情報部のグループが元となるアメリカ陸軍第八空軍グループに所属していた時、B-17 爆撃機で特別の爆破を実行しそれを撮影した映画は、明らかに有人の小型電子パルス的な航空機の「飛んでいるカメ」がいるのを示していた。

その映画は爆撃機のまわりを高速で飛んで攻撃の注目を引き寄せ、これらの任務に干渉した。

1945 年の春に、ロシアは Berlin に迫ったが、装置全体の写真は下で示される：



ジョージ・パットンは、ロシアの領域から、バルト海の Peenemunde パーネミュンデのナチ・ロケットセンターまで奥深く入って特別な武装グループを捕えた

このグループに付いて、「タンク部隊」に偽装した軍情報将校は、ロシア人によって持っていかれる前に、プロジェクトで戦略的に重要性のある技術的な図面と、その他のどんなものでも探しだすことと、すべての空飛ぶ円盤の資料を取り戻すこと、特にパーネミュンデプロジェクトにある同じものを破壊するといったことに、仕事の目的が定まっていた。

塩洞穴の地下奥深く、パットン將軍は 200 台の空中での誘導装置 (別名「内部」誘導装置) を発見し、このシステムのための技術的な図面と仕様がすでにアメリカに所持されていたという事実を知らなかった彼は、これらのシステムを破壊するよう彼の上司によって、命令されたことに憤激した。

UFOを取り囲む電界の作る「ファラデー箱」効果のために磁気コンパスが役に立たず、そして、それは地球の磁場を遮るので、空飛ぶ円盤の作動のためにこのシステムの発展は緊急に必要であった。

マスター・ジャイロは離陸の前にコンパスが真北を指すように調整されて、走行の間、その位置を保持し続ける、言ったように、6 ボルトのモーターは回転し、コンパス方向が、正しい飛行方向を反映するためにギアを入れられており、ベルを鳴らす

この 30 度の増加または倍数で、最新の中性子爆弾弾頭を運んだドイツの「V」ロケットの

タイプ（「Vergetungswaffen」または「反撃用兵器」）といった他の装置で使われそして、私が Space Aliens. で詳述したように最終的な「手詰まり」で使われ、最新の「電子-U-Boats」の後で牽引された特別な小型潜水艦から水中で発砲した

私が購入した後、セキュリティ・エージェントは私が何を所有したか知ったので、彼らは（King の Surplus City の所有者の息子 Mark King のところへ行って、彼を厳しく尋問した。

基地から不要になった払い下げ品をいつも彼に売却するため持ってくる Sandia 基地の職員から大量の小さな払い下げ部品を購入した彼は、Sandia 基地からの売渡し証を見せた、結局のところ、大量の機密にされた払い下げ品を盗んで、隠すことを目的として『2 枚のレシート』を使って自分の利益のために売っていた

保安員は監視するため人を投入し、再び、彼を襲ってとらえ、訴えて、投獄した。

彼らは、私から装置を取り戻すことができなかった、

私は「まだ秘密にされていた装置の目的を確かめたことでセキュリティルールの違反になったが、罪のない購入者」であった。

22

私は、1945 年後半に Paperclip 作戦の下にサンディア基地にその後 116 人以上の空飛ぶ円盤科学者と 15,000 人以上のドイツの人員がつれられてきたときに持ってきた 1943 年製のナチの空飛ぶ円盤の内部誘導装置を購入した、

そしてそれは、「引き分けによる取引」に従って減刑された特別な秘密の「取引」の一部として、ニューメキシコに持ってこられた。

「p2」が科学的に意味していることに関して言えば、Nikola Tesla によって「ポテンシャル」、「陽極プレート」または「プリマリー」を意味するよう指定してこれと似たように、使われていた。

Tesla の 1890 年代の講義の 70-73 ページの抜粋した情報に図版とそれに続くものが、含まれていて、そこから私は Tesla がどんな具合に彼の「p2」を創設したか見つけ出すことが出来、最高の情報を提供していた：

DC 『ブラシ』電極と A.C の『圧縮』された電極は、エーテル・キャリアーを引き寄せ船の質量を通してマイクロ螺旋形のチューブを作製する、そしてそれがまわりを取り囲んだ中にエーテルの穴をあける。

左側の電極は、特別なテスラ球につながれ、逆側の A.C.電極と対にされると、マイクロ螺旋のピッチの角度を増加させ、質量を通過するエーテルの速度を速めて、船を推進させる。

Low and High Frequency Electromagnetic Waves And Tesla's Wireless Transmission of Energy

低周波と高周波の電磁波と、エネルギーの Tesla の無線伝達

低周波電磁波は固体を通すことができ、「地球に近づく」傾向がある、高周波の波は、固体に浸透せず、「表皮効果」の原因となって、「地球に近づかず」、むしろ直線で地球から離れて外へ向かって放出する傾向がある。

ニコラテスラは、Colorado Springs の実験において、大気と固体で高電圧の高い周波数の波と低い週波数の波動の効果を調査した地球上で最初の間人であった。

テスラのコロラド・スプリングス実験の範囲は、とても広範囲だったが、これらについて科学ジャーナルは誤解によって麻痺し啞然とさせられ、他にもいた科学者のもとからもジャーナリストは去っていたのでほとんど何も報道されなかった。

Colorado での Tesla の実験の多くは、電子推進に関連があった。

長波は宇宙船の内部の質量に影響を及ぼす。そして、ドリルのような電磁気の回転する運動を発生させ電磁気のマイクロ螺旋の（「力のチューブ」）をつくることによって、「動きを合成し」、エーテルを「通して」その質量を動かす。

同時に、宇宙船の進行方向にむかって先端の反対側つまり最後部、移動方向の反対にある高い振動数は、エーテルが宇宙船の質量と、その容量を通過して進行速度を加速する原因になる

（そしてピッチ角が増大することになる）それで、マイクロ螺旋の押し分けて進める作用は、空間を通して宇宙船を推進させる。

力強い縦の電磁パルスを放出するのが可能な低周波波動も、大気を分極化しコンダクターにし、U.V **ウルトラボルト**の「キャリアービーム」に沿って遠くの地点）に特別な波動を送ることに成功する。

高圧長波、キャリアー光線によって進行方向にある遠くの地点にむかい、更により高い振動数波をその地点にもたらすことができ、エネルギーをひき起こす高周波を届ける。（強力なピークの長波）

これは、テスラの「ワイヤーなしで電気エネルギーの伝達の発明」の基礎であった彼のエネルギー・ビーム」と「殺人光線」の発明でもこの電磁波の操作システムは「は同様に同じ基礎として使用され、3つ全てでつかわれていた。

これらの特徴ある電磁波の操作は、テスラの19世紀の「エーテル物理学者」の研究への注目によって刺激された電子パルスの操作とブダペスト・ハンガリーでの（1882年の、）彼自身のすばらしい回転磁場の創造的な直観と密接不可分に関係し、影響されている。

24

Tesla は力が回転する「力のチューブ」を合成するのに回転磁場を使うことができると理解したので、この回転磁場の発見は彼の電子推進 **electropulsion** の発見に関係した。そして Faraday と Maxwell によって、固体の性質に生じる現象が述べられ、Tesla によってそれが理解された。そして、それは宇宙船を空間を通して推進させた。

イングランドの J.J.トムソンによって、チューブは1881年にも議論された、しかし後にな

るまで、トムソンはエーテルとチューブを特に関連づけることはなかった
ニコラ・テスラは、チューブを彼の意図した電子推進に関係させた。

Tesla は低周波光線を使う-パルス誘導について発見した。

定常波(縦波)の4分の1波長が原因で大きな電磁パルスを突発させることができ地域で大気
のガスを興奮させ、爆発的にそれらが拡大する、そのエリアでものすごい内破とたいへん
な熱量の吸収が続き、即時の凍結の原因となる

(非常に高い刺激的な波をとまなうことによる)

このプロセスは内破によって波が戻ることについて爆発的なショックウェーブを創る。そ
して、これは核爆発と類似している。

たとえば、(キャリアー-光線によって導かれる) 3,100 マイルの波長の

60cps サイクル毎秒(周波数の単位)の低周波を使うことで、775 マイルの4分の1波長で
噴火するパルスを、得ることができる。(速度の要素で 751 マイルの速さに訂正される)。

刺激的な 50 メガヘルツ周波数のパルスを重畳させることによって、言い換えると「冷たい
内破」の原因をつくることで大気中のガスを興奮させ、熱を吸収することが可能になった。

波長と伝達の方向を変えることによって、地球の目標地点に届ける効果を生むことができ
る。

(テスラの「光線」の基となるテスラ・イオン球は、真空のガラスの容器に硬質のアルミ
ニウム半球が入っている。

半球状の端末の中心に高電圧の D.C.直流を当てることで興奮する。

分極化した光線は、普通平らな面の中心から発せられる。

電圧によって周波数が、確定する。

イオン・ビームは分極化し、集中して、長い波長が球状に導かれる。そして、遠くの目標
に、テスラの「特別なコイル」によって拡大される、それは重畳した高い周波数の波面を
拡大する、そしてそれは4分の1波長で目標地点を「鳴らす」、実際、しばしば音が鳴り響
く。

球の外と、光線の近くで、低周波の高電圧の交流(「力の波」)が、環状の電極から発せら
れる、そして、大気につくられたビームの伝導の道に沿って導かれる、そして、遠くの目
標へ放射される

4分の1波がピークに達すると、最も大きなポテンシャルをその「地点」に届ける。

テスラについてのこの考えは、伝導体を取り囲む誘電体には実際に電流を「導くだけ」の
機能があることを示すマクスウェルの概念に刺激されたかもしれない。

25

1908年6月30日のシベリアの Tungushka ツングースクの爆発/内破は、多分危険な実験
だっただろうし、または、テスラの巨大な Wardencliffie ワーデンクリフ発振器の使用での
不注意な結果が、このプロジェクトが決して完了されなかった隠れた真の理由だったかもし
れない。

この方法は、「環境から」のエネルギーの吸収を含み、熱が熱から冷却化に移る、ことも示さなければならない

これは、さらにたいへんな別種のエネルギーの発見であった。

この Tesla の方法は大気の可能性を「開いた」。そして、これはテスラが「環境」から来る核エネルギーについて言ったことと一致している。

Tungushka ツングースカの爆発は、テスラから J.P.モーガンへの 1934 年 11 月 29 日の回顧の手紙で言及したように、この爆発の数年前に V.I.レーニンによってテスラに「非常に魅力的な申し出」があったことが、真の理由であったかもしれない。(マイクロフィルム、米国議会図書館)

レーニン申し出は、1917~1934 年にあり、テスラがモーガンをじらそうとして失敗した試みに言及していた。

Tesla の「ビーム」兵器は、以下の具体例でほのめかされた：

Tesla's TELEFORCE Discoveries

Tesla の遠隔力 TELEFORCE の発見

Tesla の遠隔力発見は、1900 年から 1940 年の間に発展した、それは真空ではない大気に自由に光線を生み出す「新しい」方法で「非常にたいへんな電気力」を創り

力を「拡大する」「新しい」方法であり、電子推進力の「新しい」手段であった

(William L. Laurence (New York Times) 1940 年 9 月 22 日, 11 (7 ページ))

実はテスラの装置は 1 つ 1 つ別々に並設されたものとは異なり、これらの 4 つの「新しい」発見の全てが一緒に働くこともできる、装置であった

すでに、コロラド・スプリングスまたは後半はニューヨークまたは **Wardencllyffe** の実験で別々にテストされていたが、ただ 1915 年は例外で、彼は、光線を発射する電気エネルギーで動く電磁パルス的なミサイルをテストした、

そして、彼はニューヨーク市の夜、彼のホテルの窓を危険にさらして、小さな、**electropulsive** なプロトタイプの実験的な試験飛行を一人でテストした、

そして、それらは非常に大きくてより野心的なスペースシップのための準備の実験的な根拠として働き、それを彼は設計した。

そして米国政府の、彼らはおそらく彼が間違いだと思ったので、それは繰り返し拒絶された。

それでもナチスは Tesla の電子推進力のテクノロジーが、機能するかどうか懐疑的だった

実は 1936 と 1937 年に Los Alamos で **Wernher von Braun** ワーナーフォンブラウンがこの概念をテストし、ヒットラーの最終的な承認を得るまで、納得しなかった。

フォン・ブラウンのドイツへ帰還した直後、1937 年後半に、ほぼすぐに建設は開始されている

最初は Uboats の鉄の気密室を使った、大きな「葉巻き型の」船で、大気を用いるディーゼル発電機と宇宙で用いるバッテリーがついた密封可能なシステムを、すでに備えていた。そして電磁内部作用の強さとそれに働く重力との巨大な差から見て、船体の重さは明らかに問題ではなかった。

それ以前に Tesla にはロシアからの申し込みが実際にあった、私は、テスラはナチスとアメリカのロスアラモス実験で、故意に、または、知らずにナチスと、協力したと考えている。

いくつかの未確認の研究所を通して、テスラは研究したと言った。そして、それは非常に真実である可能性がある。

ナチ・スパイとかんがえられる者を注目していくと、Tesla の最も個人的秘密に這うように迫った 1 人の者が、あった、その人は、America で彼のスパイ活動をしたが、彼の活動に隠されていた真の目的のため、後で有罪判決を下されて、収監されたが、ナチプロパガンダのための宣伝以外は公的な記録には決して残されなかった。

ナチの「p2」プロジェクトのやり方にテスラの electropulsive な発見の要素が完全に同時に使われているのが見られることを説明するのに、この関係が、最も有望な説明だった戦前の von Braun フォンブラウンの New Mexico での冒険は、秘密政府によって市民からその後隠されたという事実はナチ空飛ぶ円盤プロジェクトへの言及によらない限り、説明することができないような類の、重要な秘密で、非常に魅力的な問題である。

私は Peter バン Dresser という名のアメリカのロケット工学者と個人的な友人であった事がある。その人は von Braun フォンブラウンと Robert Goddard ゴッダード博士の戦前の活動に怒っていた。

そしてその人は 20 年代から New Mexico にいて、証明するために残されたものはほとんどないが、そのような連携を隠すための情報のセキュリティ基盤が少しもなかった、1930年代の von Braun フォンブラウンの秘密の Los Alamos 活動での連絡係と親しかった、「ロケット研究」が唯一のものだとしても、von Braun フォンブラウンは戦前のアメリカと関係していた人である。

ヒットラーとヒムラー Himmler によってパーネミュンデプロジェクトの研究リーダーとして、彼は、すでに任命されており、そして SS の Obersturmbannfuehrer へ進み、そして、America で冒険をするため Hitler に「休暇」を与えられた。

メスカレロにあった New Mexico 研究所の Robert Goddard ゴッダード博士の発射地域は Roswell に近いエデンバレーにあったが、そこは、遠く南の Los Alamos での知られていない第 2 次世界大戦前の研究には少しも関係しておらず、多分その von Braun フォンブラウンの秘密のプロジェクトについては何も知らされていなかっただろう。

テスラの発見について世間に流布された意図的な誤解を最もよく伝えている証拠の 1 つは 1943 年 1 月のテスラの死亡の直後にすべてのテスラの文書と装置は、FBI の手に集められたがそのことから見ても、特に、彼のシステムの名前"TELEFORCE".つまり「離れたとこ

ろからの力」、の意味の重要性は明らかである。

文脈から見てシステムでは 4 つの記載された部分が一緒に使用され、空飛ぶ円盤推進力に明らかに適用できる、

かつて、私はこの偽装を指摘し、1993 年の声明で正しく説明した。

空飛ぶ円盤を発明することができたただ一人の男性との間関係をうまく隠す仕事をした秘密工作員に、私は、その声明を手渡さなければならない。

たとえテスラに十分発展する可能性のある実用模型を造る金が無かったために彼の最大の発見を与え世界に印象づける公明正大な機会が決してなかったとしても、当然信用に値する発明者として、すぐにでも社会的に受諾されるべきである。

彼にお金が決してなかった理由は、依然として貪欲な独占者によって秘密の彼の名前で設定された「私権剥奪法」のためで、考え方と、商品と業務において、技術的自由と本当にフリーな市場が怖かったからである。

2 章 エーテルの特性の探求

研究初期の背景

エーテルの特性に関する長年の研究と思案の後、1997年に、この本を完成させる前に、私は他にどんな人が実際にエーテルについて言ったか見ることに決めた。

私が入手できた資料のいくつかは、間接的な情報で、誰かが他の誰かに言ったことだった。

私は、これらの「度重なって伝えられたこと」が正確なことか確認しようと思った。

いくつかの困難の後、私は **Edmund Whittaker** 卿による古典的な本（エーテルと電磁気理論の歴史）の復刻版を求めた（1951年に修正され拡大した第二版の I 章および II 章

1910年に存在した、この書物の1910年の第一版はかつて公開された中で多分、エーテル論に関して最大の包括的な書物であっただろう、しかし、1951年の改訂版は単にエーテル物理学を「許容できるよう」に簡明にただけだった。

「デカルトの時代から19世紀までのエーテルと電磁気の理論の歴史」という題で、第一版はスコットランドで印刷された。

第二版は、量子力学に関連した「新しい資料」を統合していた。

第 I 巻は、古典的な理論であった。

II 章と III 章は、1926年の相対性と量子論の起源になった

1910年の第一版も1951年の改訂版も **Tesla** には言及していないだけでなく、年代順のシーケンスからみると「科学者が電子推進に関して何を実際に狙っていたか指摘せず、改訂版では鋭く批判する』ように見えた。

Nikola Tesla に関する情報は省略されていたが、そこには非常に価値ある関連した情報があった。

ホイッテカーは序文で、述べた

現在空間は、電磁波を伝達する特性を除いて真空と考えられている

量子電磁力学の発達で真空の状態を、電磁界が『ゼロポイント』で振動する位置として新しく理解し、電荷と電流のゼロポイントの変動は誘電率の変化にともなう分極化の様に不変性のものでなく変化するものになっている（すなわち、それらはエネルギーを含む）

このように、ZPR を認識するが、すべてにそのような波が常にあるとしても、量子論は 1/2 の「量子」が占有するとして、本質的に「ゼロポイント」の変動の可能性を無視する。

Whittaker は、エーテル論支持者がエーテルと関係して地球の運動を観察することについて怠慢ではないか、そのことは理論の失墜の原因となるとの、疑いが生まれていると、言った

しかし、事実は相対性理論の科学者が出版会社の利益によって支えられていることを示している

急いで、墓を掘り起こし、それがまだ生きているのに、間違っただけからエーテル論が死んだとして、土を放り投げる

この誤りの多くは、最も論拠が薄弱な支持者に批判を集中させたことだった

そしてその人はエーテルの一部が地球によって「運ばれる」と思っており、エーテルが存在するためには、地球から数ポイント離れて光学収差が観察されなければならないと考え、それを確認すべきだと考えた。

この考え方から見て事実が否定されたことでエーテル論は「終わった」と言われた。

エーテル論の中で最も弱い誤った理解をしていた支持者の考えを宣伝することで、メディアはエーテル論を相対論的量子力学 RQM によってあわただしく簡単に葬式に出し、騙されやすい市民が相対性理論を承認する道を開いた

私は Whittaker の 1951 年の版が意図的に、電子推進に関わる重要な事実を鋭く批判していると結論を出した。そして、私はそれをこの書物で読者のために正当なものにしようとした。

現在の私は、Whittaker の本を読む前よりも、私の理解した Tesla 理論に対して不安がないと感じているが、それは、ただ私が何に目を向けているかよく理解したことによる。

私の Space Aliens の第二版で言ったように、私が見つけた事実は正確である。

ホイットカーの資料をより正確な法則に再編成することで、私は多くの「新しい」ドキュメンテーションを発見した、(以前の「古い」資料でもそうだ) その 19 世紀の科学者は電子推進力の追求中だった、そして、その時代の特別の科学者の考え方と私自身のものとの面白い類似点があった、そして、実は彼らが言ったことについての、若干の誤った概念を取り除くと、どの程度類似点が存在するかよく理解できる。

私は、electropulsive な「空飛ぶ円盤」の作用の、「証明」と言えるものが食卓の向こうからデザートプリンのように飛んでくると、多数の出来事に関して意見を述べた、テスラの追求の原因となった既知の理論を検討し、彼らの発見にテスラが何を貢献したのか理解した時、何がそれを隠し、誤解し、最終的に隠したか決定することは、私の意図であった。このために、エーテル物理学関係する簡潔な歴史とドキュメンテーションを発表する

J.J. Thomson の「電磁気の運動量」運び手「carry-along」としてのエーテルの概念に戻る量子力学の創始者、マックスプランクは、ある程度このエーテル論の形を特定し、エーテルに回転はない状態でなければならず地表近くを同じ速度で持ち運ばれ、空気のように、圧縮でき重力に従うと言った、

プランクの信じていた、メカニクな概念からみると弱点があったが、意図的にメカニクに徹したしたものからみると、予想外の何かがあった

J.J. Thomson (1856~1942)、電子の発見者、トムソンは異なるよりもっともらしいエーテル論を理論立てた。トムソンはマクスウェルの初期の理論に基づいて直線で動くチャージされた球状コンダクターは、媒体に電流を発生しなければならないとした。

(Phil. Mag. xi [1881], p. 229).

(Phil. Mag. xi [1881 年] (229 ページ))。

12 年後の 1893 年に、彼は「電磁気の運動量」が発見されたと主張した
そこにある電磁界…はあらゆる単位量の機械的運動量を保管した。そしてそれは、電気と
磁気のベクトルのベクトル積と比例している」と言った。

(J.J. Thomson, Recent Researches in Elect. And Mag.

(、Elect. And Mag[1893]、13 ページ。Recent Researches J.J.トムソン)。

[1893], p. 13.)

トムソンも、動く力のチューブの理論をもったと言われていた

それは、1891 年にファラデーが言った初期の仕事に立ち戻らせた

その分子構造は、静電力のチューブと第二の力と考えられている磁気力とが、密接に関係
する、

彼は、..エーテルそれ自体が、メカニカルな運動量 x 単位量につき (量 $(1/4 \cdot \pi \cdot C)$ [DB])
の伝達物であると述べた

[DB] per unit volume." (Phil. Mag. xxxi [1891 年]、149 ページ; [1891], p. 149;

Recent Researches in Elect. and Mag.

電磁気の最近の研究 (1893 年), 1 章.)

[1893] c h a p 1.)

Tesla Shows Up

Tesla が現れる

トムソンによるこれらの「発見」に注意することは面白い

しかし彼の最初の推測のあとに続いたことは、マクスウェルの理論に基づいており、また、
1891 年 5 月 20 日コロンビア・カレッジ (N.Y.) での、アメリカの電気学会でのテスラの
講義に続く

(そこにおいて、テスラはトムソンの仕事を以前に先取りして行った実験と、彼によって
完成した技術と機械の実証とを、初期に W.トムソン (ケルヴィン卿) が、イングランドで
「成し遂げることが不可能だ」と言った周波数と電圧を実験的に使用可能にすることで 2
つとも確認し、解説した)

その意味において、英国の「気のいい人」は、それを認めなければならなかった

テスラの仕事は、それ以前のもので、イギリスの「彼ら」には、調査に必要とされる周波
数を発生し、実験的に現象を確かめるための器材を作ることができなかったため黙って承
認した後、反論の出来ないものとなった。

J.J.トムソンの理論は数学的に統一された方向で電磁気と運動量に関連づけた論文で、1891
年のテスラの初期の何度か繰り返された講義と初期の実験によってそのことが証明されて
いた。

しかし、テスラの理論はトムソンのものと異なっていて、そのトムソンの理論は不正確だった。

トムソンの電磁気の運動量はテスラの装置だけで即座につくることができた。そして、それはトムソンの「発見」の前は、テスラの研究所だけに、存在しておりトムソンが「彼の理論を実際に修正したり、実験的にそれを確認する方法が、なかった。

事実は Tesla の前に Thomson が確実な根拠のある理論を公開しようとしたことを示しているが、Tesla は自ら完成させる前に Thomson に影響を及ぼした要素をもつ発明品を公開することができなかった。

Tesla は、最初に実験結果によって理論を証明した人であった。

トムソンは後でテスラの交流と高周波の発見を不正に自分のものとして要求しようとさえしたがテスラは、トムソンに対してただ時をかせいで待つ紳士でいた。

トムソンの初期の仕事 (Phil. Mag. xi [1881] (229 ページ)) でチャージされた球状コンダクターが直線で動くことに関してテスラの尊敬を集めたそして、これはおそらく、テスラの仕事に影響した、

しかし、すでに回転磁場のテスラの 1884 年の発見は、彼ら全員を衝撃で、打ちのめしていた、そして、記録では彼は、1870 年代の学生時代からそれを証明するために、グラーツで彼の「博識な教授」と議論をしていることを示している、そしてその人は、彼は「おかしにちがいない」と言った。

それは、テスラにとっては克服すべき恐ろしい困難であったにちがいない、

彼の完全な理論について沈黙を守るままだったのは彼が特許保護を得るために実用模型を仕上げる前では、彼のテクノロジーを渡さずに発表することができなかったからであった。そんなことで彼のエネルギーと財源を使い果たし破産とっていいほどお金が無いために不完全につくられ風の中で回る、Wardencllyffe 塔のように不正に高価なシステムの建造に誘導された。

動きに関しては、私は以下の通りに類推で説明する：

物体が回転またはアーク力を持つとき、角運動量によって創られる変化する力のチューブを含む。

放出されるとき、まっすぐなベクトルですべり動く。そして、放出の時点の力のチューブの様相と一致する。作動状態になると、チューブの傾向によって創られた遠心力は直線に動くか、少なくともチューブの動きを継続するため横向きか複雑なパターンで存在する。そして、それはいつでもチューブの変化を妨害するよう創りだされた。

「何か」一旦リリースされるならば、(力のマイクロ螺旋形のチューブが生まれ、運動の方向と速度が確定されるとその真空は force-free (力が供給されなくてもよくなる状態になる。)

これらの事実は (Thomson、Faraday、Maxwell のもの) と Tesla の「力のチューブ」は一致している。そして、それを私はより詳細に後で説明する。

1881年のトムソンの大部分の仕事は、マクスウェルそして、彼の前の、ファラデーが、1831年に「静電的に満たされた物体の動きは運動と運動量によってつくられた力管と言われる流れに等しい」と述べたことに立ち帰ってはしまっている、

(ファラデー、実験的探求 *Experimental Res.* Section 1644;

Maxwell, *Treatise*, Secs. 768-70).

(Faraday, *Experimental Res.* Sec. 1644;

Maxwell, *Treatise*, Secs 768-70).

彼の「慎重に考えることが必要な性質の問題」の考察において、Faraday は原子が電気、磁気、そして、重力が中心点を取り囲む力の場以外の何物でもないことを暗示していた。その中心点はすべてに完全に入り込める

(Bence Jones' *Life of Faraday*, ii, p. 178).

(ベンチェ・ジョーンズのファラデーの人生、ii、178 ページ)。

フレネルは後で次のように述べた

『星の異常を考えると、即座に、私は、luminiferous なエーテルが、自由に木の林を通る風の流路のようにおそらくすべての具体的な物体の質量の抵抗をほとんどなくさせるといふわけではない、ということ信じたい

フレネルの概念は、地球を取り囲むエーテルが地球の運動に影響を受けないことを前提とし、そして、実は、彼が失敗と考えたことを除いて、一般に観察されることに同意するどのように、地球のダイナミックな電界は、エーテルに影響を及ぼすのだろうか。

ファラデーは、彼の (c.1831 年) 弾力のある帯電した固体エーテルと磁力線、の理論によれば、すべてのスペースを「満たしている」と、思っていた。

17 歳で Wm. Thomson (別名ケルヴィン卿) (1824~1907) は、ファラデーの初期の発表に基づいてエーテルによって生まれる少し離れた電氣的な連続的な動きについての数理的な考えをもたらした。

1846 年に、彼は電氣的な現象を機械の弾力との類推で説明した。

彼の初期の概念では原子は、『移動させるか、それを圧縮することなく』エーテルを通して動かされるというもので、あった (フィッツジェラルドからヘビサイドへの手紙 1889 年 2 月 4 日、)

エーテルは、『固体に流れ、そして固体が、光と熱になるように動く』。と言う概念はテストによって後に採用される。

1853 年ごろ、Bernhard Riemann (1826~66) は、エーテルは圧縮と方向の変化に抵抗すると考えた (Ann, D. Phvs cxii [1867]、237 ページ;

Riemann の *Werke*、2e Aufl.、288 ページ;

Phil. Ma2 xxxiv [1867 年]、368 ページ)

D. Phvs. cxii [1867], p. 237;

Riemann's Werke, 2e Aufl., p. 288;

Phil Ma2. xxxiv [1867], p. 368).

リーマンは、圧縮に対する抵抗が重力と静電的な効果を引き起こすと考え、方向の変化に対する抵抗が光学的現象と磁氣的現象の原因となる、しかし、彼はこれらの概念を更に発展させることができなかった。

これらの初期のリーマンの洞察は、しかし後の思想家に非常に影響力があった。

彼は人が安定したイメージで星を見る能力をえたことで、ダイナミックなエーテルへの反証をあげるようになり、地球が空間を通過して動くといった、一般に認められるようになった仮定に基づいて静止したエーテルを考えた。

スペースを通しての電氣的な流れの動きに関してリーマンは速さ C でチャージされた電圧が変化する新しい方程式を提案したが、彼があまりに若く死んだので、彼もエーテルの特性について考えを正確にフォローアップすることができなかった。

、Riemann の洞察は彼の全ての生涯より 10 年後、ほぼ 50 年後に確かめられた

何年も後に、マクスウェルはファラデーの 1831 年の電磁気学の実験的探求第 3 章を読んだ後、ファラデーの磁気力線と電気の考えを Wm トムソンの数学的な類似と関係付けて電磁界のメカニカルな概念を形成しファラデーの概念を 1 歩前進させた。

(ファラデーは数学を使って表現することができなかったのもので、私は常にマクスウェルが「ファラデーを数学で説明した」と言いってきた

彼は歴史で最大の「実験的な哲学者」と認められているが、元アイルランドの製本屋の職人だった彼は装丁していた本から、初期の教育を受けた。

そして彼は 1812 年に 21 才で偶然ハンフリー・デイビー化学教授卿に手紙を書き、デイビーに衝撃を与え次の春、王立研究所に任命され、そのあとは歴史のとおりである。

一種の電気技術者のモーツァルトである特異な才能をもつファラデーは最初からたいてい正しかった。そして、ファラデーの死後に、多くの注目に値する洞察と観察がされたとしても、公式を作るプロセスに貢献をしたマクスウェルにとって幸運なことに、それらは数学の面倒なページに頼らずに作られていた、

ファラデーは、鉄に誘導された磁気は、鉄だけの中に存在し外部の遊離したエーテルの中はゼロであると述べた、そしてそれは、電磁誘導の基礎だった。

マクスウェルの「誘電体の電氣的な変位」は、磁気誘導 B に類似しており、遊離したエーテルではゼロだとしてもそれらが誘電体の電氣的な数値を異なるようにさせるかもしれないと言った

マクスウェルによると、変動がある「具体的な物体」(すなわち電氣的な平衡状態から離れるように動く)が存在するかどうかに関係なく、電気力がある場合はいつでも、このよう

に、エーテルがこの電気変動をうむ。

(マクスウェル、Scientific Papers i、451 ページ; 526 ページ)

静止したエーテルで「休息している」地球で、物体が均一な運動をしている時、(または一様に変化する運動状態のとき)、フリーなエーテルの中にある固体と、スペースの中で、地球の電界で分極化したエーテルとの、2つの間に、誘電率の違いによって、スペースの中のエーテルに電気変動の違いがあることが、私の心に浮かんだ

私は、このことから静止したエーテルで満たされたスペースを通して物体の安定した変化がこれらの電荷を運び変位電流をつくると推論した。

マクスウェルは、何年か前に『物理的な磁力線は、電流と同様に、「流体」の流れとして「ダイナミックな状態」があるかもしれないとするファラデーの提案に基づきファラデー磁力線(磁気誘導のベクトル)を圧縮できない流体の動きとして、表した

34

これは、地球によって『持ち歩かれる』ファラデーの「ダイナミックな状態」の電界と同じで、地球の磁場と、地球のダイナミックな電界の中で静止したエーテルに対する影響によって重力を発生させる流れと等価物である

それはまたファラデーが述べたように磁気力線は、磁場が電流のセカンダリーな効果であるとしても、電流に対して「等しくて反対の」反応であることを意味する

回転運動の生み出すものの1部が電気だとして、磁場は、等しく重要で、どちらも、マイクロ螺旋形の「力のチューブ」に対して関係がある

それは宇宙の天体の永久運動を維持し、永遠にエーテルを通して電流を導く勢いをつくる。

そして、この考えは、同様に Tesla の理論であったにちがいない。

宇宙運動とローカルな動き

地球は、1秒につきおよそ 18.5 マイル (66,600mph) で、太陽の軌道に乗って回る

太陽系は、天の川を中心とする軌道に乗って非常に速く回っている、

そして、天の川は非常に速い Magellanic Clouds の軌道に乗って回っている、

月そして地球、天の川、その他へと速さが次第に増加してゆくこの階層を、電磁気の速さと比較するのは、無意味だが、運動の力の変化は、時間と関係がある。

エーテルに関係する地球の速さと両極性は全て、軌道の位置と銀河のサイクルとその回転によって、絶えず変化する、

たとえば、太陽と天の川の中心との間に地球がいるとき、「外側」にいるときより、それはよりゆっくり動く。

毎日地球は回転するが、エーテルを通して赤道の回転表面の速度がおおよそ 1,041mph であるとともに、地球の南北両極は毎時 15.2 度回転運動する

この地球の両極性の連続変化は、感覚的に感知できないほど段階的であるが、多分、重力の力を調整する一因となるだろう。(さらにこれは我々の感情的な様相に影響するはずだ!)

W.B.モートンによると(Phil. Mag 物理学雑誌. xli [1896]、488 ページ xli [1896], p. 488), 身体の、荷電量の増加は「バーチャル仮想的な質量を増加させ」、動かすために要求される仕事量を $2e^2/3ac^2$ 増やす

これは、J.J.トムソンによって訂正されたものであった。

このようなことを考えると、シャフトの端に、充電あるいはおよび放電を行い交互に物質の中の質量が増減し、シャフトで回転する大きな、絶縁された伝導ボールを付けた発電機の可能性を示唆する、

しかし、「ボールを動かすための要求」が増加するので、この可能性は、ファンタジーのように見えるがトムソンの理論では、これはエーテルの貫通に対する抵抗の増加と関連する、ファラデーによると、これは磁力線をシャットアウトする「ファラデー箱」効果をつくる特別な電荷の存在に起因している。

磁力線が無くなるかまたは磁場によってチューブの回転力の力線は抑えられるか減らされると、運動量は減衰または無くなり、減らされるか、止められる。

このような分析は、十分な思考の材料を与える

Tesla が彼の創案した機械で地球のチャージを増やすことを継続したならば、彼は地球の時間を取り消すよう放射でき、減速させて、多分、太陽の方へ漂流する原因となる。

彼はこれらの事実を認識し、後でそれに取り組み、さらに将来の技術的な可能性としてそれを記載した。そして、誰でも気がつくように、彼の電子推進の場の展開を補強した

天の運動と局所的な運動

その動きは奇妙な事である

Earth に関係して物体が動く運動の方向に、その動きが、あるとしても、それでも、地球上の地点に物体は静止しており、依然としてその地点には動きがあり、最終的な運動はエーテルと関係する。

運動は複合物である、しかし、主体の最終的な動きは本当に、全の力の働きを複合したベクトルとして表せる。

earth は赤道で完全に 1,041mph で回転するので、動きがそこにあるが、太陽を回る地球の軌道の速度と進路には、その軌道方向以外の多くの様々な地球の進路があることを意味している。

遠くのオブザーバーには地球の自転している表面は軌道の運動方向から後方に移るように 1 日中みられるが、軌道の速度 (66,600mph 以上) はその自転速度より大きいので、地球は常に軌道の方へ進む。

回転するすべては、我々の地球表面の「地点」の速度を

定期的に、減少させ、増加させる

そして、スペースを通過して徐々に、24時間おきに1回、その方向を回転する。

地球、太陽系、天の川、その他との合成運動としての運動量で.. エーテルに関して恒常的に、合成された、段階的な、絶えず変わる運動する物体の、より複雑な運動のパターンを持つ

若干の面白い影響が、見つかるにちがいない。

これらの影響はニュートンの法則によって遠いところから、真空のスペースを通過して働く引力として解説されるようなものではない

エーテルフィールドと関係してゆっくりと軌道回転と地球の運動を変化させる

比較的少ない量の「外部的に作用している」力（「重力）は、Newton の法則のために常時適切に存在しなければならない

私をもっと詳細に明らかにするローカル・エーテル現象を除いて、完全に説明可能なレベルで（「重力）は存在している

私は相対性理論の、重力は1つの物が別の物に対して働きかける直接行動によらないと言う、その部分には同意するが、スペースにある物体が空間それ自体によって「くるまれ」、「それをカーブさせる」ことが重力の原因であるという考えには同意しない。

エーテルなしでは、何もカーブしない、そして、相対性理論もそこにはない。

1995年前半に、Space Aliens のコピーと引きかえに、私は、エリック・ラーナーの「ビッグバンは起きなかった Never Happened」のコピーを受け取った、

そして物理学（または天体物理学）のアカデミックな世界に、何人かの理解者がいるとわかってうれしかった

そしてその人は少なくとも（ビッグバン理論に関する私自身の見解）を部分的に共有する

私はこうしたビッグバン理論は強権的なエネルギー独占のためにつくられ、私が「永久運動の保存法則」の元と言っているエーテルから入手可能な、フリーエネルギーを否定する意図のため、アカデミックな世界でビッグバン理論が盛んにされていると思っており、もちろん彼らの理解はここまで到達はしていない。

私はLerner の書物を見つけ出し私の宇宙的スケールでの考えを作成するのに役立ったことは言うまでもないが、元気を回復させてくれた。

ラーナーの目立たないヒーローは、ノルウェーの天体物理学者と宇宙構造学者、ハンネス・アルフヴェンである。

彼の磁気流体力学の発展と磁力線による冷凍化についての彼の概念のために1970年に与えられたノーベル賞によって、初期の相対性理論による「アカデミックな世界でのエーテルについての埋葬」をいくぶん回復させたが、その理論の一部はアルフベン自身によって否定された。

アルフベンは、「エーテル」という用語を「プラズマ」に入れ替えて、数学的な理論である

相対性理論の不正な使用に強く反論した。

彼は、理論は『常に観察されたものの物理的な理解に近づくためのもので（主人というよりむしろ）そのための使用人でなければならない』と言った。

彼は空間を通る巨大な流れを主張した、太陽から、惑星を通して、実際に角度の変化する磁気力線に沿った、運動が惑星にむかって動く。

Alfven の仕事とこの発見は、彼の宇宙的 MHD 現象の研究と共に、Tesla のダイナミックな重力理論の非常に近くにいた。

このような本の表現はラーナーの明確な発展で、そしてそれは相対論に耐えられずに上げられた異議を意味している。

ビッグバン理論を恒久化し、支持しようとしている新聞とマスメディアのすべての NASA の間違った宣伝にもかかわらず、それは、科学者の間で価値が低下している。

たとえ彼がエーテル論を肯定し支援を呼び起こすことはせず、相対論とビッグバン宇宙論に疑問を呈する勇気があったただけとしても、私は Lerner の書物を勧める。

実際の地球上の特別の地点が宇宙を通る道は、地球がより大きなものの中で小さなサイクルの中にいるのだから自然に太陽以外にもある多くのものと複雑に関係している。

エーテルフィールドと関係して、太陽系と Milky Way 天の川の全てと相互関係がある動きは、一般に波形の道で我々の地点に影響する、

エーテルと関係して我々の速さは定期的に速まり、減速する。

地球の厄介な電氣的で、磁気で、いわゆる「重力」分野の存在によって鋭く影響される以外は、この同じ運動の原則は、宇宙にあてはまり

すぐにローカルな物体の運動にもあてはまらなければならない。

Alfven が彼の宇宙を通して巨大な電磁流れにいて長く認められた発見において、感触を持ったものは、同様に認められていないローカル・スケールで影響を及ぼす力の働きと類似している。

地球が宇宙空間を通して 70,000mph で突進しており我々もそうしている、

そして、極めて重要なことがスーパー微細なスケールで起こっている、

それはこの巨大なパノラマにおいて非常に大切な役割を果たしている。

ビッグバン宇宙誌を発明した人々は、早まって答えを示そうとしたが、それはどのように、すべてが永久運動をし続けることができるかという大きな疑問が、ある

エネルギー保存の法則...この法則を犯し、それに従って相対性理論を論破することもせず、相対性理論の下でビッグバン理論を展開している？

Tesla の死産にされた理論は、まだ彼らののどにひっかかっている、

Alfven のそれらに加えてすべての本当に競合する理論を不明瞭にしたくて科学の年代記で、永久に、秘蔵することにされている。

彼らの方法は、シナリオをでっち上げることで最初のビッグバンは、我々が見るすべての

『起源』であった

しかし、その効果は結局、ガスのなくなった車の様に、「衰える」。

この考えでは宇宙的なプロセスは、どのように絶えず自己補充されるか説明できない。

自然の強い力と弱い力そして、物質の相互作用を通して、永久運動は保存される。

強烈なナチュラルの相互作用と弱い力と問題を通して、永久運動は節約される。

強い力は、弱い力に打ち勝つ。

宇宙放射線はプラズマや、形をなした物質に反応するまで、エーテルの中を旅行する

物質が濃縮される時、その力は集中する

他の、ほとんど濃縮されてない物質と接触して、それが占有するスペースの中により強い、

宇宙の力が放たれる。そしてそれは、結局変化してより多くの宇宙放射線を生じ、吸収さ

れるまで、それらはスペースを移動する

そして、プラズマまたは他の質量が変わって、低い周波数のより多くの質量または放射線
に変わる、そして、無限に、このプロセスは続く。

誠実な思想家は、単純すぎるほど明確に答えを出さなければならない

「物質は、どこから来るか」といったことに関して、

「それはどこに行くのか」、

「生命の目的とはなにか」

または「すべては去りゆくにまかせるといったこと」に関して、その他

時々、我々は現実に合致しなければならず、我々に単純すぎる答えを出そうとする偽の理
論を放棄すべきだ

そして我々も知らないことを尋ねるとき、あまりにばかな質問だと考えて遠慮してはなら
ない

宇宙的な、力、膨大な距離、大きい物体とイベントといった問題の存在、そして、永久運

動、物理学第一法則または「最初の法則」、に関して、現実に揺るがすことのできない事実、

を考えると、我々は存在のより有益な側面に関連した特別の疑問に答えることで向上で
きるが、まずその前にそうした現象を我々は受け入れなければならない。

太陽の周囲を回る地球の軌道の速度が地球の回転速度よりたいへん速いので、我々の地点
はエーテルと関係して決して後方に向かっては動かない

そして天の川の軌道の速度は太陽系の軌道の速度または地球の回転速度より大きいので、
我々の地点はより大きな「波動方向」の道で動いている

そこにおいて地球の 365 日のサイクルより長いいわゆる 4 番目のサイクルで日によってそ
の速度を速めて、遅くなっている、

依然としてそこにはこれより大きい運動のより大きなサイクルが、時間の流れとともにあ
る。太陽系は天の川を軌道に乗って回るが、天の川はそれより大きい Magellanic Clouds、

その他の軌道に乗って回っている。

これらの周期的な運動をみても分かるように、ビッグバンの爆発性パターンというよりも宇宙はギアのような精度で動く無限の相互関係の中にあるシステムである。

宇宙の運動は、サークル（または楕円）の規則正しい、サークルの周期的なパターンをうみ、大きなものから小さなものまで電磁気に関連する機械的振動をしている。

超新星のような、時折の宇宙爆発は法則への反証というよりはむしろ例外であることが判明する。

宇宙の事件による破片は結局パターン化された運動に落ちるし、さらに時折くる彗星は周期的なパターンになる。

そのようなスケールの爆発は巨大であるが、これらは宇宙的スケールでおきている突発的な池の波紋のようなもので、それで我々の展望をゆがめることはよいことではない。

もし先週ハッセル望遠鏡のようなリモートコントロールされた望遠鏡で運動を見、それを数年前の初期の測定値と比較し、それが宇宙の遠くの部分が離れてゆく動きを示しているとすれば、これはただ宇宙の運動の観察であると理解すべきだ。

我々が少なくとも何百万年も先を観察することができるならば、それは後で反対方向の運動になるように見える、我々の見方からすると、これは非常に長い期間にわたる振動の、非常に大きなパターンの一部である。

我々が現在で地球に関して観察する運動の回転パターンと「我々の周辺」の宇宙の大きな構造のため、我々には、すべてそのような運動は周期的だと思ふ正当な理由がある、

そして、現れ方が全く異なる時間のながれに我々自身がいる

地球と他の天体がビッグバンの結果であることはばかげた理論で宇宙は常に存在し、時代がなく、常に存在する。

どんな具合に惑星が「創られたか」という理論が全て誤っている

生物形態は、ある時、他の全ての惑星と星のなかで一度だけ、火星だけに存在しただけではなかった。

実際、惑星はより小さな物体から成長した

生物形態の結果のように、それは恒星間の放射線を固体の物質に変える。

我々が、地球上で穴をあけることができる深さはたいしたものではない、

または、そう出来れば、反対の直接的証拠が得られるのだが

そこで我々がその過去に生物の一部だった物質を見てない。

この理論は、ビッグバン理論のために惑星を「あまりにも古く」している、

その現状に達するまで非常に長い時間かかるので、彼らの「カレンダー」を投げだしその上で「ビッグバン理論」の第一人者は地球の「出生日付」を置く。

たとえば、葉緑素の成分のうちの 1 つは鉄である。炭素の堆積物と他の元素と一緒にこの鉄は、光合成の結果として生み出されている。

地球の、何千フィート、何マイルもの厚い層も、植物と動物の腐って変化した残骸から成

っている、

最初の生物資源は、光合成を通して、そして、多くの元素と鉱物（例えば鉄、カルシウム、リン、硫黄、窒素、カーボン、水素、酸素とヘリウム）は最終的に放射線が変換され層をなしていることを表し、それは、このプロセスで、簡単にたどることができる。

そのような要素は、生命の形態を支える宇宙的運動力を通して蓄積される。

おそらく生物形態と無機のものとの間の宇宙の数学的な比例の定数がある

エーテル（ZPR を行う媒体）は、物質またはエネルギーの形に変わることができる。

正確なテクノロジーを使うことでエーテル以外の元素を凝結させることが可能になる

エーテルは我々が「固体」と言っている素材を含むがその証拠はこの可能性を強化する。

結局ニコラ・テスラは、彼の「相当な推進力」の発見においてエーテルの使用法を実現した

彼の **electropulsive** なテクノロジーの研究は、原子または小さなテーマの研究より重要なものだ。

エーテルだけがこの動きと親しく関係している、

1953 年に私が観察したようにその相当な推進力をこれで説明することができる。

この推進力になる力は自然の中に存在する力以外の何ものでもなくそれは人の手で論文にされ一旦知られるならば、合成して、操作可能な物理的なプロセスとなる。

私が観察した全ての船の質量と、その方法で可能な質量と船の加速率から、それはすぐに明らかだった

通常電磁気で慣性をキャンセルし、即座に新しい運動量を総合するテスラのテクノロジーがなかったら、ロケットまたはジェット燃料で一杯にしても、それは加速度的に **c.9,000 mph** に増大し、無限に消費されることが要求され、3 秒で消費される

慣性とは、何であるか？

慣性は『静止している』物体がすでにもっている画一的な運動の様相の動きである、しかし、我々には静止しているように見える

Tesla のテクノロジーは電磁内部作用を使って、（それは重力より 1040 倍強い）ものすごい推進力」を創るため、即座に新しい軌道に沿った新しいマイクロ螺旋形の力のチューブをつくり、宇宙船の原子と分子を再プログラムし「前からある慣性/動きを創る力のチューブの「記憶」を破壊する。

電子推進は、「フリーエネルギー」プロセスである

環境の中に潜在している重力と運動量のエネルギーはより強い性質の電磁気の力と入れ替わり勝ることで、特定の時間の中に、より大きな仕事量を実行する、

そして、それは理論的には、変化を誘発するために「エネルギーの入力された」ものより少ない量を使用して 1040 倍多くの仕事をする。

「エネルギー」は「仕事を行う能力」で、「仕事」とは「一定の距離の中での質量の動き」ならば、与えられた時間内で、より強い力はより多くの仕事を行う。

弱いエネルギーのものから強い力に形態が変化し（環境の中に存在する）「環境エネルギー」は、新しい方向で働こうとする

電子推進を可能にするプロセスは、**ZPR** によって再供給される宇宙の活力によるもので、どんなに運動量が失われても、永久運動を保存するために、弱いものがより強い力に自然に交換される。